

十日会 20年の回顧



日本鍍金協會

會員第20號、

昭和44年4月13日

日本鍍金協會十日会

値下げ断行！

コスト引下げの努力と
工場の合理化により
実現できました

お客様が
何を必要としてい
るかを知り
必要な時に
必要な品物を
確実に 迅速に
お届けする……



荏原ユージライト
株式会社
(化工課)

東京都大田区羽田旭町11番
25 (741) 3111

特約店 五十音順
㈱伊勢山商会
㈲卯薬品工業
㈱上村正商店
キクヤ研材薬品㈱
木村謙研材工業㈱

㈱三松商会
三明化成㈱
㈱藤千商店会
名古屋化学㈱
㈱西喜商店

㈱西山修次商店
日本鍛研資材㈱

松本鍛研薬品㈱

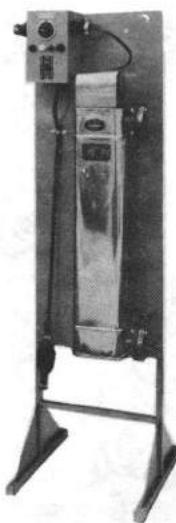
二葉産業㈱
㈱美濃商店
㈲三宅商店
メタルフィニッシュ
ニケミカルズ㈱

森幸鍍金材料㈱
米田電鋸薬品㈱

*ユージライト薬品はシリーズでご使用になれるよう品
物を豊富に取揃えています。
*最高の品質を与える使い易い価格
*技術サービスも万全の体制に強化中です。
*ユージライト薬品の最終需要者価格は、日本全国統一
されておりますので、お近くの材料店にお問合せください。

| プロセス名 | 商品名 | プロセス名 | 商品名 |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 光沢剤 | S-110 | 光沢剤 | UBAC |
| + | S-61 | 光沢剤性調 | make up |
| 提高剤 | S-62 | UBAC | #L |
| 光沢剤 | S-63 | + | UBAC SK |
| + | S-111 | 純正資材 | アノード |
| 半光沢コッペルN-2E | 光沢剤 S-8 | 光沢剤性調 | バック |
| + | S-5 | UBAC-R1 | 光沢剤 UBAC-R1 |
| 半光沢ニッケルNCS | 光沢剤 S-5 | アーノラブレーバー | セコット S-1 |
| + | S-5 | 光沢剤性調 | 純水用 |
| リーストライク | 添加剤 リストライク | セコット H-2 | |
| + | メタナシ DN-300 | セコット H-2 | |
| 光沢剤 | DN-300 | 光澤アロムメキシ | 漆油用 KC-50-2 |
| + | DN-300 | クロロトライメチル | + |
| 添加剤 | DN-305 | 光沢アロムメキシ | KC-50 |
| 光沢剤 | S-Y-101 | 光沢剤 T-304 | |
| + | S-Y-102 | スチノスター | T-305 |
| 光沢剤 | S-Y-104 | 光沢剤 LCZ-110B | |
| + | S-Y-105 | 長シーン光沢剤 | LCZ-220R |
| 添加剤 | S-Y-106 | LCZ | PZ |
| + | S-Y-108 | バケルニッケルBL | 漆油用キヤイヤ-B1 |
| 光沢剤 | S-Y-109 | 光沢剤キヤイヤ-B1 | 漆油用キヤイヤ-S1 |

ご存じですか？



6 KWヒーター内蔵



3 KWヒーター内蔵

ショーワの
電熱式熱交換器
チタンユニットヒーター

五大特徴

100%の安全性

自動で液温は常に一定

連続長期使用にたえる

高能率

現場で簡単に取換可能

製造元 株式会社 昭和鉛鉄

発売元 株式会社 昭和

本社 東京都板橋区東坂下2-10-5
電話 (969) 5131 (代表)

城南営業所 東京都大田区西蒲田7-12-10
電話 (738) 5964 (733) 6303

名古屋・大阪

綱領

一 私達は良識ある日本人の
誇りを以つて行動したい
一 私達は鍍金工業を通じて
日本産業の興隆に寄与
したい
一 私達は開拓者の精神を
以つて業界の推進力と
なりたい

日本鍍金協会

[J.E.P.S.]

十日会創立20周年に思う

十日会々長 石川 進

十年ひと昔と人はいう。十日会が昭和23年11月最初の第一歩を踏み出してから早くも20年の才月が流れた。光陰まさに矢の如しである。

十日会の創立は故高浜二郎氏の手によってなされたのである。氏は十日会創立10周年に当り次のように創立の当時を回顧しておられる。

「昭和23年の10月初めであった。モンベ姿に地足袋で、昨日は大森、今日は滝野川、明日は尾久とあるき廻っていた。

蓋し学校が同じければ級友校友として顔を合せるであらうが、青年メッキ人は殆んど学校を異にしているため相識る機縁がなく、ばらばらのままであるのが気にかかった。

たとえ、学ぶところは別々であらうとも、理解は早い筈であり、殊に同業として親睦されるならば、きっと業界を勇気づけるであらう。そして、将来における公私の行動の、討論する、司会する、協力するの練習をさりげなく技術研究の場で行わうと考えた。

このために或る程度の人選が必要であった。それで、思い当る工場を訪うて先づ親爺さんの同意を得た上で勧誘するという行き方で、故らに多数を求めるこを欲せず、むしろ、好い同志を結集する方針で説服したのである。

さて、第一回の会合が行われ、相会するもの9人を数えた。互に知らぬものばかりであったが、話し合ううちに自らうちとけてしまった。お茶をのんで云いたいこと云い合って時間が切れるごとに紅葉の庭園を逍遙して散会した。

第二回は12月10日に組合事務所で会合し、新顔の参加を得て盛んに技術談を交換したが、ここにおいて例会を毎月十日に開くこととし、会称を十日会と決定したのである。

爾後、毎月欠けることなく例会を続けたが、勿論夜間開会として時間を厳守し、夕食は各

自パンか握り飯を持参してそれを食べながら話し合った。みんなが必ず出席して、率直に意見を戦わし、兄弟のように相親しんだ。

そして、つぎつぎに新会員を迎えた。

今日、回想すると、特に宣伝も勧誘もしないで、悠々10年、あるがまゝにまかせて、めざましくのし上るまでに至らない。

のし上る必要はなかったのである。会員の個々が向上すればよかったです。それが業界を鼓舞すればよかったです。そういう「青年の意気」が現実にどこにも若干か反影していることは誰にも承認されることであらう。

ここにまた、「十年目の創立」を新らしく考慮せねばならないのである。

それは明らかに10年の成長をなしとげた。初めから会長なしで、例会に出ることを会員の義務でもなく、権利でもなく、責任とし、みんなが自治によって協力した。これは流行の民主的とか自由論とかにかぶれたものではない。会員一人残らずが一国一城の主であるために、その自覚を期待したのだ。

「十年の成長」の後、それぞれの世界観は変ったであらう。でも、すべての「実在」は「伝統」に於てまた更に発展する。伝統を逸脱すれば放縫、虚無に陥ることを懼れる。

われらはメッキを天職とすることによって日本に奉仕するのだ。

われらの「創立の精神」は少しも誤っていないかったのである。

われらはもう一度勇気を出そう。

人生は二度と通れない道をあるきつつある
もっともっとしっかりあるかねばならぬ
なんとすがすがしい文章ではあるまい。
高浜氏のめっきに対する大きな愛情、鍍金業界の次代に寄せる大きな期待がさまざまと蘇がえってくる。こうした氏の期待にこたえ、それぞれ自己研鑽に励まれた先輩各位に対して深甚なる敬意を表するものである。

その後、会員の増加と共にクラブ建設を計画され、当時としては企画的な東京鍍金会館を建設せられた。この会館の果した役割の大きさについては今更説明を必要としないであらう。総ての資材が不足する中にあって、光沢ニッケル、光沢銅といった当時の新らしいめっき技術の取得の場がこの会館であった事は銘記すべきことである。

然し乍ら、十日会の先輩諸兄は、時の流れをよく認識しておられた。東京の鍍金諸団体も一本化し、めっきセンターの建設が決まるや思い出多き東京鍍金会館を売却し、その代金の手取全額をメッキ学校の教育器材の購入にまた、鍍金業界の向上発展に尽された人々の奨学金たる十日会創立20周年記念基金として、東京都鍍金工業組合へ寄贈したのである。

20年の長きに亘り、私共会員の父として、また兄として公私ともに御指導を賜り十日会を今日まで育んで戴いた諸先生方、業界の各位に対し、厚く御礼申し上げると共に、今後も末永き御指導、御鞭撻の程をお願い致す次第であります。

十日会創立の精神は、業を等しくするものが相集い、将来における公私の行動の、討論する、司会する、協力することの習練であり、その根底を流れる精神は、「人生は二度と通れない道をあるきつつある」と云う点にある。

20年を経た今日でも、この精神に変りはない。貿易の自由化、資本の自由化も愈々本格化し、技術のめまぐるしい改革、また公害問題等われわれめっき業をとりまく環境は益々厳しくなっているが、基本的には十日会創立当時と少しも異なってはいない。そこで20周年に当り、創立の精神を忘ることなく、二度と通ることのできない人生の道を一歩一歩大切に踏みしめて、めっきを天職とする同志が、お互に研鑽を積みながら友情と団結を益々強固なものにしたいと思う。

最後に会員各位の御健勝を祈ると同時に、この小冊子「十日会20年の回顧」が、業界団結の心の支えとなるならば望外の喜びである。

道 標

昭和貳拾參年拾壹月鍍金業界の二世達が故高浜二郎氏の懇意によつて、技術の研究團体として敗戦の焼跡す立上り

之を十日会と名付た。

發足當時僅々社名内外であつた同志も急速に増し、

会合の場所が必須となつたので、
昭和貳拾五年六月文京区

の先難をつゝ、又速早く先進

諸國より交歓を計つて、我國鍍金技術の向上に盡したことは何人も否ひなく嚴然たる事實である。

今四東京都鍍金工業組合が

「めつきセンタービル建設せらるに當、吉々十日会を夏一同は社をの

想が出来事、東京鍍金会館を売却し、其の全額

ミナ会創立、貳拾周年記念基金

として設け、之が運用や

授賞者の選衡は、東京都鍍金工業組合の理事者に一任すると共に、業界に寄よ

せられたる方の顯彰にあてる事

をこゝに誌するものである。

昭和四拾四年四月拾壹日

日本鍍金協会
十日会会員一同

湯島竹花町地盤に「東京鍍金会館」を建設。尔来、常に業界開拓者としての誇りと胸へ團結を以て茲に貰拾星霜を閑した。其の間東西技術交流

金六百五拾萬余也
と同会館研究室所社の備品全部を同センターに寄贈するともに別に

金貳百萬余也

目 次

| | |
|--------------------------------------|----|
| 23.11.15 おしゃかの会発足..... | 1 |
| 12.10 第2回会合(十日会と命名) | |
| 24.1.10 第3回例会(当番幹事制を決める) | 2 |
| 2.10 服部久一郎：鍍金電源の研究 | |
| 3.10 会則決定 | |
| 4.10 コロビア工場見学、見学記中村敏一記 | |
| 5.10 宮田製作所見学 | |
| 5.12～14 中京見学(三菱電機、日本ミシン、中央ミシン、新家製作所) | |
| 15～19 大阪方面見学 | |
| 6.10 精工舎見学 | |
| 7.11 光陽社見学 | |
| 8.10 福井通信：炉過機の研究 | |
| 9.10 例会、新宿聚楽にて放談会 | |
| 10.10 吉田忠：クロームめっき 講演要旨梅沢記 | |
| 11.10 中小企業の進む道 | |
| 25 1.10 新年会..... | 16 |
| 1.20 田島栄氏を囲んで海外の情報を聞く | |
| 2.10 クラブ(会館)建設の実現へ | |
| 3.10 東芝見学 | |
| 4.28 鍍金規格の研究 | |
| 5.10 例会、会館建設の具体案を練る | |
| 21 石田武男：光沢ニッケルめっき 小篠記講演を聞いて | |
| 6.3 東京鍍金会館開館式、鍍友会から大時計 | |
| 10 会館建設資金の援助に感謝する会 | |
| 8.10 田島、友部両氏の講演を聞く | |
| 8.16 クロム酸の大平鉱業研究所見学 | |
| 9.10 岸松平：金国鍍金コンクールの結果について | |
| 9.18～11.28 鍍金基礎知識講習会 | |
| 10.10 光沢銅めっきと三元合金めっきについて | |
| 11.10 高見沢：最近のニッケル事情について | |
| 横井玉治：キリンスの改良について | |
| 藤野武彦：青化銅めっき | |
| 小篠：ニッケル不足対策としての銅めっき | |
| 12.3～4 有志による大阪見学 | |
| 26.2.10 新年会..... | 31 |
| 2.10 児玉金作：クロム酸の製造について | |
| 森健一：光沢めっきの実際 | |
| 4.10 例会 | |
| 4.16 横河電機見学 | |
| 4.19 鍍金会館内研究室完成 | |
| 7.10 定方金蔵：耐触性クロムめっき | |
| 友野理平：不純物の電解除去 | |
| " : アルミニウムダイキャスト クロムめっき | |
| 8.2～3 日立鉱山見学 | |
| 8.10 会館にて実習会 | |

| | | |
|----------|---|----|
| 11.10 | 例会 | |
| 11.19 | 伊豆長岡へ懇親旅行 | |
| 12.20 | プラウント氏講演（ブ氏との最初の接触） | |
| 27. 1.10 | 新年会、ブ氏講演内容 | 38 |
| 1.16 | 小篠義男氏逝去 | |
| 7.25 | 例会、光沢ニッケルめっきについて | |
| 7.28 | 伊勢崎三共電器見学→伊香保に一泊 | |
| 27. 8.10 | 定方金蔵：米国のキリンスについて | |
| 9.25 | 森健実：塩基性クロムめっきについて | |
| 10. 6 | プラウント氏帰国 | |
| 10.10 | 服部久一郎：米国におけるピックリングとディッピングについて | |
| 10.25 | 田島栄：不溶性陽極ニッケルめっきについて | |
| 11.10 | 小川：如何にして作業能率を増進するか | |
| 28. 4.10 | 市川清：金属の防鏽並に規格と検査 | 45 |
| 4.17 | 関東学院大学事業部見学 | |
| 5. 9 | パインミシン見学后定期総会 | |
| 6.10 | 例会 | |
| 7.10 | 本田技研見学后めっき教育用スライドの試写 | |
| 8.10 | 総房化学興津工場見学 | |
| 9.10 | 総会 | |
| 11. | 住友金属：最近のニッケル事情 | |
| 11.16～18 | 中京見学（知立鍍金、都梅鍍金、小山鍍金、中央製作所、名古屋鍍金、佐竹製作所） | |
| 12.10 | 定方金蔵：スルファミンニッケルめっき浴について | |
| 29. 1.10 | 新年会 | 49 |
| 2.10 | 加瀬敬年：光沢ニッケルめっきについて | |
| 2.16～21 | 大阪工場見学后東西交観会（大和、ナショナル、三洋、旭、ラージ、佐藤、高良の各工場） 白浜にて一泊 | |
| 3.10 | ライオン油脂：活性剤ライポンについて 石田武男：大阪における鍍金業界の概況 | |
| 4.10 | 大機ゴム見学 | |
| 4.24 | 友野理平：交流法による光沢めっき法 | |
| 6.10 | 井出三郎：南北アメリカ視察談 | |
| 7.10 | 安部東代吉：ドイツ製廻転クロムめっき装置について | |
| 8.10 | 例会 | |
| 8.28 | 川治温泉にて懇親会 | |
| 9.10 | S Q 膜厚計について ビニール砥輪について | |
| | 井上喜夫：ロジウムめっきについて | |
| 10.10 | 服部久一郎：活性炭について | |
| 11.10 | 定方金蔵：東京の鍍金工場をまわって 五味良行：油入セレ 惣流器について | |
| 11.20～22 | 東西交観会 | |
| 12.10 | 例会 | |
| 30. 1. 5 | 友野理平：最近における交流光沢めっき法 | 53 |
| 1.10 | 新年会 | |

| | | |
|----------|---|----|
| 2.10 | 岡崎友勇：亜鉛めっきに関する現場技術 | |
| 3.10 | 友野理平：交流法 P R 法の効果 | |
| 3.13 | 東西交観会 湯河原←上野→工場見学 | |
| 4.10 | 五味良行：補助陽極法による光沢めっき 〃：不完全電流による光沢めっき | |
| 5.10 | 定期総会 | |
| 5.14 | 国際見本市の見学 | |
| 6.10 | 日産自動車見学后 热海，初島見物 | |
| 7.10 | 福井通裕：廻転めっきの改良 | |
| 8.10 | 高浜二郎：光電比色計による鍍金液の分析 井上喜夫：金銀めっきについて | |
| 8.21 | 热海にて懇親会 | |
| 9.10 | 岡崎友勇：鍍金液に振動を与えるとどうなるか 高頭秀男：アルミニューム上へのめっき——工場実験 | |
| 10.10 | 五味良行：直流，交流混用の光沢めっきの実験 | |
| 10.30 | 例会，梅沢茂雄：実用メモ | |
| 11.10 | 尾崎 光沢ニッケルめっきの実際 菊地 ニッケルめっきについて | |
| 12.10 | 高浜二郎氏の受賞を祝う。 | |
| 31. 1.10 | 新年会..... | 61 |
| 2.10 | 五味良行：油入セレン整流器 安部東代吉：めっき液の分析 | |
| 3.10 | 在間：中共視察談 | |
| 4.10 | 後藤哲雄：鍍金業界の改善について | |
| 5.10 | 総会 | |
| 5.20 | 大沢直太郎氏逝く | |
| 5.19~22 | 東西交歓会 伊豆大島にて | |
| 6. 6 | 友野理平：電流波形のめっきに及ぼす影響 | |
| 6.10 | 小林：中小企業問題 | |
| 7.10 | 東平孝徳：米国視察報告 | |
| 8.10 | 鵜飼義二：米国におけるめっきの原価計算 | |
| 9.10 | 三共電器見学后伊香保に清遊 | |
| 10.10 | 東京城南地区見学と映画観賞 | |
| 10.14 | 東西交歓会 出雲玉造温泉 | |
| 11.10 | 例会 | |
| 12.10 | 忘年会 | |
| 32. 1.10 | 新年会..... | 66 |
| 2. 9~10 | 伊東で懇親会 | |
| 3.10 | 村上喜一：中小企業の生産管理 柳下芳輝：めっき液の濾過 | |
| 4.10 | 田島栄：非直流電流による電解反応 | |
| 5.10 | 総会 門標配布 | |
| 6. 1 | 宇奈月温泉にて東西交歓会 | |
| 7.10 | 創立10周年記念事業案を練る | |
| 7.28 | 石田武男：大阪鍍金業界の現況 | |
| 32. 9.10 | 川崎博太郎：最近の財政経済情勢 | |
| 10. 6 | 湯田中温泉にて東西交歓会 | |

| | | |
|----------|--|-----|
| 10.10 | 日本ソーダ見学 | |
| 11.10 | 香港の近況を聞く | |
| 12.10 | 三井金属 山本 亜鉛の防食 忘年会 | |
| 33. 1.10 | 新年会 | 72 |
| 2.10 | 川崎博太郎：最近の経済事情について | |
| 3. 8 | 10周年記念事業決定 | |
| 3.10 | 映画観賞：ダイキャスト入門，ドブ漬けの作業管理 | |
| 4.10 | 例会 | |
| 4.25 | 高浜二郎氏「メッキ語源考」出版記念祝賀会 | |
| 5.22 | 東西文歓会 九州へ | |
| 10.12 | 会館第二期工事完成 創立10周年記念式典 於会館 パーティー赤坂プリンスホテル | |
| 34. 4.19 | 映画「鍍金と生活」完成，一般公開 | 79 |
| 35. 1.10 | 新年会 湯河原温泉 | 80 |
| 2.22～23 | 大阪方面工場見学 大洋，宮林，ナショナル，大堀，三和，関西鍍金 | |
| 4.10 | 総会 初代会長八幡健氏に決る | |
| 8. 4 | ブラウント氏来日 | |
| 36. 3.27 | 有馬温泉にて東西文歓会 | 84 |
| 5.10 | 日本鍍金協会（鍍友会・名鍍会，十日会）結成の動き | |
| 6.25 | 日本鍍金協会結成式 於名古屋 初代会長小島一郎氏に決まる | |
| 7. 4 | 幹部教育研修会終る（(6/6～7/4) | |
| 7.10 | 五味良行：最近の労働問題について | |
| 37. 1.14 | 日本鍍金協会（会長小島政夫氏）新年会 伊東川奈ホテル | 86 |
| 3.25 | 第一回年次大会熱海グランドホテル 新会長宮林英明氏に決る | |
| 4.10 | 総会 新会長坂手勇氏 | |
| 5.10 | 田中洋之助：最近における金融問題と経済界の見通しについて 会員各社の事業報告 | |
| 6.25～24 | 日本鍍金協会主催欧州視察団（團長小島政夫氏）出発 | |
| 7. 8 | 日本鍍金協会役員会びわこ畔紅葉館 | |
| 7.10 | 欧州視察報告（小島，杆（くし），八幡） | |
| 8.10 | 渡米視察団歓送会（白瀬，中村，長谷川） | |
| 9.10 | 例会，事業報告 | |
| 10.15 | 及川広造 中小企業における労務管理 | |
| 11.10 | 藤野武彦：NaCNとKCNの使用比較 | |
| 12.10 | 忘年会，事業報告 | |
| 38. 1.10 | 新年会 | 92 |
| 2.11 | 座談会：鍍金業者のあり方 | |
| 3. 2 | 例会，クルーゼンシュテルン氏を囲んで | |
| 3.31 | 第二回年次大会 南紀白浜にて 新会長に伊藤博朗氏 | |
| 4.10 | 汚水処理について 軟水工業 | |
| 5.10 | 総会 全役員留任と決る | |
| 11.10 | 十日会創立15周年を祝す 高輪プリンスホテル | |
| 39. 3.10 | 総会 新会長井上喜夫氏に決まる | 100 |
| 3.29 | 第三回年次大会 烏羽国際観光ホテルで，新会長に荒木実氏 | |
| 4.10 | 中西重忠：これからの中核企業のあり方 | |
| 39. 5.10 | 北村久寿雄：ILO問題と現下の労働問題について | |
| 6.10 | 友松円謙：人生と仕事の哲学 | |

| | |
|--------------------------------------|-----|
| 7.10 新田豊造：健康管理について | |
| 8. 4 高浜氏東京を去る | |
| 9.10 岡崎英城：内外の政治問題 | |
| 10. 8 服部久一郎：鍍金廃水の処理について 終って臨時総会 | |
| 11. 8~ 9 日本鍍金協会秋期大会 浜名湖ホテル丸文で | |
| 12.10 忘年会 | |
| 40. 1.11 新年会..... | 106 |
| 2.10 例会 | |
| 3.10 総会 新会長福井通裕氏に決まる | |
| 3.28 日本鍍金協会年次大会 箱根小涌園ホテル 新会長に池田弘氏 | |
| 4.10 安久：話し方による人間関係 | |
| 5. 9~10 大阪方面工場見学 | |
| 6.10 邑井操：松下幸之助伝 | |
| 7.10 村田 呼吸管理による健康法 | |
| 8.24 安部東代吉：中共視察団 | |
| 9.10 後藤哲雄：米国におけるプラめっきの現状と将来 | |
| 9.25 ブラウント氏来日 | |
| 9.30 ブラウント氏講演 赤坂プリンスホテル | |
| 10. 2 日光ヘブ氏、ウエルズ氏両夫妻を招待 | |
| 10.11 川崎博太郎：米国企業の実態 | |
| 11.14 日本鍍金協会秋期大会 箱根にて | |
| 12.10 忘年会 | |
| 41. 1.10 新年会..... | 115 |
| 2.10 北村久寿雄：近づく春斗を迎えて | |
| 3. 4 オーバランド氏歓迎会 | |
| 3.10 総会 全役員留任 | |
| 3.27 第五回年次大会 有馬グランドホテルにて 新会長に中島茂清氏 | |
| 4.10 例会 | |
| 4.23 従業員テスト作成（委）発足 | |
| 5.10 白瀬：排水問題について | |
| 6.10 例会 会館問題について | |
| 6.18 日本鍍金協会役員会 名古屋にて | |
| 7.11 横河：機器分析と排水管理 | |
| 9.10 鎌・小泉：ニッケル不足とその現状 | |
| 9.30 会館問題について役員会 | |
| 10.10 例会 従業テストについて | |
| 10.16 日本鍍金協会秋期大会 片山津温泉にて | |
| 11.10 例会 会館売却問題について | |
| 12.10 忘年会 高浜二郎氏逝く 於姫路 | |
| 42. 1.10 新年会 於箱根..... | 119 |
| 2. 4 会館売却問題について役員会 | |
| 2.10 例会 本年度の反省会 | |
| 3.10 総会 新会長に石川氏決まる | |
| 3.25 日本鍍金協会第六回年次大会犬山ホテルに於て。新会長に福井通裕氏 | |
| 42. 4.10 例会、新年度の方針を中心にして | |
| 5.10 原価低減をテーマにスライド | |
| 6.10 会館最後の例会 お別れパーティー | |

| | | |
|----------|----------------------------------|-----|
| 6.24 | 三条、燕地区工場見学 | |
| 7. 9 | 日本鍍金協会役員会箱根で | |
| 7.10 | 原価低減をテーマに、めっきセンターにて | |
| 7.22 | プラウント氏来日歓迎会浅草松喜にて | |
| 8.10 | 品質管理について | |
| 9.11 | 臨時総会にて会則改正 | |
| 10.10 | 労使のあり方をテーマに | |
| 10.12 | 韓国鍍金業界視察団出発 | |
| 11.10 | 仕事の進め方をテーマに、訪韓報告 | |
| 11.12 | 日本鍍金協会秋期大会 箱根吉野にて | |
| 12.10 | 忘年会 江戸屋 | |
| 43. 1.10 | 新年会東天紅..... | 128 |
| 2.10 | 例会、年次大会の打合せ | |
| 3. 3 | 日本鍍金協会役員会鬼怒川温泉で | |
| 3.11 | 総会 全役員の留任決まる | |
| 3.30 | 日本鍍金協会第七回年次大会 鬼怒川温泉 新会長に伊藤利雄氏 | |
| 4.10 | 例会 本年度運営方針を中心に | |
| 4.13 | 米国鍍金業界視察団出発 | |
| 5.10 | 米国視察報告 | |
| 6.10 | 臨時総会、会館売却について、終了後渡米報告 | |
| 7.10 | 大原万平：世界の経済と中小企業に及ぼす影響 | |
| 8.10 | 渡辺三郎：若手労働者の採用とその対策 | |
| 9.10 | 杉靖三郎：経営者の健康管理 | |
| 10.10 | 村田光司：職場の健康管理、20周年記念事業決まる | |
| 11. 8 | 相島敏夫：宇宙時代の夢 | |
| 12. 7 | 日本鍍金協会秋期大会 於別府 | |
| 12.10 | 忘年会、於丸文 | |
| 44. 1.10 | 新年会 東天紅..... | 137 |
| 2.10 | 井上喜夫：排水処理について | |
| 3.10 | 総会 会長石川進氏留任に決まる | |
| 3.29 | 日本鍍金協会第八回年次大会びわこ畔ホテル紅葉、新会長に清水保明氏 | |

23・11・15

おしゃかの会（十日会）発足

学歴なんかきれいに棄ててしまつて真黒になつて働らいてる戦後の業界の青年層の総けっ起は全くすばらしい。にも抱わらず、その努力が自家営業の線に膠着して業界の問題から遊離している。それは斯業にクラスメートが皆無なためにも依るのである。

だからメッキを愛する熱意の同志としての会合が要望されることも久しかったところ、機運遂に熟して11月15日正午を期し、小石川後楽園の涵徳亭旧水戸藩中屋敷のビードロ茶屋に於て快活な同志の顔合せが行なわれた。

高浜二郎氏しばし待つうちにいつもの通り清水竜一氏がトップで、次いで石川清太郎氏と折原義一氏が相携えて出席、初対面乍ら話はらくに進む。そこへ鵜飼義一氏と莞爾とした顔が見えて又更に話がはずんだ。やがて杉並の小見山正道氏、大森の坂手勇氏、平沢秀恭氏次いで青木一郎氏が来る。

さて自己紹介をすませて規約や機構を協議したが、更に同志を拡充した後に定めることにし、みんな胸襟を開いて盛んに談論した。坂手氏はこの自由な会談が却って得るところが多くて良いと痛快がった。

次回は12月10日午后4時弁当持参で東京鍍金工業協同組合事務所で開会、それぞれ同志をさそい合せ、各自の製品を持ち寄つて意見を戦わせることに決定、清水氏に当番幹事を委任した。会の名は定めなくてもよろしいという案も出たが、鵜飼氏の案により「おしゃかの会」としたらどうかの説が出る。成程逆説的でおもしろいとみんなが咲笑した。

会を閉じてから名にしおう後楽園の秋も暮れゆく樹間池畔の散歩に昔人の幽懐を忍びつつ午后5時次会を約して解散した。

23. 12. 10

十日会第2回会合

組合事務所に13名出席、会名を十日に集まつたからという事で正式に「十日会」と決定した。清水竜一氏に幹事をお願ひし、来年1月の計画を練つてもらうことにした。

高浜二郎氏について、

十日会創立の昭和23年には業界に3つの二

世会が生まれている。最初は向島若葉会、次に城東鍍友会と十日会である。



これらの会の結成に当つては總て高浜二郎氏が推進力となり、講師のお願いや会場、工場見学のお世話をして戴いたものである。

支部単位で結成された若葉会と城東鍍友会はその後諸般の事情で解散し、一部の有志は十日会に加入された。

戦後の焼跡を独特的のモンペ白タビ姿にゾーリバキで一軒一軒業界の二世を尋ね、その加入をすすめられた姿は未だ目に浮ぶものである。氏の業界とのつながりは東京鍍金同業組合時報の創刊にあづかったのが機縁となり、同組合の事務を担当されたのである。

日支事変の進展に伴い、ニッケル資材の自治統制が行われるに及んで、東京鍍金工業組合を設立されたが、昭和14年組合を辞し、月刊雑誌「鍍金」を創刊された。

また、約30年間の資材の蒐集によって遂に蒲生君平研究六巻を完成せられ、このことによつて昭和30年栃木県より文化功労章を授与せられた。吾々が日常便用している「めっき」の語義や語源を明らかにされた「めっき語源考」を昭和32年に出版されている。

何れにしても、同氏が業界二世の育成につとめられた功績は大きく、十日会が今日あるのも同氏の御努力の賜物であり、深く感謝しなければならない。奇しくも昭和41年12月10日十日会例会の行われている日に姫路において永眠された。享年83才であった。

24・1・10

意氣燃える第3回十日会例会

午後5時、組合事務所に清水竜一、中村敏一、高浜二郎、坂手勇、八幡健、福井通祐、梅沢茂雄 坂下の諸代が集まつた。この日は十日会の名にちなみ、例会通知を出さなかつたが、通知なしの例会という新型を十日会によつて打開した訳である。

談論は例の通り多岐にわたつたが、是非毎回の談論をその場限りにせず、記録に留めたいとの意見が期せずして起つた。この事はやがて実行される筈である。又例会の中心問題を設けようとの意見があり、清水氏の提案で次回は電源問題について学識経験者の専門的解説を請い、且つ質疑を行なう事を申し合せた。

それから、福井氏からの電解研磨の実際に關する報告、坂手氏からの最近の金融に關する報告があつていずれも傾聴した。

また、われらのメッキが文化生活に直結している緊密度と重要度をもつもつと一般の人に理解せしめよう。その手段として、われらの熱と力でメッキ展覧会を開催しようとの意見が出ると全員大賛成、これによつて一般人を教育することが、やがて諸官庁の認識を深め、また製作メーカーの注意を新らたにするのだと意気軒昂、次回に各自の腹案を持ち寄つて具体的計画を練ることに決定した。



24・2・10

第4回例会は鍍金電源の研究

2月例会は午後5時組合事務所で行なつた。出席者は高浜二郎、清水竜一、中村敏一、坂手勇、鶴飼義一、福井通祐、大沢直太郎、小、嶋政夫、梅沢茂雄、八幡健、後藤哲雄、平沼三郎の諸氏で6時清水竜一氏の挨拶があつて服部久一郎先生の講話が始つた。

話題は「鍍金の電源に就いて」でプリントに基く1時間余りの熱弁に一同ペンを走らせながら傾聴した。講話は

総説、発電原理、電動機の回転原理、電動機の回転数、電動発電機取扱注意、事項回転変流機、整流器の7節

で詳細を極めた。終つて自由質疑に対する解説があつた。

また先生試作のセレン板に依る光学的ペーパー測定に関する発表があつて大なる示唆が与えられた。

ついで協議に移り、会則の制定は次回においてする事、幹事は6ヶ月交代とする事、会計記録係をおくこと、吉凶見舞をすること等を決定、幹事は清水氏、会計坂手氏、記録梅沢氏とそれぞれ推せんした。

懸案の鍍金展覧会は最善を期するため、委員を設けて設計することとし、その後更に自由座談をして9時散会した。



家庭における電灯料金の計算法について

電灯料金の集金は現在でも頗るわかりにくいうものであるが24年1月の鍍金技術研究会で服部久一郎氏が詳細に解説されている。

■電灯料金は基本料金と使用電気料との合算されたものであるが、基本料金は取付電灯数によって異つてゐる。今一例として電灯10灯電熱器1台を使用する家庭の電気を使用し得る範囲とその料金を試算してみると。

■一般家庭の割当電気料は7人までの家庭なれば20キロワット時、これに電熱器の割当キロ数が15キロワット時であるから合計35キロワット時で35キロ以上を使用すると1キロ当り16円50銭の超過料金を徴収される。

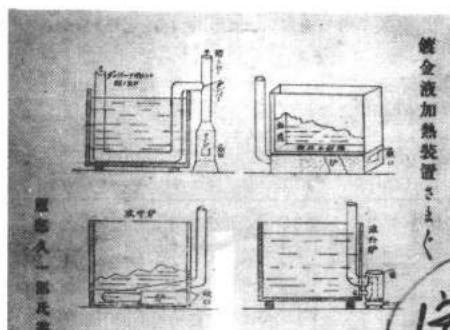
■それで割当の35キロワット時を使用したものとして計算すると基本料金が1灯4円40銭

の10倍で44円と電熱器1台32円10銭の合計76円10銭となる。次に使用料金は1キロ3円10銭の35倍で108円50銭。即ち基本料金と使用料金の合計184円50銭が例題にした家庭の電気料金である。

■電熱器を全然使用しない家庭は基本料金32円10銭を要せぬからそれだけ差引いて152円となる。

■一戸中に二世帯ある時は電灯割当15キロ、電熱器1台15キロが増加される。依って前例で計算すると65キロワット時の割当となり、基本料金44円、電気使用料201円50銭、電熱器2台分64円20銭、合計309円70銭になる。

■ついでにガスの説明をすると、一般家庭に対する現在の割当量は32m³であつて、この料金が180円になる。その発生熱量は1m³につき5000キロカロリーのようである。



24・3・10

優秀工場の見学を申し合せる。

午後5時鍍金組合事務所にて第5回例会を行なった。会則を決定後、過日城東鍍友会の主催で行った大阪工場見学の諸氏（十日会より、福井、中村、後藤、大沢、小嶋の5氏が参加）からそれぞれの立場における観察と所感の発表があつた。

鍍金の密着性について、特に前処理の脱脂あるいは、最近の実際作業として電洗による

飛躍的成績等、話合いや発表現品の展示なども行なわれた。

ついで今后は都下の優秀工場や名古屋見学を行なうこととなり、坂手氏から会計処理に関する報告と打合せがあつた。本日の出席者。次のとおり。坂手勇、清水竜一、福井通祐、近藤憲次、古川清次、青木一郎、大沢直太郎、羽成一利、中村敏一、後藤哲夫、梅沢茂雄、中山裕元、坂下泰二、鶴飼義一、の諸氏。

大阪業界を見学して

後藤哲雄

本年の大阪業界見学の第一陣に参加して下阪した一員として、先づ見学の御幹旋並に御指導を戴いた服部、高浜両先生及び大阪側各位に厚く感謝の意を表するものであります。次に若輩の感じたままの事を記したいと思います。



1. 見学工場の一般的状況

(イ) 見学工場の位置

見学した工場は大阪市東成区、西成区及び堺市における代表的工場であるが、その地域的位置は市内の東南、西南に位置する中小工業地帯に点在するもので、その殆んどは非戦災工場であるため工場設備が充実しており、使用電力も美しい位に豊富に適所適所に重点的に消費されている感をうけた。

従業員数も最高50人、最低7-8名の程度で14-15ヶ所を見学した中で高能率をあげているのは従業員24-25名の工場であると感じました。

(ロ) 加工製品について

主として自動車部品、洋傘骨子、輸出用ミシン部品等で特殊物として眼鏡棒、ペン先をも散見したが、何れも相当量の数物なのでその品物に適した羽布レースその他 ポリッシングツールを完備した点では想像以上のものがあつた。

緒方工場における洋傘骨子の内側磨きの研磨機、佐藤工場におけるポリシングブレイン（ミシン部品モーションストリップの表面研磨に適す）等、よりよき製品を得るために不斷の努力のあとがみられた。

要するにアレモコレモ屋より矢張り一定量まとまった仕事をやっていくことが進歩した技術を得るためにも、工場を発展させるためにも重要な要素なりとの感銘を受けた。

（ハ）工場設備について

研磨場は大体除塵装置を持っている工場が多く、この方面に思い切った設備をしていると云った程度ではないが、業界人が互に考案して作った設備の良所良所をラミネートしているので、案外冗費なくモノにしているのは大いに学ぶところが多い。但し2-3の工場では集塵箱をおくどころか例の棒の先に紙片を着けた面よけだけの所もある、他工場の設備と余りにもアンバランスの感をうけた。

鍍金工場にあっては廻転機を極度に利用し高能率で、大阪色の特徴を遺憾なく發揮しているが、その取扱操作において鍍金液を割に無駄にしているのは工賃を高くとる（我々からみれば物によっては2倍半程度高いものがある）ので問題にならぬ故でもあろうか。

鍍金用電源としては発電機ベルト一口を使用し、特に最近の電力事情と相まって漸次ベルト一口を使用し消費電力節減を図っている着眼点を感じたが、唯ベルト一口のマシンコストが高いのが玉にキズである。

（ニ）その他

従業員の職場における作業意欲は非常に高く、我々見学者に見せるための作業振りではなく、當時これだけやっているのだという働き振りには全く頭が下った。

人件費の点も熟練工、素人工を問わず平均賃金は関東方面より比較的低廉で、多くは日給制度を採用し、熟練工1人に素人工2-3名を附し養成している。

2、業界人の動静

我々の見学した工場は大阪鍍友会の強力な組織の下にあるもので、横の連絡の緊密を図り、機会を捉えての業務研鑽、討論等を随時に実施し、業界総体の基盤の進歩を期している。そして各工場とも業界人相互には門戸開

放で欠点、長所を指摘しあっているのは羨しい限りである。

比較的関東方面よりは外注に出す親工場自分が大きいので、その要請を満たすには各工場も亦大規模に発展したものと感じられたが此の点環境を異にしているとは云へ一歩進んでいると感銘を深くしました。

3、結び

以上概略を記しましたが、とにかく百聞は一見にしかずとか、各工場それぞれ詳細に見学していると何時までも去り難くなつて時間の経過を忘れてしまう程であります。

あれもこれも学ぶ点は多々ありますが、「ローマは一朝にしてならず」の古言通り、毎年の目標を作つて多年に亘る戦期の技術的プランクを一步一步埋めて、再建途上にある日本鍍金業界発展に、東西を問はず貢献して行くことこそ我が生涯の輝ける責務であると思う次第であります。

24・4・9

十日会第一回見学会としてコロンビアレコードを見学し翌10日の例会で所感を交換した。



24・4・10

コロンビア工場見学記

中村敏一

◎見学の概要

不導体面への電導性を附与するために真空放電装置に依つてその目的を達していた。電導性を有してからの電鉄方法はアメリカ製の装置を自動的に運転して理想に近い厚みと適当の硬度を持つ圧搾原盤の鍍金を行ひつつあった。その他に一般的な鍍金即ち受信器用の部品又針の鍍金加工も普通に作業されていた。以下レコードプレス工場→検査工場→レコー

ド原料混合工場→機械→受信器製作工場の順で見た。

実際にはこの部面が面白いのかも知れないが目的の焦点は鍍金工場にあるのでこの部門のみの感じた点を報告して見ます。

◎見学の焦点

工場全体を通して吹込の完成したろう盤への銀着が重要な点と思われた。その方法には化学的に行う操作と物理学的なことの両者で、ここでは後者の真空放電装置を用いていた。

その方法は真空室内に吹込まれたろう盤が陽極に取付られた陰極には銀の薄板が装置され、真空室の空気を強力な真空ポンプで所要の真空度に至らしめ両極間に1800Vの電圧を加えて放電され酸化されない銀粒をろう盤へ灰銀白色に固着していた。これが原盤1号として生まれる。

◎原盤1号への鍍金

不導体ろう面はこれで銀面を持った訳でこれを酸性銅液にして処理する。

初め液槽中央陰極バーに4ヶ所から成る振子腕木が液中60%位浸入する様になっていてこれに取付けられ、自動的に腕木が液中に30度角に振れ厚さ0.035吋位の銅皮膜が被せられる。次に厚着けされた鍍金面はろう盤から銀を表面に被った銅盤が取られる。この銅盤が第1号原盤となりろう盤では溝になっていたところが峰になっている。いわゆる凸のものになる。更に凸型銅板は表面を硬化するためにニッケルの薄膜が被せられ、次に前記と

同様の方法で硫酸銅液中に再び銅の上皮を着ける。又この原盤は型と依然同体であるから分離に掛け（これは見なかった）原盤と型とを分離する。ここに初めて第1号の型の表面は元の吹込時の精密な複製になった訳である。こうしてマスターとマザーとの両面が得られる。

◎レコード圧搾型

複製に成了ったマザーの面は研磨され光沢が与えられる。然る後前記同様にしてニッケル銅を鍍金、分離してクローム鍍金を行う。以下同様重複しプレス型の2, 3, 4号が作られレ

コード圧搾工場に廻ってレコードの大量生産になる。

◎設備 その他

電鋳用タンク1打が備えられるがこれらの手入は東京随一だろう。円盤の銅鍍金は1板あたり7V40アンペア位の電流を用いていた。発電機は数千アンペアを設備し大口電力使用工場の常で羨しい。3号原盤へのクローム鍍金も半自動。2馬力モーターレース1打が備えられていた。脱脂はトリクレンベーパーに依る完全作業を行っていた。又クローム鍍金用レコード針チャックは小物用として参考になった。総じてアメリカ産の優秀設備が見ものである。



◎結び

工場の装置は他の追随を許すまい。特に電鋳用タンクは良い。電鍍工場は装置に頼って作業を連続しており作業人員は取付だけですむから数名でこと足りる。こうした優秀な鍍金用機械装置を見せられると一応は首肯するが特に細部に至ると短時間ではとても知り得ない。液性に関しては尚更のこととニッケルの色は青緑色としてしか見られない。その意味で装置に依って一貫作業の出来る様な仕事は機械屋さんのお世話になり例えば自動研磨のA型機械を使用すれば幾種類かの物の磨きが出来ると云う風に専門屋の協力を得たいと思う。

終りに臨み高浜先生及び幹事の御斡旋とコロンビアの幹部の方々のお世話を与りましたことを厚く感謝致します。

24.5.10

宮田製作所を見学

5月の十日会は午後12時30分を期して京浜電車雑色駅に集合し宮田製作所を訪問して全



工程を見学したが、

坂下、江口、大沢、近藤、福井、木下、小見山、小篠、小島、梅沢、清水、八幡、尾崎、坂手、青木、鶴飼、

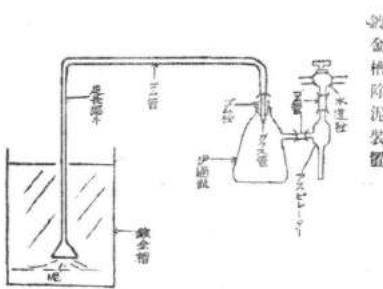
の諸氏、並に新潟から遠来の蓮沼慶次氏が臨時参加、会議室で会社の近況を聴き、岡崎塗装部主任の案内で工場を巡観した後、会社幹部諸氏と懇談、見学について忌憚なき感想の発表を行い最後に下請け関係に対する意見を交換した。

一同東京組合事務所に入り例会を開いた。高橋、中村氏の出席を加えて、名古屋見学を行う事として準備決定、工場紹介の試みに入り蓮沼、青木、大沢、清水諸氏の発表があった後会務の協議となつたが、バッヂ制作は各自意匠を考えて持寄り審議決定すること、メキキ辞典は、金属は鶴飼、清水、液は小篠、電源は後藤、機械は坂手、一般用語は梅沢の諸氏が分担する事、会報発行は梅沢氏に調査を依頼する事、6月にも著名工場を見学する事等も決定し最後に坂手氏から会計報告があつた

新工夫三つ 小篠義男

最近次の三つの事に気がつきました。

- 1、簡単な装置による液槽底の泥状物の除去。
- 2、ニッケル液中のニッケル分を知る方法。
- 3、銅を含有する鍍金液中より之を除く方法。



・小篠義男氏・

液槽底の泥状物の除去

液槽底の泥を除くにはフィルタープレスを利用するとよいが、費用が一寸かかる故よいとは知り乍ら一般には使用出来ぬので、一考をした結果図の如きセットで簡単に採取することができました。

図中の足長ロートとはガラス製の蠅取具の尻についている球を除いたものであります。浄過瓶及びアスピレーターは理化学用の硝子器を売る店へ行けばあり、全部で900円位です。

さて方法は図の如くゴム管と硝子管を以て接続組立てます。そして水道栓を開いて矢の如く水を流しますと、その吸引によって汙過瓶内部にある空気は除かれて真空となります。その時足長ロートを手にもって槽の底を探りますと、ドンドン泥状のものが吸引されて参ります。

汙過瓶を満したら別の容器に移して、数回繰り返しますと大部分を除くことができます。別の容器に移したもののは2日位放置して置きますと完全に沈澱いたしますから、その上澄

はもとの槽にもどします。

これは液を攪拌致しませんから作業中でも使用することができます。

どうぞ費用もからぬものですから早速装置して、泥を除いて、美しい液で作業を致しましょう。

ニッケル分を知る方法

ニッケル液のニッケルを知る方法ですが器具としては50ccのメスシリンダーが1個あればよろしい。500円前后です。

方法は先づ測定すべき液を作った時の組成で標準の液を作ります。私どものニッケル液でありますと

| | | |
|--------|---|--------|
| 硫酸ニッケル | $\text{NiSO}_4 \cdot 7\text{H}_2\text{O}$ | 105g/l |
| 硫酸ソーダ | $\text{Na}_2\text{SO}_4 \cdot 10\text{H}_2\text{O}$ | 30g/l |
| 硼酸 | H_3BO_3 | 15g/l |
| 塩化アンモン | NH_4Cl | 15g/l |

による標準液を作り、これを5ccだけシリンダーに探って水を同量加えて10ccと致します、その上にか性ソーダの1規定液（か性ソーダ40gを水に容して1lとしたもの）を40cc

加えて50ccとして、硝子棒で液を攪拌致しまして一晝夜放置致しますと水酸化ニッケルの沈澱ができます。そしてその目盛を記録致します。これが標準のニッケル量となります。これを基準として、現在使用している液を同じ方法で沈澱せしめて、その目盛を読んで測定するのであります。

シリンダーは50ccのものが目盛りもこまかく細いから沈澱の波がありませんが正確です。

現在使用中の液はニッケル陽極板中の鉄がありますから、煮沸して沪紙にて沪過致しますと、酸化物として除くことができますからこの方法を行ってから前記の測定を行って下さい。

この方法は健康診断の時血沈検査を見て考へました。僅かな注意で面白いことが考へられます。注意は発明のカギです。



液中の銅分を除く方法

近頃の硫酸ニッケルの結晶は多少とも銅を含有しておりますから、新に液を作りますと黒いニッケル鍍金がつき、ピッティングの生ずる原因ともなります。塩化アンモニウムを加へますと修正できますが、仕事を終らした時にカソードに引掛をこまかく並べ掛けて電流を通じ、少時にして電気を切り、そのままにしておきますと、翌朝にはその引掛に赤く銅が回収されております。これは最も簡単な手間のいらぬ方法ですから、実施なさるようお勧めいたします。



24, 5, 12~14

中京見学

夜10時20分発の準急列車で十日会の見学団が賑やかに出発した。一行は服部先生の同道を請うて

大沢直太郎、小島政夫、後藤哲雄、中村敏一、福井通祐、木下文良、青木一郎、小見山正道、小篠義男、近藤登、の諸氏に高浜二郎氏が参加した。13日朝6時名古屋着、朝食後小林さんの案内で、三菱電機に到ると、名古屋組合の清水専務理事、杉山書記長が待合せて歓迎された。一応の説明を承って広い広い工場の一棟の鍍金部に入るとあらゆる種類のタンクがずらりと並び、洗浄乾燥脱水等々何でもござれであるが、時節柄やはりフルには動かない。昼食後日本ミシンの鍍金部都梅鍍金工場を見学し、中央製作所を訪問、小林支配人の快活な明っ放しの説明をうけて製作の現状を見たが戦災と争議の幾難関を突破していよいよ捲土重来の意気に燃えているのがよく判った。日程追加で新家製作所を見て帰館、組合の田中理事長、伊藤理事、杉山書記長、中央製作所の後藤取締役、小林支配人、工業研究所の浅田先生、都梅鍍金の都梅さん等が出席夕食を共にした。名古屋技術研究会から日本ミシン堀田宗十郎清水鍍金の清水保明、愛日電化の土井博中央電化の川崎練夫、森鍍金の森勇の諸氏が来訪され改めて技術交換の座談会を催した。会は田中理事長の挨拶によって開始され、服部先生を司会に推し、高浜二郎氏から十日会の性格を語って今後各地の若き諸氏が親密な

交遊を保って業界の平和と繁栄を期せられた
いとの意を述べた。

技術談議に入つて就中常温クロム鍍金が小篠
氏と森、大沢、都梅、田中、伊藤、杉山諸氏
の間に談せられ過に就て 小島、堀田、廻転、
に就て堀田、福井諸氏の問答があり、随所に
服部先生の解説が加えられた。

翌14日は雨を衝いてギャクランクの神戸製鋼
と田中鍍金工場を見学同邸にて昼食を招かれ
た。後名古屋駅に到つて解散。（大部分は揃
つて大阪に赴いた。）

24, 5 15~19

十日会員大阪業界訪問

大沢、福井、木下、青木、小見山、近藤の6
名は西下し、15、16両日伊藤宗太郎氏自らの
指導で鍍友会員工場を見学し17日帰京小篠氏
は名古屋研究会一行と共に17、18日大阪を見
学して19日帰京。



24, 6, 10

6月の十日会

6月の十日会は精工舎を見学した。当日は国
鉄のストで2時間かかってやっと錦糸町駅に
駆けつけた高浜二郎氏がビリで鶴飼、清水、
後藤、高橋、中村、江口、近藤、八幡、小篠
長崎、海野、福井、大沢、小島、木下（文）
梅沢、コロンビア株式会社の諸氏はちゃんと
揃っていた。

早速精工舎に到り、購買課井汲主任と鍍金部
大木主任の挨拶に対し清水幹事が答える。お二
人の御案内で研磨部の3階と2階を見学、細か
い部品を1つ1つの研磨だから大変だ。

自動研磨の装置もあるが一寸難点があるとか
勿論電解研磨は実験されている。

電源も見、鍍金部に及ぶと戦災を蒙つての復

旧ながら理想的設備クロムもニッケルもドイ
ツ製の移動式で坪数が広く、床工事が完全、
排気装置は絶対優秀で（研磨部亦然り）キリ
ンス場は最近の設備で涼しい位の排気と滝の
ような流水である。

終つて会議室へ行き、井汲、大木両氏の外、現
場主任も見えて見学に関する座談を交換した。
組合事務所に帰り、小見山、青木、尾崎、羽
成、坂手の5氏が新入会の長崎、海野両氏を紹
介した後、過般の名古屋見学に就て後藤、大
沢、小篠の諸氏から順次報告後、意見交換、
次で工場紹介として梅沢氏と鶴飼氏が自分
の設備と作業を公表し、自由研究を行つた後会務
の協議を行い、清水幹事満期のため後任は青
木、鶴飼の両氏と決定、次でバッチ会報、メ
ッキ辞典、次回見学の諸件を決定した。



槽辺隨筆

対話

井上喜夫

- A, どうしてこうなったのだろう。
B, それはね、訳はわからないがこうすれば
よいのだ。俺が小僧の頃おやじがよくこう
やって直していたから
A, だけどその量は勘で行くのかね。
B, そうさ。一々目方をはかっていては仕事
にも何にもなるものか。
A, しかしそれは危険だね。もし過剰には入
ったらこまるね、はっきりと量をはかって
度をみてするのが本当じゃないかね。
B, 君はすぐそういう風に理窟をこねるが、
何でも君のいうように行くものか。第一、
10年も15年もこの商売で食つている俺にさ
う間違いがあるのでは今までに失敗してい
るよ。まあ俺にまかせておけよ。
A, しかしね、勘やコツというやつは、その日
その日の気分や環境に依つて狂いのくるも
のだよ。もしそれが理論の裏付があつたら

確かにものになるのだが。

君のような方法でどこまでも行くつもりなら、君の知つてない事故が起った時はどうするのだ。もし君のおやじさんも出会った事のない事故が起つたらどうするのだ僕は理論で行くよ。

B. 君、理論で研磨が出来るかね。

A. これをどうやって研磨するかはその場にあたってみないとわからないよ。何しろ僕は経験が浅いからね。しかしそれなら聞くがね金鋼砂が鉄を削るのは鉄より砂が硬いからだね。そしたら鉄よりも軟かいトリボリやマチレスでどうして鉄が研磨せられるのか、わかるかね。そして研磨した光沢と電解研磨の光沢はどうして違うのかね。

B. そんな事はわからなくても仕事さえ出来ればそれでよいじゃないか。俺はわからなくて毎日の仕事に少しも困らないよ。

A. 所詮君と僕とは根本思想が違うね。第一一番最初、一つの金属の上に他の金属をめつきできる事を見つけだしたのは化学者だよ。その理論を応用して実用化したのは鍍金屋だらうがね。そしたら飽迨理論に忠実でなければならぬと思うがね。

B. 何でもいいよ。俺は学問がないのだから、むずかしい事はわからんが困らないよ。まあ君は君、俺は俺だ。

よくある風景—この話の結末は暇寸に時を以つてしまつてもわかっている。先日の田島博士の話ではないが「経験のみを尊び、秘伝のみを金科玉条とし、学問を軽じると、実用新案的新歩はあっても原理的革新的飛躍はあり得ない」事になる。過去の経験に数値を与へいつどんな条件のもとでも確実なよりどころのある方法の系統を見出すことが今後の重要な課題である。



24. 7. 11

光陽社見学

十日会は7月10日が日曜日で見学工場が休みのため11日午後1時から光陽社を見学。

鵜飼、尾崎、青木、高橋、八幡、コロンビアの丸安、小池、大沢、長崎、梅沢、坂手、小見山、福井、木下、小林、山中高浜の諸氏で工場参観、焼跡は整理され豪華な自動研磨布製造工場の復旧進捗、今年中には動き出すという。



反射炉も復旧、併しこれは生産量制約のため作業が断続し、火を落せば20万円の損失になるそうで、ここにも官僚統制の不合理が考えられる。研磨材工場も見たが、例に依って倉庫は各種製品の山、これが大低油脂受配から製品発券までに半年かかる。

見学を終って座談会。

英米における研磨材の相違とその使用法から油脂原料の純度に説き及んで、イカの油で造った研磨材が出たとの話に満座を哄笑させた。

6時半東京組合事務所に引上げ、例会を開いたが小島、羽成、中村、清水、小川諸氏も出席、鵜飼氏の司会で光陽社見学の結論をつけた後、バッヂ決定、会則変更、会員工場発表を行い。更にメック辞典の経過報告や技術設備に関する大沢、小林、福井、長崎諸氏の報告があった。

24. 8. 10

ろ過機を研究する。

前月の研磨材研究に次で今月はろ過機研究これが8月における十日会の命題であった。

例によって10日午後5時東京鍍金組合事務所で開会。

清水、梅沢、鵜飼、中山、坂手、小島、小林、又小篠氏は名古屋の清水、川崎両氏を同道して出席、浦和の尾崎氏や高橋、長崎、海野、

山中、青木、福井、木下、羽成、後藤、近藤、大沢の諸氏が出席、お客様の服部先生、フィルタープレスの鶴田氏、タンクの近藤氏等も揃い、開会前に新調のバッチが配られて一同早速に襟にする。鶴飼氏の司会で開会、名古屋のお客様を紹介後本論に入り、フィルタープレスに関する鶴田氏の詳細な説明並に近藤氏の話があり、服部先生の講話があった後相互に所感を発表した。尚服部先生から最近に於ける京阪旅行の土産として平面研磨の製品砥石を展示された。

ニッケル液の鉄分と淨過機について

服部久一郎

私の関係する製品の検査の結果を鍍金について研究すると、モンド硫酸ニッケルを使用していた場合は無条件に良好であったが、その後材料商より講入したものは大いに成分が異って調子悪いことがわかる。



又私は質問したある工場では、ニッケル鍍金すると黒ニッケルの如く真黒になるというので、分析すると多量の銅、鉄を含んでいた。別の工場のニッケル液の不調は某店より仕入れた硫酸ニッケルに起因するもので鉄分が実に24%もあった。

鉄分を含んだニッケル液からはピンホールを生じ、発錆しやすく、鉄製品の穴がある場合はその附近が電位差の関係で鉄分が多く析出し、且つ特にピンホールが多い。鉄は0.6Vで析出し始めるからである。

鉄分を除くためにはニッケルの沈澱せざる範囲中PH6.2位までアンモニアまたはカ性ソーダを加え、水酸化鉄を沈澱せしめ、次に過酸化水素を添加、または空気を吹き込む等の酸化法を用いて水酸化鉄を沈澱せしめる。この際生ずる鉄の微粒子は24時間以上経たないと沈下しない。このため連続繰業の要あるときはろ過機を用いて効果がある。

ろ過機の鉄の部分が錆びるけれども、ろ過された溶液を分析して鉄分を認めないから、別に搔きとる必要はない。水酸化鉄と酸化鉄とが圧力を以て固着し溶け難いと考へられる。

ろ過機はろ布によって効果が異なる故、これは吟味すべきである。第一回目のろ過は多量の塵のためろ布がつまっている事が多いが第二回目からは順調に行われる。この際ろ布にたまる沈澱物は一種のろ過膜であるから強いて洗うべきではない。

ろ過機使用のみの後は20~30分清水を通して、硫酸ニッケルを内部に結晶せしめない事が大切である。硬い再結晶を知らず次のろ過を行なうと、ギャボンプでは歯車を欠く等の障害にあう。この清水洗浄は塩化バリウムで反応のないまで実施すべきである。かくして得られた清澄の液からは極めて良好な鍍着がもたらされる。



英國ヒンクス社製品は10年間錆びないニッケル製品を輸出しており、我国へは目下その輸入をみないが、いよいよ世界競走場裡に再出発の場合、現在の日本製品では到底太刀打できないと思う。材料面からも、技術面からも、一段の努力こそ望ましいものである。

24. 9. 10

この次は主題なしに緩りと座談しようとの申し合せをしてあった9月会例は新宿聚楽にて行われた。高浜氏、青木幹事、坂手会計に小篠、小川、梅沢、小見山、海野、服部、鶴飼、坂手、福井、木下、清水の諸氏は鶴飼幹事の司会で軽い相談を始め、先づ服部先生を名誉顧問に推せん、次に青木幹事の任期満了のため後任に福井氏を選挙した。それから晩さんとなり、再び座談となつたところへ大沢小島の両氏が出席、時の流れるのも忘れたが夜も10時となれば次回の主題と見学を打合せて散会した。

ニッケル鍍金液の創案渋過装置

福井通祐

鍍金液の渋過については私から今更申し上げる必要はありませんが、現在市販の硫酸ニッケルは鉄分の入っていない品は殆んどないといつても良いと思います。ところでこれを除くには液を渋過する外に方法がないのです。

東京、大阪、名古屋の有名な工場を見学させて戴く機会を得、立派な渋過機を見ましてからは欲しくて、欲しくて夢にもみました。しかし我々のような小工場で、これを求めるのは容易でなく、また求めても置場所がないのです。それで何とか簡単に出来ないものかと考へて二三試作しました結果、まづこれならというものが出来まして、毎日これを使用しております。



出てくる。出てくる、水道のように美しい緑の液が出てくる。我ながら実に嬉しくなりました。これというのも皆諸先生、諸先輩のおかげと思いまして、その要領を発表させていただきます。

- ドラムの大きさは1枚の黄銅板で取れるだけに大きく造りました。勿論ニッケルメッキをしました。
- 内部に渋袋を入れ、ドラムの縁に少々出してフタを蝶ネジで止めます。
- 渋袋がプレスされてドラムに密着しないように金鋼を入れておきます。
- 渋袋は大き目でないとプレスされて破れます。渋布は天竺程度の木綿なら何でよろしい。



尾崎
満男

福井
通祐

岡
直正

松
本
伸

■ポンプは市販のギャポンプを使います。

■場所をとりませんのでタンクの前でも横でも取付け安い場所におき、ポンプはタンクの縁のベルトの取付易い場所に厚板を添えて取付け、この間をゴムホースでつなぎます。

私の造りましたものは高さ1尺1寸、径7寸5分あります。ポンプの回転は1分間に80回から120回です。それで渋過容量を計算しますと、1時間当たり200~300リッターとなります。現在作業中常時運転していますので3×6のタンクでも1時間に200リッター渋過すれば充分と思います。

あまり能率を考へるよりキレイになつても止めずに渋過することです。

24. 10. 10

創立満1年の十日会は10月10日午後5時から東京鍍金組合事務所で例会を開いたが出席者21名、鶴飼幹事の司会で早稲田大学吉田助教授の最近の米国鍍金工業の傾向に関する講演を聴いた後、新会員宮田製作所岡崎友勇、同宮島全成氏の紹介に次いで八幡氏の水害見舞を可決、次の研究課題を協議した後、坂手氏から共同受註組合計画の紹介、又吉田助教授の講演に於て同氏4年の研究により革命的無毒クローム鍍金完成に関する概論が示されたのは大なる感激であった。

24. 10. 10

最近の米国電鍍工業の傾向

早稲田大学教授 吉田忠氏講演

於十日会10月例会 梅沢茂雄氏記

◎鍍金前処理

規模は益々拡大且つ機械化され、サンドブラストの利用も盛んであるが、この数年来普遍化した鉄の電解酸洗にプラートダカン法がある。即ち硫酸10%, 0.1硫酸錫の溶液で80~90度C, 6~8アンペア平方分で陰極に品物、陽極にフェリシコン板を用いる。溶液中に、錫が含まれているため鉛板は酸化するためである。

この方法によると、電解により錫の落ちた部分には直ちに錫が鍍着し、自然的に次の鍍金個所に電気が集中作用して、迅速に酸洗が終了する。この錫鍍層は極めて薄く肉眼では視察し難いものであり、これに続いて別の鍍金を行ふ場合は苛性ソーダで瞬間電解するとよい

と云われている。



◎真鍮のキリンス上げ

最近の真鍮のブライトディップは、ジャブ液にクローム酸を加えインヒビーターの作用を行わしめて居るため非常にきれいである。

硫酸80cc、濃硝酸20cc、塩酸1ccに無水クローム酸50~60g、水200ccの液を用いる。注意する点は硫酸硝酸の混合熱が冷却した後に塩酸を加える事である。

電解研磨に就いて

実用的に現実の問題としては無理と思われて居るようである。理由は次の如きものが挙げられている。

1. 大電流が要ること。
2. ヒッカケ、ピンセット類が侵されてしまうこと。
3. 液が磷酸、過塩素酸等のため設備は勿論非常に費用がかかること。
4. 鏡面研磨とするため均一電流を得ることがむずかしいから表面積の大きいものは無理であること。

理解研磨の結果、薄い酸化物が物品表面を被膜するため陰極処理又は薬品処理を行うと独特の電磨光が失われ、メッキ下地としては不向の点もあるが、小物真鍮を電解研磨して水洗後薄く鉄鍍金を施し、次にニッケル鍍金をつけると非常によく密着して剝離しない。ステンレス、小物等の電磨だけですむものには利用されている。

◎電解清浄に就て

10%アルカリ陰極処理が行われて居る。表面に汚物が附着しても、ブライトディップその他を行なうから能率的の方法として採用されて居る。

◎金鍍金

真鍮又は銅製品にじかに金を鍍金をするのはいけないとされている。銅は合金しやすいから金が吸収される形となって永持ちしないか

らである。

銅→ニッケル→金が理想的であり、安価な品物に対してもニッケルを相当鍍着した上に金鍍金を施している。

◎銀鍍金

銀鍍金溶液に二流化炭素を用いると銀の光沢銀鍍金を得ると云われているが、光沢程度である量としては1立に対し1万分の6g位で、いきなり槽に二流化炭素を入れることはよくない。この液はハンダ上にはよくつかないが、薬品や装身具につかわれている。

銀溶液1立につき、10ccアンモニア1gのハイポを入れると光沢銀鍍金が現られると云われている。

専門的にはチオ尿素が銀のよき添加剤であると云われている。

ニッケル陽極板不足の對策として ホワイトブロンズ鍍金提唱（上）

小林 義男

開発生産上大きなネックはニッケルの国内供給のため海外へから私心を以て輸出されたりとこで国内の販賣が難易度を増して居る。この事は消費者が期待せる品質と違う。我々業者は「落とし」「落とさない」と思ふことで萬能の「べき」である。「貴重な在庫に過ぎず銀色の加工も大變に走り込むばかりではないので、簡単に見付かります」としては業者の「べき」である。「貴重な在庫に過ぎず銀色の加工も大變に走り込むばかりではないので、簡単に見付かります」としては業者の「べき」である。

一方では多くの利點を有する「べき」である。

一方では多くの利點を有する「べき」である。貴重な在庫がどの程度に在庫するか多くなる。しかし、これが何を意味するか?それは、「べき」としての銀色の加工が何を意味するか?それとも、「べき」としての銀色の加工が何を意味するか?それとも、「べき」としての銀色の加工が何を意味するか?これは貴重な在庫がある状況下に何を意味するか?これは貴重な在庫がある状況下に何を意味するか?これは貴重な在庫がある状況下に何を意味するか?これは貴重な在庫がある状況下に何を意味するか?これは貴重な在庫がある状況下に何を意味するか?

◎アルカリ銅

高温高電流で行なうと効率よく、これにロッシェル塩4~8オンスを入れると、生成する陽極泥が溶解するようになり、ハンダ上にもよく鍍着する。青化銅16~22g、苛性ソーダ32~64gこれに炭酸ソーダを加え、ロッシェル塩50g、水1g、電流密度は充分ガスの発生する程度、溶液に震動を与える。

◎スペキュラム合金鍍金

銅→錫合金であって、2千年前、ローマ鏡に青味のある白色、銀よりは白く、室内では安定であり酸味あるものにも丈夫で食器に行われる。銀は硫黄により黒変するが、この金属は黒くならない。

欠点としては雨露に弱いこと、百度以上の熱で壊ること、クローム下には全然駄目なこと等である。

この合金に於ける錫の量は39~55%を適當とされている。それ以下では汚れやすく、以上では軟かくなる。錫酸ソーダ90、青化銅11、

青化リーグ16, 苛性ソーダ15g, 水1ℓ。銅板と錫板を別々に陽極として、銅に対しては1アンペア/dm², 錫に対しては、1.2アンペア/dm²より低くしないことを必要として、陰極電圧2.5ボルト, 温度60℃。羽布仕上をする。

◎インジューム鍍金

亜鉛と共に産出される稀金属であって、機関のシリンダー部に瞬間鍍金を施し焼入れを行えば数十倍モビールの有機酸に耐えると云われる。

◎高速度光輝ニッケル

欧米に於て盛んに研究実用されているものにこの高速度光輝ニッケルがある。これに要する添加剤を性質上3別すると

1. 光沢を出させるもの

カドミウム, 亜鉛, コバルト, アルデヒドセレンウム, 膠, ゼラチン, デキストリン等等

然し、これ等は(コバルトを除いて)何れもその添加範囲が限定されて光沢限界を超えると胞くなり、更に加えると黒い折出となる。

2. 光沢剤として働くもの

光沢剤として半分働くもの

光沢剤として働くかないが、胞くなるものを防ぐもの。

これらには、コバルト塩類、ナフタリンズフォネイト、ズルフォンアミド等がある。ズルフォンアミドは1ℓにつき、5mgで胞くなるのを防ぐ。

3. 表面張力を低下させるもの

ニッケル液に光沢剤を入れるとピットが出来る。これを防ぐものであってこれの添加を必要としないものはコバルト塩を入れたものだけである。

この添加剤として高級アルコール、イゲボンビー(人絹用)がある。このイゲボンビーの僅少添加、温液使用、循還又は拌拌し、12A/dm²の高電流を用いた組成液もある。

この他、英國ワイスベルグ・ストッダード氏の蟻酸法がある。

即ち、硫酸ニッケル240g, 塩化ニッケル30g, 蟻酸ニッケル45g, フォルムアルデヒド2.5ℓ。PH3.5~4.5, 50~60℃, 4~6A/dm², 液は循還又は攪拌する。

アメリカではコバルトが高価なため(1ℓ中18~20g添加)別法を研究し、トリフェニー

ルを1g中5/1000mgを加える方法等がある。光沢ニッケル難点を3別にして、私の実験をお話しすると、

1. アノードを溶けやすすせしめる事。

これには塩化ニッケル添加。

2. 光沢剤の使用範囲が広くならなければならぬ事。

サッカリンに塩酸を加えて生成した水に不溶の沈澱を液1ℓに付き1~2g袋に入れ槽の端に吊下する。

必要量しか溶けない点便利である。

この液を35~40℃, 5A/平方dm², 陰極を振動せしめて使用する。

又はズルフォンアミドの使用。

3. 表面張力を低下せしめる事。

理論的には高級アルコールは効果的であるが、水溶液に入れると蒸発する。

ブタノールの使用も良好な効果を収めるが、3日後には蒸発して析出物にピットが残る。



モノゲンも、また感心出来ない。

尚速高来鍍金の場合アノードは隔膜を置くべきで、米国では鹿皮の袋が推奨されて居り又肌目の細かい羽二重も好評である。

◎亜鉛素ダイキャスト上に鍍金

亜鉛素系なるにより、ビリしやくい。よく鍍金をつけるためには下の順序が行われる。

1. 表面の研磨はコツがあって軽く磨く。

2. 脱脂にはトリクロールエチレンがよい。

3. 軽いアルカリで電洗(PH10.2を超えない事)

4. 苛性ソーダはよくない。磷酸3, ソーダ12.5~25g/ℓで、80~90度で洗う。

5. 硅酸ソーダ系は不可。

6. 脱脂時間は品物により一定しない。

7. 水洗

8. 5%硫酸で一寸泡をふかして充分洗って鍍金する。

直接ニッケルをつけるには無光沢液がよい。

硫酸ニッケル75g, 硫酸ソーダ75~100g
硼酸12.5g, 食塩12.5mg, PH5.6~5.8
2A/平方dm²攪拌

直接法によると、亜鉛は徐々に液中に溶け込むため銅→ニッケルの順がよい。

そしてこの鋼鍍層は12ミクロン以下では亜鉛に吸収されてニッケルが剥れる因となる。20ミクロン位を必要とする。

亜鉛ダイキャストに光輝ニッケルをかける場合、次のものが実用されねいる

硫酸ニッケル80~90g, 硫酸ソーダ60~90g, 塩化アンモ16g, 硼酸25g, セレン酸0.18~0.36g

45°C前後, 2.54.8A/平方dm², PH5.8

◎無臭クローム鍍金に就て

私の目下研究中のものであって、概記すると

長所

1. 悪いガスが発生しない事。
2. ニッケル、銅の上に非常によくつく事。
3. 電流効率は普通クロームより20~30%少くですむ。事。

短所

1. 硬質クロームは不適である。
2. 陽極は磁性酸化鉄を使用するため適宣の細工に不便。
3. 9~13Vでスロイニングパワは比較的よくない。

液の組成として硫酸クローム、硫安、緩衝剤として尿素を使用する。

35~60°C, 20~40A/dm², 高いPH。

クロムの補充には無水クロム液酸。

青味は稍少いが、硬度純度は差通クロムと恋らない。無水クロム酸よりの析出より活性が多い。等々。

一日も早く研究完成の上業界に貢献したいと念願する次第である。

吉田先生の講演を聞く

小篠義男

十日会10月例会の席上において早稲田大学助教授吉田忠先生の米国における最近の鍍金という講演を聞いた。従来鍍金に関する学者の講演は私達業界の者としてピンとくるもののがなかった。これは要するに外国の訳語であつて、自己の体験を基礎として講ずるものではないから迫力のないのは当然である。吉田先生は充分なる研究を基礎としての講演であつ

たから我々にピンときたのである。

特に最後のクロム鍍金において米国の事情に事よせてご自分の研究中の世界に比類なきクロム鍍金法の片鱗を示されたことは深く感謝と敬意とを表するものである。今日は尚研究中のものであるので、その内容に立入ることは同じ鍍金研究者として遠慮するのが礼儀であると思う。謹んでそのご完成をお祈り申し上げる。

先生がこの大発明を完成するには乞食の行をせなければならぬ、1本の試薬、1枚の試料を得る資金に困るとの御述懐を承って、私が常温クロム鍍金を完成する道程に於て歩んできた道を吉田先生も同じく歩んでおられるかと心で泣いた。



自分で申すのもどうかと思うが、私は常温クロム鍍金を特許もとらず広く鍍金業界に公表したことは一つに我が国の鍍金業界が世界の水準より一步先を歩む資とするがためで、幸い今日では国内においてこの方法を実施する工場大小合せて百数十に上るといわれている。そして数々の貴重なる報告をうけていることは、少しにても業界に幸福をもたらし、世界に先がけて完成し実施したものと考へ、満足している。

先生のクロム鍍金は有毒なるガスが発生せぬ故、従業員の保健上よりも世の中の幸福となるものなので、一日も早くご完成の上ご発表を願い、多くの業界の先覚者とともに協同研究をして敗戦日本の一角落より世界人の目をあつとさせたいものと切にそのご完成をお祈り申し上げるものである。

そして業界各位にもこの大なる発明に対し必からの敬意を表し、物心両面からお力添えあらんことを切望して止まない。模造器の如きクロム鍍金装置等に数万円の奨励金を出しているそらの人達にもっと大きく目を開けて頂きたい。特許をとっていないからといつ

て発明者に何の断りもなく看板としている某協会もざん愧して、かくの如き発明に協力して然るべきだと思う。

尚講演中の錫と銅の合金鍍金が食器類に施して輸入されているとのことは、私が既にホワイトブロンズ鍍金発表の際指示したもので私の予見が的中したことを秘かに嬉しく思い業界各位のご研究を願う。

空の器には智の水は無限に入るが

満水の器には一滴の智の水も入らない

人は常に私を去って心を空にすべきである

人に施することは己を磨く所以である

佛像の目は細く長い

世の中は細く長く見たいものである。



24.11.10

中小企業の進む道

十日会は11月10日午後5時から東京鍍金組合事務所で例会を開いたが

小篠、鵜飼、清水、梅沢、岡崎、宮島、木下、高橋、坂手、尾崎、羽成、小見山、大沢、小林、山中、長崎、中村、坂下、諸氏が出席。鵜飼幹事から中小企業庁の大成義章、竹田重和両氏を紹介、大成氏は企業庁の構成に就て、竹田氏はメッキ業界の指導に就て、それぞれ詳述した。これに対し坂手、福井氏等の質問があり、両氏から明答され、服部先生の談があった。

会務の協議に移り、技術研究会運営に就て協力を懇請された事情を小篠、大沢両氏より報告、十日会として協力するに決定し、次に高浜氏推薦の越智康勝、能勢禎章両氏の入会承認を決定後一般懇談を遂げ散会したのは夜の10時であった。

25. 1. 10

意氣新にあがる新年会

十日会の新春における例会は型を破った新年会として、1月10日正午から後楽園涵徳亭に於て開催した。吹雪乍ら出席したのは服部先生を初めとして

福井通祐、中村敏一、坂手勇、梅沢茂雄
羽成利一、越智康勝、武田幸夫、高橋政
一坂下泰二、山中吉己、後藤哲雄、青木
一郎、尾崎満男、大沢直太郎、小林憲、
小嶋政夫、小篠義男、小篠一郎、岡崎友
勇、清水龍一、八幡健、海野亨、小見山
正道、

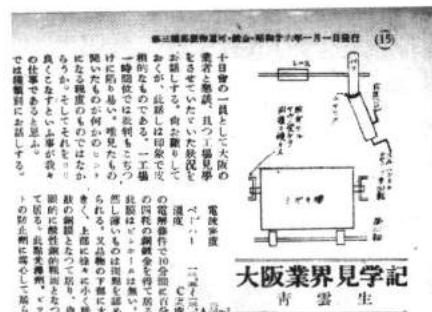
の諸氏、お互いに年賀を交換、やがて開会となり、福井幹事より、「この涵徳亭で初めて会した同志は僅かに6、7名であったが、其後年余で盛んな集りとなったことは御同慶に堪えない。会としては研究に見学に着々成果を挙げて来たのであるが、会後更に一層結束してお互いの福利増進に努めたい。」

と喜びと誓いの挨拶を述べて賀辞とする。

声に応じて一同賀杯を挙げて『おめでとう』と応じた。服部先生の賀辞をこめた所感があり技術に関する意見の交換となり、十日会の新年会は理屈っぽいねと笑い出す始末。

新年度の十日会の進み方に就て中村幹事から私案の発表があり、高浜二郎氏亦所思を陳述

したが続いて服部先生の勧告があった結果この問題を強力に取上げることとした。（私案の内容はクラブ建設問題であった。）かくて十日会万才を三唱して散会したのは午後4時過であった。——雪はやんで、晚照が香っていた。



25. 1. 20

田島博士を囲んで海外の新消息を聞く

新しいさまざまな研究資料が入っているから、好学の諸氏にお見せしようと、とても有難い田島博士からの連絡をいただいて、十日会は1月20日午後5時都立大学工業化学教室で臨時会を開いた。

準備中に博士が継受褒賞をお受けになるとのニュースがあって、この臨時会が又お慶びの会ともなったのは嬉しかった。（昭和25年1



月13日文化勲章令による。受賞対象「金属表面の電解研磨法の優秀な発明」)

出席者は

坂手、小篠義、岡崎、小篠一、梅沢、
高橋、八幡、青木、能勢、中村、鵜飼、
小見山、福井、木下、大沢、小鳴、清水、
武田、海野、
の諸氏。

福井、中村両幹事から博士の栄誉をお慶び申上げつつ、十日会の祝意を贈呈したのに對し、博士の挨拶があつて、直ぐ近着の米国文献が豊富に展示された。

やがて最近発表された「電解表面処理の進歩」の論文をくばって、その要点を説明し、且つ引用される光沢メッキ液のさまざまな組成条件を詳説されたが、更に研究室における試験品に就て話された。

丁度、この日フランスの新刊が到着したとのことで、まだ目を通してはいないけれどもと断りながら、数種の液の組成条件を紹介せられた。この書は1946年のものである。

又、ニューヨークから来ているペーハーの新案測定紙の実験を見せていただいたが相当高価ながら実によく出来ていると感じた。

時が流れる。——博士は未だ宜しいよとおっしゃったが、こちらもモットお尋ねしたいことはあるが、今日を機縁として、十日会のため隨時資料を見せて下さるよう快諾されたのでヂッキンの論文二篇を拝借して研究室を去った。

それから隣りの教室で一、二協議を遂げ、散会した。



25. 2. 10

米国技術の紹介とクラブ建設を協議

2月10日午後5時半から東京組合事務所で例会を開いたが出席者は

鵜飼、福井、小篠勇、尾崎、海野、能勢、
武田、岡崎、高橋、小島、山中、八幡、
小篠一、越智、小川、長崎、大沢、坂下、
中村、羽成、梅沢、小林、木下、坂手、宮沢、
の諸氏。

先づ雑談中に手弁当を片付けて、福井幹事の司会で小篠一郎氏から兼て田島博士より借覧中のマンニング技師長ヂッキン氏の鍍金液浄化法の翻訳紹介があった。有益なのでみんなノートに汗を流した。次で鵜飼氏からクロム作業用ライファン紹介があり、次に坂手氏から大森工業協同組合の運営に関する示唆に富んだ説明があった。福井・中村両幹事がクラブ建設設計画の発表と共に実行の協議に入り各自意見を交換した結果実行委員を挙げて幹事に協力し急速に促進する事となり散会した。

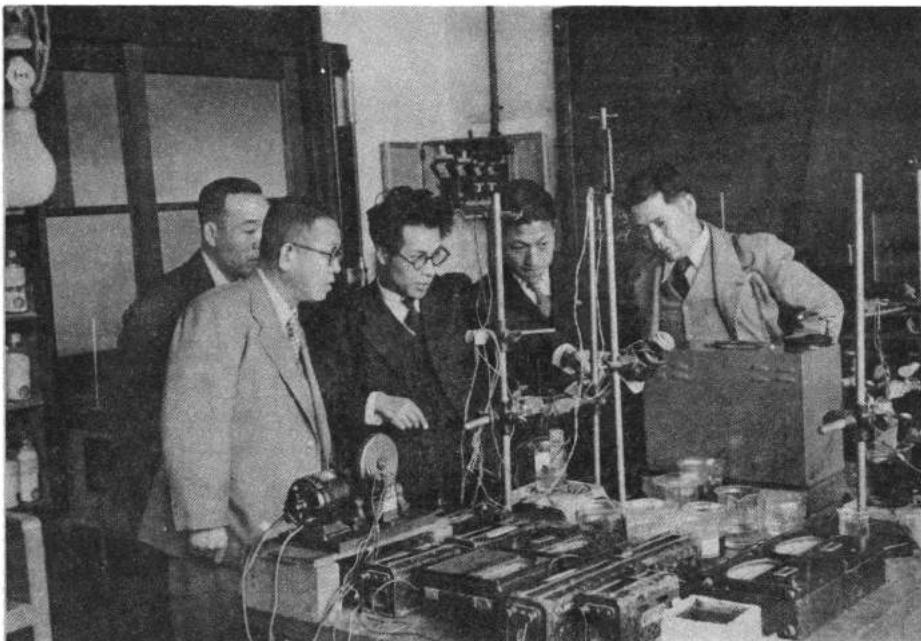


25. 2月

クラブ建設急速に実現せんとす

目 標

それは新春10日の新年会で幹事中村敏一氏の今後における運営についての熱烈な発言を



原案として活発な意見交換が行われ、研究設備を何らかの形で実現しようとの結論に到達した。その後、問題は急速に展開して、単なる研究に膠着せず、もっともっと新鮮で能動的な、例えばクラブ式の施設を要求するところまで進行した。

幹事福井通祐氏の言葉を借りていいうならば… 研究室は研究の為の研究室でなく、工場と直結した研究室として、外国の新しい技術の停留所とする。調査部は外国の文献を翻訳して、遅れた日本工業を一日も早く世界水準にもって行く、又出来れば外国業界との文通に依る交流をする。一作業に疲れ体をクラブに運び眼下に街の灯を眺めつつコップ片手に仕事の話をする内にはすてきな新工夫がビールの泡の中から飛び出して来そうである。

というのである。

準備

幹事両氏の推進で1月17日、同20日、2月1日と矢継ぎ早に3回の準備協議を行った結果、早速敷地が見つかったので2月5日現地を検分し、2月10日の例会で審議、委員を挙げて実行に乗出した。

資金は断じて無理をせず、会員の自発的な任意拠出とするが、会員の自力を以て仕上げる目標で急速に完成する計画である。

勿論理想はあるが、議事堂ばかりつくって見ても内容がお粗末では意味がない。——たとえ物たりなくても、立派に本来の機能を發揮すれば又第二段の拡張補強を加える時が必ず来ると、会員みんなが堅く信じている。

希望

鶴翁義一氏はいう。既存の研究所が幾つもあるから、それらを適時利用するとして、われらは独自の最も有用な試験を行い、直接的に実効を望む。大沢直太郎氏はいう。仮に大阪の同志が上京したとして、クラブに飛込めば直ぐ総ての連絡がつくという程の働きがしたい。

小篠義男氏はいう。全国各地の研究団体と同調して、技術の交流を盛んにする事も要求される。

坂手勇氏はいう。クラブの維持に適當な事業を行う事が必要であるが、それには現在の組織を強化する途を考えねばならぬ。

その他の諸氏又若き希望を抱いている。

経営

十日会のクラブは唯一のホールしか無くてよい。その一隅に試験台をおき、壁際に棚を設ける。棚には内外古今の文献記録を整理保存する。これを後年メキシ文庫に発展させる。棚と並んだ陳列ケースには会員の製作加工した技術見本を陳列する。これがやがてメ

ッキ展覧会に伸びる。その外には円卓と椅子やベンチが雑然としている。

このホールにいつでも誰かが討論をしている。自由に試験したり読書する者もある。あるいは庭に椅子を持出して茶話に興する者もある。——時には会員が家族づれでやってきてコーヒーをのんでいる事もある。

毎月10日例によって弁当持参の例会が開かれる。時間厳行で、併し定席はなく、円卓を囲って集り、卒直に談論する。何の相談も多数決の如き古びた形式でなく全員一致で行く。でなければやらぬ。

講師の説明には、落書きでもするように壁へかいていただく。そのため壁はアルマイド板を張ってある。黒板なんか旧式である。

友有り、遠方より来れば、いつとなく会員が集まって来て、縦談横談、自然にメッキ大会になる——こうして大阪京都の同志、アメリカの同志を迎える。幸い自動車は何台でも庭前に横付になる。

実 現

これは青春の夢なのか。
併しながら夢なき者は将来性の無い者である。
十日会の夢はもう実現しつつある。

クロムのガラ鍍金

機械試験所 岸 松平

1. 前がき

電気メッキを施す際、液内の被鍍金物を支持するのに、引かけによって一つ一つかけ吊す方法と、籠または樽状の器物に多量に入れて回転しながら鍍金を行なう方法がある。

前者は、昔はすべてこの方法によつたものであるが、後者が進歩するに及んで、比較的形状の大きなものおよび後者の方法が困難な鍍金の殆んどに用いられている。後者は主として小物の鍍金に用いられるが、この方法は人手を余り必要とせずして且つ短時間に多量の生産が可能で、極めて合理的である。すでにニッケル、銅、亜鉛等はこの方法を採用して効果をあげており、最近はかなり形状の大きなものにまで用いられるようになった。

然るにクロムに於ては十数年前ドイツのラングバイン社でこの装置が考案され、我が国にも売り込まれているが、その殆んどが種々の障害により使用されていない状態である。ドイツの最近の状況は不明であるが、米国で

は G. Dalpernell らによって3,4年前に研究され、すでに工業化されているものの如くである。

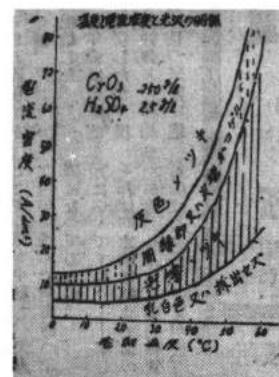
クロムは銅、ニッケルと並び需要は極めて多い関係上、我が国に於いても早急に解決しなければならない問題であるが、クロムは銅、ニッケル、亜鉛などと異り、ガラ鍍金の困難な理由が數々上げられる。その一例は

- a. 均一電着性が極めて悪い。
 - b. 大電流を要すること。
 - c. 多量を一時に鍍金するので、被鍍金物に断続通電することになり、析出層が灰色又は乳白色になり易い。
 - d. クロム酸に耐える絶縁材料に乏しい。
- 等であるが、これらの問題を解決することによってクロムのガラ鍍金は可能となる。筆者は自転車業界の要望によりこの研究に着手したのであるが、実験的に成果を得たので、更に工業化せしむべく準備を進めている。

2. 鍍金液

クロムのガラ鍍金を実施する上に最も重要な要素は鍍金液で、これによって前記の a 及び c、場合によっては b も解決できるわけである。よってまず従来の鍍金液について検討した。この結果は添加物として種々なる弗化物を用いたとき、室温より 50~60°C 附近までにおいて光沢メッキが得られ、低温度には電流密度の範囲が狭く、温度の上昇に伴つて広くなる。

次に均一電着性を調べると硫酸を添加した液は着きまわりがよく、電流密度が上昇するとそれが著しい。



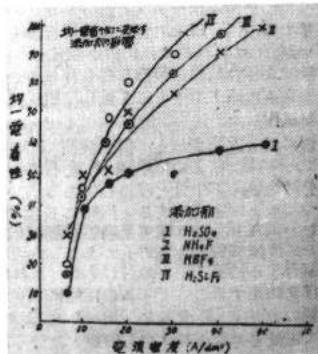
均一電着性の実験は直径 10mm、長さ 10mm のリングの一方をふさいでメッキを施し、内面に鍍金された深さを調べ、全くは入らない場

合は電流能率を 0 とし、全面に電着したものと 100%とした。

したがって、この数字は比較値である。この実験で硫酸より良好な添加剤としては硅弗酸、硼弗酸およびこれらとクロムの複塩、弗化アンモンなどであった。又重クロム酸ソーダを主体とし、これにクロム酸および弗化物を配食した所謂中性液も良好のようである。これらのうち何れが最も適当であるかどうかは現在のところ判つきり申し上げられない。

3. 断続通電による電着物の外観

ガラ鍍金は一時に多量の鍍金を施すため被鍍金物は器物の中で互に重なり合っており、したがって上層部にある時のみ電着し、下敷になった部分は電着されない。鍍金中絶えず被鍍金物はこの状態を繰返されており、電着層に悪い影響を与えることがある。無光沢になり易いのもこの影響によることが多い。無光沢鍍金もタンブラーで艶出しすればよいのであるが、出来れば艶出し作業をしなくとも光沢あるものが得られれば、それだけ工数が省けて好都合である。



従来の液を用いて断続通電試験を行なうと通電時間および遮断時間が共に短い場合（両者とも 30 秒以内）は外観は通電回数にはあまり影響なく、液温に影響する。即ち 20°C 附近では比較的光沢良好で、30°C あるいはそれ以上になると灰色または乳白色となり、更に温度が上昇して 55~60°C 附近になると再び光沢面が得られる。勿論各温度毎に電流密度の調整により光沢鍍金範囲で実施した場合である。要するに従来の液による場合は室温または高溫度以外は一回以上電流を遮断すると光沢ある電着層は得がたい。ただ、最終の通電時間が 5 分またはそれ以上の長時間に亘ると、何

れの温度にても光沢面が得られるが、かような長い鍍金時間はガラ鍍金には殆んど問題外である。

弗化物を添加した液について上記の如き試験を行なった結果は極めて良好で、遮断通電の回数に抱らず殆んど無光沢面となることはない。したがって、遮断的通電を繰返すクロムのガラ鍍金には硫酸酸よりも弗化物を添加剤に用いた方がよいことがわかる。

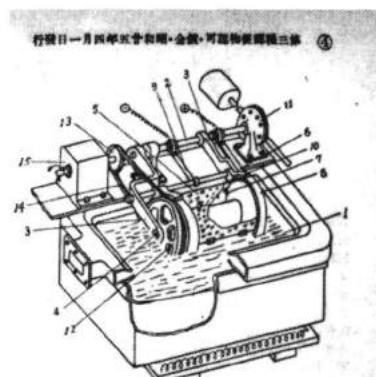
従来銅、ニッケル、亜鉛などのガラ鍍金装置としては

- a. 金アミつけ
- b. 傾斜式
- c. 模型円筒式

等があり、それぞれ長短を有しているが、クロムには次の条件を具備する必要がある。

- イ. 大電流を通じ得ること。
- ロ. 両極間に電流を遮るものなきこと。
- ハ. 阳極面積ができる限り大きいこと。
- ニ. 鍍金液に浸漬する部分がクロム酸に耐へること。

等である。以上の条件に総て合致するものは殆んどないが、c は比較的それに近い型式でかつ構造の点でも、比較的大型の装置が製作し得られるのでこの型式を採用しクロムに適するよう工夫して図の如き小型の装置を試作した。



図について説明すると、鍍金液槽(1)の斜上の軸(2)からアーム(3)によって中軸(4)を有する多孔性ドラム(5)を鍍金液に下半分を浸漬している。中軸は絶縁板によってドラムを支持すると同時にドラム内では鉛板で被覆レバー A(6)より電流を通じて陽極を兼ねている。ドラムは鉄板製で無数の

孔があり、内面には過剰の電流を制御する治具（7）が取付けられ、これによって鍍金のこげを防止する。ドラムの両端にクロム鍍金を施した銅製のバンド（8）をはめ、バーB（9）より刷子（10）によって電流を導き、ドラム自ら陰極となっている。アームおよびバーABは軸（2）に絶縁固定し、軸端部のドラム浸漬深度調節器（11）によってドラムの上げ下げを自由にできるようになっている。ギヤーA（12）は変速機（15）に直結するギヤーB（13）よりチェン（14）によってドラムを回転し速度は適宜に変えられるものである。

この装置を使用して種々実験の結果、回転速度は極めて低速の場合が良好で、温度は室温よりある程度高温に至るまで、電流密度の調整によって鍍金は可能であるが、光沢範囲その他の関係上温度は高い方が結果は良好である。

5. 結び

以上の如く鍍金液は最初に列挙したガラ鍍金の困難が諸点について実験の結果解決または一步前進し、すでに実験室の域を脱しつつある。従来我が国において幾多の人々によってこの方法が試みられたが、遂に現在まで実用化の域に達しなかった理由は恐らく無水クロム酸十硫酸の液に依存したためであろう。

筆者は最近の海外における各種鍍金液に弗化物を利用する傾向があるに关心をもち、遅ればせ乍ら試みつつあったが、いち早くこれを用いて低温クロム鍍金法に成功された小篠氏には敬服の外はない。

25. 3. 10

東芝工場を見学

十日会は3月10日正午川崎駅で集合、宮田製作所宮島岡崎両氏の紹介で東芝柳町工場を訪問し鍍金部菊池氏の案内で詳細な作業見学を遂げた。現在作業は小物であるが、最近反射灯の中間工程として電解研磨を実施すべく既に6尺タンクが3本入っていた。電源はベルトローであった。序に金属部に廻リニッケル・アノードの製作を見て辞去。打揃ってお茶の水に帰りクラブ敷地を一覧した後東京組合事務所で例会を開いた。先づ福井幹事の挨拶、次で服部先生の分解電圧に関する実験成績に関する講演があつて質疑応答に時を移し

たが、その後でクラブ建設に就て報告と協議があり、福井幹事の任期満了によって中村幹事が引継ぎ、新幹事は長崎小三郎氏に決定して散会した。



25. 4. 28

十日会の臨時会

メッキ規格の研究

十日会は4月28日午後6時東京組合事務所で臨時会を開いた。出席者は

坂手、渡辺、青木、中村、福井、小篠義、清水、大沢、後藤、海野、能勢、長崎、小篠一、木下、八幡、西片、小林、長谷川の諸氏。長崎氏の司会で問題のメッキ規格を協議し

(真鍮) 小島、清水、後藤
(クロム) 梅沢、渡辺
(鉄) 小篠、小篠義、
(ガラ) 大沢、福井の諸氏
を委員として研究する事に決した。次で会則改正に就て協議した後会館建築に関する報告があつて散会。

25. 5. 10

十日会の5月例会

5月の例会は10日午後7時開会。出席者は坂手、小篠義、宮島、尾崎、清水、梅沢、岡崎、羽成、小島、大沢、福井、八幡、島、山中、後藤、高橋、能勢、中村、長谷川、小林、

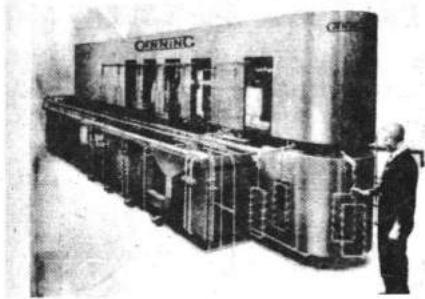
の諸氏。中村氏の司会で先づメッキ規格に就て委員会案を後藤氏から報告し逐条審議の結果対案を決定。次に会館は5月20日竣工するので開館式に関する協議を遂げ6月3日挙行に決して夜10時散会した。

25. 5. 22

石田先生を迎えて光沢Ni 鎌金のタ

午後5時未完成の東京鎌金会館に石田武男先生を迎えて光沢ニッケル鎌金の講演を聞いた。先生は会員の歓迎に応じて、光沢ニッケル鎌金の貴い研究を詳細に述べられた後、会員の質問に対して解明された。

「カシコング製作の電気自動光沢鎌金装置」



25. 5. 22

石田武男先生の御講演を聴いて

小篠義男

◎脱脂

大阪に於ては研磨前の鉱物性の油脂除去にトリクレンを使い初めて良い結果をあげて居る。殊に佐藤仙十郎工業所では最も効果的にこれを使っている。

電解洗滌では従来5至10 A/dm²の電流密度で行って居たが、現在では30至40 A/dm²電圧10Vで行って居る。

銅真鍮の素地と鉄素地と同一煮沸液で油脂洗滌を行って居るが、これがビリの原因となって居る。これは是非別々の煮沸液を使用するよう勧めている。

| 鉄 | 銅真中 |
|-------------|---------|
| 苛性ソーダ 50g/l | 5~15g/l |
| 炭酸ソーダ 50 " | 40 " |
| 硅酸ソーダ 7 " | 5~10 " |

メタルクリーナーも大分使用されるようになつたが、これには価格にのみとらわれて相当不良品が見える。その簡単な検査には、メタルクリーナー溶液を試験管に取り稀硫酸を添加するとゼラチン様の膜を生成する物は安心して使ってよい。

脱脂後の品物の貯蔵には青化ソーダが宜しく濃度は5%が適當である。

酸洗いには多く硫酸の5%液が使用されて

いる。

刷毛洗いは東京では多く磨砂を使用して居るが、大阪では沈コー性炭酸カルシウムが使われて居る。これは底がつかないのでよい。

◎ニッケル液

銅真鍮素地にニッケル鎌金を薄くつけてクロム鎌金を行うとビリになりやすい。この原因はクロム鎌金膜の内力によるものと考えられる。これを防ぐために次の如き組成の液を使用するとよいと言う事が判った。

電流密度0.5A/dm²では

| | |
|-------------|-------|
| 硫酸ニッケルアンモニア | 75g/l |
| 塩化アンモニア | 15 " |
| 硼酸 | 15 " |
| PH | 6~6.2 |

電流密度0.7~1.0A/dm²では

| | |
|-------------|--------|
| 硫酸ニッケル | 100g/l |
| 硫酸ニッケルアンモニア | 55 " |
| 塩化アンモニア | 15 " |
| 硼酸 | 15 " |
| PH | 6~6.2 |

ニッケル液中の銅を除くに十日会の小篠氏は陰極に引掛の古いのを多く吊り電気を流し、少時にして断ちそのまま朝まで置くとその引掛に銅が電着すると発表されたが、私は電気を通さず引掛の一側に1本の銅線を吊りて除銅した。小篠氏の方法も私の方法も共に局部電池を形成するものと考えられる。ニッケル液中の不純物の影きようは、0.03g/l迄は障害はない。鉄及び銅は多く陽極中の炭素は最も害がある。鉄を除去するには過酸化水素を以て酸化して除くがこれを用いるに当つて特に注意を要する。槽の液量の約10万分の1の30%過酸化水素を2度位に分けて20lの液中に落し、容器中でよく攪拌して終業後液槽に投ずるがよい。不純物の定量は簡易なろ紙法

◎ 日本化学会新潟大会開催・会場にて開催者より

高速度光澤ニッケル鎌金の研究

金属表面技術研究所 村上透

緒論

ニッケル液に於いて成るの表面には常に高濃度水素ガスを含む。厚さ0.5ミクロンの電解膜が、陽極に引きつけられる場合(イ)の性質があり、通常その一端は1ミクロンの物を尾尾(イ)がついてゐる。之に最ももむじしては酸化膜(ア)、アノード膜(イ)等の物である。又陽極の表面には、電解液に溶けたもので、アノードと陽極間で酸化膜(ア)を析出して酸化された水式のものを生成である。

CH₃OH + CH₃—OH → CH₃CO + H₂O (6)

CH₃CO + CH₃—OH → CH₃CO₂H + H₂O (7)

以上は、その他の酸化膜の生成も同様である。

これらの性質は、陽極の性質と酸化膜の性質とに依存する。又陽極の性質と酸化膜の性質とは、阳極の性質と酸化膜の性質とに依存する。

これらは、陽極の性質と酸化膜の性質とに依存する。

をメタルフェース12月号に発表した。これによるとその都度試験所や研究所や馳せつける必要がない。

◎カドミウム

次にバーレル即ちガラ鍍金には光沢剤としてカドミウムを使用するが、その量は0.010～0.03対でそれ以上含有すると均一電着性を害する。その上にクロム鍍金を行う場合は0.01を限度とし、それでも永くおくとつき難くなる。このカドミウムの液中の量を知るにはろ紙による定量が便利である。その方法は鍍金液10ccを試験管に取り青化ソーダを過剰に加え更に硫化ソーダを加えてろ過、黄色沈澱としてその量を標準のものと対照比較して知るのである。これと同じ方法でクロム液中の硫酸の量を知る事が出来る。即ち鍍金液10ccを取りこれに10ccの塩酸と10ccのアルコールを加えて6価のクロームを3価のクロムに還元したものと50ccに稀釀しそれを10cc取り10%の塩化バリウム水溶液を加えて5分間放置してからろ過して硫酸バリウムの沈澱として知るのである。この沈澱は白色であるからこの場合は黒色のろ紙を使用する。黒色ろ紙は只今大阪三菱で試作して居る。

◎ 光沢ニッケル

次に光沢ニッケルは、光沢剤を添加する鍍金液には大体次の2つの型がある。

第1普通の場合

| | |
|---------|--------|
| 硫酸ニッケル | 150g/l |
| 硼酸 | 15 " |
| 塩化アンモニア | 15 " |

第2ワット法

| | |
|--------|--------|
| 硫酸ニッケル | 240g/l |
| 塩化ニッケル | 45 " |
| 硼酸 | 30 " |

光沢ニッケルの特質は研磨が不要で従って研磨の磨耗がない。受動態にならぬ。クロム鍍金が容易である。注意事項としては油脂の除去に特別の注意を要する。

素地研磨には一段と精巧を要する。刷毛洗滌の疵がそのまま現われる。陽極は純でなければならない。鉄の除去に過酸化水素が使用できない。均一電着性に注意を要する。槽は鉛アスハルトが使えない。ゴム引がよい。液中の銅は0.03g/l 鉄は0.05g/lで光沢を失い、亜鉛は0.002g/lの微量で光沢を失う。

以上のような点を総合すると現下の日本で

これを望む事は出来ない。これを試みるとすれば101位の槽で行うのが宜しい。

光沢剤は2型ナフタリンスルホンサンソーダを1lに2～10g 添加する。30分づけても疊らない。これは普通液の時でワット法では別の型を使う。

◎銅鍍金

最近京都大学の河根助教授が硼沸化銅に硼沸酸及びゼラチンを添加する迅速鍍金を行って居る。15～30A/dm²の電流密度で行う事が出来る。その目的は電鋳で少々脆いと云われて居る。

青化銅は大阪のナショナル鍍金が厚附を行っている

| その組成は | g/l |
|----------|------|
| 青化銅 | 100 |
| 青化ソーダ | 140 |
| フリー青化ソーダ | 5～10 |
| 苛性ソーダ | 20 |

苛性ソーダを添加したものはピットが少い。この液はピットがあるのが欠点である。その除去には高級アルコールがよいようである。

温度は70～75度、電流密度2A/dm²、夜中でも30度より下らぬように保温する。これがこの液操作のヤマである。10分間づければ羽布研磨が出来る。大阪では青化銅→酸性銅→ニッケル→クロムの工程に変化しつつある。

◎クロム鍍金

クロム酸200～250に硫酸は大体200対1から100対1で、青味を望むもの100対1.3である。鍍金後黄色の皮膜が残留するのは硫酸の少い証拠である。不純物としては、鉄、銅、亜鉛、有機物、ゴム、セルロイド等である。鉄のアノードを使う向がまだある。これは最も有害であると注意して居るが、使用が容易なのになかなか改められない。

鉄の槽は大して害にならない。鉛アノードは終業後必ず液より取出して軽く刷毛で洗っておく。鉛アノードは厚さ5mm巾10mm長さ450mm位が宣しい。それ以上の長さになると抵抗が多くなるから真鉄又は銅を入れて使うのが宜しい。

鉄及び3価のクロムが多くなると均一電着性を害するから素焼筒を使用して時々除くとよい。

硬度がよく問題になるが、これは厚さの問題である。



東京鍍金会館の完成

より善き将来への勇敢な飛躍！——実行第一の十日会がクラブ建設を立案したのは、1月中頃であるが、あく迄も自力遂行の方針を堅持して会員の醵金50万円に員外有志の寄附を合せて70万円、4月6日の地鎮祭に次で同16日早くも上棟の運びとなり、5月末洋風総二階建の瀟洒たる会館の竣工を見たので、開館に関する諸般準備のため5月24日夜委員会を開館で開き小篠、福井、清水、坂手、後藤、中村、小島、羽成、山中、八幡、高橋の諸氏参集、いよいよ6月3日午後6時開館式挙行の細目を決定、更に雑件を協議して夜9時半散会したが、クラブの名称は東京鍍金会館とする事、この機に規約を改正して目標に邁進する事になり、十日会の卒直な実力解決がものをいうのはもう目の前に迫った。

大阪鍍友会から記念品

十日会の東京鍍金会館竣工につき大阪鍍友会から祝辞に添え記念品として大時計を寄贈せられた。（現在は四国電材の中井氏所有）

6月3日に開く東京鍍金会館



昭和二年六月一日

三法聖主前、村山加賀、福井、開、法界
仰、領、三、寺、法、薩、林、石、縁、三、宝、香、華、金、
微、譲、跡、參、大、乘、財、法、蓮、華、經、唱、春
事、應、所、功、蓮、以、普、一、切、施、佛
加、己、傳、言、上
我等同志相、寄、相、応、鍍、金、会、館、設
立、鍍、金、會、社、向、上、以、テ、全、國、振、南
江、鑑、一、給、大、乘、法、法、界、圓、滿、大、
藏、圓、圓、發、廣、ト、モ、テ、事、業、田、開、運、業
隆、祥、ノ、屋、盤、確、立、祈、慶
萬、方、三、是、一、印、諸、供、寺、尊、菩、薩、度、利、曉、平
寶、一、葉、供、法、蓮、華、經

開幕大典十日会
会員及御用公司
の祝賀工事の告
葉、会報在業
祝告、方
メソヂの天職者様、おめで
ト各、大、次、福、井、小、源、水、通、大、通、源、一
秋、秋、一位、野、新、月、

25. 6 3

東京鍍金会館の開館式

25. 7. 10

援助の感謝を兼ねて

十日会7月例会

連日30°を越す暑さ、更にお盆前の書き入れの忙しさ、ではあるが、7月10日の十日会の盛んな例会！鍍金会館が本格的に動き出そうとして、援助を願った有志者への感謝に、清素なお茶の会を兼ねたのであるが、参会されたのは

在間、上村商店上村正、光陽社小山巍、近藤タンク近藤登、四国電機中井才助、轟製作所齊藤佐太郎、宇都宮加治栄太郎の七氏

会員側の出席は小篠氏を先登として梅沢、後藤の両幹事、続いて海野、福井、坂手、岡崎、小川の諸氏が参集して準備をする。大沢、小島の両氏は自転車で枝豆御持参。

次で高橋、中村、坂下、能勢、仁木、尾崎、羽成、山中の諸氏が参集。その後に青木氏と

告文

わが十日會が会館建設を企画致しましたのは新春勿々であります。が結果として急速実現する事に決定しました結果一月廿日建設着工を設けて準備に着手致しました。

先づ敷地は交通の便と環境の佳とを考慮しましたところ早々二月に予

湯島新花町十八番地で坪を售

月十六日上棟式を行ひまして本來

工種機械順調に進み為に開館式を舉行する事とすました

會館は建坪延セ四坪餘であります

予算模未だ大ざりませんが自由

更に新た希望と勇氣と年以て會館を中心とし業界向うたるの過進致したいと存じます

昭和七年六月三日

福井通商

丁合殿

鎌友会

了、諸氏、多く
仰祝詞、多く
多幸です

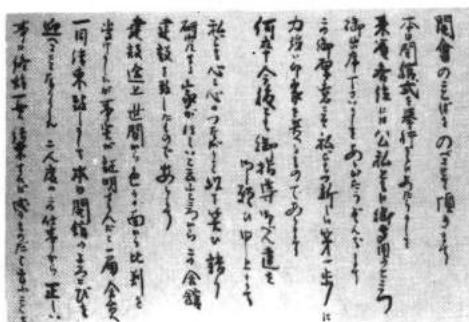
忠告

新築生業天地
滿月は十八日
新築落成式報
捷い運びあり
たまし

十日會は既算以來

京於被主祭界と

駿競を務め役横



井上氏が駆けつけて総勢20名。

7時20分後藤幹事の挨拶によって開会、先づ小篠氏が最近の関西旅行における見聞雑感を語ること30分、次に服部先生の「電気化学の基礎知識」第一講があった後福井氏から会館建築決算報告を行って一先づ例会を閉じ宴に移った。

劈頭在間氏が若き世代のための祝福の言葉を贈って乾杯し、次で会員の自己紹介があつて盛んにビールの満を引いたが、ここで高浜二郎氏が兼て投票中の委員選挙の結果を報告し「鍍金」の懸賞論文に入選した井上喜夫氏



に賞状及び賞金を贈呈し服部先生の講座に会員工場工具の参加を勧奨（坂手氏提案）並に先生にプリントを要請しそれから又在間氏の時事所感、服部先生の所感があつて満場感激に沸き、夏時間の早くも10時近くなつて歓談縦横の裡に終宴した。

服部講座いよいよ開始

十日會における服部久一郎先生の講座は鍍金会館運営の第一部として7月1日から相談日を開始する計画であったのを特に繰下げて開講した即ち今後は毎月第二回最も平易に電

気化学の基礎知識を連続講演、終つて自由に設備技術その他メキに関する一切の相談を行う。この服部講座は会員ばかりでなく会員工場の従業員は自由に参加し得られるが更に会員の紹介で琦子の余裕がある限りは一般に公開する方針である。



25・8・10

田島博士と友野先生の講演を聞く

8月10日会の十日会例会は暑熱を洗い流す雨であつても当惑したが、幸い雨はあがつた。服部先生の小篠氏と京都の友野さんは規格委員会から引続き居残つて時間を待たれる。そこへ新顔の加藤良智氏に次で安達保氏が来る。やがて5時近く田島先生がお約束通りに見え、5時きつかりに坂手氏が先登し、続いてタンクの近藤さんが来る。一足遅い宮田製作所の岡崎氏が大多喜工場の三人を同伴して来る。続いて長谷川氏——ここで暫くアトが切れて早くも6時になつた。遂に時間効行、小篠氏が幹事代理で開会の挨拶を述べ田島先生から海外の新消息に併せて光沢剤、イオン交換に関する講演を行つた。この間に尾崎、福井、木下、原、清水、梅沢、高橋、福地、井上、青木の諸氏が揃つて賑はつた。7時過に友野さんの講演が初まつたが、その頃宇都宮から孤塚加治両氏が駆けつける。やがてまた熊勢、山中、小島、大沢、中村、八幡の諸氏が参集して満員に近い盛観。

講演が終ると梅沢氏の司会で例会に入り高浜二郎氏から運営委員選挙報告、服部講座を開く講習会とする事、三菱鉱業研究所見学、メリカ文庫の設置と開放、会員名簿の作成等を決定した後歓談に時を移し9時過に及んで散会した。

会館運営委員は無記名投票による選挙の結果 小篠、大沢、福井、小島、清水、梅沢、坂手、中村、後藤、高橋、小篠一郎、八幡の諸氏が集まつて当選、運営部は全員、涉外

部は小篠、八幡、大沢の三氏、会計部は坂手、小島の両氏、編集部は小篠、梅沢、小篠一の三氏が互選担当することになった。

25・8・16

太平鉱業KKを見学

8月16日午前10時与野駅に集合、太平鉱業KK鉱業研究所を見学したが、先づ応接室で西尾総務部長、鎌田第二課長の説明を聞いた後、クロム研究室お初め最新の迅速分析室鉱物標本室等を見てまわつた。鉱石標本は全国から集めた見事なもので、標本室の広さはおよそ400坪である。この標本は過日米国から3千万円で譲り受けたいとの希望があつたけれども絶対維持するとの話で研究所の勇気に感激した。



左より、小篠、加藤、院長、下林、師、導の後藤、木下、坂上、長谷川、中村、井上、青木、高橋、福地、井上、青木の諸氏

それから、クロム酸試作の中間工場や硫酸ニッケル工場を見た後目下進行中の製造工場に案内されたが、工費約3千万円、9月中に完成して10月から本格的に販売するという。フェロクロムを粉碎して硫酸の水溶液としたものを特許法に電解し全然硫酸根のない且つ鉄分銅分の零という理想的な無水クロム酸ができるのだという。それから顔料工場その他を見学した応接室に帰り、浅田副長の挨拶があつた後意見の交換を行い午后3時辞去した。

このとき持ち帰つた原鉱並に製品の見本は東京鍍金会館に陳列してあつた。

25・9・10

岸先生の講演を主題に

9月例会は10日午後6時から東京鍍金会館で開いた。定刻にずっと早く井上氏が先登し次で矢張り埼玉の吉岡氏が着、後藤幹事と会談する内に菊池氏、小島氏、尾崎氏、安達

氏と続々出席する。丁度、定刻前に岸先生と小篠氏、田原氏、岡崎氏が揃つて段々賑かになつた。ちょっと時間を待つ程に渡辺氏、小篠氏、大沢氏、福井氏、坂下氏、が駆けつけた。さて6時半後藤幹事の挨拶で開会、岸先生から全国鍍金コンクールの審査に就て時余に及ぶ詳密な講評を聴きとても有益であった。その講演中に木下、能勢、小川、山中、青木、中村、小林の諸氏が揃つたが、岸先生への質問と解答を終ると、小篠氏がコロンビアの丸安氏に代つて最近完了した高速度光沢銅鍍金の実験報告をした。その後は従来の行き方を改めて

▲太平鉱業の無水クロム酸製造実況見学
井上氏

▲大阪赤川氏の視察及び歓迎のお茶の会
大沢氏

▲田島博士所有の新版プラム氏の抜粋
小篠氏

という風な新しい試みの報告があり、それぞれ会員の質問を交えて愉快な時間になった。終って高浜氏から講習会申込みの件、アルカリPH試験紙領布の件、バッチ出来の件、三K印マチレス試用の件を提案して順次決定し、9時半閉会した。



25・9・18

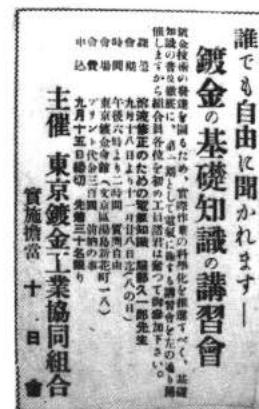
鍍金基礎知識講習

東京組合主催、十日会担当

技術向上のため——東京鍍金基礎知識講習会が東京鍍金会館で十日会の実施担当に依つて9月18日開講された。午後5時前福井、小篠、坂手、梅沢、大沢の諸氏がつめかけて準備を整へる内に続々受講者が参集する。工業技術の吉田技官、組合の吉川常務理事が見える。午後6時半梅沢幹事の司会で開講式を行

い先づ十日会側小篠氏が歓迎の辞を述べ次で組合側吉川理事の懇切な挨拶があつた後十日

会高浜二郎氏が受講に関する諸般の注意と激励の言葉を呈し終つて受講者の自己紹介を行い式を了した。講師服部先生の電気知識を解説して満場恍然たる内にたる内に8時終了、自由質問があつて第一日を閉じた。



講習会は鍍金液に関する電気知識を主題とするもので、9月28日夜第二講を引続き10月8日、18日、28日、11月8日、18日、28日の連続開催で完結する。

店頭小話

■ 皆様によろこんで貰いたい 根本氏

この節、誰だつてNiはほしいにきまつている。だから、大口のお客があつてもお断りする。現金でまとめて売つてしまへばらくである。けれども、商売のうまみはない。人によると、あの店は先高見越しで売惜しみをするというかも知れん。併し長年の商売をしてきたのだから、馴染のお客のどなたにも間に合せることが肝要だと思う。だから、ポンと買ってポンと売るブローカーの真似はできん。ことによると元価を切るやうになる。それでもよい。お客様の皆さんに喜んでもらえれば商売のしがいがあると思う。（根本鍍金薬品）

■ 1500円でも使いこなす 伊藤氏

統制時代は違反でやかましい代りに品物があつた。今日は品物がない。1500円の相場はすごいようだが、屑でも750円、之をフキ直せば目減り2割に加工料や運賃を、若干の利益



を合して1400円近くなる。それぢや使いきれんという向が10人に2,3人はあるけれど、1500人のNiでも立派に儲けている向がある。そうならなければならん。高い高いとこぼしているうちには圧されてしまう。商人の側からいへば、高くて安くても品物がないんだから困る。

(伊藤商店)

25・10・10

光沢銅鍍金と三元鍍金

10月10日午後6時半から東京鍍金会館で例会を開いた、出席者は、

加治、小篠、吉岡、坂手、小川、宮沢
丸安、小島、渡辺、加藤、後藤、岡崎
狐塚、大沢、清水、福地、尾崎、能勢
田原、青木、高橋、長谷川、木下、井上、
梅沢、八幡、中村、小林、山中、羽成の諸氏で後藤氏の司会で先ず迅速光沢銅鍍金の実際化に就て宮沢、丸安両氏（コロンビアレコード）の報告があり、次で小篠氏から石田先生講演紹介の後三元合金鍍金の実験報告があつた。それより議事に移り幹事交代の件は後藤氏が退任の挨拶と共に後任に梅沢、能勢両氏を推薦し、満場拍手を以て承認した。

25・11・10

3時間に亘る講演4題

11月例会は10日東京鍍金会館で開かれた。出席者は

坂手、小篠、吉岡、河田、梅沢、加藤、
大沢、加治、坂下、福地、尾崎、岡崎、
後藤、木下、福井、小林、小島、井上、
青木、仁木、能勢、成毛、海野、田原、



株式会社
鶴見研材工業所
電話後草三七五六五

小林、八幡、狐塚、山中、中村の諸氏

服部先生及び高見沢栄寿、横井玉治、藤野武彦の3氏を迎へ梅沢幹事の司会で午後6時半開会

最近のNi事情

改良キリンス

青化銅メッキ

Ni難対策鍍金

高見沢氏

横井氏

藤野氏

小篠氏

の講演があり、休憩なしで3時間、各講演ごとに質問と解説をはさみつ、満場緊張し切つたが、終つて例会議事となり梅沢幹事から新会員河田康信、成毛毅の両氏を紹介、両氏の挨拶があつた後講演会修了式、新年会準備、其の他諸件を協議して散会した。

ニッケル消費減少対策 村上透

ニッケル資材の輸入減少のやむなき今日、如何にしてその不足分を補うか。メッキの立場から次のように考えられると思うのである。即ちニッケルメッキ技術の改良による方法、代用メッキによる方法およびメッキ以外の方法が考えられる。

① 光沢ニッケルメッキの採用により、羽布仕上げによるニッケル膜の減ずることを無くし、それだけメッキ時間を短縮しニッケルの量を少なくする。

② ニッケル地銅メッキを厚くして、ニッケ

ルメッキを薄くし、防食的には同じ効果をあげるやうにする。

③ 前項の実行のためにはロッショル塩または酸性銅の高速光沢メッキの研究を行なうこと。

④ ニッケルメッキ膜の厚さ減少によるクロムメッキの剥れは、クロムメッキ液に弗化アンモン、硅弗化クロム、硼弗化クロムの添加によるクロムメッキの温度を低める事によつて防止される。



⑤ クロムメッキを施さないニッケルメッキ仕上げで終る製品によつては、ニッケルの厚さを減じその代り透明合成樹脂塗料を塗る。

⑥ ニッケルメッキ液の濾過を十分に行ないニッケルメッキの厚さを減じても、耐食性のメッキを得られるやうになる。

⑦ ニッケルメッキ液の済過残滓はニッケル分を10%余含むものであるから、これを回収してニッケルの回収をはかること。

⑧ ニッケル極板の屑も保存してニッケルを回収すること。

⑨ 亜鉛合金メッキによって白色メッキを行ないその上に塗装を行なうこと。

⑩ 全くニッケルメッキを廃して他の表面処理方法を行なうこと。

⑪ アルミ地金を使用し陽極処理で防食すること。

以上の如く品物によつては、地金から変更するか、又ニッケルメッキを行なぬ事も一応考慮すべきである。メッキ業者の生きるために無理してニッケルメッキを行ない、メッキ製品の品位を落すより（高いニッケルを使用すると損と、薄いメッキによるメッキ不良の損を生ずる）止むを得ない品物だけには十分ニッケルメッキを科学的に行ない、メッキでなくともよいものは他の処理に変ることが必要である。無理に不足のニッケルを使用することを考えず、メッキ業者が更に勉強して他の表面処理を考えることは、比の際お互いの生きる道ではないかと思うのである。

25・12・3

有志の大坂訪問

十日会の有志会員は12月3日午前九時の燕で西下、大阪業界を訪問した。一行は

大沢、小島、福井、清水、羽成5氏で午後5時過に今里メッキ街のはせ川に投宿。鍍友会の伊藤氏を初めとして、

大丸谷、佐藤、大堀、早川、佃井、高良、吉川、高良、湯口諸氏、

の参集によって活発な会談を行なった。4,5の両日に亘り鍍友会の斡旋で10工場を見学し所感を交換した。



25・12・10

定方先生の講演を聞く

25年の最終の例会は12月10日午後5時半から東京鍍金会館で開いた。出席者は、

大沢、高橋、清水、梅沢、岡崎、尾岡、小川、加治、木下、能勢、福井、福地、河田、加瀬・小島、海野、青木、井上、吉岡、井上、中村、山中、坂上、小林、狐塚、長谷川、成毛、

の諸氏に服部、定方の両先生であった。

例の通り梅沢幹事の司会で開会、新会員加瀬、明坂上栄一、井上歌吉の3氏を紹介した後大阪見学一行の報告に大沢、福井、清水3氏が代る代る分担部門に就て詳説し賑やかに談論の花を咲かした。次で定方先生の各種鍍金液の鉄分に就ての講演があり、終って質疑を行いそれぞれ解説を受けた。それから岡崎氏の改良バフ紹介、小島氏の大坂見学土産があつた後、会務に関する協議をして散会した。

25・11・28

十日会担当の講習会を終了

東京鍍金組合主催の鍍金基礎知識講習会は9月18日から8回にわたり、十日会の実施担当によって11月28日、予定通り第一期の電気編を終了したので同夜7時半から修了式を行なった。式は十日会幹事梅沢茂雄氏の司会によって開始、まづ梅沢氏の挨拶があった後組合理事長山崎貢氏から全員に修了証書を授与して懇切且つ熱烈な激励の言葉を贈られたがこれに対して受講者総代宮田製作所高野茂三郎氏の力強い謝辞があつて式を終った。

ついで懇談会を催し、梅沢氏の挨拶がすむと講師服部先生を中心として各自談論を交換し名残りを惜しみつつ午後9時散会した。

受講者は次の28名であった。



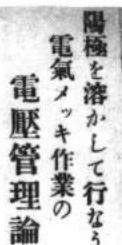
稲葉善作、大沢秀夫、井岡修治、高野幾三郎、中井才助、高橋健一、鳴島杉久、久野敏夫、福地春雄、小町鞆佐、小篠法子、相沢勇喜、酒井武男、広木広、大美泰三、川上勝一、竹内順一、溜光夫、田波正雄、中村実、上村進、松井哲、藤田義貞、小林千里、安藤寿照、佐野義徳、木村一男、森野堯。

初雪の湯島の岡にて

十日会新年会

初雪の1月10日——生憎の天候だといえばいや昨年も大雪だったそうだ、十日会の新年会は雪にきめておこう、などと、とてもとも賑やかなこと。副幹事の能勢氏が早くからつめかけて何くれとなく斡旋する。その内に三々五々雪を蹴って集る顔と顔。

梅沢、岡崎、小島、後藤、大沢、小川、井上、山中、坂上、尾崎、加藤、高橋、木下坂手、福井、八幡、緑川、小篠、井上、海野、中村、小林、青木、吉岡、加治、狐塚近藤、志和、清水、長谷川、佐久間、



の諸氏、志和氏はお父さんと同道だ。服部先生、田島博士、タンクの近藤、ベルトーロの中井氏というすばらしさ。梅沢幹事の司会で開会し、年頭の協議を遂げた後宴に移り、梅沢幹事のおめでとうで、一同乾盃、盛んに献酬し、盛んに談笑した。

満場大拍手、福井氏、提議にて田島博士を名誉会員に推薦と決定、すぐ大沢氏が博士の衿にバッヂをつけると再び満場大喝采。そこで厄介な事になりましたよというと、博士は涉外班を引受けますよとにっこりされる。かくて祝酒幾巡、誰も誰も紅顔花の如く、この一年協同突破を堅く約して午後6時過に会を終った。

本日の決議

梅沢幹事満期のため能勢副幹事が幹事に、副幹事には高橋政一氏が決定した。尚本日の新入会員は次の3氏であった。

| | |
|--------|-------|
| 小松川町 | 緑川要蔵 |
| 浅草北清島町 | 志和道彦 |
| 本田渋江町 | 近藤寅次郎 |

尚高浜二郎氏は新春に当り次のメッキかるたを披露された。

メッキかるた

高浜二郎

い 今里は鍍友会あり
ろ 論陣堂々山本博士
は ハブの市川栄吉
に 日本の名物ニッケルメッキ
ほ ほがらかな通ちゃん
へ 屁六とはふざけたりな野田保夫
と 特許クローム吉田教授
ち ちりとり装置は近藤
り 理論の実際化石田教授
ぬ ぬきんでるものは木村
る 類を以て集る十日会
を を久しぶりですミスター・ラビット
わ わが親愛なる哲ちゃん
か 高速光沢銅は宮沢敏雄
よ 酔っても酔わない竜ちゃん
た たしかな商売の森川
れ 歴史は古い金井
そ ぞっとしますよ三千円
つ 使って儲けろ、儲けて使え
ね 熱と力の坂手勇
な 何が何でも上村
ら ライターはピストル
む 無水クロム酸は太平鉱業
う 腕がものいう小島政夫
る 威力を振うベルトーロ
の 伸びて伸びる小西
お お得意本位の根本
く 回転専門大沢直太郎
や 薬品概論の柳沢三郎
ま ますます躍進する鶴見
け 研磨材の最高峰光陽社
ふ 文化勲章田島博士
こ コンクール第一荒木実
え 液の研究定方先生
て 天下一品伊藤宗太郎
あ アンチはヨット印
さ サービス満点のキクヤ
き 鏡面研磨佐藤光治
ゆ 湯島の岡の赤い屋根
め メッキの在り方を論ずる大堀弥六
み 身につく講演服部先生
し 常温クローム小篠義男
ゑ 円満第一山崎貢
ひ ピットの研究友野理平
も もりもりやってる敏さん

せ 世界の水準サア破れ
す すっかり失礼しました頤首再拝



26・2・10

2月の例会は東京鍍金会館で午後6時半から行われた。出席者は、

加治栄太郎 能勢楨章、高橋政一、高橋和広、木下文良、岡崎友男、河田康信、志和道彦、加瀬明、青木一郎、小川忠男、坂手勇、尾崎満男、小篠義男、渡辺義一、野沢宗一、井上歌吉、狐塚只一、小林栄一、吉岡寛、後藤哲雄、木下健治、海野享、近藤寅次郎、福地春雄、六幡健、

の諸氏に服部先生、まづ能勢幹事の挨拶があつて、

クロム酸製造について

旭日産業専務 児玉金作氏

光沢鍍金の実験 都立大学 森健実氏の講演があった。終って能勢幹事の司会で新入会員の紹介、講演会の実施、3月の見学計画を決定した後、後藤委員が各地視察旅行会青本委員がカメラ会の取まとめを行ない9時閉会した。

クロム鍍金液の消耗 石田武男

クロム鍍金に際し、鍍金液が品物に附着して消耗される所謂液のかり出しについては、注意している工場もあるが、左程考慮が払われていない処が多い。海外においては鍍金液のドラッグアウト Drag out について注意が払われているが、具体的な数値の発表を見ない。本実験は大阪鍍金工業協同組合専務理事伊藤宗太郎氏の要望によって行なったもので自転車部品の鍍金を行なっている3工場について調べた。

ニッケル鍍金して研磨せるギヤー、クラン

ク、ハンドルをクロム鍍金せる后、一定量の水を入れた容器につけ、附着したクロム鍍金液を洗滌した。この操作を繰返せる后、洗滌水中のクロム酸の量を測定し、クロム鍍金液の消耗量を定めた。

| | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1. ギヤー 100枚 | 洗滌水 371 ℥ |
| 鍍金液のクロム酸 | 215.4g / ℥ |
| 洗滌液のクロム酸 | 123.5g / ℥ |
| ギヤー 1枚に附着せるクロム酸 | 1.2g |
| ギヤー 1枚に附着せる鍍金液量 | 5.7cc. |
| ギヤー 1枚の表面積 | 3.7dm ² |
| 1 dm ² に附着せる鍍金液量 | 1.55cc |
| 2. クランク 400本 | 洗滌水 371 ℥ |
| 鍍金液のクロム酸 | 215.4g / ℥ |
| 洗滌液のクロム酸 | 254.0g / ℥ |
| クランク 1本に附着せるクロム酸 | 0.64g |
| クランク 1本に附着せる鍍金液量 | 2.9cc. |
| クランク 1本の表面積 | 1.44dm ² |
| 1 dm ² に附着せる鍍金液量 | 2.0cc. |
| 3. ハンドル 60本 | 洗滌水 721 ℥ |
| 鍍金液のクロム酸 | 392.5g / ℥ |
| 洗滌液のクロム酸 | 633.6g / ℥ |
| ハンドル 1本に附着せるクロム酸 | 10.6g |
| ハンドル 1本に附着せる鍍金液量 | 26.9cc. |
| ハンドル 1本の表面積 | |
| (パイプ内部も含む) | 13.5dm ² |
| 1 dm ² に附着せる鍍金液量 | 2.0cc. |

以上3種類の品物について実験せる結果を平均すると、表面積1 dm²に附着せる鍍金液量は1.85cc.であり、1 m²当り185cc.となる。

今クロム鍍金液として、クロム酸250g / ℥、硫酸2.5g / ℥の組成のものを用いたとすれば1 m²当り消耗するクロム酸は46.3 gとなる。今厚さ0.0005mmのクロム鍍金を行なうとすれば、製品1 m²当り3.55 gのクロムが鍍金されクロム酸は6.8g必要である。即ち品物の延面積1 m²に対し0.0005mmのクロム鍍金するに要するクロム酸は53.1 gで、クロム鍍金に実際に使用された量はそのうちの12.75%冗費された量は87.25%となり、実際に使用された量の約7倍が冗費されたことになる。勿論パイプ類の如きものはその比率大となる。

従って、クロム鍍金槽のそばに1個または2個の水槽をおき（陶器槽、鉛張り鉄槽又は鉄槽）、鍍金製品はこの水槽にて洗滌后流水にて水洗すべく、水槽の液はクロム鍍金槽に

戻すべきである。

水槽として木槽を用いている所が見受けられるが、クロム酸によって木が侵され、この液を鍍金槽に戻すと悪影響を及ぼす。



26・3・20

東西業者の交歓

先に東京城北支部、十日会有志に依る大阪業界視察、懇談会を催し技術面に、或は工場経営面に多大の収穫を得たが、今回は大阪より大挙14名が上京しバスをかり切って佐藤、福井、小篠、仁木、栄輪業、小山、東平、の各鍍金工場を見学し、同日夕五時より鍍金会館に於て前記14氏を囲み東京側より業者多数参集、夜の更けるのを忘れて歓談、翌22日は精工社第一工場を見学して帰阪した。



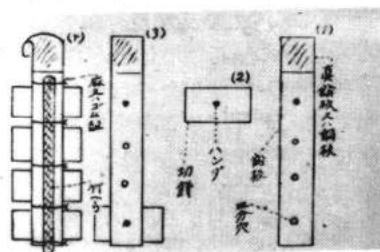
新工夫の切餅アノード

八幡 健

一片のニッケルでも大切に使用しなければならない今日、切餅は誠に結構であるが、これをつなぎ合せてアノードとするのが普通の方法とされている。ところが私は従来の方法に一寸工夫をこらして使用しましたが、大変具合がよいので紹介させて戴きます。

まず、鉛板を巾1寸位の短冊型に切って、3分位の穴をあける。穴の数は各自の必要に

応じて増減する。(1図)



次に、切餅は60°C位に加熱し、中心点にハンダを少量つけて(2図)、それを鉛板の上穴に合わせ、再びハンダでしっかりと密着させ、ハンダの盛り上ったところにエナメルかアスファルトを塗る。(3図)

かくて、でき上ったものを両側から竹ヘラではさみ、麻ヒモかゴムで締めあげる。(4図)両面を使用する場合は、鉛板の表裏に切餅をとりつけければよろしい。

尚既に使いふるしたニッケル板のもこ方法で再使用できるのであるが、この場合には、その中心点を軽く研磨してハンダ付ができるやうに注意せねばならない。

26・4・10

吉田教授をお招きして

4月の例会は10日午後7時会館で開いたが田島博士を初めとして、

小篠、高橋、岡崎、松井、安西、緑川、能勢、木下、福井、加治、狐塚、井上、尾崎、清水、大沢、吉岡、福地、菊地、羽成、河田、海沢、志和、小島、小林、中村の諸氏高橋幹事の司会で新会員松井憲太郎、安西捨己両氏を紹介し、能勢幹事満期のため新副幹事に小林憲氏を選定後吉田教授の活性剤に関する誕演、小篠義男氏の関西視察の報告があった。その後諸般協議の結果、

- ・第2期講習会は4月21日から会館で開始する。
- ・大阪鍍友会20余名4月12日上京見学に付同夜会館で座談会を開催する。
- ・研究室新設工事進行に付出来るだけ協力する。
- ・4月16日午後1時横河電機製作所を見学する。

等を決定して9時半閉会。更にまた楽しいひとときを過して解散した。

—26・4・12

Ni無用の製品展示

かねがね会員製品の展示会を開催すべく意図して居たが大阪鍍友会一行の見学上京に際し急拠立案、4月12日鍍金会館でニッケル無用を目標とする展示会を催した。

小島メッキ工業所

日進化工株式会社

福井電化工業株式会社

中村電気鍍金工業所

清水鍍金工場

正和鍍金工場

宇都宮鍍金工業所

宮田製作所

東京ギヤ製作所

のそれぞれ特異な出品があり極めて有意義であったので其後数日間継続して一般の観覧に供した。

(中村敏一君撮)



仰
げ
よ
杓子山

26・4・16

横河電機見学

4月16日午後1時三鷹駅に集合横河電機製作所を訪問、永見整備課長の案内で2時間に亘り工場作業を見学、後に会議室で懇談を遂げた。特にマグネット応用に関するメッキの効果に関して意見を換し辞去した。当日の参加者は下記の如し。

高橋政一、小篠義男、松井憲太郎、中村敏一、小島政夫、小林栄一、渡辺義一、福井通祐、木下文良、能勢禎章、佐久間定雄、小川忠男、柳章之助、中井才助

26・4・19

東京鍍金会館研究室完成す

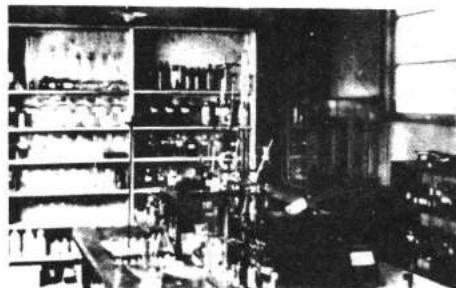
若き十日会の情熱と協力から生れた東京鍍金会館——。

丁度開館1年の自重を経て第二段の飛躍の

ために立ち上った。

大沢、福井、小篠、中村、小島

の諸氏が動きだすと早速話しが進んで4月3日運営委員会を開き満場一致で研究室新設に決定。その5日に大沢、小島、中村、福井の諸氏が立会って工事に着工し、十日会の性格=実行第一主義を發揮したが、雨のため予定より一寸おくれて19日に完成した。この研究室は既設の応接室を廃して接続、耐火設計で採光完全の明るさに実験台をゆっくり囲んで数組の分析試験が出来るばかりでなく、6尺大の黒板をかけてあって小講演もなし得るが更に遠からず顕微鏡や化学天秤からタンク、レースも設備する計画である。



26・7・10

定方、友野氏の講演と実験

7月10日から湯島の岡の赤い屋根の東京鍍金会館で7月例会を開催。定方金蔵先生の『『耐錆性のクローム鍍金』に関する講演があり、クロームに対する大きな示唆が与えられた後友野理平先生が『不純物の電解除去法、アルミダイキャスト上のクローム鍍金法』の二題に就て講演した上研究室に移って不純物除去法の実験を行った。又高橋幹事満期のため小林副幹事が代り、副幹事に羽成利一氏が当選し、亜鉛鍍金講習会の開催や日立鉱山視察の打合せ後、当日新会員として北見、藤田林の3氏を観迎した。

26・7・20

十日会主催の亜鉛メッキ実験講習会

実に盛会であった。本会主催のこの講習会の企画を発表するや、北は小樽から、西は浜松まで続々受講の申込みがあり、発表後2週間で定員超過となった。

さて当日の7月20日、宇都宮のバインミシンの2名を先発に定刻前に早くも数名を残す

だけという熱心な出席率である。

山本洋一博士の得意の電圧管理論に統いて研究室では安房信輝氏の光沢亜鉛鍍金の実験更に岡崎友勇氏のユニクロム処理実験をみた。

この日、猛暑を吹き飛ばした全員の真剣さは壮烈を感じる程であって、必ずや新らしい難局突破の道は開かれるであろう事を確信させるものがあった。

新輸入
ユニクローム入荷
(Unichrome Dip Compound 95.)

ユニクロームの特長—

1. 耐溶剤力が強い——従来のニッケル鋼めっきより10倍の耐溶剤力がある
2. 耐久力が強い——従来のニッケル・クロームより2倍の耐久力がある
3. 光澤が良い——従来のニッケル・クロームに比較して上品な光澤をもつてゐる
4. 施用時間が早い——最初被塗後の處理は約15秒で完了する
5. 政治が簡単——ユニクローム處理のため特別の設備を要しない

愈々好評の D.A.C
東京都中央区日本橋本町三の一
香坂化學産業株式會社
電話 日本橋(24) 1890・6840

受講者は東京39名、埼玉3名、静岡1名、栃木4名、群馬4名、北海道1名で十日会の幹旋役は福井通祐、中村敏一、小島政夫、小篠義男、大沢直太郎の諸氏、青木一郎氏は記念写真の撮影を担当した。

26・8・2

日立鉱山の視察

会員下記11名は8月2日朝上野駅に集合、茨城県日立鉱山に赴き係員の案内で精煉所を視察して1泊の上翌3日は本山に赴き入坑、採鉱の実況を視察し更に選鉱其の他各部を詳細視察し同夜帰京。

八幡健、狐塚、坂上、中井、長崎、小林、木下、小篠、海野、加治、小篠の諸氏。



26・8・10

炎熱を克服して実験三題

午後7時から東京鍍金会館で十日会の例会が開かれたが実験3題を盛りこんだために時間効率の警告があった。講師の大熊貞雄氏が6時に来館されたのを初めとして小林幹事が出席、その後、

梅沢、岡崎、野上、成毛、八幡、小篠、菊地、尾崎、綱島、能勢、坂下、小島、後藤青木、福地、寺岡、羽成、狐塚、林、寺内志和、石井、中村、坂手、北見、木下、加瀬、山中、坂上、海野、河田、大沢、福井中井、

の諸氏が出席、小林幹事の挨拶後、研究室に移り大熊氏の講演、ニッケル液の不純物試験に就て解りやすく分析方法と試験順序を聞いた後その実験が行われた。

新会員綱島、野上、寺内の3氏紹介、次で鍍金コンクール等に関する報告があった後、岡崎友勇氏のユニクローム処理実験、小篠義男氏のクロム液分析実験を見、終って日立鉱山見学に関する小篠氏の報告を聞いた。



26・11・10

坂手利重翁の回顧談を聞く

11月10日午後6時から会館で11月例会を開いた。

岡崎友勇氏から名古屋、京都、大阪視察の結果に就て注目すべき報告があった後当夜お招きした坂手利重氏が見えたので一同自己紹介をして敬意を表した。氏の業界回顧に関する元気縦横のお話と共に将来の業界は素地改良のため努力すべきであるとの結論を以て大なる感動を与えられた。

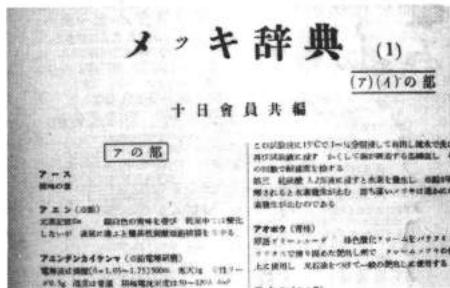
次で

長谷川正三氏慶事につきお祝いを贈呈する。研究会の役員として会員7名を送る事。

小篠義男氏の常温クロム普及に関する研究

会の表彰が行われる事。

11月20日伊豆長岡へ1泊旅行を行う事。
等の決定と報告があった。



◎写真展観

宇奈月温泉に於ける東西交観会に出席した十日会諸氏の記念写真は11月10日東京鍍金会館ご展観した。作品は48点。

小島政夫氏10点、後藤哲雄氏12点
小篠一郎氏8点、岡崎友勇氏10点
中井才助氏8点
で折柄例会に際して大喝采を博した。

26・11・19

十日会伊豆行

十日会は会員親睦のため11月19日伊豆に旅行、長岡温泉に1泊して翌20日に帰京した。尚一行15名。

26・12・20

Mr. Blount來館、講演をきく

午後5時半、東京鍍金会館に米誌プロダクツ、フニッシング主筆エズラ・エー・ブラウント氏を招いて鍍金工業に関する講演会を開いた。この講演は10名の会員と技術関係官庁及び新聞報道関係他10名内外の業者が招待をうけた。



プラウト氏は26年9月応召し空軍技術中佐として来日、立川空軍整備隊に勤務していたが、氏はシンシナチ大学を卒業後二十数年に亘って鍍金工業を研究、メッキその他金属表面技術専門の雑誌プロダクツ、フニッシングの主筆として活躍、目下米国において盛んに普及されているダイヤフラムタンク（隔膜タンク）の詳細と電解洗浄について述べられた。



この講演会は都立大学田島博士の腕入りで去る9月氏が着任早々田島氏の下に日本の鍍金工業界を見学したい旨連絡があったので、余暇をさいて次の各工場につき、製品及びメッキ技術の見学を行った。

宮田製作所 大森・松本工場(自転車)
大沢メッキ工場 東京台東区

(ガラメッキ、製品ビン)
精工舎 東京錦糸町(めざまし時計)
日本光学 東京大井町 (カメラ)
大和組 東京葛飾区(銀メッキ製品)
東平メッキ工場 東京葛飾区

(口紅ケース、金メッキ)

福井電化工業 千葉県市川市

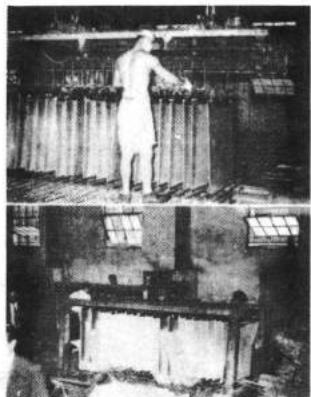
(ガラメッキ、鉄クリップ上ニッケルメッキ、ヘアープラシ針、ネジ、洋傘軸)

硬化クロム工業 東京足立区

(印刷、紡績ローラー、定盤)

凸版印刷 東京志村町

(印刷ローラー、エレクトロタイピング)



27. 1. 10

盛歓を極めた十日会

昭和27年を迎えた十日会は1月10日正午を期して東京鍍金会館に集合、新春の挨拶を交した後、20日開催したMr ブラウントの講演全部を安部東代吉氏の録音並に映写によって再生公聴した。後に例会に入り諸般の報告があり、長谷川幹事の賀詞によって一同乾杯、次で田島博士、定方先生、服部先生、高見沢栄寿氏、福井井平翁、中井才助氏並に大沢直太郎氏のテーブルスピーチがあつて各自献酬、酒は湧くが如く、興は燃ゆる如く、堂々たる爆笑七花八裂した。当日の出席者は38名。

ニッケル不安は解消しました

ニューアロイ サルトの誕生

特
機
械
器
類
の
新
製
品
は
本
誌
に
お
よ
び
紹
介
す
る
こ
と
は
主
要
な
部
分
で
あ
る
と
考
え
ら
れ
て
い
る
。

高貴青化銅サルト近日發賣

發賣元 株式会社森川幸商店

東京幕張町芝浦松町四ノ五 電話芝(4)5455番

ニッケル不足、米国でも統制

Ni 代用はクロム、銅、亜鉛

東京鍍金会館に於ける十日会主催のMr ブラウント歓迎講演会は業界に異常な注意を喚起したが、会は大沢氏の司会で坂手氏の歓迎の言葉があり、田島博士の紹介が行われた後、高見沢氏の通訳で1時間に亘る講演があり、更に質問、回答する事1時間、これらは総て安部氏に依って録音映画化された。

質問中の重要なものは次の通りである。

○米国に於ける中小メッキ業者の現状如何。米国でも日本と同じように小規模のメッキ工場がありこれらの小工場は充分よい設備をもつて居ない。現在彼等が使って居る材料は国の統制が厳しいために非常に困って居る。

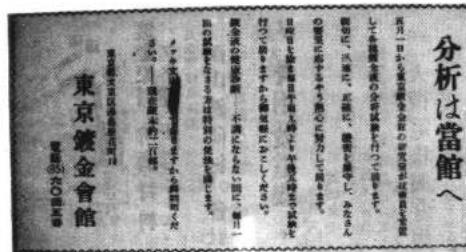
○メッキ工具の賃金及び養成はどんな風か。賃金は工場及び地域によって異なるが、大体1時間1弗から2弗半で一般にボーナスはないが若干の工場では支払って居る。

各州の法律で高等教育を行つて居る。個人的には異なるが、夜間学校で講習を受ける事もある。私はシンシナチで講座を受持った事があった。

◎ニッケル鍍金の代用に何が行われて居るか。

ニッケルの代用としては銅の上に直接クロムをつけ、或いは間接に光沢青化銅の上にクロムをつけ、又光輝浸漬法による亜鉛上にラッカーを塗るか、塗料を以て代用して居る。

◎鍍金の電源はどんなものを用いて居るか
米国ではセレン6ポルト、MG 6~8ポルト、9ポルト、18ポルトが使用されて居る。



尚、当日鍍金工芸研究所安部東代吉氏が革新的な青化銅を発表した。即ち

Ni 制限のため青化銅の需要が頓に増加して業者間より種々の相談を受けるが、私は硅酸ソーダを添加して良好な成績を得て居る。それは単なる試験でなく、現に数ヶ月実際工場で使用しているものである。

硅酸ソーダは20g/lを添加するのだが、冷液にも温液にも使用してよく、光沢良好、バフ仕上も可で水素発生を減少し、蛙肌減少、時間短縮の好果をあげて居る。

この発表は早速会員が実験した結果良好な成績を収めた。

27. 7. 25

光沢ニッケル

鍍金について

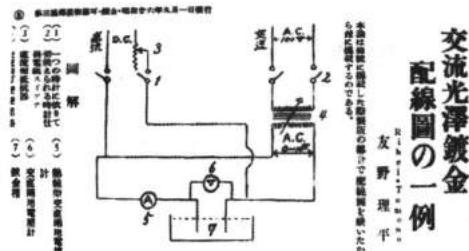
日本鍍金協会は7月25日鍍金会館で例会を開いた。

福井、綱島、林、小見山、小暮、井上、後藤、中村、高橋、小島、能勢、清水、坂手、山中、石井、斎藤、木下、海野、高頭、中村、大沢、渡辺、梅沢、中井、本間、坂上、福地、岡崎、の諸氏が出席、少時歓談の後、午後8時、後藤氏の挨拶によって開会し、森健実氏から光沢ニッケルに関する講演を聴いた後質問を行い、森氏の解答があり、次で相互研究に移り、

- A. カドミの変色しない法
- B. 酸化皮膜の除去法
- C. 錫の煮つけ

等に就て意見を交換し、後に三共電器KK見

学に関する打合せをした。



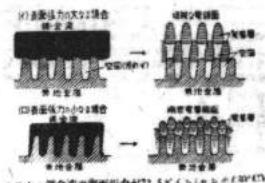
表面活性剤の電鍍への應用

(其の二) 友野理平

耐腐力の必要

DC昇圧方式の導城をまわりで有るが、そのものにて酸素を反応すと、大陽火の様に考へ。

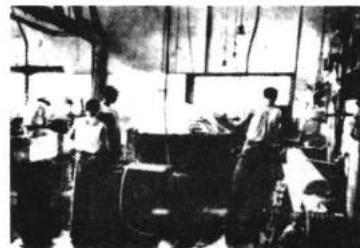
大別して酸素(硫酸)、硫酸(硫酸)、氯化(硫酸)、重水とこれらの中の組成する有機酸塩で別に見れば酸性(硫酸)は有るが、無機的酸でも有つて、少くとも酸性又は分子の大きさの半まで持つて有るのが安全である。有機のものは硫酸等、少帶的に酸の性質とを持つて居り、且田そぞれで酸が貴重の因縁(貴重な酸を一つ一つの物質まで有つて、もろつた酸を作つて置く)。



27. 7. 28

見学後伊香保に清遊

7月28日日本鍍金協会の伊勢崎三共電器KK見学は総員26名、8名は帰京し、18名は貸切バスで伊香保に赴き1泊浴泉の上翌日樺名湖に廻り清遊、午後7時に帰京。



写真説明

伊勢崎市の三共電器KKは発電ランプの製作から鍍金の一貫作業をしている。(1)は青化銅鍍金、(2)は研磨、(3)はクロム鍍金、(4)は仕上研磨でこの作業はすべてチェンでつながれ、工員は所定の場所を動かない。隣室に重鉛鍍金のガラ、クロム酸処理場がある。塗装と乾燥施設もある。(5)は組立室の一景。すべて女子工員で、ゴムベルトがゆっくり走る間に、24工程が完了して、商品となり、箱入となつて倉庫に送られる。製作、研磨、鍍金、組立の各工場は別棟として独立し、工場内は白壁づくりで、採気も採光も申し分がない。(大沢直太郎氏撮影)

27. 8. 10

米国のキリンスについて定方先生の紹介

日本鍍金協会は8月10日午後7時半から鍍金会館で例会を開いた。出席者は清水、菊地、岡崎、福井、能勢、高橋、後藤、綱島、尾崎、小暮、木下、高頭、大沢、加治、青木、小島、鶴地、林の諸氏で定方、田島の両先生も出席。後藤氏の挨拶に続いて

定方先生はキリンス作業に就て米国雑誌の新しき研究記事を詳細に紹介され、これに対し質問解答が繰返された。

次で相互研究として先月27日三共電器KK見学に因み大沢氏撮影の記録写真を廻覧し見学の感想を換した。

27. 9 25

塩基性クローム鍍金の講演を聞く

日本鍍金協会は9月25日午後7時から鍍金会館で例会を開いた。出席者は

高頭、上村商店、後藤、大沢、本間、綱島、岡崎、小見山、井上、小島、四国電機、中央製作所、中村、青木、八幡、小暮、渡辺、福地
の諸氏、後藤幹事司会で名古屋組合の上京見学に関する件其の他を報告した後、ティボール見本、クレハロン型録を配布し次で森健実氏の塩基性クローム鍍金に関する講演を聴き、例に依って質問応答を重ねた。終って大沢氏の日光会談、みやげのカラー写真を映写し歓を尽した。

27. 10. 7

Mr. Blountは嚴父君急病のため、10月7日午後0時50分フライグ、タイガー機で羽田空港から急拠帰国した。日本鍍金協会の有志は羽田空港に赴いて別れを惜しみ、その健康を祈った。



写真 は空港メインビル前における記念撮影で向って右から福井、小島、ブラウント高浜、大沢、中村の諸氏、撮影は大沢直太郎氏。

水洗いに対する注意を改めて考え直そう

高浜二郎

「鍍金」に「水洗いに対する注意を改めて考

え直そう」という記事が載って既に久しい。一水質と水量の二点からメッキ作業における用水の改善を述べたものである。

そんなことは分っているよと一笑されるのであるが、しかしながら、それが本当に化学的メッキ作業としては充分に実行されていない現状である。だから 服部先生が今年の春から特にやかましく「水の問題」を説いておられるが、現場でこの問題が解決される日はまだまだずっと先のことのような気がしてならない。

ところが、今秋Mr. ブラウントから贈られたロンドン発行のハンドブックを見ているとがく然とするものがあった。それは「メッキ工場の水」と題して堂々12頁に亘る一節である。

メッキ工場で使われる基礎物質の一つはある他の物質よりも遙かに大なる量において水である。メッキ工場で使う水の量は最終の成績において深刻な影響をもついている。

と冒頭して、メッキ工場における「水の管理」を水の質と水の量の二点から研究してあるが、内容は分量の考察から8項、最後に「水の質を改良する法」を述べ、精細にメッキ工場における水の重要さが明らかにされている。

このメッキ工場の水の重要さに注意したのは、1939年にMr. ホガームが提唱したのが初めてであるが、丁度もう14年前になる。だから、アメリカのメッキ工場は純水を使うことが常識になった訳である。

我々は駆足で「水の問題」を追いかけねばならぬ。



27. 10. 10

10月の例会服部先生の講演

10月10日の日本鍍金協会例会は午後7時半鍍金会館で開いた、出席者は

林、中村、尾崎、高頭、綱島、中井、海野、

岡崎、福地、能勢、山中、井上、後藤、木下健、福井、小島、小暮、の諸氏、先づ服部先生から米国に於けるピックリング及びデッピングに関する詳細な紹介があり、次で相互研究を行った後Mr ブラントを名誉会員に推薦する件を決定し、それより自由会談に入り散会したのは午後10時であった。



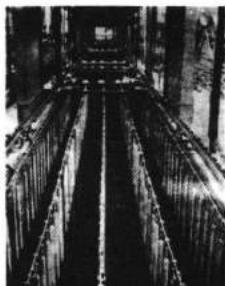
27. 10. 25

不溶性Ni 鎌金の講演

日本鎌金協会は10月25日午後7時から会館で例会を開いたが出席者は

本間、小島、尾崎、高頭、綱島、大沢、能勢、後藤、岡崎、中村、福井、木下、木下、小暮、山中、海野、中村、中井、の諸氏並に田島先生。

田島先生の『不溶性陽極ニッケル鎌金』に関する注目すべき講演と質問応答あり終って自由会談を行った。



米国における不溶性陽極Ni鎌金

田島 栄

ニッケル陽極を使用しないニッケル鎌金即ち不溶性の陽極によるニッケル鎌金は、ニ

ッケル不足の対策としてではなく、その利点のために推奨されるものである。

このニッケル鎌金の特徴をあげると次の通りである。

1. 陽極の袋がいらない（米国では陽極を袋で包むことが普通である）
2. 不溶性であるから陽極の形が変わらない。
3. ニッケル陽極でないため屑ニッケルができる。
4. 溶液に対する添加剤がいらない。
5. 陽極のガス発生が盛んであるため、溶液の攪拌が自然に行われる
6. 不純物が酸化されて、溶液がよごれない。

それで、パイプの内面や薄板、針金、複雑な形状をした品物をニッケル鎌金する場合、陽極の形が変わることや大電流を通すことによって高速度鎌金が行なわれる利点を持っているのである。

しかしながら半面には欠点もある。それは

1. 光沢ニッケル液は使用できない。
2. ニッケル分が不足し、P^Hが変り易い。米国では、光沢ニッケルが普通であるが、その光沢剤が不溶性ニッケル鎌金の場合にはこわされるから使用できないのである。またニッケル陽極でないため溶液中のニッケル分が次第に減っていき、従ってP^Hが変化する。この不溶性陽極は、日本ではカーボンを使用するが、米国では鉛を使用する。

溶液は硫酸ニッケル 300g/l、硼酸30g/lという組成で、他の添加剤は使用しない。そして溶液中のニッケル分の減少するのに対して、この補充方法がいろいろ研究されたが、結局第二タンクを設けて、両極上にニッケルを使用し、PR法に依り電解し、この溶液を鎌金タンクに送り込むことが最もよいと考えられた。即ち不溶性陽極のニッケル鎌金は単にニッケル不足の対策としての方法でなく、特徴あるニッケル鎌金として行なうのであるから、

溶液補充のためニッケル極を使用することになる。

27. 11. 10

作業能率の増進について

11月の例会は10日午後7時会館で開会。出席者

林、渡辺、綱島、菊地、尾崎、能勢、長谷

川，岡崎，梅沢，高頭，福井，後藤，上村，
井上，中井，海野，福地，小暮，小林，中
村，木下，大沢，青木，羽成，中村
の諸氏，後藤幹事司会で

如何に作業能率を増進するかについて

労働省 小川 賢治

氏の講演を聴いたが，終って質問解明あり，
次で井上氏の米国製赤棒使用実験談があつた
後，大沢氏の住友鉱業視察並に，裏磐梯山旅
行のカラー写真映写を観賞した。



28・4・10

金属の防錆について

日本鍍金協会は4月10日夜7時から鍍金会館で例会を開いたが、

林、菊地、井上、岡崎、綱島、加治、中村尾崎、能勢、木下文、長谷川、清水、後藤中村、福井、高橋、小島、海野、大沢、高橋、中井、村田産業

の諸氏並に服部先生が出席、清水幹事の司会で元陸軍技術中佐市川清氏の金属の防錆並に規格と検査に関する時余の講演があったが戦後の米国に於ける技術の進歩に対する高専的な評論は深刻な感銘を与えた。終って諸般の報告書及び紹介に移り先ず賛助会員村田産業株式会社の入会報告と永山社員の挨拶があり、次で岸松平氏訳の鍍金液金、村田産業訳の鍍金液の浄化を実費領布し、次で日本海外商事KK輸入のロバートルーチCO、の各種研磨材見本に就て宮道輸入係長から説明と共に希望者に実験材料を配布し上村商店新発売ウエライトの紹介があった後、プラウント氏に鯉幟贈呈の件を報告、本会総会は5月初めバインミシン見学に併せて塩原温泉で開催することに決定した。



28・4・30

今月例会において、端午の節句を期して名誉会員プラウント氏の健康を祝するため「鯉のぼり」を贈呈することに決定したが、大沢直太郎氏の好意で現品を寄附されたので、早速これを航空便で発送したところ、4月30日プラウント氏から鄭重な謝状が到着した。



近年電鍍関係外國文献抄

(上) 荒木 實
Minors Araki

◎鍍金金属の電解による厚さの測定法
メタル表面の一定面積に陽極電極を行ひ、その電流時間に応する生電流を算出する。そしてメタル除去のため電流を試験中に一定に保たれ、除電により測定時間は自動的に表示される。この方法は均一なメタルは次の如く。

鋼・金・銀・銅・カドミウム・銅・クロム・

鉛・金・銀。

測定は既報に・場・以前・場・クロム
正確度は高く、例へ近接の場・イキの0.76%も±2%の
正確度で測定される。

J. Electrochem. Soc. 91 No. 3. 77~81 1948.

◎表面ゲージ・鏡物に光輝・マーク

メタルを行ふ等の前歴方法

間の代りに鏡面合金の中ノックが試験的に推奨されて

ことは完全な附着を保護するには加熱時間と抵抗しても合せ在
30分間、700°~800°では1時間
する間にメタリックは最も
最も完全に保護性となる。

(3) 鋼は純度を保證する
出し得る。

鋼・鉄化熱は700°を出じ、足は
700°~900°で確く構造を抵抗する
10分間) 熟成するが、本質的

わけである。その被膜物を900°

(静止、一マクス) を前歴なし

露出することは急速に減少なら

み却すこととは急速に保護する

(4) ポリソーフルビンの溶液は
表面にかかることを認めた。

28・4・17

関東学院大学を見学

4月17日は午後2時京浜線金沢駅に集合して関東学院大学を見訪問、中村実氏の案内に依って大学鍍金工場を見学した。

当日の参加者は次の通り

大沢、福井、青木、高橋、尾崎、小島、小暮、田島、中村一、長谷川、木下文、中井小坂、渡辺、高頭の諸氏

28・5・9

工場見学后定時総会

5月9日朝上野駅集合、宇都宮市に赴き、バインミシン製作の日本製鋼工場を訪問してミシンの製造、鍍金の実況を見学した。

見学後青葉の塩原温泉に赴き古町米屋に宿泊、定時総会を開催、27年度決算報告、28年度事業並に予算を協議し運営委員を一新して同夜一泊の上帰京した。

湯島の丘の赤い屋根

満三年の記念の言葉に 高浜二郎

湯島の丘の赤い屋根……東京鍍金会館が希望の扉を開いてから満3年である。更に日

本鍍金協会としていうならば、愉快な仲間の、若い十日会が結成されてから6年目である。

初めて相会したのは僅々10人に過ぎなかつたけれど、今では総員6倍に達し、それが選ばれたメンバーの巣然たる存在として、いつも新らしい行動による業界への貢献をしていることは公知せられる事実である。

それ故に協会が独尊するというのではない。最初に相会し精神、即ち技術研究と同志親睦を以て天職に奉仕する。この理想こそ、後続し来った諸団体のためにも典型されねばならぬ。それ故に自尊する。自尊なきところに進歩はあり得ない。

近頃メタルファニッシングでリバーチー光学機械会社のメッキ部監督クラーク氏の懐旧談を読んだ。アメリカ鍍金協会の前身として1909年の最初の会談に出席したのは8人という少数であったが、毎月1日の会合にはヒラデルヒヤから、プロビデンスからというふうに参集した。中でもポッパー・ヤフアンターは常連だったが（丁度福井、大沢、小島、岡崎の諸氏のように）いつの会談もいきいきしたメッキの議論が行われ、硼酸添加と陽極清浄の比較で論争したりした。ブラセット氏は凄い黒ニッケルに成功したけれども、その秘訣を発表しなかった。ストレメル氏は金メッキ、パインター氏は銅メッキのエキスパートであった。サーベリング氏は1888年シンガーミシンのメッキ部監督を辞してニューヨークでメッキ工場を創め、遂にアメリカ最大のメッキ業者となった。最初の8人で、現存するのはホガーム氏と私の2人だけになってしまったと書かれてある。



叶在りし日の ジョージ B. ホガーム先

クラーク氏は懐旧談の壁頭にアミールという人の著書の一句を引用して、

私はこの世界を通て来たが、それは唯一回である。それ故、私のできる善は、私が人類に示し得る親切はどんなものでも、今すぐ私にさせて下さい。それを長引かせたり等閑にさせないで下さい。私は再びこの道を通らないのであるから。

と題しているのが強く強く感激を与へる。かやうな信念が良い同志の会談を進行せしめて、偉大なアメリカ鍍金協会の組織ともなり、進歩したその国のメッキ工業ともなったのである。単なる技術の改善ではない。信念であり情熱である。そうです。アメリカの協会は8人で創められた。そして盛んな第40回年次大会を今夏ヒラデルヒアで開催する。それを思うて、我々は堂々と勇氣づけられ、希望多き胸がふくらんでくる。

そうです。こゝにもストレメルがあり、ペインターがあり、ブラセットがある。そしてサーベリングはまだ頭角をあらわさないけれど。われらのために、いま少し年をかけて下さい。

「メッキ辞典」編纂はやりかけたまゝ、中止になっており、「メッキ展覧会」は計画発表だけでつぶれた。けれども、きっと再興され復活されるであらう。されねばならない時がきているのである。

「研究室」は仕事を始めてから満一年になる。今まで分析試験に全力を注いだのであるが、これからは、メッキの実験と検査に力を入れなばならない。若き世代のメッキとして真空メッキ装置をすぐににも採用する必要がある。同時に、クロマトグラフによる分析を敢然として取り入れる必要がある。この二つの目標は恐らく世界的の水準に迫る一步である。

真空メッキの機構

著者 太田勇夫





それは、地球から足が離れた夢ではない。
その証明は40年後にきっとなされよう。かく
信念し、情熱する。

28・6・10

研究室の拡充について協議

6月10日午後7時鍍金会館で例会を開いた。
出席者は

綱島、岡崎、高頭、大沢、今村、林、能勢
梅沢、福井、中村、野上、木下、田島、海
野

の諸氏、ベルトーロ小林氏、四国電機中井氏
で先ず新会員今村詔弘氏の紹介があり、次で
研究室の刷新と充実に就て協議決定した後、
運営委員の改選に伴って会館3周年を機とする
反省並に新意図に関する意見の交換が行わ
れたが、新委員に依って研究する事とし、例
会を終って自由会談に移った。

彗星を追つて

東平孝徳氏による



28・7・10

工場見学の後メリッキ教育映画のタ

7月例会

日本鍍金協会は光沢ニッケル見学のため7

月10日午後1時東上線成増駅で集合、服部、
定方両先生を初め

大沢、小島、福井、河田、木下文、小見山
綱島、田島、小暮、高頭、岡崎、高橋政、
林、福地、渡辺、栄輪業の諸氏参加。

本田技研工業KK埼玉工場を訪問して詳細見
学を行って午後6時帰京、鍍金会館で夕食を
共にしたが、この際田島博士と同道で大阪の
石田、早稲田の吉田両先生が来館、村上、鵜
飼、白瀬氏を加え、東平孝徳氏も特に来会さ
れ。

能勢、山中、清水、坂手、高橋栄、中村敏
海野

の諸氏に安部氏、村田産業、四国電機の諸氏
も出席して歓談した。斯て例会を開き高浜二
郎氏から幹事更迭に依る新任の小見山、綱島
両氏を紹介し次に運営改選の結果

大沢、小島、福井、清水、中村敏、後藤、
長谷川、能勢、岡崎、高頭、

の諸氏に決定を報告した後小見山幹事の紹介
で白瀬氏より除塵装置設備に関する当局の最
近の方針を聞いた。

それより大沢氏の紹介で安部氏が東平、栄
小島諸工場を撮影した八ミリ映画を観賞、次
で安部氏と大沢氏に依るメリッキ技術に関する
教育スライドを試写しつつ批判を行う事2回
諸先生の活発な意見交換があり4.5の修正を行
った上もう1回試写して完成することに決定した。
終って大沢氏撮影のカラースライドの余興映写があり散会。



臨時総会

9月10日午後6時鍍金会館で臨時総会を開いた。服部、安部両先生を始めとして、

中村、綱島、小見山、尾崎、長谷川、高頭八幡、小暮、本間、木下、田島、大沢、林青木、福地、今村、能勢、岡崎、海野、小島、梅沢、小林、後藤、木下、福井、井上中村、の

諸氏並に上村商店、四国電機の両社、其他土曜会の山崎、西井、花川の三氏が出席。

小見山幹事の司会で開会大沢氏を座長として会則改正の件を協議したが議論せずして一旦休憩した。8時例会を開き安部先生よりサン及びデップソールの実験報告に次で両社側よりそれぞれ製品の解説があり、次で服部先生の関西業界の近情に関する講演があつて満場を感銘せしめた。終って再び総会議事を継続した結果最近の機会に結論する事とし、次で鍍友会の上京歓迎の件を協議した。

新に出了KUPPERIT

Kupperite —— 日本化學産業株式會社が時代の要望にして新たに提供した青化鋼ターベライトは既製の半成品を創造させて連続出荷する能性がある。これは半成品を使つてなるから品質が保証してある事で、両國内装が豊富だから調査が切れる心配がないことを大の強さとする。

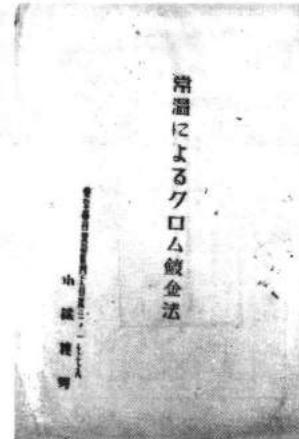
その使用法は、日本化學産業株式會社の説明によると、(1)そのままで使用する場合——青化鋼2.2重量%水に溶解せるものに本品1種を撒くがから溶解せしめると、無色又は淡褐色に均一の液となる。即ち
ターベライト50~80% 青化鋼10~17% 水1
補助にはターベライトを布の間に入れ替へ水で抽出すると、青化鋼の補助も適當である。
(2)ターベライトを用ひ純度の青化鋼を自家製する場合——手前の青化鋼を溶解する液中に本品1重量%をよく攪拌しながら加へる。白色の青化鋼を溶解する。之に水を加へ、既溶すれば青化鋼の小片を撒く。上部液を捨てて更に、重複して水洗する。この洗浄に青化鋼1.7重量%水を用いる。
A [1.7%+ターベライト60g] 100g
B [1.7%+生じた洗浄液] 200g
C [水を加へし] 100g

常温クロム鍍金満5年に際して

西片啓泰

私が故小篠先生から常温クロムを教えられたのは昭和23年のことである。それからいろいろ研究の邪魔としてお手伝い等させていたいたことも記憶に新らしい。もう一步で廻転クロム完成という時亡くなられたことは日本のメッキ界にとって、まことに淋しいことであった。こゝに満5周年を迎えて常温クロムの現況を思い、又自分で操作して今日に至った5年間の常温クロム史ともいるべき一筆を執った次第である。

先づ世間の風評から考察してみよう。色が冴えない、軟かい。これが一番多いようであ



る。その色の問題であるが、これは素地研磨が大いに問題になるのであって、硫酸クロムを含めた常温クロム液では決して加温クロムに比して差のつく程の違いはない。それは、両者を比較して未知の人に答へさせても解ることである。この点は恐れるに足らずである。たゞ硬度の点では稍軟質になることを否定できない。この点はメッキを厚くつけることによって或る程度カバーできると思う。常温クロムは小篠先生が申されたように、(1)電気量の節約、(2)燃料の不要、(3)作業をしやすく且つ能率を高める等の観点から考案されたのであるから、今日燃料問題もなくなり、電力も増加し、又加温液の合理的な研究等によって、すっかり保守性とは申さぬ迄も、一般にはやはり加温液が使われている。硬質クロムという特異性は到底常温クロムでは出来ない相談である。そこで常温クロムはその特性を活かしてその方向に伸びるべき存在だと考へる。

東洋電鍍工業の自動車バンパーの常温クロムは液量と加温と数量の三因をよくこなしたやり方だと思う。

私のところでは都電のツカマリ棒(約6尺)厨房機器の大物(12尺といったもの)は總て常温クロムで用が足りている。また、真鍮の直クロムも實際に行って可能である。宮田製作所の硼酸化浴は小物用として特異な存在である。勿論宮田製作所の場合引掛に相当の研究が払われている。また、私が勧めて常温クロムで充分自転車物をこなしている工場もある。

常温クロムを行なうに際して、色と硬さが劣るという劣等感を持つことが一番困る問題

である。また、古い職人といわれる人達の頭にはまだ新らしいことを嫌う面、いいかえれば保守的な性格が濃厚である。それが尚一層常温クロムの常温という言葉を直ちに劣等に感ずる原因である。不可能な製品には無理にお奨めできないが、数の少ない大物とか特殊な品物に対する常温クロムの寵用は極めて広い。

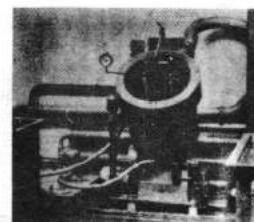
次にメッキ液の疲労はどうか、5年間にどう変ったか、どういう現象にぶつかったかについて記して見よう。先づ第一に大切なことはクロム酸を充分に補給することである。それから現在のところ鉄槽であるから、長い間にクロム酸鉄とか弗化鉄として溶けて次第につき廻りが悪くなることである。この現象は中々避けられない。その場合は素焼円筒による除去がよい。それと同時に弗化アンモンの添加によって液の疲労回復を図る必要がある。又クロム酸を適量づつ平均に添加することがいつも均一なメッキをつけるのに大切である。1月に100キロ消耗する仕事なら、それを毎日に分けて加えるとか、3日に1キロ加えるようにすれば、まず平均なメッキが可能といえる。弗化アンモンの添加は特別に悪い結果が現われない限り加えなくてもよい。硫酸クロムも同様である。私のところでは液量約300ℓのものであるが、液を作つて以来硫酸クロムは添加していない。又弗化アンモンは3月に1本位の割で（今年にはいってから）加えるよにした。23年から27年迄は全く加へず済ました。結局クロム酸の補給のみで、どうやらやってきたのであるが、本年に入つて若干つき廻りのやかましい品物と取組んで弗化アンモンを使ったのである。あまり弗化アンモンを多量に使うことはよくない。それはタンクを弱くするからである。

いま私のところのタンクは厚さ約5mmの鋼製であるからチヨットは破けないが、2mmや3mmの鋼鉄では酸素溶接の継目からどんどん腐食を起すので、タンクを二重壁に製作して液の漏れを防ぐことが大切である。しかし驚ろかなくともよい、そう簡単には漏らないから1年位は大丈夫のようである。安全のために二重壁をお勧めする。これは私の失敗から來た忠告である。一晩のうちに全部漏らした苦い経験がある。

結論として、常温クロムはまだまだ発展性

があると。そして小篠先生の大なる笑いを偲んで筆をおく。

写真は、最近ドイツから輸入された廻転クロムメッキ装置、清水、福井氏設置。



28・11・10

ニッケル事情を聞く

日本鍍金協会は11月10日午后6時鍍金会館で例会を開いたが、

小見山、林、大沢、平賀、高頭、村田産業能勢、清水、福井、渡辺、綱島、加治、安部、小暮、青木、井上、木下文、田島、長谷川、山中、四国電機、海野の諸氏が出席綱島幹事の司会で先づ住友金属鉱山営業課の中島氏から最近に於けるニッケル事情と共に住友ニッケルの製産に関する説明を聴いた後メッキ用としての需給に就て腹蔵なき意見の交換を行つた。次で伊豆修善寺に於ける鍍友会との交歓会の映画、青森りんご園撮影旅行のカラースライド、完成したメッキ教育スライドを観賞した。

終つて11月17日鍍友会と合同して名古屋業界を見学し四日市で交歓会を催す事に決定した。

28・11・16・～18

名古屋見学

日本鍍金協会有志は11月16日夜11時土曜会有志と共に東京駅発、翌朝16時名古屋着、中央製作所の斡旋で大型バスを馳せ知立鍍金都梅鍍金を見学、大阪鍍友会と合流し、小山鍍金、中央製作所、名古屋鍍金、佐竹鉄工所を見学した後名古屋有志を加えて42名、湯の山温泉に赴き寿亭に1泊交歓会を催し18日帰京。

尚2月中頃白浜で交歓会を催す事に決定し大阪側で準備中である。



工業用途としての 合成繊維サラン（一）

角田吉雄

合成繊維サランは既に前回
年次会レポートで述べて置いたが、其の後
に更に進歩された。其の点は
①スマッシュドガルバ化
ビヨードの配合に従事して
機械装置に対する強度を増し、
またサラン熱可塑性の解
説を始めた。やがて二月、
日本鍍金協会にて開催された
ナラモ等による講習会
依頼品種を持つ半導線
電線、ラジオメタップ用
ビリヤード球成分となる
事であるが、その意義をうか
さづ、ケイムーCによつた
日本国有化銀行、大通社
サラン熱可塑性を行なう
に行はれらるるが、な物
ナラモ等は既にサランを
塗体である。先の空気導管に
ナラモ等は既にサランを
塗体である。先の空気導管に

28・12・10

米国の新鍍金法を聞く

日本鍍金協会は12月10日午後6時鍍金会館で例会を開いた。

平賀、尾崎、林、岡崎、高頭、小暮、菊地、小島、井上、能勢、青木、羽成、綱島、木下、田島、梅沢、山中、長谷川、茂田、今村、中村敏、木下、坂手、小見山、福井、大沢、

諸氏出席、暫らく自由会談に時を過した後綱島幹事の司会で開会。定方先生より最近の米紙に発表されたスルファミン酸を使ったニッケル鍍金に就てその発達と実施に関する詳密な講演があり終って質問応答を行ひニッケル鍍金の将来に於ける飛躍に関心した。それより小見山幹事から新会員高崎市茂田重雄氏を紹介した上新年会に就て提案した結果慣例に依って新春十日会鍍金会館に於て目出度く楽しく開催する事に決定した。——尚当夜は各商社より発売した新製品4種を紹介しそれぞれ説明書を配布した。

29.1.10

鍍金協会の新年会

新春を迎えた日本鍍金協会は1月10日午後1時、鍍金会館で新年会を催した。出席者は服部、田島両先生を中心として中村、梅沢、小島、木下、坂手、長谷川、小見山、綱島、能勢、平賀、茂田、青木、井上、高頭、岡崎、菊地、林、加治、本間後藤、八幡、福井、山中、大沢、長橋、小林、清水、黒坂、井上の諸氏

並に四国電機、近藤タンクの両社。歓談時余の後、小見山幹事の司会で開会、一同賀觴を挙げて新年の御慶を交換し丸文美人の斡旋で盛んに談ずる裡、服部、田島先生の賀辞があり、次で高浜二郎氏の所感に対し服部先生、岡崎、長崎、両氏の感想があった。それより祝酒更に幾巡和氣益々発展、満堂希望に満ちた新年の奮闘を約しあって散会したのは午後7時であった。

日本鍍金協会の新年会 人代取人部社員



29.2.10

鍍金協会2月の例会

日本鍍金協会は2月10日午後6時鍍金会館で例会を開いたが、出席者31名、綱島幹事の司会で講師加瀬敬年氏を紹介、加瀬氏は光沢ニッケル鍍金実施に就て研究と実験の成果に基き1時間に亘り講演し、普通液に依る実施見本を展示して、全光沢への進路を解明した。次に映画に移り、青木氏の名古屋見学、大沢氏の大坂訪問飛行、安部氏の伊豆清遊に関する映画を観賞した後、来るべき大阪見学に就ての打合せを遂げて散会した。

29.2.16

歓歎を極めた東西交歓

日本鍍金協会有志は2月16日午後7時半東京駅発で大阪訪問、翌朝7時着、森田屋で少憩の後、鍍友会の斡旋で大和、ナショナル、三洋、旭、ラヂ、佐藤、高良の7工場を見

学したが、夜は鍍友会のやさしいメッキ読本発刊記念を兼ねた総会に参列して盛歎を極めた。

次いで18日紀州白浜に赴き東西交歓会を催し縦横歓談を遂げ（出席30名）1泊の上帰京したがこの行には京浜研究会有志4名も参加した。因みに大沢、福井、木下、岸、鈴木、諸君は帰途、京都に立寄り機械工業指導所を見学して21日帰京した。

鍍金業界の長老

Mr. George, A Hogaboom 逝く エブラ・A・ブラウント

1953年12月31日米国鍍金協会の初代会長であり、現名誉会員であるジョージ・B・ホガーム氏が永眠されました。氏は1874年6月26日生れで程なく80才になられ、ようとしていました。

あらゆる組織や産業にはその組織、産業に対して長い才月を経て離れ難い密接な関係に固く結びつけられた印象的な人物を見出すことができます。鍍金業界及び米国鍍金協会にあってのそうした人物こそホガーム氏なのであります。鍍金業界における氏の貢献は目録にすることが困難である程に無限であります。実際に今日産業に活動している殆んど全ての人々が少くとも或る程度はホガーム氏のお蔭を蒙っているのであります。ホガーム氏はその経歴の初期において当時一般の風潮であった鍍金室の秘密保持という考え方があることであり、又鍍金技術者の地位とか働きかけは唯教育に依つてのみ向上させ得ると考えられました。ホガーム氏の、鍍金液分析の重要性や生地金属の清浄、そこで完全な鍍金の実施を力説する鍍金知識高揚に就ての努力は、プラム博士と合作の「鍍金及び電鍍の原理」に表わされています。この鍍金の指導書は三版まで発行されて全世界に普及して居ります。ホガーム氏は米国鍍金協会大会や支部会談等でよく講演され、又広い範囲に亘っての通信を続けられました。氏は常に何か問題を持っている鍍金業者から相談相手として利用されて居られたのです。氏が選ばれた分野に対する心構えを示すものは1968年における米国鍍金協会の第36回大会での意見発表で、私の友よ、重大な抗議に就ての仲間

29.6.10

南北アメリカ視察を聞く・

日本鍍金協会は6月10日午後7時から鍍金会館で例会を開いたが、

岡崎、平賀、菊池、能勢、山中、福井、清水、渡辺、梅沢、青木、井上、木下、小見山、中村、坂手、林、田島、小暮、高頭、羽成、長橋、福地、長谷川

諸氏並に四国電機の出席で暫く自由会談を行った後、菊池幹事の挨拶に統いて宮田製作所井出三郎氏の南北アメリカ視察談を聞いた。同氏は今春2月渡米、見本市に関与して北米からメキシコ、パナマ、グアテマラ、ペルーブラジルを廻り最近帰国したが、15年前にも同様各地を巡遊した事があるので観察徹底し愉快な且つ深刻な、そして重要な話題に時の移るを忘れた。終って2・3会務に就て福井氏の報告があった。

29.7.10

鍍金協会7月例会

日本鍍金協会は7月10日午後7時から時間効行で会館に於て例会を開いた。大沢氏撮影の映画二巻を映写した後、木下幹事の司会に依って安部氏のドイツ廻転クロム鍍金に関する映画に依る解説があつて非常に注意を喚起した。終って服部先生古稀祝賀の件を協議した後、福井氏から石田先生の受賞祝賀会の報告と共に大阪の近況に関する感想があり、散会した。当夜の出席者は次の如し。

安部、大沢、平賀、近藤、清水、尾崎、本間、綱島、福井、木下、長橋、八幡、岡崎、木下、菊池、渡辺、小島、小暮、井上、乾卯、後藤、今村、小見山、長谷川
の24名。

29.8.10

日本鍍金協会8月例会

日本鍍金協会は8月10日午後7時湯島の岡の鍍金会館で例会を開いた。出席者は服部先生を初めとして

岡崎、林、平賀、綱島、加治、小見山、小島、能勢、小暮、木下、田島、菊池、山中木下、後藤、井上、福井、坂手、中村、成毛、四国電機の諸氏

木下幹事の司会で開会し講演、インドシナの国情に就ては、レ・バン・クイ氏が突発事情

のため出席不能となつたので中止、主題なしの自由会談に変更し幹事より諸般報告があつた後、互に席を移しあつて談笑したが、その間日産自動車吉原工場見学の計画が発表され月末実行の予定を申合せた。

29.8.28

川沿に清遊

日本鍍金協会有志10余名は8月28日午後1時浅草雷門駅に集合。東武電車で川治温泉に赴きかしづやに投宿して最近の時情に対する懇談を遂げ、清遊1泊の上翌日帰京した。



写真は真空メッキ講演会当日実験参觀

のため東京大学工学部総合試験所にて

29.9.10

興趣漲る鍍金協会

日本鍍金協会の9月例会は同月10日午後7時鍍金会館で開会

岡崎、平賀、森田、井口、井上、長橋、高頭、中村、綱島、八幡、福地、大沢、小島、小見山、井上、長谷川、小暮、尾崎、宮下、菊池、梅沢、能勢、福井、木下、田島、渡辺、中村、四国電機の諸氏

が出席、服部先生も元気よく出席され、先ず新会員の井口博雄、森田達夫、宮下光弥の3氏を紹介した後、新発明の鍍金の厚さを測定するSQメーターに付高畠力氏の説明及び試験があり、次でビニール質砥輪の説明があつて興味と関心を呼んだ。終って井上喜夫氏は銀並にロヂウムの鍍金に関する実験報告を行つた後質問応答を重ね盛況裡に散会した。

29.10.10

活性炭を追究して

日本鍍金協会は10月10日午後6時鍍金会館で例会を開いたが出席者は11名、木下幹事の司会で服部先生からメッキ液ろ過に伴う活性炭の作用及び使用に関して未発表の重要な事

実を詳密に解明されること2時間に亘り、今秋第1の有益な講演であった。

一時間360本のパンマーを自動メキシする

鶴見二段

機械運営の高精度化が図られ、既存の装置の費用をもとにそれを充てたコストを削減する方法に著しい進歩がある。といふ趣旨で鶴見二段氏による講演は、機械の自動化を主な目的と定めて行われた。この講演は、主に自動パンマーの開発とその実用化について述べられており、パンマーのノーマルモードと特殊モード（人間的な操作）が併用される構造と、アラーム式メカニズムによる操作の自動化が実現された。また、運転台の位置を操作室に移動させることによって、作業員の負担を軽減するための新技術が紹介された。この講演は、パンマーの運営と設備の改善に関する有益な情報となり、多くの出席者から注目された。



29.11.10

鍍金協会11月例会

日本鍍金協会は11月10日午後6時より東京鍍金会館で例会を開いた。出席者33名
菊池幹事の挨拶によって開会し定方金蔵先生の『最近の東京鍍金工場を廻りて』と題する講演があったが、近時に於ける作業及び設備の改善に関する詳細な説明と批判は感銘的であった。それより木下幹事の司会で五味氏の新製作油入セレン整流器の披露、次で活性炭ビニール器具等の紹介があった後名古屋市に於ける東西交歓会に就て協議した。

29.11.20~22

鍍金協会東西交歓会

東西交歓会のため会員有志10名は11月20日夜11時東京駅発、翌21日名古屋工業大学の講演会に於て大阪鍍友会一行と会合し、犬山に転進して井膳に投宿、デフレ対策に就て討論した後懇親会を催し、22日朝解散、工場見学に、京浜視察に任意のコースをとって帰京した。



29.12.10

歳の晩の鍍金協会

日本鍍金協会は13月10日午後7時東京鍍金会館で歳晩の例会を開いたが、出席者は

高頭、茂田、木下、菊池、清水、平賀、井上、井口、長谷川、能勢、福井、綱島、福地、岡崎、五味、八幡、坂上、小林、野上、木下、田島、尾崎、坂手、木下、青木、宮下、後藤、四国、乾卯、大沢、羽成、中村の諸氏で、菊池幹事の司会で開会し、福井氏から名古屋に於ける東西交歓会を中心として大阪、名古屋の近況を詳細に報告した後、八幡氏の補足があり、大に満場の注意を喚起した。次で木下幹事から吉例の新年会開催に就て発案したが正月10日会館で開催する事に異議なく決定し即時大多数の参加申込があった。そのあとで、会務に関する報告協議を行い新訳海外資料を頒布して盛歓裡に散会した。

最近に於ける交流光沢鍍金法の前進を紹介し、それより友野理平氏の『交流法、PR法の効果』に関する感銘大なる講演が行われた。

次で新会員清野、岡氏の紹介と東西交歓会の打合せを遂げて散会した。



30.3.13

東西交歓会湯河原で

日本鍍金協会有志10余名は3月13日湯河原に赴き、翠明館に投宿、大阪鍍友会有志10余名の東上を迎えて合流し服部、石田両先生へ謝恩を兼ね交歓会を催したが、翌14日相携えて入京し、工場見学、鍍友会側は水光閣に投宿して15日も見学を続行し、同夜帰途に就いた。



鍍友会一行を迎へて
東京鍍金会館で
福井西祐司撮



30.4.10

新光沢鍍金の報告

日本鍍金協会は4月10日午後7時から鍍金会館で例会を開いた。出席者は

高頭、山下、林、尾崎、綱島、難波、井口五味、小島、岡崎、福井、中村、井上、大沢、後藤、菊地、植木、小見山、坂手の諸氏並に四国電機五味氏の最近の研究に依る

A. 補助陽極法による光沢鍍金

B. 不完全電流による光沢鍍金、

に就て実験成績を報告した。終って定時総会は5月10日会館で開く事に決定、更に2・3の報告があった後各自自由会談を行った。

30.5.10

鍍金協会定時総会

日本鍍金協会は5月10日午後8時から鍍金会館で定時総会を開いた。会に先って服部先生の講演を予定してあったが、急病のため欠席されて中止した。出席者は

木下、平賀、青木、林、高頭、山下、松井岡、綱島、小暮、岡崎、坂手、小島、清野井口、中村、梅沢、長谷川、海野、井上中央製作、四国電機、乾卯薬品の諸氏で木下幹事の挨拶があつて開会、座長に坂手氏を挙げて直ちに日程に入り、29年度会計報告は小島氏の説明があり異議なく承認。次で委員改選となり特に投票制を採って選挙の結果

福井、小島、坂手、大沢、小見山、岡崎、木下健、中村敏、木下文、高頭、の諸氏が当選したが、幹事改選は新委員の銓衡に一任したので別室で委員会を開き協議の結果中村敏、木下文の両氏に決定した。懇親会に移って協会のため新会員のため旧委員のため乾

益、それより国際見本市、自動車ショウの見学を申合せた後、自由懇談となり、中井、小林、岡崎、山本、木下諸氏の民謡くらべがあり、最後小島氏の音頭で元気よく手を締めた。

30.5.14

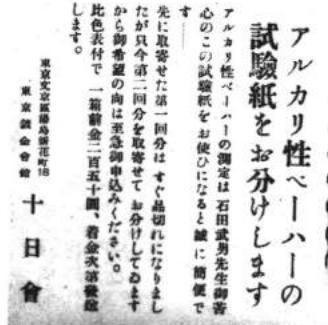
国際見本市を見学

日本鍍金協会の国際見本市見学は5月14日晴海会場に午前10時を期して集合、参加10余名、熱心に各館出品を検討して午後4時過、終了。夕食を共にして散会した。

30.6.10

初島遊覧

日本鍍金協会は6月例会を日産自動車見学に振替え10日午前8時東京駅に集合、一行10余名8時半発で出発し、11時半鈴川着、日産工場係員の出迎えを受けて工場に赴き少憩の後、活気漲る部品製作から自動車完成に至る一貫作業を見学したが、同夜は熱海富士屋ホテルに宿泊、業界時事に就て意見を交換しつゝ夕食と共にし、盛歓縱横、翌日は初島に渡って弧島の情景を賞し伊東に廻遊して上陸、同夜帰京した。



つり針のメッキ 高浜二郎

つり針の金メッキは東京では細井鍍金と大久保鍍金が独占的にしているが、その事はメッキ業界でもあまり知られていない。

細井さんがずっと前に、千葉県へハゼ釣りにいった時、おもりにお手のものの金メッキをしたのを使った。すると、周囲の人は甚だ不成績なのに、細井さんばかりはちゃんとつなづれた。そんな事から金メッキしたつり針がよいと考へられ、更に海の魚のみならず、川の魚も金メッキのつり針を使へばよくつれ

ることがわかった。

ところで、つり針のメッキは勿論ガラで行なうが、なかなかうまくいかないので随分苦心を重ねた。一時は投げ出しかかったが、兎に角も頑張りぬいて今日の成功をみた。

つり針は播磨の東条あたりで、農村の副業にして製造される。それを問屋が買い集めて、研磨したものをメッキ工場へ持ち込む。地金は鋼である。それに銅メッキをつけて、金メッキで仕上げるが、その工程に口で云えないコツがある。

細井さんと大久保さんは同胞なので仕事の上に何の磨擦もないのであるが、これが他人だったらとても平穏に凌いでくることはできなかつただろう。特約の問屋の仕事でなければ引受けないので、どの問屋もみな特約の問屋を通してのみ仕事を頼むという不文律が成立っている。

ほんとうに偶然な事から新らしい進歩が生れる。金メッキしたつり針は餌を透して見えないのでよいと考えられるが、或は光が魚を誘いよせるのでもあろうかと考えられる。どちらにしても新事実である。

つり針はデンマークが世界的に生産地として知られているけれども、それにくらべるとメイド・イン・ジャパンが防錆力が強いので好評、米国へもかなり輸出されているという。

何でもなさそうなことに大きな意義があり、それも偶然にして発見される場合が多い。

人間生活の尊厳はそんなところにあることがいえるだろう。

30.7.10

新風味満々たる例会

日本鍍金協会は委員改選に依って運営を更新し先づ6月には見学と親睦の旅行を行ったが7月には新風味満々たる例会を催した。

10日午後7時鍍金会館に

林、木下文、山下、大沢、平賀、田島、岡崎、福井、井口、五味、清野、中村、小暮梅沢、能勢、海野、井上、木下健、高頭、後藤、尾崎、坂手、青木、長谷川の諸氏並に村田産業、乾卯薬品の両社

出席、中村幹事から思い出なつかしき初期例会の張り切った相互研究を回想しつつ益々と友情の上に力ある運営を行いたく従つて全会を挙げての新たなる協力を願いたいとの真率

な要請があり、次いで福井氏の『青化銅廻転鍍金に於ける設備並に鍍金液の管理』に関する報告を詳述して説明明快、1時間に亘って完了した。それより、新名簿の作製を決定した後、2・3報告があり、中村幹事から諸氏の共感に依って楽しき例会を持ったことを感謝し散会した。

実用メモ

梅沢茂雄

■そのI 鉄槽の危険性

カドミウム液が不調になった。内張りなしの鉄槽である。

現象としてアノードの不溶が認められる。青化物の添加も効果がない。その内に他の2槽も変調した。この方は木槽である。

100% 電解効率のカドミウム液、充分なアノード、それがどうして溶けないのか。

依頼した分析の結果によれば、金属分3、全シアン21、炭酸ソーダ、鉄多量とあって、金属分を回収して廃棄、新液をたてた方がよいとの事である。

これは致命的である。廃液の容量、場所、新液の費用を考へると、現在液は捨てられぬ。

原因は不明であるが、金属分の不足は足せばよい。炭酸ソーダは炭化カルシウムで処理すればよい。鉄分は原因をふさいでウォーキング・アウトする。有機物は活性炭素に吸着させればよい。そこまでまづ、浄化剤を添加してかき廻すと、泥水が蛸の墨を吐いたようになった。これを一晩放置して、翌日次々と炉過しながら槽を掃除、鉄槽に至って驚いた。アノードの裏側に2cm厚にカドミウムが鍍着していたからである。原因はこれであった。濾過後金属を加えて作業を終了したのであるが、内張りなしの鉄槽を御使用の向は是非御注意願いたい。

アノードがこの親不孝？

鍍着に接触して槽全体がアノード化し、金属溶解を妨げていたもので、その結果、同一電源に属する他槽にも不調を及ぼしたものと考える。

鉄槽の不利は電流のロスに止まらない。液中に鉄分の増加、電触による穴、私の場合の不調等、一度損害を受けたとなると、内張りの経費などむしろ安価といえる。

■そのII 濾過機

こうした泥水のような液を急速炉過する場合、素焼炉筒式のものではすぐに詰って、手間どるのではなかろうか。私はナイロン濾布の福井式のものを吾パイプ、ギャーポンプ300RPMで反覆使用し、半日で再生せしめる事ができた。

十連装自動式廻転鍍金

日本鍍金協会7月例会記録 中村敏一

最近鍍金界も世相の圧力が加わって経済方面の問題が多くなり、このために月の何日かの日程が変更されて、経済的に煩わしくなった事は誠に残念です。この際、福井通裕氏が現場の体験から構想された青化銅廻転鍍金の日本のモダンセットについて報告されましたことは大いに会員一般の勇気を新たにしたと思ひます。ここにその報告の概要を紹介しましょう。

I 10連装自動回転タンク

実際には旧設備が7連装でありましたが、これは手動式のもので、三人の人員を要しました。それが新造の10連装自動式に取換えられ既に2ヶ月実働しています。

1.バスケットの大きさ

1.1×2.0尺(旧1.0×1.6尺)

| | |
|------------|-----------|
| 2.バスケットの数 | 10 |
| 3.バスケットの移動 | 自動 |
| 4.タンクの容積 | 2000ℓ |
| 5.鍍金時間 | 1時間 |
| 6.所要電流 | 600~1000A |

これを運転するために要する人員は1人でありますから、旧に比較すると2人の減員となって、その給与だけでも 30,000×12=360,000円 が毎年プラスになるのであります。

II 鍍金の厚さ

鍍金液組成は中濃度級のもので、これでクリンスも可能ということです。鍍金の厚さは大体において1000分の10ミリであろうとのことです。

III 温度と保温

鍍金液の温度は30~40℃です。加温には2kwの電熱器を2本使用します。又保温のためイソライ保温材でタンクの周囲を築いてあります。

IV 濾過機及び純水装置

鍍金液は福井式炉過機を用いて常時炉過が行なわれ、金魚でも泳がせたい位に透明度が良好です。このために補充用水として純水装置がフルに使用されています。

V 結び

前述の如く、設備の方向が非常に大きいことは、日本の鍍金業としての殻から飛出し、企業的分野へ一步近づいた気がして、日本鍍金界の為に實に気持のよい報告を得たことを紹介したのであります。最後に、福井氏の思い切った報告に対して心から感謝します。

30.8.10

張切った鍍金協会の例会

日本鍍金協会の8月例会は月の10日東京鍍金会館で開かれた。出席者は

井口、岡崎、平賀、木下、綱島、山下、中村、高頭、清水、能勢、五味、小見山、小島、井上、尾崎、鈴木、木下、後藤、福井、堀米、菊地、福地

諸氏並に、服部先生と中央製作、四国電機、乾卯薬品の各社で暫く自由会談を行った後、中村幹事の挨拶があり、会館研究室として高浜氏が我国に於ける最初の光電比色による鍍金液の迅速分析に就て第一回発表に対する結果報告を行い、次で青木技術員から該装置の説明と共に分析技術の進行状況を報告し、それより全員交互に研究室に入って技術の実際を見つ、亀谷指導員の説明を聴取したが、終って井上喜夫氏から金、銀、鍍金に関する特技及び米国の浸漬鍍金組成に就て報告があり、その後は名簿資料も提や分析事業の運営に対する打せを遂げて終始張り切った気分で10時閉会、全員手分けして、跡始末を行い友情蕩々として解散。

30.8.21

鍍金協会熱川に清遊

日本鍍金協会有志は8月21日午前11時東京駅に集合、伊豆熱川に赴き、大東館に一泊して親睦会を催し、縦横懇談を遂げて、翌22日帰京した。

30.9.10

貴重な現場からの報告

9月10日午後7時から東京鍍金会館で例会を開いた。出席者は

福井、平賀、岡崎、坂手、高頭、岡、井口、綱島、尾崎、海野、渡辺、松井、大沢、木下、能勢、鈴木、福地、井上、小見山、八幡、田島

の諸氏と安部先生及び乾卯薬品、四国電機の両社。

中村幹事の司会で会員名鑑作成の準備に関して

A. 長期欠席者 B. 脱会申出者

C. 資料不提出者

の取扱方を協議した後会員の実験報告に移つて

メッキ液に振動を加えるとどうなるか

岡崎友勇

アルミニウムのメッキの工場実験

高頭秀夫

等が講演されたが、何れも現場作業における貴重な研究の成果であるから満場の感動を呼んで質疑応答が熱心に繰返された。

次で日本ソーダ二本木工場見学につき、中村、福井両氏の報告と東西交歓会に関する協議を遂げて散会した。

電気不用のクロム鍍金 三宅静男

この前にも電気不用のニッケル鍍金について研究発表したハリー・ジー、ウェスト氏がこんどは電気不用のクロム鍍金の興味ある実験の結果を発表した。

1. その特徴

それは電気鍍金に比し遙危なく簡易であるのが特徴で、鉄には錯酸を使用するが、非鉄金属即ち銅や真鍮には錯酸を使用しない方がよく、でき上りは殆んど電気鍍金した物と区別がつかぬ。下地の工程は今迄と同様で、最初液から上げると柔軟性の灰色がかかったクロムが着いているが、然し大丈夫で、曲げてもはがれず、バフをかけると光沢がでる。最も特徴とする点は深い溝のある製品とか、角及び穴の部分に電気鍍金では引掛や極板に苦労を要するが、そう云う心配がない事であり下地

に電気不用ニッケルを施しておくと一層好成績である。鍍着も早くて一時間に0,0001吋の厚みが得られ、今後改良されればもっと短縮されるであろう。尚廻転鍍金の場合は高温なためルイサイトを使用する方がよく、静止鍍金の場合でも、磁器か硝子をライニングしたものを使用するのがよい。

2. 液の組成

液の組成は2種あるがそれは下記の如くである。

| | 第1型 | 第2型 |
|----------|----------|----------|
| くえんさんソーダ | 32g | 32g |
| 次亜磷酸ソーダ | 32g | 32g |
| 弗化クロム | 64g | 64g |
| 塩化クロム | 4g | 4g |
| 氷醋酸 | — | 40cc |
| 20%か性ソーダ | — | 40cc |
| 水 | 1ガロン | 1ガロン |
| 温度 華氏 | 160~190° | 160~190° |

液の調整は最初に三分の二の水を150° Fに沸かして弗化クロムを加え、それが溶解すると塩化クロムを入れ、続いて枸橼酸ソーダ、及び次亜磷酸ソーダを加える。以上の薬品はすぐ溶けるから、後に三分の一の水を加える。第II型の場合は醋酸、か性ソーダを最後に加える。尚弗化クロムは非常に有毒であるから注意されたい。

液は8時間位連続して使用できるが、毎時1ガロンの液量に対し10gの次亜磷酸ソーダを補充し、もく液が非常に硬くなつたような場合は前掲の薬品の二分の一の量を足していくと、全然液を廃棄せずに数日間の使用に耐えるし、また液を炉過すれば更に効果がある。

3. 操作の注意

鍍金前の工程は、1.脱脂、2.清浄、3.水洗、4.塩酸(50%)浸漬、5.水洗で、品物を液槽に入れる とこの表面に水素を発生するのがわかるが、これが順当な鍍金が着いてくる証拠である。しかしまだ液の調子が狂っていたり、塩化クロムの過多である時も同様な現象を呈し、判断に困るような場合がある。液中で何らの反応も起らない場合は鉄片を品物に接触させてやる。

鉄、銅、真鍮を一諸に鍍金すると非常に工合がよい。時たま鉄だけ鍍金が着かない時が起るが、銅や真鍮には非常にキレイに着く。

だから鉄のみを鍍金する時には最初に銅を一寸さしてやるとよい。これによつても訳るよう非鉄金属の銅や真鍮に最も適しているのである。第II型は鉄のみに適しているが、銅真鍮等と一諸にやると一層よい。この液は一時間毎に次亜磷酸ソーダ10gを補充すると同時に氷醋酸と20%か性ソーダの10cc位を加えて行くようとする。

小物の鍍金には廻転式を應用すれば技術的にも多少の困難があるのでせよ工合がよいと思う。

30.10.10

光沢メッキ実験会

日本鍍金協会は10月10日午後6時から鍍金会館で

直流交流混用の光沢鍍金を追究するため実験会を開いた。

清水、林、平賀、小見山、尾崎、五味、井口、小暮、高頭、山下、後藤、綱島、木下堀米、山中、羽成、青木の諸氏が出席。

少時座談を交換した後研究室に入り清水氏を中心として

交直混用に依る光沢銅の実験を行い、次でスルファミン酸ニッケルの実験を行い、この間清水、五味氏の説明があり、更にハルセルに依る試験をも行った。

30.10.20

鍍金協会10月例会

日本鍍金協会は10月20日午後6時から鍍金会館で例会を開いた。出席者は

福井、高頭、青木、中村、小島、岡崎、高橋、尾崎、渡辺、梅沢、八幡、木下、田島鈴木、山下、大沢、小暮、菊地、幹卯薬品諸氏で、中村幹事の司会で開会、梅沢茂雄氏の現場経験に依る実用メモが発表され且つ質問応答。次で

渡辺義一氏の弗化クロム鍍金実施成績に関する詳細な報告があった。

それより東西交歓会を機とする四国訪問から京阪視察の旅に就て福井、中村両氏の報告を聞いた後

名簿作成に就ての協議を遂げた。



30.11.10

鍍金協会11月例会

日本鍍金協会は11月10日午後7時から東京鍍金会館で例会を開いたが、

尾崎、小暮、平賀、高橋、松本、木下文、五味、小見山、高頭、福井、岡崎、福地、鈴木、菊地、綱島、小島、羽成、山中、田島、香西

の出席、木下氏の司会で日程に入り

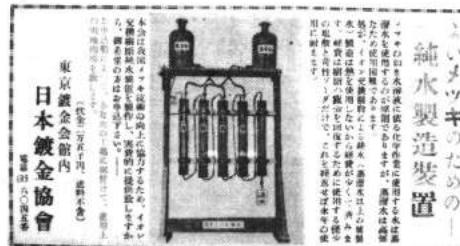
A. 光沢ニッケル鍍金の実際作業

尾崎満男

B. ニッケル鍍金に就て

菊地 透

両氏の報告後意見の交換を行い、終って自由会談に入った。



30.12.10

祝賀会

日本鍍金協会は12月10、名譽会員高浜二郎氏が11月3日栃木県文化功労者として表彰を受けたのを祝すため例会を特に祝賀会に改め午後1時東京鍍金会館で開催、服部、安部両先生を初め

大沢、井口、中村、木下、清水、山下、平賀、岡崎、高頭、能勢、高橋、青木、福井八幡、後藤、木下、坂手、五味、小島、渡辺、小見山、香坂、中井、香西の諸氏が出席、大沢氏のカラーモービーの映写を楽しんだ後、開会して中村幹事の挨拶、次で大沢氏が協会を代表する祝詞及び服部先生の祝詞が

あって感激に満ちた高浜氏がしどろもどろの謝辞を述べ宴に入った。木下健氏の観亀を皮切として服部先生、中井氏その他の歌となり豪興満々、午後6前に会を終った。

| |
|-------------------------------|
| 液の試験を致します 電話が開通しました 十日会 |
| 東京鍍金会館 「小林君の報告」 |



◇懇親会で、左は中島教育委員長



◇祝賀会に招かれて



高浜氏は過去40年に亘って、偉人蒲生君平の実蹟を研究し栃木県の文化のために貢献した功績によるもので、10月4日の栃木県教育委員会に於て満場一致で決定されたものである。

氏は大正年代御徒町の小林事務所に入所、東京鍍金同業組合の委託事務を担当し、同時に「鍍金」を編集発行し当時から私叔する偉人の事蹟を調査したり、鍍金の歴史的な文献を集めていた古い鍍金関係人で情熱の人である。

有名社会人とも交遊が深く、史蹟考証家として同氏の足跡は日本全国に及んでいるが今般栃木県から蒲生君平の研究について、文化功労者として表彰を受けた事は我が鍍金業界としても大いなる誇の一つである。

31.1.10

若返りと前進え

希望ある昭和31年を迎えた日本鍍金協会は1月10日午後2時東京鍍金会館で吉例の新年会を催した。

木下、綱島、清水、福井、五味、林、渡辺小林、岡崎、高頭、菊地、坂手、高橋、岡能勢、山下、青木、松本、長谷川、木下、後藤、堀米、小島、羽成、山中、井上、海野、田島、村田、香西、中井、香坂、近藤及び安部、服部、田島の3先生が出席
木下幹事の司会で清水氏から

銅メッキに不完全整流を応用した実際に就て報告があった後、名簿配布に因み高浜氏より報告があった。

宴に入り小島氏の賀辞によって乾盃、安部服部、田島3先生の年頭の言葉があり、次で福井、長谷川両氏は率直な新年の期待を述べ高浜氏の所感を挿んで坂手、岡崎両氏亦新年の方向を述べ、更に協会の若返りと前進に就て意見の交換が行われたが、高浜氏の動議で臨時総会を開くこととして規約一部変更して新入会者の入会金は従来金千円であったのを改め1万円とする事。

に満場一致の拍手で決定して総会を閉じた。

それより賀觴幾回かめぐれども止ることなく歌声大に揚って或いは独唱に或いは合唱に生氣瀰漫、愉快な仲間の面目を爆発したが、6時を過ぎて小島氏の発声により堂々手をしめて目出度く散会した。

会員名鑑

(1955年版)

J. E. P. S.
日本鍍金協会
株式会社小見山鍍金工業

31.2.10

感動を呼んだ高周波滴定法 に依る鍍金液の分析

日本鍍金協会の2月例会は10日夜7時から東京鍍金会館で開いたが、出席者は安部先生を初めとして

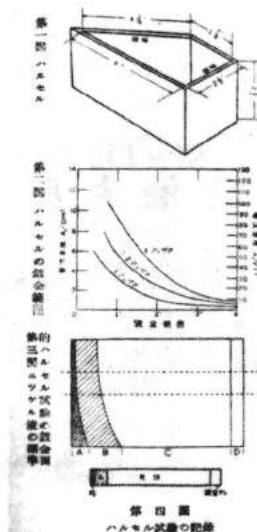
井口、大沢、長谷川、五味、木下、福井、坂手、小見山、小島、尾崎、中村、田島、山下、高頭、梅沢、小暮、綱島、菊地、岡崎、鈴木、香西の諸氏で

中村氏の司会に依り、五味氏から新製品電解脱脂専用の油入冷式セレン整流器の紹介があった後、安部先生から

高周波滴定分析法に依る鍍金液分析の実験成績に就て詳細な講演があり感動を呼んだ。

それより木下氏は新年会に於ける要望の処理に就て運営委員会で研究した結果を報告し9時半散会した。

尚会合時間が問題となつたが今後は午後7時開会、9時閉会を完全実行する事にした。



31.3.10

在間氏の中共談を聞く

日本鍍金協会は3月10日午後7時から時間尊重で例会を開いた。出席者は

井口、岡崎、高頭、山下、小暮、岡本、木下、田島、小見山、能勢、井上、清野、小島、尾崎、中村、林、長谷川、平賀、木下の諸氏並に千代田、四国電機、乾卯薬品の各社。中村氏の司会で昨秋中国を視察した在間

朋次郎氏から『中共見たまま』の題下に毛沢東を中心として活発に新興しつつある中国の現状を詳密に語られた。少憩中に新規入会の

正会員 岡本光康氏

賛助会員 キクヤ研材KK

の紹介があり歓迎した。

その後在間氏の講演を続行、感銘を以て終了した。

31.4.10

4月の例会

日本鍍金協会の4月例会は4月10日午後7時から東京鍍金会館で開いたが、

井口、後藤、綱島、岡崎、高頭、山下、松井、尾崎、海野、福井、中村、青木、坂手梅沢、平賀、長谷川、山中、大沢、小見山羽成、菊地、香西、中井、千代田、キクヤ研材の諸氏が出席

中村幹事の司会で後藤氏が最近の業況に就て設備改善、工具教育、工程管理の工夫を痛感あり、坂手、福井、岡崎諸氏との間に意見交換を行い満場緊張の裡に主題を終ったが、次で来月に於ける定時総会其他の諸件を協議して散会した。

鍍金工場の 廃液處理

(上)

森川忠男 著

シアノ化物の効能に対する毒性に就ては古くから研究されてきたが、今日の農用の毒液による開拓が問題になつてゐるので、その中でも特にメタキ工場のシアノ酸の処理方法を考察してみよう。

廃液處理の分類

多くの場合、簡単な作業方法の変更や、物質の性質、投げ方によつて毒液のよどれを解消することが可能である。こゝではシアノ化物に五種の化学的物理的処理に従つて、処理方法を次の様に分類する。

- (1) 稲作法
- (2) 銀盤、銀鏡體ガス、炭酸ガス等を用ひてシアノ化物をシアノ化水素として溶液より除去する方法
- (3) アルカリ処理法
- (4) 酸素、水素過酸化水素、過マンガン酸鉄、過酸化物、オゾン、臭素化ビリジン酸、電解酸化によるシアノ化物のシアノ酸塩への酸化法
- (5) チオクサン酸塩を生成するシアノ化物反応法
- (6) 加熱による乾燥蒸発法
- (7) 不溶性シアノ化物の生成法
- (8) シアノ化鉄錯離の生成反応法
- (9) シアノ化物とアルデヒドの反応法
- (10) イオン交換法

(1) 稲作法

シアノ化物廃液處理方法の中で最も簡単な方法は稻作法

31.5.10

定時総会

5月10日午後5時から東京鍍金会館で総会を開いた。出席者は

木下、中村、岡崎、高頭、岡、小島、福井平賀、井上、木下、綱島、高橋、長谷川、

清水、能勢、坂手、大沢、小暮、小見山、菊地、青木の諸氏と服部先生、中央製作所四国電機、乾卯薬品、千代田、キクヤ研材の各社。自由会談に時を過した後7時、中村幹事の司会で開催し、福井氏を議長に挙げて前年度会計報告は小島会計の説明により異議なく承認。次に

役員改選は選考委員5名により選考の結果小島、八幡、福井、岡崎、木下健、後藤、清水、中村、高頭、長谷川の諸氏に決定別に、賛助会員側より四国電機を選出し、それより賛助会員として新入会の

大森 安川工業株式会社

千住 小西作兵衛商店

の紹介があり、次で

東西交歓会開催に関する協議

鶴飼義一氏の渡米第一信の報告があり懇親会に移り先づ服部先生の所感を初めとして、全員かわるがわる本年の要請を発表した。

31.5.20

大沢直太郎氏逝く

メッキ天職を信念とした大沢氏であるが故に、最後の1日を最も親愛する十日会の諸氏と行を共にし、鍍友会一行とも談笑を交し、そして、何も言わずしてこの世を去った。それは戦場に於ける武士の最後そのものである。堂々たる死であった。

葬儀は町長大谷才助を委員長、小島政夫氏及び鈴木玄蔵氏を副委員長として、5月21日午後1時より2時まで自宅で告別式を執行されたが、各方面からの供花林立の裡に焼香相次ぎ、盛儀であった。

31.5.19

伊東で東西交歓

薰風5月、大阪から鍍友会の一一行19名、佐藤光治、永井徳次、石口守、野村逸郎、池田弘、伊東利雄、脇坂外史、野村義夫、竹田浩三、高良操、高木太四郎、森本成信、山田清、橋本誠三、吉田勝、安部秀吉、伊藤伊左美、吉野旺助、小林義一諸氏が元気よく上京した。

よって日本鍍金協会有志は早朝大型バスで横浜に赴き一行を出迎えた。一行は彗星号から下車、相互に久々の挨拶を交した後、バスを駆って三浦半島へ。さて関東学院大学を見学

して引返し江原鍍金、中村鍍金を見学して東京鍍金会館を訪問。高浜氏の歓迎の辞に対し一行代表佐藤光治氏の挨拶があり、早速中食となる。午後は日進化工を見学、それより荒川の天然温泉に入って一浴少憩、土曜会員志をも交えて交歓した。かくして一応解散。

東西の有志十余名は午後9時東京港発で20日早朝大島着、島内を遊覧して伊東温泉に引上げ伊東園に宿泊、そこ東京から直通の有志が駆け付けて午後6時から第8回交歓会を開催し、杯酒縱横、夜深くして宴を徹した。

翌21日は再び東京に引返し大沢氏の告別式に参列したのち随時帰西、一部は22日も見学を続行した上同夜瀬戸号で帰阪した。

31.6.6

友野博士講演

京都の友野理平博士が上京されたのを機として6月6日土曜会と連合で午後7時から東京鍍金会館で講演会を開いた。出席者は

林、五味、香西、岩淵、岡崎、木下文、山下、高頭、五十嵐、能勢、長谷川、羽成、山中、岩田、平賀、奥出、小暮、岸、谷津三宅、福井、八幡、保坂、佐藤、西片、岡海野、花川、小野山、小松、木村、林、福井、井上、小島の諸氏

羽成氏の司会で開会、友野博士は

直流の波形がメッキに与える影響と題して独壇場の波形研究につき講演されたが、従来のメッキ条件に単なる電流密度の数値が示されても電源の指定がない事は波形の影響を無視するが故に妥当でないとの一節の如きは特に満場をハッとした。

続いて友野博士の学位と栄進をお祝いする会を催し高浜二郎氏の挨拶に次で乾杯、博士の謝辞があつて盛んにグラスを挙げ豪氣堂々9時散会した。

31.6.10

中小企業労務問題

6月10日午後6時から鍍金会館で例会を開いた。山中幹事の挨拶後

中小企業に於ける労務問題

中央製作所 小林義一氏

の講演があつたが、平素経営管理に取組んで然も知見豊富の小林氏なので快弁縱横、各地会社の実例を挙げて、小工場に於ける労働問

題の展開するところを述べること約2時間に及び

1. 労使の新しい考え方

2. 職場の人間関係

第一線監督者と特色

第一線監督者の資格

制度管理と個別管理

人間性研究による管理

3. 企業合理化の従業員に影響する諸問題

4. 中小企業に於ける組合結合の傾向とストの原因

5. 労務対策上考慮する点

に就て、特に4.5に関する細論は小林氏の比喩を加え非常な感銘を与えた。

山中氏より小林氏の遠来の労を謝し散会。

31.7.10

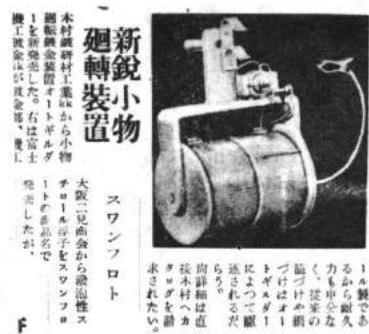
感銘深き東平孝徳氏の講演

7月10日午後7時から鍍金会館で例会を開いた。出席者は

岡崎、清水、尾崎、井口、小西、小島、大沢、平賀、八幡、木下、安川、羽成、山中、小見山、山下、林、福井、綱島、高頭、中井、青木、渡辺、高橋、山本、中村、後藤木下、近藤、菊地、井上、五味、海野

諸氏及び服部先生。羽成幹事の司会で開会し東平鍍金東平社長から米国視察雑感を聞くこと時余、終って木下、中村、大沢、後藤、近藤、五味氏の質問に対して東平社長の回答があつた。次で

高浜氏は鵜飼義一氏の米国鍍金大会報告を発表後再び東平社長を囲んで自由歓談を行いつつも感銘深き緊張の例会を終了した。



31.8.10

鍍金の原価計算を

主題とし米国の業界を語る

アメリカのメッキは如何に進みつつあるか
日本鍍金協会は7月の例会で東平孝徳氏から詳細な米国業界視察雑感を聞いたが、更に8月の例会で鶴飼義一氏の講演を聞いた。

例会は8月10日午後7時から東京鍍金会館で開いたが出席者は服部、安部の両先生を初めとして

木下、林、渡辺、井口、高橋、福井、山中羽成、山下、高頭、小島、大沢、岡崎、木下、坂手、梅沢、綱島、能勢、中村、平賀小暮、井上、青木、後藤、小見山の諸氏並に千代田、中央、四国の各社。

会は山中幹事の司会で開かれ、初め鶴飼氏が渡米中に撮影したカラースライドを映写、東京出発からアメリカン、エレクトロプレーテース、ソサイチ一年次大会に至る主要の風物百数十景に就て詳細に解説した。

講演に入り、主題は

メッキ工場の原価計算に就てアート・メタル・フィニッシング・コンパニー社長アーサー・G・ピアトン氏の研究したもので、その説述に対して米国視察の感想を入れ、興味深く物語られた。

例えは最近やかましくなって来たメッキのオートメーションも労働賃金の高い米国としての抜け道であること、メッキ代の見積りはむつかしい計算をするにしても矢張り熟練な業者の勘で間違いないこと、等々、実に有益であった。

こうして前後2時間余の映画と講演が全く終了したのは10時前で、いずれも涼しい夜風を浴びて散会した。

31.9.10

伊香保の秋を訪う

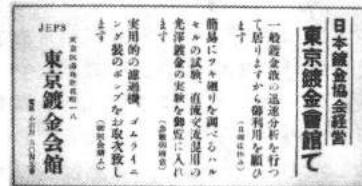
新秋を迎えて見学清遊のため9月10日朝9時雷門駅に参集、9時40分発の伊勢崎準急行で出発し車中歓談を交換しつつ昼前伊勢崎着、昼食後三共電機株式会社を訪問し、山崎技術課主任の案内で現場作業を見学したが、以前に見学した時にくらべると設備の改善と共に作業の進歩を伴い且つ構内全体にわたる整頓は旧觀を一変して多大の感銘を呼んだ。

少時会談の後辞去し車を連ねて伊香保に赴き森秋旅館に投宿、一浴して懇親の宴を催し

した。

明けて11日車を駆って渋川に出て夫れより鉄路直ちに帰京した。一行は

岡、後藤、清水、高橋、福井、羽成、山中見山、海野、青木、中央製作小林、四国電機中井、乾卯良品山本、貝塚竹田鍍金の諸氏であった。



31.10.10

城南見学と映画観賞

10月10日午後2時から城南地区の新鋭工場を見学した。参加は

福地、岡崎、高頭、綱島、山下、渡辺、岡本、井口、小暮、羽成、山中、青木、尾崎福井、木下、四国電機、千代田、安川工業の諸氏で、先ず日東社に集合し長谷川社長の工場概説を聴いた後研磨、鍍金、熱源、研究の各部を巡覧し、終って会議室で会談を遂げて辞去了した。

次でエビナ電化工業株式会社に赴き海老名社長の指導で銅、ニッケルクロム、カドミウムを始めとする各部施設と作業現状を見学した。

一同湯島の鍍金会館に引上げて軽食を共にし、一息入れる程に海老名氏は技術部担当の芦沢武男氏と共に来館、又服部、安部両先生及び、

梅沢、大沢、井上、中村の諸氏も出席。

午後7時山中氏の司会で故大沢直太郎氏遺作の映画を観賞したが、最初に安部先生編集の大沢氏葬儀実写に何れも故人の在りし日を忍び、次で

八丈島巡遊の一巻

最後に安部先生編集によって完成した最終撮影の

スキーを楽しむ月山の春を上映

1時間余で終了した。

それより東西交歓会の打合せ、宿題の工具技術テストの配布に次で、見学に関する感想交換を行った。

31.10.14~17

豪快な東西交歓

春秋2回の東西交歓は、この秋は大阪の鍍友会当番で10月14日神々つどいたもう出雲の玉造温泉で催した。鍍金協会からは

服部先生、福井、後藤、八幡、中村夫妻、長谷川、大沢、中井、五味の10名

13日夜10時15分発の月光で打揃い西下し、翌朝9時過ぎ大阪着、大阪側からの参加は、佐藤、緒方、大堀、池田、高良、脇坂、森本、橋本、吉野の諸氏。

東西合流して伊丹に赴き正午過ぎ特別仕立ての飛行機で米子に飛んだが、そのまゝ玉造温泉に至って一浴の上交歓の宴を開き一切世情を脱して豪快一夜を了した。

これが東西交歓会の本領なのである。

翌日は出雲大社に参拝、遊覧の後午後7時米子から大阪へ飛んで帰ると長谷川、五味両氏は直ぐ上り飛行機に乗りついで帰京、他は森田屋に1泊。16日中村夫妻と中井氏は帰京他は鍍友会諸氏の案内で新興金属、旭鍍金、大洋工作を見学し17日辞去、名古屋に立寄って新井ハンドルを見学した後、服部先生は桑名へ、福井、八幡両氏は田原へ、後藤、大沢両氏は同夜帰京した。

31.10.26

大阪組合理事長

伊藤宗太郎氏逝去

10月26日親近看護の裡に永眠した。

日本鍍金協会は伊藤宗太郎大人葬儀のため福井氏が代表となって10月27日西下、通夜に参じて生花を靈前に献じ、28日会葬、弔辞を捧げて哀悼の情を尽した。

31.11.10

鍍金協会11月例会

11月10日午後7時から鍍金会館で例会を開いた。出席者は

井口、高橋、高頭、羽成、山中、木下、小島、山本、堀米、菊地、福井、中井、岡本青木、海野、木下、中村、八幡の諸氏。

羽成幹事の司会で開会、先づ大阪伊藤宗太郎氏逝去に際し福井氏が代表会葬して生花と弔辞を贈った旨を報告、一同弔意を表した。

次で本会の今後の進むべき道に就て討論し活発な発言を見たが、結論として研究部会を設

け同志協力の上に最善と実行を期する事に決定した。

31.12.10

12月例会

日本鍍金協会は12月10日午後6時鍍金会館で例会を開いた。出席者は

坂手、井口、岡崎、長谷川、大沢、岡朽、小林、綱島、小見山、福井、八幡、木下、清水、青木、山中、羽成、木下、小暮、尾崎、井上、海野、山下、小島、中村の諸氏並にキクヤ、乾卯、千代田、小西、四国の各社。

八幡氏によって映写を開始し、出雲玉造に於ける東西交歓会の記念作品として、大阪佐藤光治氏撮影一巻と、八幡氏撮影一巻を観賞

次で京都訪問及び四国に於ける東西交歓会の各巻と福井氏撮影のスライド出雲行きを観賞した。

終って忘年会を兼ねて一盃を挙げながら過ぎ行く1年の回顧と反省に併せて新しき1年にに対する希望と企画に就て幹事指名により小島、坂手、福井、中井、長谷川の諸氏がそれぞれ卒直に快活に元気よく所感を発表しあった後、更に自由歓談を行って会散した。

32. 1.10

10年を迎えた十日会の新年会

ことし十日会（日本鍍金協会の愛称）は創立第10年目を迎えて新春10日に会館で新年会を催した。

午後2時から3時迄は自由会談、出席者は

中井、羽成、山中、能勢、安部、坂手、岡崎、山本、服部、渡辺、平賀、小島、小林田島、鵜飼、長谷川、岡本、八幡、木下、井上、小西、福井、大沢、立川、小見山、五味、青木、岡、井口、清水、中村、高頭近藤、高浜

の34名を算した。

羽成幹事の司会で開会、福井氏の指揮で一同起立、国旗を注目しつゝ国歌を斉唱し、次に小島氏の規約朗読、坂手氏の本会創立10年所感があり少憩。

宴となり総起立賀觸をあげて一齊に『おめでとう』を交換した後盃を重ねた。

高浜氏は本会創立に関する回顧と共に今後の目標として『大いに儲ける事』を高調した。

それより田島、鵜飼、服部、小西、安部、岡崎、中井、福井、近藤の諸氏が相次ぎそれぞれの立場に於ける所感が述べられた。

カメラ持参の諸氏が絶間なく撮影する。次第に耳熱した誰彼は酒敵を索めてテーブルからテーブルえと廻りあるく。歓興ますます昇って談論尽くところを知らず。十日会に初め

て見られる全員平等の勇敢な楽しい場面であった。

やがて小嶋氏の発声で元気よく手をしめた後も一頻り談笑を続けたが、八幡は酔えども酔はず『10年間に先生を老えしめた、以後は先生の志を貫かねばならぬ』と結論した。

そこで満場期せずして十日会万歳を三唱、ことしの戦いを約しつゝ会散したのは午後7時頃であった。

日本鍍金協会館で

日本で最初の迅速な分析を行つて
居りますから御利用下さい。
簡易にツキ廻りを調べるハルセ
ルを試験材料付で分譲前・後法を
最も実用的の滌過機を取次いで
居ります
（請用料一千円 アマカニ用一千円）
好評嘆々たる鍍友会編纂の「ツ
キ讀本」を取次致します
（第一第三四回）
J E P 8
東京鍍金會館
小石川(2)六〇四番地

32. 2. 9

更に自信を高めん

日本鍍金協会の懇親会

新年会の席上で決定した日本鍍金協会は予定通り2月9日午後0時55分発の伊豆号を標準として或いは1歩早く或いは次の電車で伊東温泉に繰り出した。折あしく小雨催いながら



らみんな平ちゃん。

会場は伊東園ホテルで、一浴、うちつつろいで顔の揃うのを待つ間に、新年会における写真を展覧した。

午後6時山中幹事の挨拶によって開会された。出席者は服部、安部両先生を初めとして長谷川、渡辺、岡本、岡崎、小島、坂手、八幡、井上、羽成、福井、大沢、中村、小見山、青木、清水、後藤、岡、木下健、山下、高頭、海沢、小暮、綱島、高橋、小林鈴木、海野、能勢の諸氏並に中央製作所、乾卯薬品、キクヤ、四国電機、小西、近藤、三進製作所の各社。

宴に先って、創立10年の意義に徹すべく、日本鍍金協会の会員たる自信を一段と高めるの決定を行い、次いで服部先生が本会10年の歩みと共に今後の進み方について激励され、何れも感銘を新たにした。

それより献酬幾巡、誰も誰も胸襟を披いて談笑する程に、元気いっぱいのベルトーロの小林支配人が舞台にあがっての演出、あとは続々自慢ののど競べに美人隊を圧倒した。浅春の一夜、天晴れやらず。

月よ出ろ出ろ月よ出ろ
伊東園ホテルの上に出ろ
あんまりみんなが元気なので
ちょいと御月様出にくいか
とやって見たが。
その夜は明けて、10日我れを待つ職場へ、三々五々帰って行った。

32. 3.10

維新の意想を盛つて

日本鍍金協会の3月例会はその10日午後7時東京鍍金会館で開会、結成10年を機として維新の意想を約し合った事として定刻前に続々参集した。出席者は

井口、林、綱島、山中、成羽、鈴木、小暮、岡、岡崎、平賀、小島、高橋、大沢、岡本、木下、後藤、菊池、中村、福井、木下、尾崎、井上、青木、長谷川、中井、キクヤ、乾卯の諸氏。

7時半羽成幹事の挨拶に次で村上喜一博士は『中小企業の生産管理』の題下に平滑軽妙、諧謔をまじえながら労働能率の向上と社会奉仕の道を講演すること時余に及び満堂の感銘を呼んだ。終って協議の結果

会員門標の掲示に伴う会員番号の決定従って長期欠席者は除名する事に決定該門標の図案を検討して最終的に決定したが、協議は極めて活発に行われ本会更始の精神を以て満場一致に近い決定となった。それより三進製作所柳下社長の

鍍金液ろ過の原理

に関するスライド映写並に録音解説があり、汎用必然の精神を改めて深めた。



鍍金会館に松井氏から寄贈

日本鍍金協会々員松井憲太郎氏は業況多忙のため当分例会出席不能なので不本意ながら脱退、鍍金会館の有効運営のため金5千円を寄贈された。

32. 4.10

田島栄博士の講演

4月10日午後7時から東京鍍金会館で例会を開いた。出席者は

田島博士、千代田、安部先生、林、井口、高橋、尾崎、岡、山中、羽成、渡辺、平賀、高頭、綱島、小林、岡崎、小見山、岡本、海野、大沢、福井、梅沢、八幡、木下、田島、木下、井上、後藤、小島、小篠、青木、長谷川、鈴木、清水、四国、乾卯、小西の諸氏。

山中幹事の司会で開会、田島博士の「非直流電流による電解反応」と題する講演があつたが、講演後半は各種の電流波形に於ける鍍金の実験結果をスライドによって解説された。後

会務諸般に就て報告と協議を行い散会した。

32 5. 10

祈願をこめて門標配布

5月の総会

5月10日東京鍍金会館に於て定時総会を開いた。出席者は

羽成、山中、中央製作、平賀、高頭、長谷川、鶴見商店、岡、木下、八幡、大沢、綱島、小林、後藤、中村、山下、上村、小篠、福井、柳下、乾卯、小島、能勢、青木、木下健、清水、岡崎、小見山、井上、小西、坂手、近藤、キクヤ、小暮の諸氏が参集。

修祓式

総会に先って、第一部の門標配布式が行われた。

この目標は日本鍍金協会の会員工場であることを表示すべく、今春來数次の討議を経て製作した荘麗なもので、入会順に依る番号を刻してある。

あらゆる業界を通じて、斯の自覚と自信を以て会員門標を表示したのは、日本鍍金協会唯一つあるのみであろう。

会場には南面して祭壇を設け総量30貫に達する門標全部が飾られた。

羽成幹事の司会で式に入り、湯島神社官主による修祓について祈願があり、会員総代として清水、小島、木下健、岡、中井の5氏が玉串を奉った後、会員番号に基いて順次門標を配布して式を終った。

祈願

「此の所を今日の斎庭と定めて神籬建て嚴の岩境と祓い清めて、招き奉り坐せ奉る掛まくも畏き湯島の大神の大前に拝み奉りて恐み恐みも白さく。

雁に燕に往交う春秋の数を重て日々楽しく暮し行くは全く大神の恩頼に依りてこそと嬉み辱み奉る隨に、今度日本鍍金協会会員の人等相議りに議りて会員の各も各もの家の門の標をば造り分つ事を思い立ちて有りしが、今はしも是の御前に其の配布式仕奉らくと御食御酒種々の物を供え奉りて拝み奉る態を平げく安けく開食し給いて、逆犯す事の有らんをば見直し聞直し坐して広き厚き大御徳を幸賜いて、此の会員諸々が清き赤き直心以て世の中の便宜を専として貪る事無く斯く事無く偽る事無く曲ぐる事無く少かも私心を置かず、夜昼に勉強りて朝夕に勤み勞く務の業に御靈幸はひ賜ひて四方八方依り来る物に逆つ事無く、堅磐に常磐に生命長く子孫の八十統に至るま

で茂八桑技の如く立栄えしめ給へと恐みも乞祈奉らくと白す。」

定時総会

役員の改選

少憩を取った後、第二部の定時総会を開いたが、羽成幹事の挨拶に次で福井氏が議長に推された。

先づ前年度の決算報告を審議し、小島会計委員の詳細な説明に依って満場異議なく承認。

引継いで役員改選となつたが、中央製作より銓衡委員附托の意見が出て議長から該委員に、

小島、小見山、青木、岡、小林、山下の諸氏を指名し、銓衡の結果

運営委員に

木下文、木下、福井、羽成、清水、後藤、小島、中村、八幡、岡崎、中井、幹事に井上、小篠

の諸氏が決定、そのあと、新会員として

名古屋市 三進製作所

東京向島 鶴見商店

の紹介と東西歓歎会に関する報告があつて閉会、再び少憩をとつた。

懇親会

懇親会は羽成幹事の挨拶によって開かれ、次期幹事と決った小篠氏の主導で一同乾盃、それより談笑縦横の裡にグラスを挙げたが、この間山中幹事の満期退任の挨拶や時間励行に就て羽成氏の申送りと井上氏の声明があり自由会談に時を過した。

32.6.1

宇奈月で東西交歎

東西交歎会は6月1日宇奈月温泉河内屋で開催した。

十日会からは、

八幡、中村夫妻、長谷川、福井、青木、岡清水、大沢、中井、香西の諸氏

鍍友会からは、

緒方、佐藤、宮林、池田、高良、脇坂、森本、高木、湯川、吉野、橋の諸氏

名古屋からは

小林、柳下の両氏

が参加、黒部峠を遊覧して帰館し交歎会を催して談論、酒盃を交歎、夜に入った。

翌2日は山中温泉に転じて懇談と清遊を続

行、1泊の上、3日朝次の交歓を約して東西に分れ帰途に就き、十日会側は4日朝6時帰京した。

32.6.10

鍍金工場経営管理の実際に就て

6月10日午後7時鍍金会館で例会を開いたが

加治、岡崎、鶴見、平賀、高頭、林、乾卯
井口、梅沢、井上、中井、高橋、羽成、大沢、
安川、小見山、木下文、八幡、坂手、
福井、後藤、山下、三進、小林、田島、菊地

の諸氏が出席、井上幹事の司会で開会し、福井氏から

鍍金工場経営管理の実際に就て詳細発表、
月並の工場管理と違って鍍金工場に対する創意の
方式なので強く会員の注意を呼んだ。

次で岡崎氏から会社の作業日報に関する説明
があった後、福井氏の発表に就て意見を交換したが、今後も討論を繰返して最良の結論を
出す事に決した。

それより服部先生の米国に於ける大規模の
自動鍍金の解明があった。

後に

東西交換会に就ての報告 八幡氏
米国鍍金大会に於ける講演 井上氏
があって9時半散会した。

32.7.10

10周年記念事業を練る

7月10日午後7時より鍍金会館で例会を開いた。出席者は

小暮、加治、平賀、岡崎、小篠、八幡、木下、大沢、井上、福井、青木、岡、岡本、
井口、羽成、綱島、海野、木下、小島、清水、山中、中村の諸氏に

安部先生及び三進製作、四国電機、乾卯薬品
鶴見商店の各社で、井上幹事の司会によって
先ずカラーフィルム

『会員門標配布式実況』

『東西交歓会風景』

を八幡氏と青木氏撮影とを相次で観賞した後
本会創立第10年記念事業実施に就て協議した
結果、運営委員会に於て慎重に検討し最善の
立案を作成する事に決定した。

それより再びスライド映写で青木氏撮影の

『初夏の北陸』を観賞した。

32.7.28

石田先生を迎えて

猛烈な炎暑の7月28日午後1時、滯東中の石田武男先生を鍍金会館に迎えて講演を願つたが、先生は先ず大阪業界の動きに就て注目すべき説明を行われた後、最近に於ける技術研究の成果を詳述され感銘をうけた。

斯くて5時より席を丸文に移して浅酌、田島先生を加えて快談湧くが如く暑熱を吹っ飛ばしつ、清興6時半に至って会を閉じた。

32.9.10

感銘の経済講演

9月10日午後7時鍍金会館で例会を開いた。
出席者は

林、井口、加治、千代田、綱島、井上、小島、乾卯、八幡、木下、青木、福井、木下
中村、尾崎、清水、海野、岡崎、梅沢、大沢、三進、羽成、平賀、小暮、小林、柳下
鶴見の諸氏

井上幹事の司会で開会、毎日新聞経済部川崎博太郎氏の講演を講うた。川崎氏は、

「最近の財政経済情勢」

と題して多難な刻下の経済事情につき詳述すること1時間半、我国の外貨保有危機から暴力的の輸入抑制となり延て金融引締による実情を解説したが、平明にして陽達、ニュースの底流を衝きもし動搖する数字を語りもして扱て国際収支の健全化に立ち向う現状としてこの32年度いっぱいは堅忍不拔の態度であるべきことを結論した。後質問、解答があった。

福井氏から湯田中温泉に於て催すべき東西交歓会の予定計画に就て説明し諸般の打合せを遂げた。

果然不渡りの増加

日本鍍金協会の9月例会に於ける川崎博太郎氏の経済講演で金融引締の浸透は9月中の手形交換上に不渡り増加となって表われるだろうと警告されたのであるが、果然9月に入つて20日迄の不渡は42896枚で前月同期より1900枚増、戦後最高の記録であった。

32.10.6

東西交歓会

今秋の東西交歓会は東京側の当番で10月6

日長野県湯田中温泉で開催したが

十日会は

小島，木下，後藤，八幡，木下，小林，羽成，高橋，岡，井上，近藤，中井，香西，服部先生の諸氏

が早朝長野駅に先着

鍍友会は

池田，佐藤，緒方，森本，高木，大堀，吉野，小林，柳下の諸氏

の到着を待ち合流して善光寺参詣の後志賀高原を清遊して、湯田中よろづやに投じ交歓会を開催、翌7日は日本ソーダ二本木工場を見学した後妙高ホテルにて会食、更に8日は妙高高原を散策して会を終り、大阪側の先発西帰に次で東京側も帰途に就き同夜8時帰京した。

32.10.10

談論風発した例会

10月10日午後7時鍍金会館で例会を開いたが

高頭，岡本，加治，能勢，林，高橋，綱島，香西，キクヤ，大沢，岡崎，尾崎，鶴見，小篠，井上，小西，平賀，海野，羽成，後藤，山中，青木，小暮，八幡，木下，中村の諸氏が出席。

井上幹事の司会で開会同幹事から過般の東西交歓会に関する報告があり、井上，後藤両氏の日本ソーダ工場見学に対する所感に次で服部先生のお話があった。

それより愈々期待の

発註工場にものを聞く会

に入り岡崎氏を中心として隔意なき談論を交し中村，木下，八幡，加治，井上諸氏の発言と共に服部先生の所感あり、納品の検査，検査の規格，素地の問題から例えば

自転車の場合に於て自転車商に対する啓蒙運動という点にまで論及され、予期以上の収穫を以て散会した。

32.10.2~11

香港行の成果予期以上

香港視察のため壮遊した福井通祐，三宅大蔵，花川和夫の三氏は10月2日夜11時関係者多数の見送りを受けて日航機により羽田発、翌3日朝8時香港着、現地関係者の出迎えを受けて10日迄滞在、連日各工場の視察を行つ

て所期の要件を果した上11日夜8時無事日航機で帰国した。

先方では最初会話が思うようにならぬため骨が折れたけれど次第に意思疏通して今後に於ける技術指導、材料供給に対する相談も出来予期以上の成果を見た事はまことに喜ばしい。

32.11.10

香港の現状を聞く

11月10日午後6時半東京鍍金会館で例会を開いたが出席者は

坂手，三進製作，岡崎，岡，林，後藤，鶴見商店，乾卯薬品，山下，岡本，綱島，平賀，井上，福井，富士精密の諸氏で

井上幹事の司会で開会し

福井氏の香港視察に関して華僑の立場、香港の実情に対する日本人の考え方という風に極めて卒直な感慨を述べ、カラースライドを映写して香港風景を紹介した。

三進製作所の新発表に係る脱銅装置ダンティに就て柳下社長の説明があり終ってスライドによりダンティー使用の状況が映写されその実際効果を明かにした。

最後に1，2の会務を協議して散会。

32.11.17

創立十周年記念

鍍友会の祝賀会

戦後業界の躍進に先駆した大阪鍍友会は創立10周年を迎えたので、春来つぎつぎに多彩なる記念行事を行ったが、愈々棹尾として11月17日盛大な祝賀会を催した。

この日午後2時阿倍野の燎泉閣に於て150余名参列。日本鍍金協会からは小島政夫氏、高浜二郎氏、上村広士氏等参加し祝辞が相次ぎ満場慶祝の情に満ちた。

祝辭

菊花香る秋、親愛なる鍍友会は創立十周年を迎えて光輝ある盛大な祝賀会を催されることに誠に慶祝の極みであります。思うに近時科学の発達は日に新たであって、絶えず各産業の飛躍を促して、技術向上のため一層の熱意を傾注すると共に、業態の点に於て特に経営改善に肉薄するの要を痛感します。

顧ると、鍍友会は満目荒涼たる祖国大敗の

日に出発され、その運営にはみなみならぬ苦心があったことと御察し致します。けれど、不撓不屈、十年の歳月を凌いで、ここに実力ある立派な組織を確立されるに至ったことは眞に敬服に堪えません。そして、当初は同志的であったのがやがて社会的に発展し、その行動が業界一般のための貢献となった事実は広く万人の承認し感銘するところであります。のみならず、近年意氣益々旺盛で、設備の研究に、労務の管理に熱心努力され、着々と成果が挙わって居ります。この故に、他日昭和年代に於けるメッキの発達を論ずる者は、必ずや鍍友会の存在を大書するであろうことを確信致します。

然も、鍍友会は未だ任務を終ったのではありません。今日の催しは創立十周年の祝賀であると共に、今後の十年、又その次の十年、そして永遠に対する新しい努力の宣言であると考えます。

今日はほんとうに最良の日であります。謹んで満腔の祝意を表します。

日本鍍金協会

代表 小島政夫

32.12.10

納めの鍍金協会の例会

12月10日午後6時半東京鍍金会館で例会を開いたが、出席者は

田島先生、服部先生、井上、小西、岡崎、綱島、小林、清水、小見山、坂手、加治、小島、鶴見、海野、能勢、山下、岡、大沢、千代田、高橋、木下、高頭、キクヤ、岡本小暮、福井、乾卯、羽成、山中、三進、木下、青木、中村、長谷川の諸氏

以上幹事の司会で開会

三井金属株式会社輸入の米国カラーフィルム『亜鉛による防蝕』を同社製品課山本省吾氏の挨拶によって映写し、次で

創立10周年記念事業実行委員を選出した。

日本鍍金協会は今秋を以て創立10周年に達するので記念事業を行なう事になり、その実行委員を下記の諸氏に決定した。

福井通裕、高橋政一、中村敏一、八幡健、小島政夫、後藤哲雄、長谷川正三、小林憲、木下健治、岡直正、中井才助、香西啓次。
その他会務報告ののち、忘年会を催した。

33・1・10

第十年を迎えて

意気軒昂の鍍金協会

新春を迎えた日本鍍金協会は1月10日午後3時から鍍金会館に於て年賀会を催した。

出席者は

井上、岡崎、山下、高橋、平賀、清水、小見山、大沢、綱島、加治、岡、梅沢、後藤高頭、菊池、中村、羽成、山中、八幡、木下、木下、福井、林、坂手、長谷川、小林小島の諸氏並に、安部先生、服部先生、田島先生、鶴見、乾卯、三進、千代田の4社。例に依って暫らく賀辞交換の歓談を行った終井上幹事の挨拶によって賀觴をあげ服部、安部、田島3先生の年頭の辞に次で福井氏の十周年記念の年に対する感想発表があり、終つて歓談に時を移す内に三進柳下社長並に千代田五味社長の年頭挨拶という風に意気大に軒昂した。

又、小林、岡の両氏の朗唱に感興高潮して小島氏の发声で手をしめたあとも歓談湧くが如く、いよいよ創立第十年の前進に対する覚悟を約しつゝ午後7時散会した。



33・2・10

世界的不景気

2月10日午後6時半から鍍金会館で例会を開いた。

出席者は

林、海野、井口、小島、小篠、平賀、中井、中村、木下文、八幡、尾崎、鶴見、高頭、岡崎、柳下、能勢、福井、綱島、千代田、青木、山下、井上、渡辺、キクヤ、長谷川、田島先生の諸氏。

小篠氏の挨拶で開会、毎日新聞経済部川崎博太郎氏から最近の経済事情に就て講演があり

深刻な世界的不景気の波うつ現状に耳を傾けた。終って米国の日本金属品総出しに就ての応答があつて川崎氏の講演がすんだので、井上氏から

本会創立十周年に関する記念事業に就て実行委員会で決定した事業を報告、これに対する全員の賛否と意見を徴した結果略その帰饗を見たので、更に実行委員の各項分担により推進する事に申合せた。

名古屋の工場を見学して 小林 憲

過日名古屋地方のメッキ工場を見学したが先年も見学した事があるので、当時の記憶をよび起すと共に、今更ながら各工場の著しい進歩に感歎させられた。

そして見学の間、業者の方々と談笑する機会があったから、お互いに隔意なく意見を交換した結果、各工場の進歩は技術的にも経営的にもこのようないい信頼が基礎になっているというようなことが認識された。

それは、事業経営の熱意が自己保身の要求に優先するという点である。いいかえれば、工場の経営は自分の安全や幸福のためにあるのではなく、何としても事業としての進歩発展を期せねばならぬというのである。この信念の逞しい現われが技術の研鑽となり、設備の改善となって、活発な工場を育てあげたのであった。

一つの小さな実例として、名古屋には自家用車が極めて少ない事があげられる。それはチケットによってタクシーをどんどん活用し自家用車を抱えておくという不利を克服している。

成程、事業を経営するには個人生活から切り放して、事業そのものの進歩発展を考へねばならぬ。その経営者であるという個人的な嗜好や興味及び経済にとらわれると、事業の伸長を害する場合があるがちである。

要するに自分の事業であっても事業に忠誠を捧げる、そして生活の幸福を戴くという考へ方に立ち帰らなければならないと思う。

33・3・8

実行委員会で論議を尽す

日本鍍金協会の創立十周年祭に就て2月例会で実行決定後、委員会を連続開会、検討を

加えたが3月8日夜の委員会に於て祝祭、建築、映画の各部企画と共に予算及び財源の総括決定を見たので3月の例会を変更して臨時総会とし一切の確定を行う事となった。

実行委員会の分担は次の通りである。

| | |
|------|--------------------------------|
| 委員長 | 小島政夫 |
| 副委員長 | 八幡 健 |
| 常任委員 | 小島政夫 中井才助 福井通祐 八幡 健 |
| 祝祭委員 | 中村敏一 香西啓次 長谷川正三 |
| 建築委員 | 高橋政一 木下文良 小林 憲 木下健治 |
| 映画委員 | 岡 直正 清水竜一 井上喜夫 後藤哲雄 羽成利一 |

33・3・10

創立十周年祭を

鍍金協会臨時総会で決定

日本鍍金協会は3月10日次例会を臨時総会として午後6時から東京鍍金会館で開いたが出席者は、服部、安部、田島の諸先生、後藤、林、井口、平賀、小見山、綱島、小島、岡本、能勢、小篠、小林、井上、高頭加治、大沢、羽成、木下健、海野、小暮、山中の諸氏、並に鶴見、小西、キクヤ、三進、四国の各社

井上幹事の司会により開会、三井金属山本氏の挨拶があった後米国映画「ダイキャスト入門」英國映画「ドブ漬の作業管理」を鑑賞して少憩。

会議に入り井上幹事から本会創立十周年祭に就て2月の例会に於ける決定に基き実行委員会で数回協議の結果作成された企画並に予算を報告、これに要する財源は会員の均等負担とする事を説明したが、更に小島委員長の補足あり、一方映画製作に関して安部先生の企画発表を見た。

その後加治、羽成、岡本、木下健氏の希望意見があり満場異議無く実行委員会の決定通り、可決して散会。

33・4・10

近時の快談

4月10日午後6時半東京鍍金会館で例会を開いた。出席者は田島先生、小見山、鈴木、

綱島、渡辺、林、平賀、井口、小島小篠、後藤、木下、中村、羽成、八幡、木下、岡、小暮、岡本、岡崎、青木、四国、千代田、鶴見、三進、乾卯の諸氏、井上幹事の司会で三菱電機表面技術課長高橋盛一氏から需要者側の観た最近の鍍金技術に就てザックバランな講演があり、近時の快談であった。

その後会務2、3に就て協議し、会館増築設計を決定、5月10日の総会は午後6時会館で開催する事などをとりきめて散会。

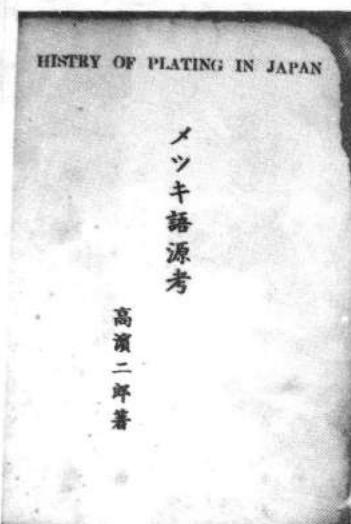
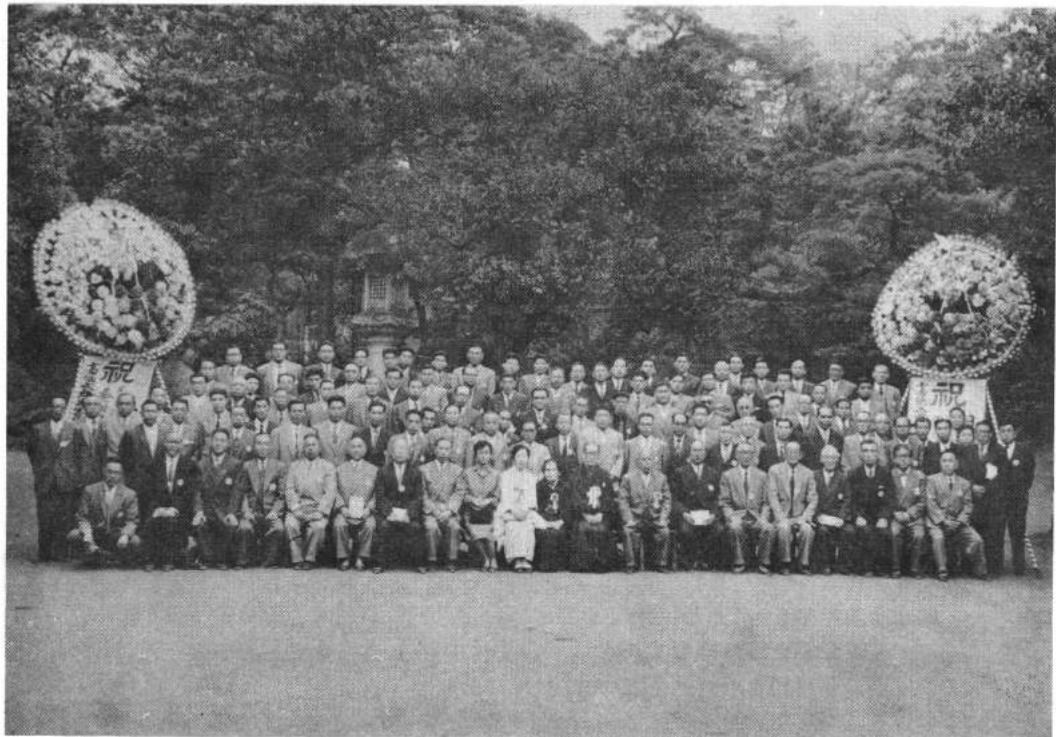
33・4・25

メッキ語源考出版記念祝賀会

百花爛漫の4月25日目黒の雅叙園において午後3時から高浜先生の「メッキ語源考」の出版祝賀会が行なわれた。

発起人は荒木実氏外約70名で、祝賀会席上著者に記念品（テレビ及び電気洗濯機）を贈呈した。参加者は業界、学界含めて約120名に上り、盛会を極め参加者にはもれなく著書の贈呈があった。





現場の即時分析にポーラログラフを 西片啓泰

2月のある快晴の日、本所太平町にデンと巨屋を構える精工舎の門をくぐった。案内を請うて鍍金塗装主任の大木一郎氏と会談しば

しののち、化学室に入ってその主任村上久氏その他助手の方々に解説を承った。

何しろ一口にポーラログラフといつても、専門的紹介をするには紙面に制限があり、私も頭脳明晰の方ではないから数学的論義を好みないので、ごく大まかにその概要を記す。

その原理と応用

正確に云うとポーラログラフィー法と称するが、理論は専門書にまかせることとして、大要次のように云えると思う。

金属塩の水溶液に一定の電圧を加えると、電気分解を起して電流が流れる。このとき、各成分によって分解される電圧が異なる故、この分解電圧は金属塩水溶液中の内容物を示す。またこの時に流れた電流は内容物の量を示している。よって、この原理に基けば、その量が化学分析によるガラス器具操作の複雑さにくらべて、ごく簡単に測定できるわけである。

村上氏の室にあるポーラロは島津製作所の簡易型であるが、メッキ液の分析のためには却って便利のようである。

金属イオンは勿論のこと、無機有機物の測定も可能であるが、現在ではニッケル液及び真鍮メッキ液中の銅、亜鉛の測定に応用されているようである。クロム及び硫酸根、シアノ等の分析はやはり従来通りの化学分析に依られている。この点、ポーラロは飽くまでその長所を活用すべく、これによって化学分析に置き換えられるとは思われない。

真鍮液分析の例

ここに真鍮メッキ液の場合を例として、その活用を説明する。

先ずメッキ液5ccをとり、硝酸と硫酸を加えてZnとCuとし、蒸溜水を加えて稀釀し200ccとし、その中より5ccをとり、0.01%のチローゼ10ccとINNH₄OHとINNH₄Clの混液とを加えて50ccとする。このチローゼ（メチルセルローズ）はポーラログラフの極大波を抑制する一種のインヒビターである。

次いでこの中より適量を電解瓶にとり、滴下電極をそう入してHgの滴下状態をみる。次に水素ガスを約10分間送る。

以上の操作が終ったら、両極間に電圧を0.001V刻みに除々に加える。但しこの場合には、真鍮メッキ液という成分既知液であるから、銅と亜鉛の半波電位の附近をみればよい。半波電位はポーラログラフで特に定められた数値が各成分によって図表化されており、銅は-0.24および-0.5亜鉛は-1.36である。

銅の分解電圧附近に至れば電流が流れる。更に電圧をあげると0.5V附近で更に電流が流れれる。これは最初が第一銅、次が第二銅である。又更に電圧をあげていって1.36V附近に至ると又電流の増加がみえるが、これが亜鉛である。

以上の結果からグラフができる（第一図）。よって、各波高より標準図表に基きその量を知り得る。（第二図）標準図表は正確に調整された濃度既知液にて上記方法を以て作製しておくのである。

有利ではあるが

ポーラログラフィー法は学理的にはかなり難かしいものと思うが、一定の簡易操作だけで即座に分析結果がわかる点非常に有利である。オートメの世の中にあっては、メッキ液

分析の分野でも大いに活用すべきであると思う。但しガラス器具の化学分析にくらべて高価であるから、組合や研究所あたりで保有し一般の便を図ることが望ましい。

33・5・22

東西交歓会九州へ

ことしの東西交歓会は鍍友会の当番であるが、協議の結果南九州を一廻りすることになった。

22日午後大阪天保山出帆の関西汽船に乗船瀬戸内海の風光を賞しつつ別府到着、それより宮崎、霧島、林田温泉、鹿児島、指宿を巡遊して日航機で27日夕刻羽田に着いた。

33・10・12

創立10周年を祝す

かねてから着手していた東京鍍金会館の増改築がめでたく落成したのを機会に、本年が十日会創立以来10周年に当るので、そのお祝いをかねて10月12日午前11時から湯島の会館で厳粛に式典を挙行、次いで赤坂のプリンスホテルで盛大な野外パーティーを行なった。

第一部の式典は中村敏一氏の司会のもとに、まず福井通祐氏の開会の辞に始り、続いて小島政夫氏が日本鍍金協会十年史を披露した。次の通り。

十日会は昭和23年11月15日正午に後楽園の涵徳亭に同志が集って会合を開いたのが始めである。

当時はまだ戦火の傷跡がそのまま一面の焦土、人員資材、食料もない中で、仕事着、長ゴム靴のままかけつけた有志によって意見がかわされた。





引つづいて第二回の集会を東京鍍金組合の事務所で開き毎月十日を例会日と定め、会の名称を之に因んで十日会と名づけた。当時の目標は各自工場の復興整備を図り、新しい技術や設備の研究に専念する一方、東京は勿論、大阪名古屋の見学、技術の交流を行い、同志の大坂鍍友会と春秋二期の交歓を催すこととし此の行事は引き続き今も

尚行はれている。

昭和24年も続いて鍍金組合の事務所で会合を開いていたが、遂次会員が増加するに従って、会館を建設する必要を痛感し、25年1月の新年会で提案され2月の例会で決定された。場所は組合に近い本郷湯島の地を選定した。其の後業界関係の協力を得、会員の努力によって、昭和25年5月30日、鍍金会館が竣工した。

会館が完成したので会員の連絡は一層緊密となり、

- (1) メッキ文庫を設けた
- (2) 25年9月第1回の鍍金基礎智識講習会を開き三十余名が受講した
- (3) 続いて十数回に亘り諸先生の講習を受けた。

(其の頃石田先生の光沢ニッケルの指導を受けたが、丁度ニッケル不足が甚しい時代であったので、その技術を十分に採り入れる事が出来ず、之に代ってニッケル代用メッキや銅・亜鉛めっきの研究に力を注いだ。当時、早くもユニクローム、クロメート処理の作業を開始する会員も出初めて、新しい技術の吸収が活発となり、例会に於ける意見の交換は此の技術の進歩に寄与する事

が甚大であった。

故小篠義男氏（会員）による常温クロームが研究実施されたのも此の頃である。

昭和26年12月にはプロダクトフィニッシングの主筆エズラ・A・ブラウント氏の来訪を得て、米国の新しい技術に関する講演会を二回開催し多大の示唆を受けた。同氏は現在も本会の名誉会員として米国から資料を送ってこられる。

又同年研究室を増築してメッキ液の分析実習を行い、担当者を常置して会員並に希望者の分析指導を行う様にし、会の名称を日本鍍金協会と改称した。

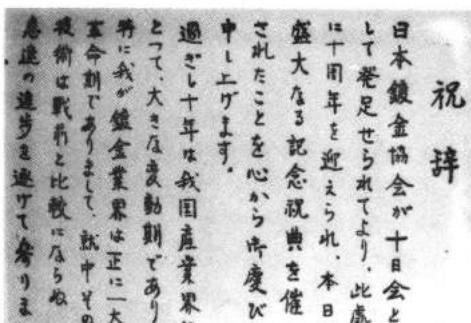
（技術面ではメッキ液の沪過空気攪拌、カソードロッカー、アルミ上のメッキ、各種光沢メッキ、弗化物クロムメッキ等の研究発表が例会の席上で続々行なわれ技術の進歩に多大の貢献をしている。

昭和32年5月、会員門標を作成領布した。

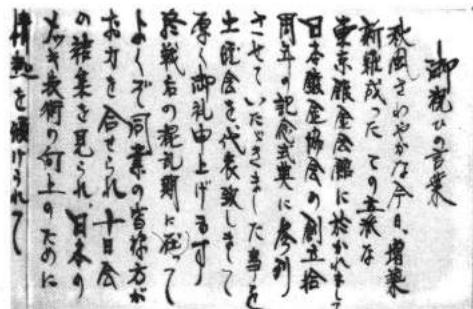
昭和33年3月、高浜二郎氏著「メッキ語源考」の出版記念会を協賛、目黒雅叙園で祝賀会を催した。

昭和33年10月12日、会館の第二次増築が完工した。

尚且下16ミリ映画「メッキと生活」を会員の手により製作中である。



昭和三十三年十月十二日



続いて鍍金語言考に半生をささげ、会の中心である意氣の人、高浜二郎氏（鍍金主幹）の感激に満ちた挨拶があり、次で来賓の諸氏より祝慶の辞があり祝信が披露された。

（東京鍍金工業協同組合吉川坂一氏、機械試験計技官岸松平氏、東京工業奨励館虎石成美博士、服部久一郎氏、藤野武彦氏、加瀬敬平氏、鍍友会伊藤氏、土曜会西片啓泰氏）

一同乾盃の後、八幡健氏閉会の辞を述べて第一部の式典を終了した。

第二部は赤坂プリンスホテルでガーデンパーティを開き、一同バスで会場に到着、以前からつめかけていた会員家族と共に、バンド演奏のうちに、各々五色の風船玉を飛ばし少し振りに晴れた秋の大空に上っていく風船を打迎いで大拍手、各所に設けられた屋外模擬店で呑んだり、喰べたり、映画や奇術、福引と盛り沢山の余興に歓をつくし、4時頃散会した。尚鍍金業界人が合同一家をあげて共に楽しむガーデンパーティは恐らく業界始まって以来のことと、本日の盛況は目をみはらせるものがあった。



日本教全書今

鹿石藏

34・4・19

「鍍金と生活」一般公開

約半歳の苦心を重ねて漸く完成した16ミリ映画「鍍金と生活」一巻は、2月19日午後6時から万世橋際の交通博物館で業界関係者多数を招待、盛大に公開披露を行った。

会は定刻に開かれ、続々つめかける業界人でさしものホールも満員となり、400名をこえた。映画はベルト研磨機その他1本の外国物を上映の後、本命の「鍍金と生活」を約30分に亘って上映した。

この映画の企画台本は日本鍍金協会の若手、井上喜夫、後藤哲夫、羽成利一氏が当り、撮影及び監督を安部先生が行ったもので、PR映画として本邦最初のものであろう。



35・1・10

新春を迎えて

1月10日午前10時東京鍍金会館で新年会を催したのち、湯河原温泉東光閣に赴き恒例の新年宴会を開催した。出席者は34名。

35・2・22

大阪へ工場見学

大阪業界の著しい進展を見学するため、有志30名の一行を以て2月22、23日の両日鍍友会有志の誘導により主要工場見学をした。

一行は21日各自随意の夜行列車に分れて西下、22日朝8時30分大阪駅西口に集合し、鍍友会の出迎えを受けて直ちに見学コースに入り大洋工作所、宮林工業、ナショナル鍍金、大堀鍍金、三和鍍金、関西鍍金の各社を訪問した後今里の森田屋に投宿し、鍍友会の諸氏と会食、意見の交換を行なった。

翌23日は近藤鍍金、ラージ鍍金、前田鍍金佐藤仙一郎工業所等の淀川から西成へかけての諸工場を歴訪して視察を終った。

35・4・10

総会にて会則改正・会長を定む

4月10日午後6時より東京鍍金会館において

て昭和34年度の総会を開催した。

定刻井上幹事の司会によって始まり、議長に小島政夫氏を選出、次の議事を満場一致で決議した。(1)会則変更に関する件、(従来複数の幹事により企画運営された会務を会長制を設け会長が十日会を代表し会を総理すること)(2)役員改選に関する件、初代会長に八幡健氏就任(3)34年度事業報告(4)34年度決算報告。総会終了後懇親会に移り午後9時散会した。

35・8・4

Mr. Blount 来日

我が国の鍍金技術向上の助言者であるエズラ、エー、ブラウント氏は招聘によって8月4日午前8時無事羽田空港に到着した。

空港ロビーには、先の渡米視察団及び十日会有志が出迎え、しばし懇談の後、車で東京に向った。

午後5時日ざし高いうちにも、椿山荘に渡米チーム主催のブラウント氏を囲む歓迎夕食会を開き、訪日日程の第一日を終った。

ブラウント氏は、戦后来日し日本鍍金技術の向上に貢献し、8年前に帰国し、現在、シンシナチ市のプロダクツ・フィニシング誌の



主筆であり、金属表面処理関係に於ては著名な指導者として知られており、昨春鍍金視察団の渡米の際に種々協力を得、その勞に報いるために、またその後の我が国鍍金業界の現状を見てもらう為に渡米チームが主体となって招聘の話を進め、今回の来日となったものである。

プラウント氏は6日の講演を皮切りに、東京、名古屋、大阪と講演、工場見学を進め、8月21日離日した。氏の滞日日程は次の通りであった。

- 8月4日 羽田着 午后5時椿山荘にて歓迎夕食会。
- 8月5日 工場見学、東平鍍金、愛國鍍金、東平氏宅訪問歓迎パーティー
- 8月6日 講演会2-6時、上野精養軒、終って歓迎パーティー



- 8月7日 東京鍍金会館見学後、箱根富士屋ホテル
- 8月8日 帰京
- 8月9日 一般講演会、山口ホール
- 8月10、11日 自由行動
- 8月12日 大阪行
- 8月13日 講演会
- 8月14日 京都見物
- 8月15日 大阪にて工場見学
- 8月16日 名古屋講演会
- 8月17日 名古屋工場見学後、鶴飼見物
- 8月18日 帰京
- 8月19、20日 自由行動
- 8月21日 帰国。





ブラウント氏来日第一回講演会は、8月6日午後2時より上野精養軒に聴衆多数の参加を得て行なわれた。

講演は「最近の米国におけるニッケル、クロムめっきについて」と題し行なわれ、ブ氏の持参した映画、一般メッキ関係及び硬質クロムメッキ関係の自動羽布研磨機、(16ミリ)その他小編(8ミリ)が上映され、終って夕食パーティーが催された。



写真は昨年渡米した米国渡金業視察団



我が国メリキ業者から贈られた和服
を着用して好意をよろこぶブ氏夫妻

36. 3. 27

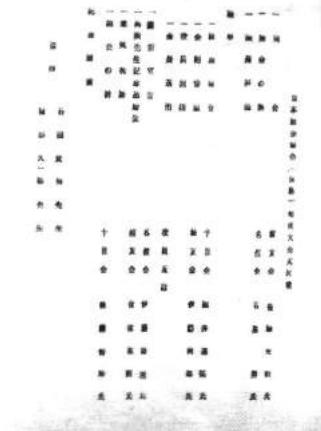
有馬温泉にて東西交歓会

3月27日東京の十日会と大阪の鍍友会の会員合流による東西交歓会は有馬温泉「兵衛別館向陽閣」に於いて行われた。

36. 6. 25

日本鍍金協会の設立

十日会、鍍友会、名鍍会の三团体による日本鍍金協会結成大会は6月25日午後1時より名古屋駅前ニューナゴヤホテルに於て挙行された。十日会（代表八幡健氏）、鍍友会（代表宮林英明氏）、名鍍会（代表石黒勇氏）の三团体は、業界若手筋より結成され、各ブロックごとにメッキ技術の向上と諸外国の技術紹介などを行なう技术团体として発足したものだが、全国組織をつくるという構想から東京、大阪、名古屋の各ブロック团体の上部团体として、日本鍍金協会を設立したものである。かねてより次のような結成趣意書が各方面に送付されていた。



日本鍍金協会（仮称）結成趣意書

陽春の候愈々御健祥のこととお慶び申し上げます。さて吾々めっき業界も永年にわたる努力と社会状勢の好転につれ、漸く陽の当る場所に進出し始めました事はまことに同慶にたえない次第であります。終戦後業界再建にはめっき技術の研究が第一であると、大阪には鍍友会、東京には十日会が若き業者の団結によって出来あがりました。それから十数年各地においてそれぞれの姿をした業者の研究团体の誕生をみ、独自の活動によってめっき業界発展のために不斷の努力を続けてまいり

ました。この間志を同じくする者の友情はますます密に相携えて一層の努力をつくしたいという思いが期せずして興り、ここに全国鍍金協会（仮称）結成の案が提議された次第です。本会はその参加团体がそれぞれの規約に明記しておりますように、鍍金技術、経営の合理化の研究及び会員の親睦を目的とするものであります。これに関する情報の交換、文旨の発刊、研究团体への援助協力を主要事業とし、この活動を通じて全国或いは各地の事業者团体、研究機関と緊密に提携すると共に、この目的達成のためにこれら諸团体の御指導を期待するものであります。ここに発起人三团体連名して趣意を述べると共に、同志団体の御参加を待望する次第であります。

昭和36年4月

発起人団体 東京 十日会
大阪 鍍友会
名古屋 名鍍会

結成大会は鍍友会佐藤光治氏の司会によつて始まり、役員選出によって次の通り初代役員が決定した。

会長 小島政夫氏

副会長 宮林英明氏（鍍友会）

〃 石黒 勇氏（名鍍会）

〃 八幡 健氏（十日会）

尚日本鍍会協会々員の今後の道しるべとして次の綱領を決め宣言した。

日本鍍金協会綱領

1. 私達は良識ある日本人の誇りを以って行動したい。
1. 私達は鍍金工業を通じて日本産業の興隆に寄与したい。
1. 私達は開拓者の精神を以って業界の推進力となりたい。

36. 7. 4

幹部研修会終る。

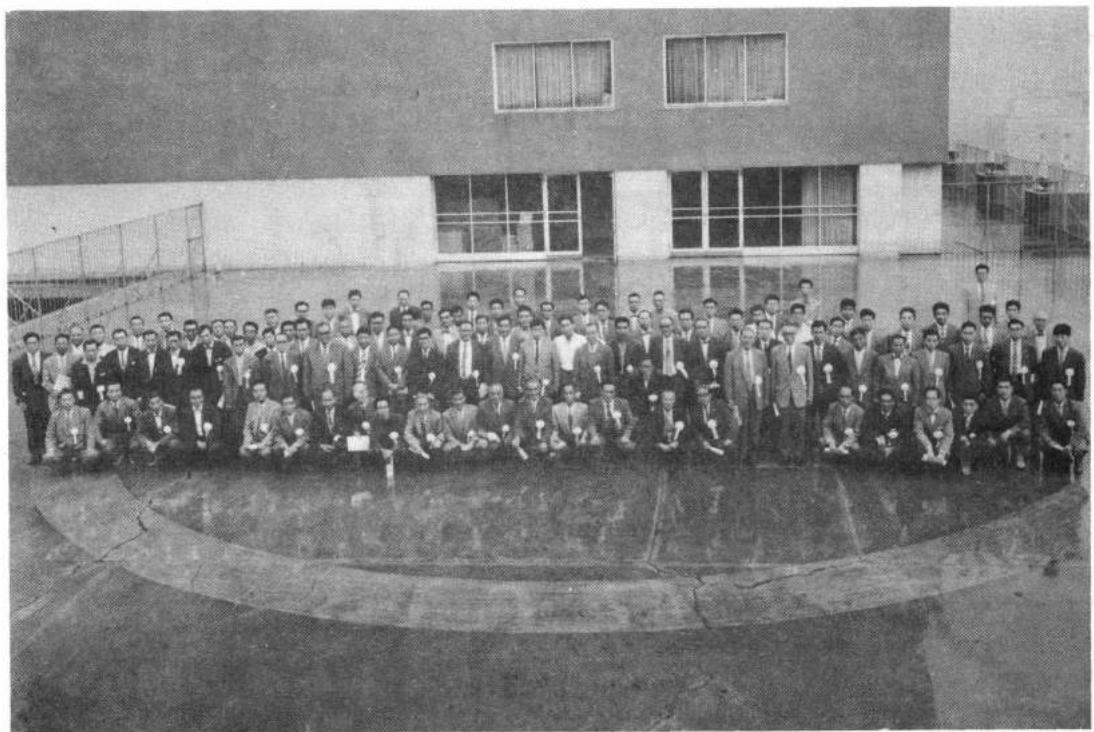
十日会主催の幹部教育研修会は6月6日から毎週2日間づつ東京鍍金会館で行なってきたが、参加者50余名中皆勤者40名の好成績で終了したので7月4日修講式を挙行して証書及び記念品を授与した後講師を交えて座談会を行なった。

36. 7. 10

最近の労働問題について

7月例会は7月10日午後6時より会館に於て行なわれた。講師は株千代田の五味良行氏

「最近の労働問題について」と題し時余に亘る講演を聞いたのち、会務についての報告を行って閉会、その後席を丸文に移し座談会を行なった。



37. 1. 14

日本鍍金協会初の役員会

昨年6月全国の鍍金研究団体を結合して誕生した日本鍍金協会（会長小島政夫氏）では1月14日伊東温泉川奈ホテルにおいて、結成以来初めての役員会を開催した。

37. 3. 25

第一回年次大会開かる

日本鍍金協会の第一回年次大会は3月25日午後1時30分、熱海のグランドホテルに於て家族ぐるみの大会として全国で始めて開催され活況を呈した。大会は本年度の役員選出、運営方針等を決定したのち、家族ぐるみの大懇親会に移り互に友情を深め合った。

昭和37年の新役員は次の諸氏に決った。

会長 宮林英明（鍍友会）

副会長 坂手 勇（十日会） 池田 弘（鍍友会） 石黒 勇（名鍍会）

幹事 福井通裕、八幡健、井上喜夫、後藤哲雄、高橋政一、木下健治、小林憲、羽成利一、松本惶、伊藤博郎、清水保明、伊藤正巳、大堀弥六、佐藤光治、緒方正明、前田一、伊藤利雄、土井元一、神谷晃

また日本鍍金協会では、その発展を意義あらしめるためマークの作成を準備計画中で、JESを主体によきアイデアを生かした図案を会員中より募集することになった。



37. 4. 10

新会長に坂手勇氏

4月10日午後6時十日会は東京鍍金会館において昭和36年度総会を開会した。役員改選により東京鍍金工場の坂手勇氏が新会長に決定した。坂手新会長は十日会は從来鍍金の技術関係を中心に研究を遂行して來たが、最近の経済不況は大企業の倒産すら出ている現状

なので、社会状勢の急迫を考へ、本年度は広く経済展望を行ないたいとの所信を述べた。

37. 5. 10

金融問題と経済界の見通しについて

5月10日午後6時東京鍍金会館に於て例会を開いた。講師は毎日新聞社経済部々長田中洋之助氏、課題は「最近における金融問題と経済界の見通しについて」と題し、政治経済の面から吾が国の現状を詳細に述べられた。講演要旨は次の如きものであった。

政治面

現政府機関の内部に経済の見通しについて議論百出しており、批判の声が遂に表面化している。それは云うまでもなく景気調整の手段と時期的な問題の相違であり、殊に池田、藤山ラインの経済政策は今や大きく崩れようとしている。米国でさえ、相当の不況に見舞われている現状ではアジアにも不況到来は免れず、政策のとり方によっては株式市場にも重大な影響を与えることも必至と見る向きが強く、政府の施策に注目している。

統計上から

日本経済は戦後、外国経済即ち世界経済に左右され易くなつた。昭和28年度から29年度32年度から33年度にかけ、また今回36年度下半期から37年度に亘り、常に4年に1度は必ず不況になる傾向である。しかも吾が国経済の弱体化は既に外国からの影響がすべてを支配されている感を深めていることは統計上からみても明らかである。

国際収支赤字の要因

今回の金融引締対策は貿易自由化を目前に控えているだけに相当難問視されている。それは我が國状は、今迄の経済成長の伸び過ぎにより、既に大世帯になっていることを見逃す訳にはいかない。従って輸出以上に輸入が増大して行くことに他ならない。そのため手持外貨は減少するばかりで、このままでは依然として国際収支は赤字となるだろう。

人江不景気

現在の不況は人江不景気といわれており、欧米各国をはじめ、フランス、イタリー、日本等があげられる。消費経済を推進することは購売力を助長するのみで、予算は益々大型化せざるを得ない。また人工的に景気調整を行なう場合、急激に景気が落ちるのではなく、自らの国状に合せた調整を行なうことが必要

であり、我が国はふくれ上った大世帯を如何にして採算のとれる様にもって行かれるかである。従って不況そのものは裕も水入の大相撲と同様に相当期間長引くことを予想しなければならないと思う。

金融引締めを行なう理由

政府の考えている程現状では景気調整はできていない。日銀の公定歩合引上、輸入担保率等を考慮に入れて一時的には金融機関貸出し抑制を受けるから金利が上り、ダンピングは止むを得ないとさえ云われており、その原因は下記による考へ方である。

1. 設備投資を不況の時にやった会社が景気上昇に向った場合、強気の方針の効果が表われている。
2. 金融引締め政策により、一般民間会社も投資家の認識を P R して株式市場へ上場されてくる傾向である。
3. 貿易自由化を37年10月に控えて設備投資意欲が減少していない。
4. 国家予算が大型のため一般労働者が賃金のベースアップを行なっている。このようなことが繰り返えされると景気調整はできない。

国際収支の見通し

本年9月～11月頃迄には遅くとも輸出が伸びて輸入が減少し、国産品愛用の認識も高まり、黒字になる公算が強い。政府機関においてその対策を実施に移しているようである。

E E C と日本経済

ヨーロッパ経済協同体は高く評価されているが、我が国ではそれ程恐れていない。一部鉄鋼、船舶、機械関係等は組織的に相当の差があるので、その受入方を考慮する必要がある。一般には自由化で我が国の輸出は逆にボンド地域進出も相当に期待できるであろう。

国際収支の政府と財界の考え方

普通、銀行家筋の見方をすれば国際収支は黒字にしてから海外の信用を受け易くする方法と、事業家筋には1～2年位国際収支の赤字が続いても手持外貨を利用して自由化に備え設備投資を行なう方法とが打出されている。この考え方の開きが池田、藤山両首脳の対立意見であり、現在のところ前者をとる公算が強く、各企業に与える影響は免れず、認識を深めるべきである。

37. 5. 25

欧州視察団壮途へ

日本鍍金協会主催による欧州視察団は5月25日午後8時15分羽田発パンアメリカン機で出発した。一行は小島政夫氏を団長に会員8名外に部外者も加わり盛大な見送りの裡に約1ヶ月間の途に出た。視察経路は香港、バンコック、ローマ、チューリッヒ、ジュネーブ、パリ、デュセルドルフ、ハノーバー、ロンドン、バーゲンガム、コペンハーゲン、ストックホルム、アムステルダムなどを巡遊して6月24日午後9時10分羽田着で帰国予定である。

37. 6. 10

会員各社の事業報告

6月例会は6月10日午後6時東京鍍金会館に於て行なわれた。今回を皮切りに会員各社の事業内容について各自報告し会員の批判を受け、改善すべき点については率直な意見の交換をすることになった。本日は東京メックキトキワ鍍金、神田鍍金の3社が報告した。

直讀式 膜厚計

新規格実測作のボケット類、飛帶用、指
示器計である

ノキは勿論、チブ、モード、ラフコ
ト等あらゆる材料による鍍金を薄じた鍍金
の測定に好適である。

関東代理店
三宅商店
合資会社
東京都墨田区豊川二の二〇 電話本店(61)7651-9307

事業報告

(株)トキワ鍍金工業所

代表取締役 小林 憲

私のところの事業は依託加工業であるが、昔と比較すると本質的に企業体が変り、資本も大分掛るようになって参りました。現在私の經營する会社は30余名の従業員で構成されています。主として銅、ニッケル、クロムと溶融亜鉛、並に全自動亜鉛鍍金施設があり、なるべく機械を利用できる方法をとることに

重点をおいております。顧用関係の難かしい時代となった今日、当然考えるべきであり、人間関係を或る程度会社の方針に従事していかれるような制度をとることにしています。その一面を申しますと、週一回必ず朝礼を行ない、主として社長訓話は細い注意等は云わざ相互繁栄を、そして人生を如何に楽しく美しいものにするかを指摘し、作業関係に対することは現場班長から注意を促すことにしています。また従業員との意志疎通を欠くことのないようにトキワ会をつくり、専ら答問機関の役割を果すべく、同時に親睦を図り向上できるように日夜努力しています。

営業品目 テープレコーダー部品、雑貨品、鍍金種別 銅、ニッケル、クロム、亜鉛、クロメート、溶融鍍金

電源容量 100KW 人員35名

事業報告

(株)東京鍍金工場

代表取締役 坂手 勇

私のところでは人のあまりやっていないこと、またいやがるような仕事を主として行っています。普通、メッキと云えばキレイな物と解釈する人が多いし、またキレイなのが普通です。昔はメッキは色を付ける位にしか考えられていませんでした。しかし時代は進んでいます。現今ではメッキを施すことにより製品価値を本質的に変える時代となりました。メッキは汚くても耐久性のあるしかも、用途に即応された外観をつくるべきだと思います。従業員として働く場合も決して資本家のために、また個人の利益になるようなプライドを持たせることが必要だと考えます。人間関係のむづかしさは今更申し上げる迄もありませんが、当社に馴染んで一生懸命に努力してくれる人達のみを選び、仮にも経営者を脅すような行動を起す人達には去る者は追わざの主義を続けており、賃金も私なりに、できるかぎり合理的にやっているつもりです。

営業品目 半田ゴテ、ルームクーラー冷却管
暖房器具、キャブレーター

鍍金種別 錫メッキ専門

電源容量 40KW 人員20名

事業報告

(株)神田鍍金工場

代表取締役 羽成利一

経営の合理化と最新の機械設備から



エミコン回転研磨機
トロワール研磨材料
除塵、排気、換気装置
硬質塗装ピニール製品
製造メーカーの作る
複数製品
型録進呈

有限公司 近藤耐酸槽製作所

私は二代目の工場主ですが、親から指導を受けて今日漸く皆様の仲間入りをさせて戴きました。私の会社は現在21名の従業員から成り、専ら小数精銳主義を唱えて拾数年になります。戦後は何でもやらなければ商売になりませんでしたが、時代の変革の激しさにいろいろと苦労致し、何とか企業体を専業化する必要に迫まられて漸やく、亜鉛ダイキャスト製品を中心工場内部を整理し50%以上を亜鉛、アルミダイキャストに切り換えた訳です。メッキ業は宿命的な依託加工業である以上特殊技能をもつことが、ある程度事業内容を安定させることに他ならないからです。また人の関係で一番困ることは精神面からくる弱さだと思いますが、私のところでは入社と同時に3ヶ月間は相当苦しい訓練をさせるようにしてその間に礼儀道徳、作法は徹底的に守らせることに重点をおいて精神教育をしております。

営業品目 亜鉛ダイキャスト、ネジボルト
関係小物、回転メッキ専門

鍍金種別 銅、ニッケル、クロム、真鍮、亜鉛

電源容量 100KW 人員21名

37. 6. 24

欧州視察団帰国

日本鍍金協会主催による欧州視察団（団長小島政夫氏）一行は予定通りのコースを経て6月24日午後9時10分1ヶ月の長途の疲れもみせず元気に帰国した。空港には、日本鍍金協会、日本鍍金工業協同組合各役員、一般関係者が多数出迎えた中で団長小島政夫氏は「盛大なお迎え有難うございます。私共一行は皆様のお陰で無事帰国できました。欧州各地で、各工場を視察し鍍金技術、生産管理技術等を見学して参りましたが、その報告はまたの機

会にゆずると致しまして私共が痛感した事は、我が国の鍍金技術、その他は決して海外諸国に劣っていないと云う自覚と自信をつけて参りました。勿論、各国の地理的条件等もありましょうが、私共もよい点はどうぞ吸収して我が国の鍍金技術向上のために尽したい」と語った。

37・7・8

日本鍍金協会役員会琵琶湖畔で行われる。

日本鍍金協会（会長宮林英明氏）は本年度役員会を7月8日琵琶湖畔紅葉館で行なった。議題は、(1)各会最近の活動状況報告、(2)本年度研究事業実行計画審議の件で、会議終了後6月24日帰国した欧州視察団の報告が小島氏らによって一部行なわれた。

37・7・10

渡欧視察団報告会

十日会主催による欧州視察団歓迎会は7月10日午後6時より組合講堂に於て行なわれた。坂手、緑川、福井氏の歓迎の挨拶があり、八幡健氏が視察団を代表して謝辞を述べた。終って坂手会長の音頭により乾盃し祝宴に入り、滞欧30日の感想を座談的に聞いた。団員発言の要旨は次の如きものであった。（八幡健氏、小島政夫氏、木下文良氏）

消費経済も現地では相当抑制されている気配であった。パリへ着いたとき、私達の想像していた花のパリとは大分違っており、写真の方がずっとよい都市にみえる。ただ、交通機関は（特に道路は）陸続きのどこの国へ行っても実に合理的に造られ立派だと思った。数多くの会社を見学したが、ドイツはヨーロッパ随一の先進国の印象を受けた。そしてどの会社をみても作業中社員工具を問わず猛烈に仕事に専念する如きは誠に感服をした。また、賃金ベースは欧州各国に比較すると、日本は決して安くないことがわかった。作業衣等も日本ではやたらに工具のサービスの心算で揃えたがるが、ドイツでは外観にとらわれることなく、勝手な服装でのびのびと忠実に仕事に励んでいる姿をよく見受けられた。また、ある会社では作業場内はすべての面に実によく創意工夫を怠らず、物を大切にする考へはよく徹底していた。しかも機械にせよ、作業にせよ、行届いた合理化には本当に教えられました。隣接国ヘドライブの途中郊外へ出ると田畠が整然としているのには、我が國

の農村とは凡そレベルの相違も甚だしく感じました。一般に米国の派手な経済政策に対しドイツは地味ではあるが、着々と先進国をよくみることに依り、やがて驚異的なドイツをつくることに成功する日を楽しみにしている。吾々は今後も研究心を盛んにして、先進国に

おくれぬよう努力する必要がある。欧州の人達は東洋人に比較して、個人個人が順法精神に徹し、思考力が合理的であるとの感をうけた。

37・8・10

第二次渡米視察団を送る夕

日本生産性本部主催による第二次渡米チームには十日会より、白瀬、中村敏一、長谷川正三の三氏が参加した。この3氏の壮途を祝うため、坂手会長が挨拶し、白瀬代表が3氏を代表して謝辞を述べた。終って一同乾盃し和氣合々のうちに談論し終了した。

37・9・10

9月例会は午後6時より会館において行われた。第1回に引続き会員各社の事業報告が述べられた後、会務の報告があり、自由論議の後散会した。

事業報告

八幡鍍金工業株

代表取締役 八幡 健氏

最近の情勢は人手不足により相当悩まされているが、私のところでは従業員の扱い方を親分と子分といった具合に、先づ親しみ易い気安さを持たせるようにしている。主として縁故先を中心にして顧客を求める事にして現在の扱い方は、特に厳しいと思われる程ではないが、貯金等はある程度強制的に行なわることが結果的には本人の為になるように思われる。作業管理は命令系統がはっきりしているので、仕事が間に合わないとか、無理とかいうことが非常に少ない。そして諸経費の無駄を省くように心掛け、特に営業面を担当する者は材料費と諸経費を常に考え、適正な単価の見積をするよう指導している。経費の比率は大体次の通りです。

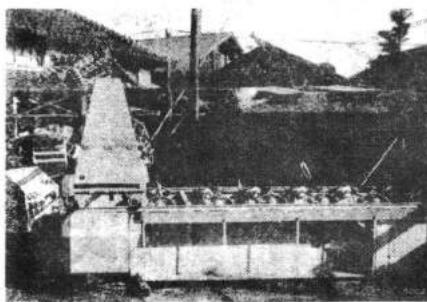
材料費 24.6% 給料13.0% 電力 3.0%

光熱費 0.8% 水道 0.4% 営業費 2.2%

その他 20%

営業品目 自転車部品、輸出用食器、暖房器

具、雑貨部品等
鍍金種別 銅、ニッケル、クロム
電源容量 150KW 人員67名



（左）後藤鍍金工業所
（右）後藤鍍金工業所
（左）後藤鍍金工業所
（右）後藤鍍金工業所

37・10・15

特長のある企業に

10月例会は中小企業に於ける労務管理について、中小企業センターの及川広造氏を招いて講演を請うた。氏は講演の結論として次のようなことを述べられた。中小企業体系に属する会社は業種別を問わず、成るべく資本の掛からないように合理化の順序を正しく行うこと、一にも二にも節約し、創意工夫することだ。然る後に合理性を生むことができる。そして計画はたえず実行に移せるように努力する。また、組織は出来得れば造るものではなく自然に造られてくる方向へもって行くことでなければならぬ。吾々は目前の問題を真剣に考える必要に迫られている。何故ならば、代表者はもっと財務、人事、生産に目を向けて必要な書類は目を通し判りやすくしておくようとする。特に注意しなければならない問題は景気上昇の時期に過剰設備投資を行ない易いから、ここに無理が生じてくる。このようなことは絶対に危険であり、固定資産が増えるばかりです。従って固定資産の維持はむづかしく、過当競走も起り易く、自らを不安定にしていく例は少なくありません。鍍金業者は依託加工業の中でも相当資本の掛かる業種になっている現在、特にこの点を考慮に入れて、特長を生かせるような企業体に成長させることができます。

37・11・10

青化カリについて

11月10日午後7時より会館に於て11月例会を開き、福井氏の司会により、藤野武彦氏の青化ソーダと青化カリの使用比較に関する詳

しい講演を開いた。また日本ソーダの社員が青化カリの製造について補足説明された。次いで、第二次渡米視察団として白瀬氏の米国業界の実情が報告された後、中村敏一氏、長谷川正三氏、白瀬氏の歓迎会を催した。

事業報告

（右）後藤鍍金工業所

代表取締役 後藤哲雄

私の会社では先日、鍍友会から示された経営分析資料報告を精密に検討したところ、私達の加工する製品見積りまたは諸経費等についてまだ相当研究を要することに気付き、目下検討を急いでいる訳です。元来私達の通念として正確な見積価格を算出することは、各工場の施設内容と専門化によりますが、正確に算出することが急務のように思われました。よく見学等へ行っても社内に無駄があつても案外平然としている場面を見受けますが、これは一日このような無駄を省いたら一年間にどの位になるという数字的観念の乏しさを物語り、商売の基準を抑えていない証拠だと思います。これからも、相互において見学会等をした時に意見書を提出して、どしどし注意を勧告してくれることが本当の親切だと考えます。

営業品目 帳簿、事務器関係金具、計量機、
スキー運動具等

鍍金種別 銅、ニッケル、クロム、半光沢ニッケル、ユニクロム。

電源容量 80KW 人員23名

37・12・10

忘年会

12月10日午後6時、会館において12月例会が開かれ、福井氏の事業報告が行われた後、恒例の忘年会を催し、1年間を回顧した。

事業報告

福井電化工業株

代表取締役社長 福井通裕

私は中学3年で中退致しまして父親と共に現場にはいりました。本来性格が我が儘であった為仕事上のことで親爺とよく論争をしたことがあります。先輩の石田氏、安藤氏にはクロムメッキを如何にして行うか等よく指導を受けた記憶は忘れません。（昭和21年頃）戦後クラウン電気へ2年半勤めた時代に月給300円也を受けたが俸給生活者の安さと苦しみ有難い、この三つを一緒にした心境でした。

自分が独立してから、回転メッキによりスタートし、メッキ液分析を週二回定期的に忠実に行なった。また当時服部先生、虎石先生、の御指導を受けながら、遂次東京方面へ手を伸ばすようにしていった。その間東京の相場を知らずに鈴のメッキをやったところ、浅草橋の木下健さんで仕事をしていることが判り、しかも安価で受けていたので木下氏に怒られた事もあった電源等は故大沢直太郎氏の紹介で四国電機からペルトーロを購入し、直流電源の不安を一掃して管理が楽になった。今後も業界の為に少しでも役立つ仕事に努力したいと思う。

営業品目 ゴルフ用具、雑貨、釦等
鍍金種別 金、銅、ニッケル、クロム、カドミ、亜鉛等
電源容量 230KW 人員130名

38・1・10

新年会

恒例の新年会は午後1時、会館において行われた。主賓として服部、虎石、藤野、田島村上、安部諸先生のうち服部先生が代表で祝辞を述べられた。坂手会長は十日会は本来鍍金技術の研究を主体にして運営されてきたが、現状の不況を乗り切るため、会長就任以来経営の合理化を目標に転換してきた。会員諸君におかれましては現状に甘じることなく、積極的に工場経営の合理化に努めてもらいたいと新春にふさわしい力強い挨拶を述べた。次いで宴会に移り、春の日ざしを浴びながら和気合々の裡に幕を閉じた。尚本日の新入会員株大東工業所寒川輝久氏の紹介がなされた。

38・2・11

材料商との対談

2月例会は都区一流材料商との懇談会を行なった。懇談の内容は次のようなものであった。

問 貿易自由化を迎えた今日、材料商はどうやってこれに対処していく考え方か。また顧客サービスとしての技術の指導、液管理等は今後どのように進めていく心算か。

答（西山氏）

貿易自由化に入った今日、私達材料商は全国的には一本化されているので、メーカー側に対して特定のものは別として、一般品は個々に話し合いを接渉することなく、組合の機関を通じて行なうようにしていきたい。現状はメッキ工場が昔と規模の点で相当大きくなっているので薬品等の使用量も相當に増えている。薬品、金属を問わず国産品が出て昔のように外国に依存することもなく取引されている。よく我々業界では、一次問屋から品物を求めるよりも、二次問屋から購入する方が値段が安いことがあると云われている。これはダンピングとか、時期的に生じてくる金融等のむずかしさにより商業道徳を無視してくる傾向は、全く昔の時代が懷かしくさえ感じる。最近は取扱い品目が相当に増えているので少々の品物を買ってもらってはメッキ液の分析等のアフターサービスは到底できないと思う。御得意様としては消耗品を多く使用してくれる方が私達業者は望むところだが、機械関係も材料商が多角経営の一環として、特約店をしたりしている。この傾向は材料関係

の販売利益が少ない証拠と云えるだろう。また、鍍金業界に望むことは、材料をなるべくまとめて注文して下さるようにして経費を減らし、アフターサービスのできるようにしてもらいたい。

問 戦前戦後のメッキ工場並に材料商を顧つてどのように思われるか。

答（木村氏）

戦前と戦後を比較すると全く問題にならぬ程飛躍をしている点は驚嘆に値する。しかし乍らそれは材料商も共にメッキ工場同様発展できることを念じている。また戦前は国産品の品質に問題があった為、輸入品の入荷が遅れてもメッキ業者が待っていてくれたが、今はこのような事をしたら、国産品の優秀品がいくらでも出廻っているから通用しない。從って人間的にも、経済的にも昔の方がゆとりがあるようと考えられる。

答（西山氏）

米国のメッキ業は余りにもスケールが大きいと聞いている。我々材料商も米国流に転換して行きたいと思っている。また製作会社のメッキ部の存在も相当に現在は見逃せないとみてよいだろう。メッキ業の中でも、最近100名以上の会社が増えていることは発展途上にあることだと考える。

答（石田氏）

技術的には、材料商が逆にメッキ業者に指導を受けているのが現状だと思う。我々は、メッキ技術そのものを身につけていないから本来メッキ技術を勉強してから、材料商になる方が妥当かも知れない。

また、東京地区に機械等を売っても中々不合理な点が多いように思う。それは、機械に故障が起きた場合一寸工夫すればすぐ直るようなことでも連絡してくるが、地方へ売った時にはそのような少々の問題はみな創意工夫して直している点東京地区は恵まれ過ぎているので、我儘にさえ感じる。要するに、メッキ業者も我々もそのような他力本願的な考え方を是正する必要があると思う。

問 支払問題と手形の件はいかがか。

答（西山氏）

(1) 戦前はメッキ業者は通産局にも認可されていない其の他の部門の業種であり、企業規模が小さいため、殆んど現金払いが多か

った。

- (2) 大正時代は月2回払いで、14日と月末には必ず支払いをしたが、今の人達には到底想像もつかない位利益率も安定してよかつた。
- (3) 昔は薬品、金属共に輸入品ばかりであったので、商品が不足すると値上がりこそあれ先づ下るということはなかった。
- (4) 手形は特に最近増えるばかりか、相当サイドの長いものを支払われるが、我々業者も商売として成り立つような方法と信用度を4段階に分けて取引を行なうようにしている。メッキ業も同様だと思う。

38・3・2

クルーゼン、シュルテン氏を囲んで

西ドイツのクルーゼン・シュルテン氏が再来日されたので、3月10日の例会を本日に繰り上げて行なった。氏からは「欧洲におけるメッキ技術の現状」と題した講演を伺がつた。

来賓

都立大学教授 田島 栄氏
ドイツ ドクトル クルーゼンシュルテン氏
〃 WMF社技師長 シェーベン氏
〃 WMF社企画課長 シンデラ氏

講演内容は次の如きものであった。

メッキ技術の現今のこと

メッキ技術は戦後著しい発展が起った。特にこの発展はドイツに嵐のように広がった。それはここドイツに他の国々の優位を回復する必要があったからである。ドイツは戦争中孤立しており、発展は足踏み状態をたどっていた。単に外国の専門分野との交流がなかつただけでなく、独自の発展もこの期間中は別の課題及び当時の原料不足によって強くはばまれていた。

戦後始った工業の躍進と共にそれらに用いるメッキ法の改善の要求がはっきりしてきた。今日では外国の優位が停止したのみならず、ドイツの研究から生まれた相次ぐメッキ技術の分野の新知識と発展及び実際が現れている。

或る材料の化学的及物理的要求に対する性質は、結局その最外部の層に非常に関係がある。それ故にこの1mmにも達しないような皮膜が使用時に於て材料全体に改善された性質を与えなければならないのである。適した金属とメッキ法の選択がしばしばメッキ技術者

達の前に困難な解決すべき問題を提供している。それ故今日ではもっとも専門的に教育された化学者達や技術者がメッキ設備を管理することは少しも驚くにあたらない。純粹に手作業的な能力だけではもはやいろいろ変化するメッキ技術の方法を発見し、更に発展させることは到底達せられない。腐食試験、浴の分析及び材料の試験の問題等も設備の管理者は工場の製品の流れを見るのと同じように概観しなければならない。防食性及び装飾的な働きについて製品の品質に課せられた高い要求及び完成品に見られる不良をできるだけ少なくする努力は又メッキ設備の近代化と改善とを要求している。

工業製品のオートメ化の増加はメッキ技術の分野にも糸口を見出した。特にオートメ化は単に労力の節約を意味するだけでなく、何よりもまづ作業工程に均一化をもたらすのだということを世の人々が知つて以来のことである。メッキ過程においては特に利点が現われる場合がある。

メッキ技術には実際単に純粹のメッキ過程すなわち電気化学的方法による金属の析出のみならず、部品に必要な前処理並にメッキ後に行われる処理をも含まれている。あらゆるメッキすべき部品は金属光沢の表面を示さなければならない。酸化物及び黒皮、油脂膜並びにあらゆる他物質による汚れは処理前に注意深く除かれていなければならない。しかも各工程間での水洗には特に注意が払われねばならない。品物に粘着しているたとえ薄い液体膜であっても、後の工程に極度の防害をひき起す可能性がある。

ニッケルメッキ

工業的に応用されている金属の電析では、ニッケルメッキが特に大きな意義をもつ。ニッケルメッキ層の装飾的作用及び良好な化学的及び物理的性質は更に広がって行く用途を保証している。ニッケル皮膜は特に市街地の空气中では比較的速かにその光沢を失うので今日では多くの場合薄いクロム皮膜で覆われる。第二次大戦前には最大電流密度は $1\text{ A}/\text{dm}^2$ で作業されていたのが、今日では何倍も高能率のニッケルメッキ層の品質を損わずにメッキを行う問題を追求して、完全に光沢ある高能率の浴が発見せられた。これらの電解浴は単にニッケルの速かな析出を可能にする

のみならず、強い光沢ある析出物を与えるので、あとの研磨はもはや必要としない。

つやのある、或は強い光沢あるニッケル析出物は析出中に特別な添加剤によって結晶化の傾向が阻止されるときに生ずる。これら光沢剤として知られているものは大部分有機物であるが、このとき幾分かは析出物中に一緒に包み込まれる。このような他分質の包含は格子の歪をひき起し、この格子の歪は又しばしば見られるメッキ層の硬度の上昇によってはっきりわかる。この格子の歪は悪くするとメッキ層の内部応力との共同作用でメッキ層の剥離をひき起したり、又少くともその中に亀裂を作る可能性がある。しかし単にメッキ層の物理的性質のみでなく、その化学的性質も場合によっては光沢剤の包含によって悪い影響を受ける可能性がある。最近行われた種々の比較研究は次のようなことを示した。すなわち、光沢剤の包含又はそれらの分解生成物は腐食に対する耐久性を低下させる可能性があるという。しかし、それだからといって光沢ニッケルメッキ層はいずれも原則的にはつや消しのニッケルメッキ層にくらべて劣る品質を示すということは一度もいわれたことはない。いくつかの優れた電解液が市場にでており、それらはより速かな作業ができるという利点をもつと共に完全な物理的及び化学的性質をもったメッキ層を与える。

レベリング作用をもったメッキ浴の発見は更に重要な前進をもたらした。カソードの表面で起こる分極によって一次的な電流密度は二次的な電流密度に変化される。すなわち最初に電着の分布に影響を与える品物の幾何学的形態のその作用は裏に引込んでしまい、電解液の組成に關係のある分極作用の方が強く電流分布を支配するのである。幾何学的形態及び陰分極の他にも別の過程例えば部分的に支配している電流密度に關係のある電流効率の違いのようなものも又浴のスローライングパワーに影響を与える。

適当な電解液組成によって金属の析出が優先的に品物の表面の顕微鏡的凹凸の底の中に起るようにならなければ選ばれる。それはミクロな凹凸にレベリング効果を生ぜしめる。大きな凹凸はこの作用では平滑化されない。レベリング作用を持つ電解液の採用によってさもなければ研磨に費される著しい冗費が節

約される。このような析出のレベリング作用は勿論膜厚が $15\sim20\mu$ になって顯著になる。

高光沢浴又はレベリングのある浴の調整には特に純粋な薬品及びアノードの使用が前提である。亜鉛、カドミウム、アルミニウム、鉛、鉄及び他の有機物のようなものの含有は絶対に避けるべきである。有機不純物は沪過によって取除かれる。勿論このときは光沢剤も大部分とり去られるということを注意しなければならない。他の金属は選択的純化によって除外される。高能率の浴で作業するに必要な大きな設備費は著しい短い作業時間と機械加工の節約によって補償されている。最近ニッケル、ニッケルメッキ、いわゆるDuplexニッケルメッキが非常に話題になっている。包括的な腐食試験の比較は次のようなことを示した。即ち二重ニッケルメッキ層は、もし第一の皮膜が機械的に研磨されているときには特に著しい耐食性の向上を示す。この皮膜の耐食性のデータは単に一重ニッケルメッキ以上にあるのみならず、銅、ニッケルメッキ層よりも優れている。このよい点は特に海洋性雰囲気においてはっきり現われるが、工業地帯の雰囲気における試験では殆んど明らかな結果は見られなかった。今日では二重ニッケルメッキは大規模な装置において用いられている。

クロムメッキ

クロムメッキはメッキ技術の中ではまだ比較的新らしい部門である。このメッキは約30年前から工業的に用いられている。電解液の組成と作業方法は非常に狭い範囲の中で得られる電着物の性質を規定する。この困難さはいわゆる自動制御型クロム浴の採用によって克服することが研究された。このSRHS浴(Self Regulating High Speed)はクロムメッキに必要な酸を電解液中の液底体としてもっている。塩の溶解度と浴温によって消費された酸の補給は定まる。

クロムメッキはその高い硬度のために装飾クロムメッキに用いられる 1μ 以下の薄い膜厚においてさえもすでに亀裂を作る傾向がある。亀裂のないクロムメッキ層を作り出そうという努力は現在なお続行中である。これによつてクロムメッキ層の耐食性は更に高められる。

銅メッキ

酸性銅メッキ浴は一般に最も古くから知られているメッキ浴に属している。Takoby は1838年に St Petersburg に於て始めて酸性銅メッキ浴を用いて銅を電気化学的な方法によって析出させることに成功した。

今日用いられている酸性銅メッキ浴は本質的には最初に知られたこのメッキ浴の組成と違っていない。実際は核を細かくし、又急速な析出を可能にするために多くの添加剤が提出されている。しかしこの場合にはニッケルメッキの場合のようなはっきりした成果はまだ得られていない。更に一つの欠点として二、三の金属、例えば鉄や亜鉛は酸性浴から直接に銅メッキすることができないということである。しかしそれにもかかわらず酸性銅メッキ浴は好んで用いられており、特に厚い析出物を作るとこではなお更である。

酸性銅メッキ浴と並んで大きな工業的意義をもつものはシアン電解液である。その中では亜鉛及び銅が直接に銅メッキされ得る。それ故この浴は鉄及び亜鉛部品の上にニッケルメッキするときの銅中間層の形成に用いられている。これの均一電着性は良好である。最近に於ては浴の作業方法を更に改善することに成功し、 $6A/dm^2$ 或はもっと高い電流密度が得られている。大抵の場合特別な添加剤が加えられている。

シアン化銅メッキの光沢を改善するために或る場合にはP R法によって作業されることがある。この方法は周期的な電流の反転にある。短時間アノード電流が流れるときにカソードに析出した皮膜の一部は溶解し去られ、そのため析出物は平滑化される。

亜鉛メッキ

亜鉛メッキは経済的見地からニッケルメッキが不適当な場合あらゆる処で採用されている。亜鉛皮膜は鉄及び鋼の上に特に良好な耐食作用をもっている。亜鉛皮膜は大気中では速かに外観が悪くなる。この欠点は亜鉛表面をクロメート処理によって不働態化することにより救われる。実際にはシアン電解浴が採用されている。特殊な場合には酸性浴でも作業される。米国では硼沸化亜鉛浴も実施されている。

酸性浴はシアン浴に比べて殆んど100%の電流効率であるという特徴をもつ。そのため、酸性亜鉛浴の場合には全く或は極めて少ない

水素の析出しか起らない。この長所は硬化された品物の亜鉛メッキに対し特に価値があるなぜならこれはさもないと脆くなる傾向があるからである。スローイングパワーが悪いことと析出物の外観が劣ることのため、酸性浴は凹凸の烈しい品物には稀にしか使用されない。

カドミウムメッキ

亜鉛の代りにしばしば元来高価なカドミウムメッキが使用される。カドミウムメッキは大気に対しては亜鉛メッキよりも優れた耐久力を示し、又シアン電解浴から一緒に析出する水素の量もより少ない。

錫メッキ

錫メッキ浴、明らかに光沢錫メッキ浴は缶詰工業や無線機部品用の板を作るのに使用される。特殊な方法によると電気化学的に作られた錫の皮膜は引続き 250 °C の熱い油の中に浸すことによって溶解される。こうすることにより、比較的薄く、しかも緻密で良好な性質をもつ皮膜が得られる。

銀メッキ

高濃度の銀とシアン塩を含む光沢浴が広く行われている。一般には銀ストラック浴と共に作業される。この浴は陰分極を高めるため高濃度のシアン塩と少ない銀の含有量をもっている。銀は単に洋食器や装飾品工業における被覆金属として用いられるだけでなく、電子工業における接触金属としても大きな役割をもっている。急速に動く滑りベアリングを作るときには電気化学的方法によって厚い銀がメッキされる。

銀の一番大きな欠点な今日尚硫黄及び硫黄を含む化合物に対する耐久力が弱いことである。多くの努力がなされているにも拘らず、それによって銀の曇りを少くすることが可能になるような方法を発見することはまだ成功していない。

規格化

ドイツでは他の国々と比べると金属の表面処理の分野についての規格化は比較的遅く着手された。ドイツの規格を作るときには、すでに存在している諸外国の規格を顧慮するという努力がなされた。ドイツの規格は重点的にメッキ技術の概念と知識、メッキ皮膜に対する使用基準、皮膜の試験法及びメッキ薬品とアノードに必要な純度を包含している。

オートメ化

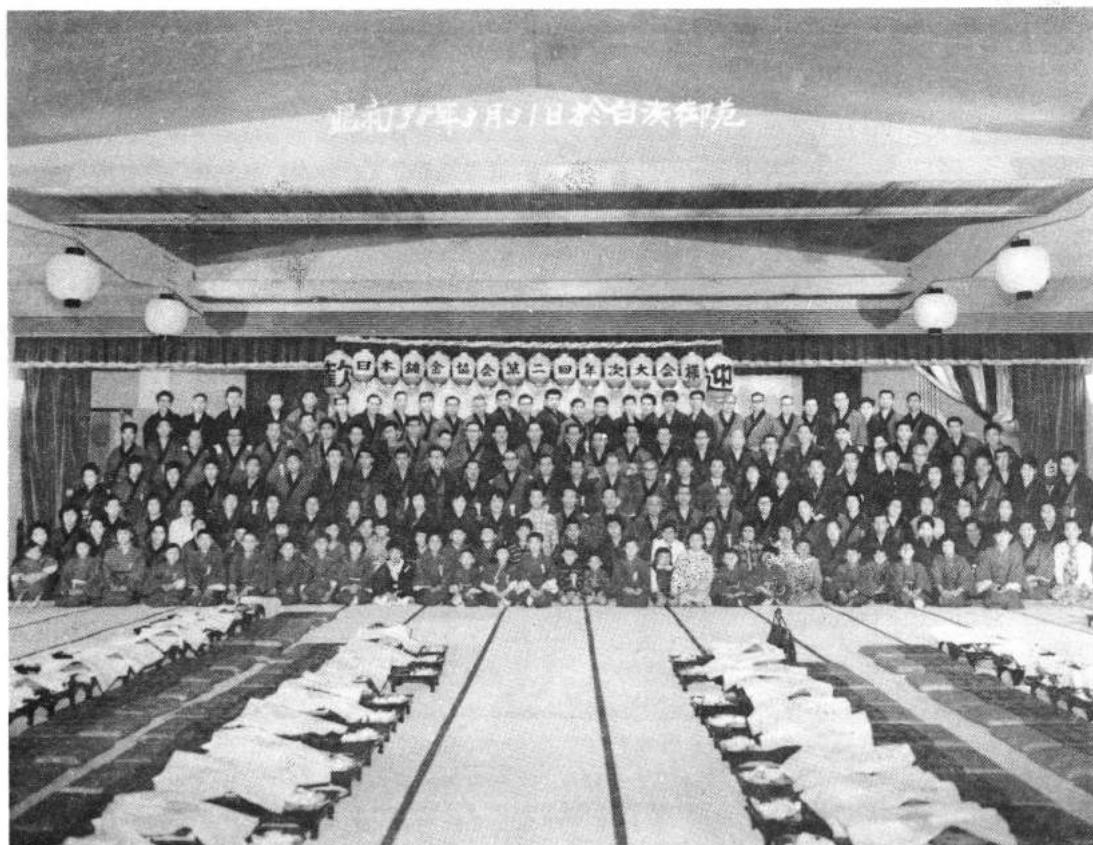
メッキ技術の分野における発展は単に電解液の化学組成について極限されているわけではない。最近のメッキ法は一部には特殊な技術的設備、例えば沪過器、選択的純化、循環加熱器、及び品物の運動を必要とする。しかしながら、これら設備的な改善とは無関係にあらゆるオートメ化がメッキ工場に進出してきている。オートメ化はこの場合には単に大きな品物に対するメッキ加工に限らず、最近ではいわゆる多量メッキの分野に対しても自動ロックやトロンメル装置の採用によって著しい成果が出されている。

38・3・31

第2回年次大会は白浜で

日本鍍金協会（会長宮林英明氏）の第2回年次大会は南紀白浜温泉の「白浜御苑」を会場に午後3時半より193名（来賓16名、会員及び家族177名）が参加して盛大に開催された。本年からは大阪の鍍生会が参加し、加入団体は4団体となった。

鍍友会佐藤光治氏の司会により、国歌斉唱が行なわれ、開会の辞名鍍会石黒勇氏、会長挨拶、綱領宣言鍍友会土井元一氏、がそれぞれ行ない、議事に入りて37年度事業報告、決算報告を可決、各会の現況報告を十日会坂手勇氏、名鍍会清水保明氏、鍍生会神谷晃氏、鍍友会前田一氏の各氏が報告、役員改選により次の如き新役員が誕生した。



会長 伊藤博朗氏（名鍍会）
 副会長 坂手 勇氏（十日会） 清水保明氏
 （名鍍会） 池田 弘氏（鍍友会）
 幹事 （十日会） 八幡健氏、福井通裕氏、
 井上喜夫氏、後藤哲雄氏、高橋政一
 氏、木下健治氏、羽成利一氏、小林
 憲氏。
 （名鍍会） 松本惶氏、小野江隆氏、磯部威至
 氏、横井健二氏
 （鍍生会） 土井元一氏、神谷晃氏
 （鍍友会） 伊藤利雄氏、宮林英明氏、前田一
 氏、湯川圭晴氏、近藤岩雄氏、勝井
 精一氏。

新役員の紹介に続いて、新会長の挨拶があり、来賓を代表して中西重一氏、中山秀生氏、林楨一氏、安藤公一氏、上村広土氏、白瀬氏の祝辞があり、湯川定一氏の万才三唱、八幡健氏の閉会の辞により大会を終らした。

小憩の後記念講演に移り、服部久一郎氏の「鍍金工場の排水処理と新しいJ I S制度」と題する講演を聞いた。夜は177名の大懇親会を催し、和気合々のうちに友情と団結を堅めた。



38・4・10

汚水処理の話を聞く

4月例会は軟水工業㈱の武岡孝治、成田強の両氏による鍍金の汚水処理について講演を伺った。

冒頭坂手会長は、今般東京都公害防止条例に基き私共業者においてはメッキ廃水処理は

非常に重要な問題となりました。これに対する必要な対策を未だ指示する機関もなく、いたずらに膨大な費用のかかることのみを聞いており、私共もつい無関心になり勝ちであります。

このたび、軟水工業㈱研究所メッキ廃水処理部が永年に亘る研究の結果、極めて簡単に、しかも経済的な方法を完成されましたので御参考迄に広く皆様の御意見を聞くと共に、我々業者として近き将来に備えるべく、本日の例会を企画いたしました。と述べた。

講演は

都市公害防止の重要性 武岡孝治氏

鍍金汚水処理の概略 成田 強氏

で終って、汚水処理と超音波と題する映画が軟水工業研究員武藤和子氏（正会員）によって上映され、感銘を与えた。

38・11・10

菊香る秋空のもと

十日会創立15周年祝賀す

十日会は戦後の混乱まだ納らぬ昭和23年11月10日創立。以来15年の歳月を経たので、その創立15周年式典を11月10日午前11時より東京高輪プリンスホテルにて盛大に開催した。折からの秋晴れのもと多数来賓と会員、家族は庭園に設けられた会場で、この日を喜び、将来への一段の発展を期した。

当日は十日会創立の功労者である高浜二郎氏に会員一同より感謝の寿像（小金丸幾久氏製作）が贈呈され、同氏令孫楨君の手によって除幕され紋付姿の高浜氏は幾度かハンカチで眼を押えて感激された。

式典は後藤哲雄氏司会のもと次の通り挙行された。

君ヶ代齊唱 バンド演奏

開会宣言 中村敏一氏

くす玉開披（鳩を飛ばす）

会長挨拶 坂手 勇氏

寿像除幕

贈呈文朗誦 永田逸雄氏

製作者へ記念品贈呈

高浜二郎氏挨拶

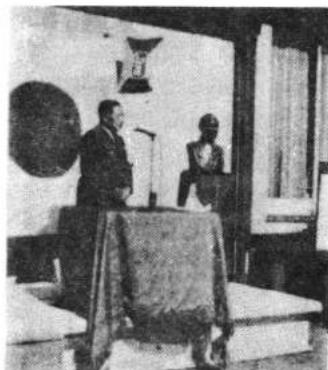
来賓祝辞 服部久一郎氏

東平 孝徳氏

伊藤 博朗氏

万才三唱 池田 弘氏

閉会の辞 福井 通裕氏



高浜二郎氏寿像銘

氏は姫路藩侍講高浜書山を父とし明治十七年九月兵庫県明石に生まる。人と為り眞情多感、剛健の氣風は古武士を彷彿せしむ。翠嵐又は天我と号し、一管の筆、世に処すること六十年、詩文流暢、積年古今の書百千を涉貌して労作「メッキ語源考」を著す。

次いで寛政の奇人蒲生君平につき鏤身資を東西に求めて「蒲の花」「年譜橋捨遺」等を版して、昭和三十年文化の佳節栃木県教育委員会より、県文化功労章を受く。

昭和二十三年、氏はメッキ業界将来の発展に寄与せんと青壯の有志を糾合して研究開発と相互の団結の機会を作り、第一回会合を後楽園涵徳亭に於てす。後名付けて十日会とす。

氏慈父の如く我号を授け同志相励み切磋琢磨して成果大いに挙り、会亦隆盛して今日を見る。慶なる哉十五周年の祝賀を迎えるに当たり、我号慈に氏の高徳を慕い且御多幸を祈念し、寿像を獻じて感謝の微意を表す。

昭和三十八年十一月吉日
十日会々員一同

研究部会の動き

38・2・9

鍍金生産合理化への引掛治具の役割

講師 鶴飼技術事務所 内田 大氏

38・3・9

コストダウンに必要な鍍金品質保証の実際

講師 内田 大氏

38・4・9

金属の前処理と自動化の考え方について

住友金属鉱山㈱ 伊藤楨一氏

38・5・2

鍍金に必要な検査と測定—講演と実験

講師 日本鍍金工芸㈱ 安部東代吉氏

武藏工業大学 加瀬敬年氏

村上技術事務所 村上 造氏

住友金属鉱山㈱ 丸山 清氏

労働省職業訓練所 所員 2名

38・5・9

銅鍍金とその前後における考え方

伊藤 楨一氏



39・3・10

総会

3月10日午後6時より、会館において昭和38年度の総会を開催した。羽成氏の司会により、事業報告、決算報告を承認の後、役員改選に移り、次の諸氏が決定した。

会長 井上喜夫氏、運営委員長小見山正道氏、会計大和田博氏、庶務石川進氏、運営委員大沢秀夫氏、山下伊太郎氏、綱島清隆氏、大木康弘氏、

また技術部会は委員長に坂手氏（東京鍍金）副委員長松村（足立鍍金）、調査金田氏（福井精鍍）涉外山田氏（三進SS）記録山口氏（小西商店）

井上新会長は十日会運営に関しては、内外共に姿勢を正し、十日会本来の良い伝統を守っていきたい旨の挨拶があった。



井上省吾 中中 多忠心に就任する会員諸氏

39・3・29

第3回年次大会

日本鍍金協会（会長伊藤博朗氏）の第3回年次大会は、3月29日午後3時半より「鳥羽国際観光ホテル」で会員及び家族約220名が参加して盛大に開催された。大会は名鍍会清水保明氏の司会ではじまり、国歌斉唱、池田弘氏（鍍友会々長）の開会の辞、伊藤会長の挨拶、次いで土井元一氏（鍍生会）が日本鍍金協会綱領宣言を読み上げ議事審議に入った。

綱領宣言

1. 私達は良識ある日本人の誇りを以って行動したい
1. 私達は鍍金工業を通じて日本産業の興隆に寄与したい
1. 私達は開拓者の精神を以って業界の推進力になりたい。

昭和39年3月29日

日本鍍金協会

審議経過はまず議長に伊藤博朗氏を選出し、昭和38年事業報告の件は名鍍会横井健二氏が報告、これを異議なく承認。次いで東京十日会、大阪鍍友会、鍍生会、名鍍会の各報告（省略）があり、名鍍会の松本煌氏が昭和38年度収支決算書を報告しこれを承認した後、役員改選に入った。

役員改選については、各会より推せんされた役員を選挙の結果、会長に荒木実氏を選出した。

新役員氏名

会長 荒木 実氏（十日会）

副会長 井上喜夫氏（十日会）

〃 石黒 勇氏（名鍍会）

〃 池田 弘氏（鍍友会）

幹事 長谷川正三氏

〃 中村敏一氏

〃 香西敬次氏

〃 小見山正道氏

（以上十日会）

〃 松本 煌氏

〃 伊藤博朗氏

〃 柳原正男氏

〃 西野 武氏

（以上名鍍会）

〃 伊藤利雄氏

〃 宮林英明氏

〃 前田 一氏

〃 近藤岩雄氏

〃 勝井精一氏

〃 湯川圭晴氏

（以上鍍友会）

〃 北条一弥氏

〃 石橋輝夫氏

（以上鍍生会）

会計幹事 木下文良氏

（十日会）

新会長、役員の紹介があり、新会長の荒木氏が就任挨拶を行った。

次いで、日本硬質クローム工業会々長中島茂清氏、中部鍍金工協組理事長中山秀生氏（伊藤専務理事代読）、日本鍍金協会顧問服部久一郎氏、上村長兵衛商店専務上村晃史氏、全鍍連専務理事白瀬氏が次々に来賓祝辞を述べ名鍍会顧問伊藤安太郎氏の発声で万才三唱、十日会会長坂手勇氏の閉会の辞で大会は盛況

裡に終了した。

その後、小憩し、欧洲視察の大阪府大教授石田武男氏が「欧洲の鍍金工業について」講演を行った。

夜は盛大に懇親会を行った。翌30日は家族と共に、伊勢の内宮、外宮、二見ヶ浦、水族館などを見物し、午後1時半、宇治山田駅で解散した。



39・4・10

中小企業のあり方を聞く

4月例会は会館において世界動態研究所長中西重思氏の「これから厳しい経済と中小企業のあり方について」と題する講演をきいた。続いて会務に関する審議に入り、本年度の運営方針等の承認を得た上、自由討論して解散した。

中西氏は経済の見通しについて詳細に述べられた後、次のように結論づけられた。

現在中小企業の倒産を多く見受けるが、金融引締めの直接の影響を受けて倒れる例は殆んどなく、会社そのものの体質不良からきている。国家の景気、同一業界の景気、自分の会社の景気～～これらは常に同一ではない。常日頃の精心により体質を強化しなければならない。そこで私は皆様に慎重経営をおすすめしたい。これは決して消極的経営ではない。慎重の上に消極、慎重の上に積極的でなければならない。私の主張する慎重経営とは、

1. 数字を中心とした合理的な経営
2. 経験を生かし、また他人の経験を参考にして適切な判断を下すこと
3. 大きな利益を追わず、堅実な利益を確保せよ。大きな利益には常に危険が伴う。

最後に私が望むことは、皆さんの年令は有限であるが、会社の命は無限である。慎重経営をもとにして、美しい年輪を一年一年堅実に築き上げてもらいたい事である。

39・5・11

ILO問題について

5月例会は午後6時より会館において、中労委の北村久寿雄氏を招いて行われた。テーマは「ILO問題と現下の労働問題について」講演要旨はの通り。

池田さんの所得倍増論は二重構造という国民所得の格差を生じたが、これは現在の地球全体についても同じ事が云える。

即ち南北の格差である。地球の北半球は先進国が多く、南半球は殆んど低開発国である。最近の国連の貿易会議の動向は、世界の貿易をいかにして拡大させるか、特に後進国の貿易拡大については先進国はもっと後進国から輸入をしてもらいたいと云う事である。

日本の立場は非常に微妙で、先進国からは村八分され、さりとて、後進国でもない。此処

39・6・10

人生と仕事の哲学を聞く

6月例会は午後6時より会館において、神田寺主管友松円諦氏の人生と仕事の哲学と題する講演を聞き、大なる感銘を受けた。

講演要旨

吉川英治は文化勲章を受賞した時、記者団の問に對してこう答えた。

「人世には離が大切である。いつも自分の専門の事だけを考えているのでは駄目だ。時々仕事から離れて、全く異なる分野を眺め、人生を考えることが大切である。」と

私は本日十日会からお招きを受けて、皆さんが吉川英治の云う離について既に実践し、人生と仕事の哲学と云う毎日の仕事から全く離れた、しかも全く重要なテーマについて探求されておられる態度に心から敬意を表するものである。

人生はいかに生きるべきか。この根本問題について我々は考えなければならぬ。一体池田さんの云う人作りとは何を指すのであらうか。一国の首相はもっと人世の目的、目標をはっきり掲げるべきである。アメリカの故ケネディー大統領はその就任演説の中で、

「国民諸君はアメリカ合衆国から何を与えられるか、何をしてもらえるか、そうゆう期待を私にもつであらうが、そんなさもしい根性は片時も持つてはならない。諸君がアメリカ合衆国に対して何を与える事ができるかを考えよ」と云っている。

人生の目的はライフワークとしての仕事を持つことで、人生の目的はこれ以外にはない。

職業のことを英語でプロとかコーリングと云うが、コーリングとは呼ぶこと、つまり神の召命=天意であり、使命である。歴史は繰り返すと云うが、各人の歴史は繰り返す處か、今日と云う日は一遍しかない。限られた人生を如何に送るか、それは人世の目的を知つて自己の職業の玄人になること以外にはない。所謂ベテランになることだ。ベテランは失業せず、世間は知つていると云う言葉があるが正に表裏一体である。

諸君の給料は会社からもらうのではない。世間が会社を信頼して、めっきを信頼すればこそ会社の会計を通じて渡されるのである。この精神を忘れてはいけない。我々の目標は自



己の完成にある。めっき技術、経営技術を通じて自己を完成させよ。商品は人格の反影である。立派な商品を作ることが、自己完成への道であり、作らせることが無上の人作りである。

仏典に羅漢という言葉があるが、これは雁供の意味である。即ち月給をやっても惜しくない人、やるに値する人、そう云う人を皆さんにはつくってもらいたい。私は雇用一年契約を主張したい。一年でやめてもらっては困るような人を集めるべきであり、本来は一日一日契約を更新して羅漢を作るべきである。

人生の目的は自己を完成させるそとにある。仕事に打込み玄人となり、月給をもらうに値する人となり、月給をやっても惜しくないような人を作らねばならない。

人はパンのみに生きるに非ず—キリスト

39・7・10

健康管理について

7月例会は午後6時会館において日本白寿会会长の新田豊造氏の職場における健康管理と経営者の健康と題する講演を聞いた。

氏は大要次のように述べられた。

人間が長生きをするためには、長生きをしようと思うことが大切である。健康は自ら築くものであって、偶然の長寿はあり得ない。病気になったら医者にかゝればよいと云う他力的な心は棄てて、薬を止め、自分自身の持っている機能を生かすような運動をしなければならない。これが健康管理の第一歩である。経営管理はまず、心の管理より始まることを銘記せよ。健康管理は大別して次の三つに分けられる。

(1) 物理的管理

五体を常に正常な状態に保つこと。筋肉と神経衛生の三原則は、全然使わぬと駄目になる、使いすぎるは駄目、ほどほどに使え永持ちする。

(2) 食生活管理

偏食をなくして、まんべんなく食べること特に40才を過ぎれば動物性脂肪をさけて、植物性のものをとる。コレステロールを取り去る不飽和脂肪酸の含有量は、バター42%，ゴマ油88%，コーンオイル90%，オリーブ油97%，従ってキャベツにオリーブ

油をかけて食べるのが非常によろしい。次に飲酒十戒は、(1)物を食べながら飲むこと、特にすし食いねえは長寿のもとで、食酢が健康によい。(2)強いサケはストレートで飲むな。ハイボールのように薄めて飲むこと。又良い酒をのむこと。(3)楽しみ乍ら飲むこと。

(3) 精神的管理

長寿は心から始まる。心は人の寿命なり。先立つものはお金にあらず、健康なり。人は仕事だ、商売だ、愛だと忙がしがっているうちにポックリと死んでしまうではないか。本日の健康法も知って行わざれば、知らざるが如し。

講演終了後白瀬氏から毒物劇物取締法の改正について説明があった。

隅田川浄化対策

荒川丁地区に
工場排水協議会が発



毒物劇物取締法改正案
小林厚相が提案理由を説明

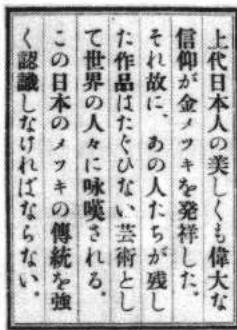


39・8・4

高浜先生東京を去る。

8月4日午后6時から会館において高浜二郎先生の謝恩送別会が開かれた。先生は高令の故を以って騒々しい東京を離れて郷里姫路に帰り、静かに余生を送りたい旨を前々からもらしておられたが、十日会先輩各位の懸命のお引止めに抱らずついにその意志をまげることは不可能であった。謝恩会は全会員出席のもとに先生を囲み、昔を偲んで、名ごりを惜んだ。

尚翌5日午后1時半の特急ハトにて、有志会員見送りの中を離京された。



39・9・10

内外の政治問題を聞く

9月例会は午后6時会館において、通産省政務次官岡崎英城氏を招き最近の内外の政治問題についての講演を請うた。

岡崎氏は自民党の総裁改選にまつわる党内事情、野党各党内の思想、原子力潜水艦寄港問題、ヨーロッパの再武装など内外の政治状勢を詳細に解説した後、結論として、これからめまぐるしく変転する世界の状勢に対処するためには、国内各政党の意見を一致させ対外政策を強く打ち出す必要がある。イギリスは国内問題では分裂していても、外交問題は一本化されている。国防問題についても日本の自力防衛をしなければならない。いつまでも対米依存では国民としての自主性がない。沖縄、千島、エトロフの返還を求めるべきはならないが、それには更に経済的にも政治的にも成長がなされなければならない。中小企業問題は格差是正、農村の近代化等問題は山積しているが、それには先づ、与野党の話し合いの広場を求めなければなるまい。そうするためには国民各位の思想的、経済的

政治的な成長が先決である。



手書三氏の六月例会、左島の研究会で開かれた
十日会研究部会九月例会

技能検定試験実施について
安部東代吉氏が説明

39・10・8

鍍金廃水の処理について

10月例会は8日午后6時より服部久一郎氏を招いて鍍金工場の廃水について具体例の講演を伺った。

氏はクロム、シアンの処理原理を詳細に述べられたあと、具体的に実施例の設備費、ランニングコストを明示され、結論として次のように結ばれた。

- (1) 施設は地下を利用して、その上が使用できるようにすると有効利用度が高まる。
- (2) 調整池、沈澱池は必ず用意しなければならない。
- (3) これらの施設はコンクリート既製品を用いることにより安価になる。



講演終了後臨時総会を開き次の議案を可決した。

1. 会則一部変更の件

会則に次の条項を追加する。

第26条 本会に財務管理委員若干名をおき会の財産管理に当る。委員の任期は之を定めず。

2. 財務管理委員選出の件

次の5氏が選出された。

福井通裕氏、小島政夫氏、中井才助氏、

中村敏一氏、八幡健氏

39・11・8

秋期大会を浜名湖畔で、

日本鍍金協会（会長荒木実氏）は秋期大会を11月8、9日の2日間、静岡県浜名湖弁天島「ホテル丸文」を会場として開催した。

同大会の第一日（8日）は午後6時より、打合せ報告事項を左記の通り行った。

- ① 1965年メッキダイアリーに関する件
- ② メッキ工場経営分析に関する件
- ③ メッキパンフレットに関する件
- ④ 40年年次大会に関する件

第2日目の9日は、浜名湖周辺で、魚釣、見物、ゴルフなどのレクリエーションを行った。

39・12・10

第一回技能検定を主題に忘年会

12月例会は東鍍連電気鍍金工技能検定準備委員である後藤哲雄氏に請うて、技能競技大会の準備進行状況について伺った。氏は大会に用いる器材の大半は各メーカーの協力を得て順調に進展している。問題はこれらを運営する人が問題である。これは十日会の協力を求べく東鍍連より依頼が来ている。御協力ををお願いする。

尚本日現在の受験申込みは1級23名、2級66名の計89名であるが、最終的には130名前后とならう。と述べられた。

終って、白瀬氏の毒物劇物改正の自民党案の説明、荒木氏のN A M F 日本支部結成の動きなど、諸般についての説明があった。

議事終了後、忘年会に移り、9時半解散した。

研究部会の動き

39・4・23

新らしい銅鍍金ビロブライト法

上村長兵衛商店 大橋徹雄氏

39・5・9

プラスチックへの鍍金

ジャパンメタル、フ社 藤田茂氏

39・5・9

29社員教育は如何にあるべきか

東京商工会議所 布川氏

39・6・29

二重、三重鍍金法及びその現況について

荏原インフィルコ㈱ 小暮秀夫氏

39・7・9

新らしい研磨剤について

光陽社

高沢氏

39・8・24

業界紙4社との懇談会

39・9・9

電気めっき工技能検定について

日本鍍金工芸研究所 安部東代吉氏

39・10・9

超音波の利用

超音波工業

渡辺氏

39・10・28

新亜鉛アノード 日本精鍊

39・11・9

毒物劇物取締法の改正点解説 厚生省係官

39・11・27

危険物の扱いについて

本郷消防署係官

39・12・9 忘年会

40・1・11

新春を祝す

新年会は1月11日午後2時より会館において行われた。会員並に鍍金関係の来賓多数出席し、井上会長、都立工業奨励館主任研究員虎石成美氏の挨拶に始まり、宴たけなわの頃には、芸者衆の三味線の音が湯島の岡になりひびいた。昨年中の多くの困難を抱え、頭痛にたえてきた事を忘れ、良き年にならんことを胸に念じつつ、唄や踊りがにぎにぎしく飛び出した。

40・2・10

議論百出の例会

2月10日午後6時、昭和39年度の反省会を会館において開催した。アメリカ鍍金協会々長招待の件、年次大会の件、第一回技能検定の件、毒物劇物取締法改正による2PPMの件等いづれも議論百出で、昔なつかしい十日会風景を展開して幕を閉じた。

プラウント氏訪日記

荒木日本鍍金協会会長談

東京十日会二月例会



十日会二月例会

40・3・10

総会、新会長に福井氏

昭和39年度総会は3月10日午後6時から会館で開催した。小見山正道氏の司会に始まり、長谷川正三氏が次期役員選考経過を報告し、次期会長に福井通裕氏が決定した。

また、福井会長は后日次の役員を決定した。

会長 福井通裕 (福井電化工業株)

副会長 木下文良 (木下電化工業所)

運営委員遠藤文男 (株遠藤メック)

三宅大蔵 (三宅商店)

寒川輝久 (大東工業所)

山本桂吉 (株乾卯薬品工業)



十日会会長
福井電化工業(株)社長
福井通裕氏



十日会研究部会
新委員長に小島喜代治氏

40・3・28

第4回年次大会、箱根で開かる

東京の十日会、名古屋の名鍍会、大阪の鍍友会、鍍生会を以て結成されている日本鍍金協会の第4回年次大会は、3月28日、天下の嶮箱根小涌谷の「ホテル小涌園」に会員、家族が224名参集して大々的に開催された。

第一回技能検定試験、汚水処理をめぐる問題等、鍍金界には山積された問題がある中で日本鍍金協会員は「良識ある日本人の誇り」「鍍金工業を通じて日本産業の興隆に寄与し」

「開拓者の精神を以て業会の推進力」となる三綱領のもとに、ひたむきな地味な努力がみのり、業界の推進力となって、こゝに4年目を迎えたのである。

会議は特別会議室において、十日会中村敏一氏の司会で全員国歌齊唱、開会の辞を鍍友会池田弘氏が述べ、荒木実会長が挨拶、綱領を鍍生会北条一弥氏と共に全員で宣言して議題審議に移った。

1. 昭和39年度事業報告

2. 各会の現況報告

鍍友会代表 池田 弘氏

鍍生会代表 北条一弥氏

名鍍会代表 石黒 勇氏

十日会代表 小見山正道氏

3. 昭和39年度収支決算報告 木下文良氏
続いて役員改選の結果、新会長に鍍友会の池田弘氏が決定した。

寒川輝久 山本桂吉
磯部威至 石井 博
加古芳博 杉山元夫
石橋輝夫 寺内伊太郎



新会長所信表明、来賓紹介の後、日本大学教授山本洋一氏、全国中小企業団体中央会白瀬懋氏、ダイカスト工業会々長由田繁太郎氏大阪鍍金工業協同組合理事長中西重一氏、中部鍍金工業協同組合理事長中山秀生氏の来賓により年次大会を祝す言葉が述べられ、東京都工業奨励館虎石成美氏の音頭で万才三唱、宮林英明氏（鍍友会）の閉会の辞で第一部を終了し、10分間休憩して、第二部の齊藤栄三郎氏の「今後の経済はどうなるか」の講演を聞いた。

昭和40年度新役員は次の通りである。

会長 池田 弘 (鍍友会)
副会長 福井通祐 (十日会)
伊藤利雄 (鍍友会)
清水保明 (名鍍会)
北条一弥 (鍍生会)
幹事 宮林英明、前田一、
湯川圭晴、近藤岩雄、
勝井精一、木下健治、
八幡 健 木下文良
三宅大蔵 遠藤文雄

40・4・10

話し方による人間関係

役員改選によって新らしく選ばれた幹事により4月10日午後6時より、東京鍍金会館において4月例会を開会した。

来賓は安部先生を始め田島、藤野、岡崎の諸先生に鍍金新報社、他に会員32名であった。新運営委員長、三宅大蔵氏により定刻開会、先ず日本話し方センター、安久一郎氏の「話し方による人間関係」と題する講演が行われた。続いて三宅氏から新年度の役員が次の如く紹介された。

会長 福井通祐 (福井電化工業)
副会長 木下文良 (木下電化工業)
運営委員長 三宅大蔵 (鶴三宅商店)
会計 遠藤文男 (遠藤メリッキ)
総務 寒川輝久 (大東工業所)
庶務 山本桂吉 (乾卯薬品株)

福井会長は本年度運営方針について大要次の如く述べた。

- 親睦を主として会員協力のもと、楽しい例会にする。
 - 技術、研究については金表と緊密な連絡をとりプラスチック上のメリッキ等の新しい研究発表をいち早く会員の皆様に紹介したい。
 - 今年は英国プロダクトフィニッシュ誌主幹の来日希望、米国AESのメンバーの来日も報じられて居り、今后は内外を問わず各会と交流を保ち相互の進歩発展を期したい。
 - 早速乍ら5月の例会は大阪の鍍友会の協力を得て工場見学に行きたい。研究部会員も参加して欲しいとの発言があり続いて木下副会長より、本年度は久しく行われなかつた旅行を催すため月々500円を積立てたいとの提案があり、大賛成の裡に可決された。終って安部先生より新旧役員に対して謝辞と希望が述べられ、今月誕生の小見山、清水、西山の3氏にケーキを贈り祝福して9時30分閉会した。
- なお本日の講演内容は概略次の如くである。
要旨 交友関係は勿論のこと、労資の関係に於いても常に相手の立場と感情を考慮し

て話しを明るくする事が公私共に成功する秘訣である。従って労働条件をよくする事だけが生産性を高める手段でなく従業員との話し合いによる人間関係のあり方が生産性向上に大きな役割を果して居る事を承知し、上下を問わず常に明るく話し合える環境づくりを心掛けましょう。

40・5・9

旧友相和し大阪に集う

5月9日、鍍友会鍍生会の御厚意により大阪工場見学とした。五月晴れの一日、新幹線に分乗した会員総勢30名は新大阪駅に湯川、塚本両氏の出迎えをうけ、宿舎森田屋に到着した。夕刻、鍍友会鍍生会の同志20余名一堂に会し、久々の旧懇を温め、和気合々、日頃の健闘を喜びつつ楽しい一夜を過した。翌10日貸切バスにて工場見学に出発(㈱)太洋工作所、関西鍍金工業(㈱)、桜川鍍金工業(㈱)、の3社を見学し大いなる見聞を広め15時大阪駅にて散会した。

40・6・10

松下幸之助伝を聞く。

10日6時より三宅氏より新入会員の紹介があり続いて講談でおなじみ邑井操氏の「松下幸之助」伝の一席、秀れた話術と熱の入った講演で会場を魅了した。続いて一般討議に入り次の諸点を報告、了承された。

1. 13日に来日するワーニック氏を18日に十日会として招待し、東電化工業(㈱)、(㈱)日東社(㈱)東平鍍金、の三社を訪問見学され夕刻柳橋の那賀井にて夕食懇親会を開くので出席を願いたい。
2. 大阪鍍友会技術部会ではこの度、東京のメッキ工場を見学したい旨申入れがあったので先月はこちらもお世話になっていることだしだ歓迎すべく準備しているので運営委員に詳細立案をお願いし会員に連絡する事とした。
3. 業界発展に大きな足跡を残された虎石先生がこのたび都立工業奨励館を停年退職されたので東京鍍金工業協同組合の主催にて謝恩パーティを7月8日東京プリンスホテルにて行うことになったので多数会員の出席を願う。十日会からも名誉会員である先生に記念品を差上ぐるべくこれが選定は会長に一任した。なお先生は組合に技術相談員として残られる

ことになっている。

4. 安部先生の御指導により技能検定は全員合格を目指して勉強して居るので技術部会に御期待願いたい。

次いで綱島、柳下両氏の誕生日祝のスピーチがあり、後9時半別れを惜しみつつ閉会した。なお新入会員は次の如くである。

井上氏紹介 森川忠勇(森川鍍金)
木下鶴氏紹介 岸 薫(岸鍍金)
小島氏紹介 上原達夫(旭鍍金)
福井氏紹介 安藤寿照(安藤鍍金)

40・7・10

上手に呼吸をいたしましょう

定刻、28名の会員に藤野、虎石、田島、服部岡崎の諸先生に表面処理ジャーナル社を迎えて例会を開く。討議に先立ち日本呼吸文化連盟会長、村田光司氏の講演で「呼吸管理による健康法」と題して一時間余を過す。自己の呼吸をコントロールすることによって健康な肉体、ひいては健全な精神を得ることができる。という氏独特の理論と体操をユーモアを混じえて講演、会員に共感を与えた。

続いて安部先生が中共に、後藤氏が米国に渡航されるので餞別を贈り、その壮途を祝した。又技能検定の講習の結果、研磨部門に難点があり今后重点的に補足指導する旨木下副会長より報告があった。

先月依頼のあった鍍友会の上京見学は十日会も技術部委員が主体となって協力することに決定した。

今月の新入会員は次の如くである。

福井氏紹介 小島一郎氏
井上氏紹介 本郷富蔵氏

なお先般来日した英國ワーニック氏より礼状が届いたことを報告し9時20分解散した。

40・7・24

鍍友会技術部員見学に上京

福井会長他5名が東京駅に出迎える中で、大阪鍍友会長池田氏他32名大挙上京早速貸切バスにて工場見学に向う。若手が多いため元気はつらつ福井精鍍、八幡鍍金、金属化工研究所、東武鍍金の四者を一気に見学し夕刻十日会員及び技術部会員37名の出迎えの中上野水光閣に到着、入浴後交歓会にうつる。

服部、藤野、加瀬の先生方に表面処理ジャー

ナル、鍍友会ニュースの各紙もみえ、福井会長の歓迎の挨拶のあと池田会長の謝辞、続いて全員自己紹介を終り、両会益々発展を祈念て万才を三唱し分れをつげる。
なお鍍友会一行は、翌日はとバスにて日本武道館、駒沢綜合競技場、国立競技場などオリジナル施設を観光して14時20分東京駅より帰阪した。

40・8・24

安部先生中共視察講演会

8月は例会を休む予定であったが安部先生の帰国をみたので24日午後6時より上野東天紅に先生をお招きして「視察談」を聞くことにした。出席会員は27名他に虎石、服部、白瀬氏を迎え、中国料理を食し乍ら講演に聞き入る。先生の訪中は約1ヶ月広東、上海、南京、北京、を回り8月10日に帰国した。

要旨、重軽工業から一般家庭、はては監獄までと副広く視察し、都市建設、環境衛生、緑化運動工業技術等人民の国家意識、勤労意欲は戦前を知る者にとっては隔世の感があり革命の洗礼をうけ、自由国家と共産国家の本質的な違いがあるにせよその実情には傾聴に値するものがあり聞くものに一同深い感銘をうけた。統いて荒木実氏の音頭で乾杯し先生の労作「共産中国の実情及び工場設備」のスライドを拝見しながら懇談、9時30分解散した。

40・9・10

後藤哲夫氏帰朝報告会

22名出席で6時より例会、先ずNAMFの団長として渡米した御藤哲雄氏の報告会があり統いて一般討議に入る。議題は前運営委員会の決定事項の報告のみで今月誕生者のスピーチにて散会す。次に当日後藤氏の講演内容を記してみる。

「プラスチック上のメッキの現状、並びに将来性」

1. 米国に於いてもプラスチックメッキは日本と同じく一部のメッキ業者に限られ一般的ではないが将来には深い関心と希望をもち、企業化計画の研究が盛んである。現状では従業員20名前後の企業ではその設備化に慎重な態度であった。

2. 人件費の高騰により大部分の業者が三交

替制を実施し、24時間フル稼動をして生産を上げ、コストダウンを図っている。

前述のようにプラスチックメッキは未だ普及には限定されているが、将来に於ける市場には飛躍的に拡大すると思う。

なお同氏は8月1日より27日まで米国東部から中西部の各工業都市を訪問メッキ業界を視察してきたものである。

40・9・20

プラウント氏来日に關する打合せ会

9月20日6時より浅草橋ヒットマンに20余名集いプラウント氏来日講演に際し任務分担と土産品を決めた。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 講演会司会 | 中村敏一氏 |
| 2. パーティ司会 | 井上喜夫氏 |
| " " | 後藤哲雄氏 |
| 3. 写真 | 安部先生(8ミリ) |
| " " | 八幡 健氏(スナップ) |
| " " | 山下伊太郎氏(" ") |

御土産品は銀製食卓セットとし小島政夫氏に一任した。

40・9・25

プラウント氏夫妻来日

メッキ業界の有志によって招かれた、エズラ・A・プラウント氏夫妻は9月22日、午後8時15分羽田着の予定であったが、当日は台風のため天候事情が悪く、飛行機は予定を変更して午後10時に到着した。

夫妻は、「特別待合室G」で休息、約50名の出迎の人達と挨拶を交し、乾杯、花束贈呈の後、午後11時半ホテル・オークラえむかわれた。

プラウント氏の挨拶

私の訪日に際し、皆様の甚大なる御親意を深く感謝致します。特に東平、荒木、永山の3氏には、大変お世話になりました。又、私の友人であるウエルズさんの日程についても色々御尽力下さって、大変感謝しております。私は3回目の来日ですが、今日ここに、三たび日本の土を踏みましたことは妻と共に喜んでおります。

時間が遅れたにもかかわらず皆様に御親切にしていただき、大変有難うございました。



ブラウント氏夫妻、日光にて



尚滞日中のア氏夫妻の日程は次の通り。

9月26日 休息

27~29日 工場見学、エビナ電化、日東
社、東平鍍金、福井電化、東電化

光陽社、日産自動車追浜工場、そ
の他

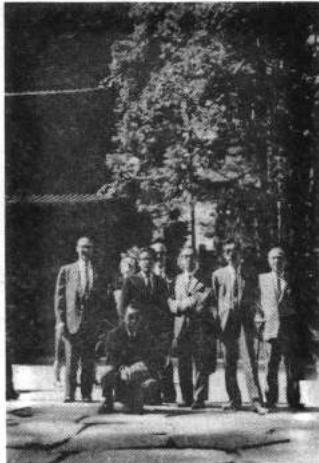
- 9月30日 講演及び歓迎パーティー
- 10月2~3日 十日会による日光見物
- 10月7日 大阪にて講演会
- 10月12日 名古屋にて講演会
- 10月15日 離日香港へ

40・10・2

ブラウント氏ウエルズ氏両夫妻日光に遊ぶ

10月2日3日と曇りがちな天候であったが、会員11名が集い両夫妻を迎えて日光は紅葉映える東照宮、中禅寺湖、華厳の滝と見物して金谷ホテルに入る。ブラウント氏夫人の茶目っ気ぶりが一行を大いにくつろがせ、日本の秋を大いに満喫して翌日ロマンスカーにて帰京した。





40・9・30

「米国メッキ業界の発展と将来への展望」

『プラスチックスのメッキ』

ブラウント氏講演と歓迎会

アメリカの鍍金業界の著名なる指導者として技術の開発向上発展に大いなる貢献をなしているエズラ・A・ブラウント氏 (Mr. Ezra A. Blount) (米国シンシナチ市プロダクツ・フィニッシング社主幹) は、我が鍍金業界有志の招聘によって、9月25日夜夫人同伴で羽田空港着、来日されたので、東京に於けるブラウント氏の講演会及び歓迎パーティーが、東鍍連、金属表面技術協会、日本鍍金協会及

日米交換

米国ノックナッシュの著書「表面鍍金
とは何か」の翻訳版に於いて、トーマス
E. ブラウント氏の著書「表面鍍金の現状と
将来」の翻訳版が収められました。



び同氏に色々とお世話になった人々によって組織された歓迎委員会（委員長東平孝徳）の主催により、9月30日午後2時より東京・赤坂プリンスホテル5階ローヤルルームに於いて開催された。

演壇正面には日米両国旗を飾り、学者、鍍金業者、材料業者など各界より約200名が出席、約2時間に亘るブラウント氏の講演を聴講した。

*Recent Development and Future
View of The American Plating
Industry*

Plating on Plastics



Ezra A. Blount.

講演会は日本鍍金協会十日会の中村氏の司会の下に開会、歓迎委員長東平孝徳氏が交通事情で遅延の為、荒木副委員長が代って、「ブラウント氏はプロダクツ・フィニッシング社主幹として、米国の鍍金業界の進歩発展に大いなる貢献をされたばかりでなく、世界

的にも著名なる鍍金学者、指導者であります。本年56才。大の親日家で、戦後米空軍中佐として来日し、日本の鍍金技術の向上に貢献され、その後昭和35年と今回と3回来日されております。

昨年東平委員長が渡米された時、是非訪日して頂きたいとお願いし、今回数度に亘る渡米でお世話になった方々の御賛同を得て、委員会を組織して、招聘した次第であります。今回は夫人御同伴でお出でになりました」と挨拶。

「昨日は在京の学者を招いて鍍金業界の現状とその在り方につき討論を行いました。

また昨日はカーガン・ウエルズ氏御夫妻も来日され、数日間プラウント氏と行を共にされます。ウエルズ氏はカナダのトロント市のウエルズ社社長で、リー・マニュファクチュア社の専務をされており、同時にA·E·S(米国鍍金協会)の理事を勤めています」とウエルズ氏を紹介、ウエルズ氏は、

「永年日本を訪問したいと思っていましたが、この機会を得たことは大変うれしい。私はカナダに於けるA·E·Sの理事を勤めているが、カナダと米国は非常な友好関係にあるが、日本も例外ではありません」と挨拶。

コスト低減と生産性向上の

ためメッキ自動化を推進

次いでプラウント氏の講演に移り日本生産性本部の三谷氏と中村実博士の通訳により、プラウント氏は、A·E·S(米国鍍金協会)会長の挨拶を述べた後、

「最近の米国メッキ業界の発展状況と将来の展望」

「プラスチックスのメッキ」

の二演題によって有意義なる講演を行い、聴衆に多大の感銘を与えた。

プラウント氏は、「米国のメッキ業界の発展につき、同業界に大きな影響を与える要因として第一に自動車産業の素晴らしい発達、第二に排水処理問題、第三に原価に関する進歩と様々なメッキ工程や金属の利用が出来るようになったことであって、この三つの要因は日本に於ても同様に影響力があると信ずる」と述べた後「銅メッキ」「ニッケルメッキ」

「クロムメッキ」「加速度的腐蝕テスト」

「表面処理の品質向上計画」「カドミウム及



記者会見するプラウント氏、左・川島利夫氏、右・栗木誠氏

び亜鉛メッキ」「排液処理」「自動メッキ装置」「ポンティアックのメッキ装置の各論に分けて詳細に論じ、最後に「プラスチックス」のメッキについて述べ、

「基本的に、米国のメッキ業者はコストを低減させ、生産を高めるためにできる限り自動メッキ装置を設置している。それには相当な投資が必要となるけれども、自動化は考慮を要する本質的な要点となっているのである」と結んだ。

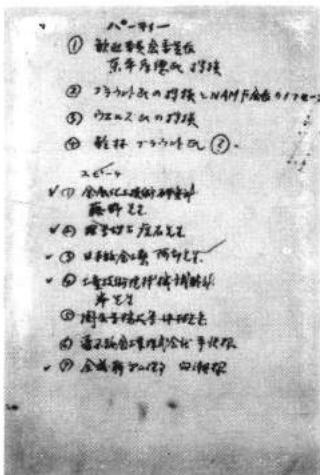
続いて学界代表麻田宏氏の代りに村上喜一氏が御礼の辞を述べ、歓迎委員長東平孝徳氏よりプラウント氏に記念品目録(石灯籠)を、日本鍍金協会福井通祐氏より記念品目録(金属製茶器一式)をそれぞれ贈呈して講演会を終了した。

引続き歓迎パーティーに移り、東平委員長の挨拶に対しプラウント氏の謝辞があり、NMF会長からのメッセージ、

「今後は日米両国の会員が意見の交換することが両国のメッキ業界にとって有益である。来年2月には会員が訪日するが、意見の交換によって両国の進歩発展に役立つことと信ずる」と伝えた。

プラウント氏の発声で一同乾盃、プラウント

氏は巧みな手付きで寿司を食べながら歓談し、最後に小島政夫氏の音頭で日本式に手〆を行った。友好的雰囲気の裡にパーティを終った。



40・10・11

「米国企業の実体」

10月11日定刻に集う会員20名、今日はバイオニア(株)社長室次長川崎光男氏を招き「米国企業の実体」と題し講演をお願いした。

米国に於いて1960年の不況時に多くの中小企業が一時休暇制度を利用して企業の縮少を試みたがその後翌年6月頃から時の大統領ケネディの景気回復策が功を奏し愈々不況を脱し、休暇中の人員を吸収し景気伸縮の安全弁とし、この休暇制度は一応成功をみた。しかるに最近日本の大企業でもこの制度を取り上げ検討しているが、彼我の社会構造や、人情、国情に大きな違いがあるので無批判な受け入れは疑問である。又米国の景気は1945年当時と較べて16倍の軍需産業に支えられていることを忘れてはならない。産業の研究開発もこの軍需産業、特に宇宙航空工学等、高度の精密工学を主体として莫大な資金が投じられた上で一般産業が支えられているという重要なことを忘れてはならない。

要するに日米の社会構造が根本的に違うので軽々しく批判は出来ないが、この日米経済の基本的相違を熟知した上でバイオニア精神をもって生産性の向上に努力人間関係の改善、社会機構の変革に伴う重要点を見出して対処していくかねばならぬ。

40・11・14

日本鉱金協会秋季大会箱根にて開催協会員一同を会する秋季大会は11月14日箱根天成園に集い、我が十日会からも21名が参加して行われた。当日は邑井操氏の講演があり終って議題に入り、第6回経営資料、賃金事情調査報告書完了報告、第5回年次大会開催計画、各会の現況報告があり終って懇親会に

入り各会芸人の飛入りで大賑い。翌日はゴルフ組と観光組とに分かれ楽しい一日を過した。

40・11・20

今月は例会を行ないので運営委員会を浅草橋浜久で開く。当日福井、寒川、山本、木下、三宅の諸君氏、技術部員6名が集り種々協議した。技術部員からの提案に近々海外からの客員も多く、我々も又海外に留学する機会も多くなるが、その前に我々自身、国内の現状実体を識る為に日本鍍金協会事業として国内留学の途を作つて欲しいとの申入れがあり、即時協会に提案、これが実施に移したい旨決議した。

40・12・10

忘年宴会に集う

楽しい事、厳しい事、数々の思い出多い年も早、師走となり、会館に35名の会員集い忘年会を催した。今年は一般に苦しい年であったが、ここに元気に集う諸兄を見るにつけ、来年えの新しい勇気が湧いてくる。新趣向のジンギスカン鍋に酒杯も重なり、宴たけなわとなる頃、東南アジアより帰国の木下健治氏がたち、彼地のもてなしぶりを逐一報告、会員一同笑いころげる一幕もあり、楽しく新しい年を期待をもって迎えるべく万才三唱して解散した。なお今月新入会員は次の如し

三宅氏紹介 直海和夫氏
 安良岡一晃氏
 瀬田新二氏

井上氏紹介 小沢忠良氏
 石川芳美氏
 小川鉄伊氏

研究部会の動き

40・1・9 新年会

40・2・17

鍍金工場の公害について

東京都首都整備局都市公害部 石黒辰吉氏

40・3・9

幹部訓練について

中小企業相談所 布川氏

40・4・9

経営管理と新らしい鍍金技術

鵜飼技術事務所 鵜飼義一氏

40・5・10

鍍金工場の廃水について

東京都首都整備局都市公害部 石黒辰吉氏

40・5・24

電解洗浄法について

日本化学機材㈱ 相原喬二郎氏

40・6・27

技能検定受験のためのコンクール

40・9・24

中共の工業技術の全貌について

日本鍍金工芸研究所 安部東代吉氏

40・11・9

最近のバレル研磨について

敷島チップトン㈱ 鈴木定正氏

41. 1. 10

旅行によせて新年会

恒例により11時～2時まで会館に集い名刺交換会並びに新年宴会を行う。集う者36名、高浜老の音頭で意気軒高の乾杯、安部、虎石藤野、の3先生による祝詞があり、新年の祝を寿ぎ、一同打揃って箱根天成園に向う。積立旅行とて心も軽く現地にて再び大宴会となり翌日はゴルフ大会、麻雀大会と二手になり、仕事も忘れ今日一日を楽しく過す。

41. 2. 10

春斗を迎えて

講師に中労委事務局次長、北村久寿雄氏を迎えて「近づく春斗を迎えて」と題し講演を聞くもの26名、愈々高賃金時代とて、元オリエンピック選手の講師の北村氏の話しに傾聴しきり。

1. 内外労働組合団体交渉の実際
2. 物価対賃金の実体
3. 春斗の動向
4. 最近の総評の動向と運動方針
5. 日本の労組の組織並びに行動の実体
6. 最低賃金の傾向

等興味ある話しに時余を過す。終って例会に入り、技術部会、名古屋工場見学の報告、41年度役員改選に当り、八幡、小島、井上、後藤の各氏を選こう委員に選び、又安部先生の提案による中共視察旅行希望者を募る等議題豊富にて残る時間も少く、三宅委員長より会館二階の水道工事に関する件提案あり、一同賛意を表し一任した。

41. 2. 15

第8回運営委員会

福井会長、木下、三宅、山本の四君集い、石田先生退職に伴い、記念品代贈る件を決議、パーティーには会長、副会長、委員長が出席すること。又組合からメッキセンター建設に関連して鍍金会館を貸与して欲しいとの申入れあり、これは総会に図ることとした。

41. 3. 4

米国鍍金業者来日歓迎会

A E S前会長、オーバランド氏外31名大挙して来日、十日会として全員四ツ谷フランクスにてビフテキ夕食会に御招待、荒木一家の奮じんの通訳により、和やかに、又親しく友好を深めることができた。

41. 3. 10

役員改選を掲げて総会

前回指名された選こう委員により慎重討議の結果、来期はもう一度、現執行部に運営をお願いすることになり、福井会長の快諾を得て、無事総会を終了、一般議題に入る

1. 東京鍍金工業協同組合に会館を貸与する件につき福井会長より経過説明、条件等は運営委員に一任する。

2. 年次大会出欠状況

3. 米国業界人歓迎会出費に関する事後承諾。

41. 3. 15

新年度新執行部会合

3月15日浅草橋浜久にて6時より第9回運営委員会の留任を決定。会運営の強化を図るために植平、石川進の両氏を運営委員として増員する。又会長積年の懸案である従業員テスト問題を作成、新年度最大事業の一つとして日本鍍金協会に提案することとした。この問題作成にあたっては若干エリートして有能な石川氏の快諾を得ているので、作成委員5名の選定は石川氏に一任することとした。

41. 3. 27

日本鍍金協会第5回年次大会

日本鍍金協会では、第5回日本鍍金協会年次大会を、3月27日午後3時より、有馬グランドホテルに於いて開催した。式次第は次の通り

- (1) 開会（司会）
鍍友会 伊藤利雄氏
- (2) 国歌齊唱
- (3) 開会の辞
十日会 福井通裕氏
- (4) 会長挨拶
会長 池田 弘氏
- (5) 日本鍍金協会綱領宣言
名鍍会 清水保明氏
- (6) 議長選出
議長 池田弘に指名
- (7) 議事
1号議案
昭和40年度事業経過報告の件
鍍友会 宮林英明氏
- 2号議案
昭和40年度取支決算報告の件、
鍍友会 近藤岩雄氏

(異議なく承認)

3号議案

- 傘下各会の現況報告に関する件
- 東京十日会（三宅大蔵氏、福井通裕氏）
- 名古屋名鍍会（石井博氏）
- 大阪鍍生会（森脇富治氏）
- 大阪鍍友会（湯川圭晴氏）

以上代表から、現況が報告された。

続いて昭和41年度の役員は改選により次のように決定した。

- 会長 中島茂晴氏（名鍍会）
副会長 清水保明氏（名鍍会）
 福井通裕氏（十日会）
 伊藤利雄氏（鍍友会）
 森脇富治氏（鍍生会）
幹事 八幡健氏、木下健治氏、
 木下文良氏、遠藤文雄氏
 寒川輝久氏、三宅大蔵氏
 山本桂吉氏、植平輝久氏
 石川進氏（以上十日会）
 磯部威至氏、石井博氏
 加古芳博氏、松本煌氏
 （以上名鍍会）
 仁里福男氏、福本修三氏
 （以上鍍友会）
 池田弘氏、宮林英明氏
 前田一氏、湯川圭晴氏
 勝川精一氏、近藤岩雄氏
 （以上鍍友会）

(8)新会長就任挨拶

中島茂晴氏

(9)来賓紹介

(10)来賓祝辞

(11)万才三唱

初代会長 小島政夫氏

(12)閉会の辞

鍍生会 北城一弥氏

以上で終了、直ちに懇親会に移った。

41. 4. 11

福井氏留任の挨拶

定刻、会館に30名が集い福井会長留任による抱負を述べる。昨年度反省し会期は若手育成に全力を挙げるとの力強い発言があり、一同協力を約し声援を贈る。

次いで議題に入り、会館貸与の問題が意外な方向に進み、高浜先生の遭遇で話がストップしているとの現状を報告、会員一同心配の声、しきりである。

次に石川進氏の問題作成委員長就任の紹介があり、石川氏は、「協会の事業として行うのでその責任の重さに驚いているが最後まで頑張ると」の決意表明があり、安部先生からも全面的に協力する旨お話をうかがった。又技術部会として毎日曜日、技能検定の勉強を始めるとの報告あり、次いで歴代会長に記念品を贈呈する件、賛同を得たので至急準備することにした。

41. 4. 23

従業員テスト作成委員会発足

委員長召集により、小島一郎、森川、直海岸、瀬田、本柳、安藤、植平、寒川の10氏が会館に相寄り今后の問題作成に関する意見の交換が行われた。

41. 4. 29

浅草橋浜久にて第二回従業員テスト作成委員会を開き、各委員よりもちよった問題を、如何にとり上げるかを検討、結局石川、小島直海の3氏が編集委員となり、原稿編集のち運営委員に送付することに決り、福井会長から激励の言葉をうけて散会した。

41. 5. 10

排水処理問題について

標記について今回は全鍍連専務理事、白瀬憑氏を講師に招き、定刻6時より29名集い、拝聴した。別紙参考資料の説明をうけたが、通産省令、厚生省令、都条令、等各省でまだ統一されたものが出ないので非常に話しがしにくく困っているとのことで、確たる指導的意見は聞くに到らなかった。次いで例会に入り、前回決定の歴代会長に記念品を贈呈、小島、八幡、井上の3氏より謝辞があり一同感謝の拍手をおくった。なお坂手氏は欠席したので次回にお渡しすることにした。

次いで服部先生の亜鉛に関する翻訳本を会員に配布して一般討議に入る。

先ず懸念されていた会館の貸与につき、高浜先生のお住居として会長がマンションを探してきたとの報告をなした。これに関連して後藤氏からメッキセンター建設にあたり将来を期してこの会館を売却して十日会の陣地をメッキセンタ内に置いたらどうかとの発言も

あったが、討論はなかった。

引き続き石川氏より「テストのためのテストでなく、従業員をメッキのプロにするため、又、検定に合格する位の実力をつけるために行うのでその結果、仕事に対する意欲がわくようにしたい」との発言があり、これに関連して安部先生の注意事項を開き9時30分閉会。

41. 6. 8

緊急運営委員会

後7時、浜久に運営委員集り、会館貸与の件につき緊急討議に入った。問題は現時点では高浜先生が強硬に反対するので十日会出身の組合理事と会長が交渉しても無駄となり善后策として、先生の親族に意見してもらうしかない。とのことだが、9日会長が再び交渉に行くので、それに先だち、若手の立場から、寒川、石川、両氏も訪問して交渉することにしたい。

41. 6. 10

日本合唱連盟専務理事、秋山日出夫氏の講演を聞く予定のところ緊急事務発生の為、中止と致し、会館貸与問題に解決のため、諸先輩方の意見を聞く会とした。

八幡、羽成、小林、坂手、高橋、昼間、小見山、木下、石川、の諸氏が次のような意見を述べている。

- 先生に傷のつかないように解決して欲しい。
- 若い人が大いに発展する機会であるから大いに頑張って欲しい。
- 今度の問題は古いものの責任である。この問題を解決して若手にバトンタッチをしたい。
- 会長はこの解決に背負い投げを食わぬよう責任を全うしてほしい。
- 文化が進めばこの社会に老人が如何に生きていくか、精神学的にもむずかしいのだから、先生のこの問題ももっと充分に意見を聞いてやらねばならない。
- 私は先生とも個人的な感情があるし、もっと温い態度で先生に接して欲しい。
- 一度先生が姫路に帰られて又、お迎えすることが、形の上でまずかった。
- 会館売却の話が先生には突然のことであったので余計、話がこじれた。

などたくさんの意見が出たが良い方策は見当らず、会長も今后もよい方向で解決していく

ことを約束して討論を打ち切る。

次いで前回欠席された坂手さんに感謝状と記念品を贈呈し、次いで15周年記念事業に功績のあった木下文良氏に記念品を贈呈した。

新入会員、㈱中央メタルの仲俣一三氏を紹介して、本日の会合を終わる。なお従業員テスト2,000部が本日刷り上ったので大阪800部、名古屋400部送付することが指示された。

又6月18、19日に行われる日本鍍金協会合同役員会に小島、荒木、八幡、石川、福井、山本、植平、寒川の8氏が出席することになった。

41. 6. 18

日本鍍金協会合同役員会

名古屋犬山温泉に十日会より8名鍍友会3名、鍍生会3名、名鍍会6名が集り、第3回協会秋季大会の細目を討議した。

- 秋季大会は10月中旬、片山津にて行う。
- 年次大会は犬山温泉、長島温泉の二案がある。
- 国内留学のアンケートの件
- 従業員テストは解答つきで1部20円とする。
- 協会々費を1名300円とする。
- ブルーダイアリーの存廃は十日会に一任。
- アメリカ、レオナルド氏から中共のメッキ事情を報らせてほしいとのことで、安部先生の資料に基き、荒木氏から送付した旨報告があった。

41. 7. 11

機器分析と排水管理

今月例会は石川進氏の紹介で横河電機開発部の講演で、P、Hメーターの応用による液の管理から排水の分析、管理、処理と非常に広い範囲に使用できることが紹介されたが、非常に高いという評があったが、いずれは各自がこの位のものを備え管理体制を整えなければならないので、あえてPRした次第である。

41. 9. 10

ニッケル不足とその現況

近々ニッケルの供給が相変わらず不足して大きな不安を残しているが、今回は会館に金商の小泉資材課長を招き、定刻よりその現況を話していただいた。

先ず現在の需要が、電子工業の発達、ベトナム戦争の激化と共に非常に増えたところ、

逆にインコのストで供給が減っている為、当分この状態が続くものと思われる。

例えは一昨年の需要が29万4千トン

昨年の需要が33万1千トン

であり今年の経済成長率6%として35万トンの需要が見込まれているが、3万5千トンの不足が予想される。而し10年後の消費予想量58万トンに対し、現在計画されている増産体制では58~9万トンとなって居り需給のバランスはある程度保たれるのではないかと予想しているが、時々の品不足は避けられないだろうとのことである。

41. 9. 16

日本鍍金協会役員会

中日ビル5階中日パレスに協会役員参集し
○秋季大会に関する件

○国内留学規約に関する件

○従業員テストに関する件

○その他を討議した。

国内留学規約は次のように決定した。

目的

次の後継者及び子弟の教育及び技術交流を目的とし、日本鍍金協会所属会員の会社に留学することを原則とする

手 続

目的内容を記し文書にて地域副会長を通じ会長に申し込む。会長はこれを当該地域の副会長に斡旋方を依頼する。

心 得

留学中は、規律を守り他の従業員の模範となる如く行動し、修業の身であることを忘れない。

給 与

原則として受入側地域の最低賃金を基準とする

期 間

④後継者養成の場合 2年以内
⑤社員の教育及び技術交流の場合 3ヶ月以内

謝 礼

協会発展のための斡旋料として、金3千円を協会に納入する。

(S 41. 11. 20号)

41. 9. 30

「会館問題について」

木下(健)氏司会により十日会長老の諸氏の参集を得て本文に於て会館問題について協議

した。

この問題は会の面子にも関り、会長の辞任問題にまで発展しそうな様子なので、会長慰留とその問題処置について参考となる意見を求めた。その結果、会館に対する財産管理権を確立すべく、早急に財産管理委員会が行動を起すよう結論を得た。

41. 10. 10

従業員テストについて

20名の少数会員により7時から例会を開いた。今回は第5回まで発行されているテストの反響を得て、今后の指針にすべくみなさまの御意見拝聴とした。大方が作成委員の慰労の言葉であったが、もう少し定期的に日限をきって発行して欲しいとの意見に、作成委員も心して、努力するとの解答を得た。

41. 10. 16~17

日本鍍金協会秋季大会

片山津温泉ホテルよしのに十日会より16名参加、名古屋大学末松玄六氏の経済講演をうけ、引続き大会を行い、会則一部変更の件、国内留学、社内テスト、経営分析、年次大会等、各会より報告事項があり、各項了承した。

41. 11. 10

会館に定期29名参會、秋期大会報告、岸氏渡米に際し餞別贈呈の件、決議、暗雲の中に乗り入れた会館問題についてその処置を問う声も空しく、今日も結論を得ぬまま散会する。

41. 12. 10

高浜先生逝く

忘年会を兼ね10日6時ヒットマンに集う者30名、高浜先生、逝去の悲報に泣く。12月2日、多くの会員が知らないなかを小数の有志に見送られ東京をたっていった先生を思うに、その終えんが、あまりに淋しく、虚しく、若き日の十日会を引き上げ、指導した当時があまりにも鮮明な印象があるだけに、酒も苦く、声も低い問題の多かった先生であるだけに逆に懐旧談にも淋しさが濃い。かたくななる性の為に、有終の美を全うできなかった先生に一同深い哀悼の意を表して宴を終る。

42・1・10

箱根で新年会

恒例の新年宴会を箱根湯本温泉「天成園」に設け、現地集合したもの35名。

宴会に先立ち、長老集り、新らしい事態に直面した会館問題、十日会運営問題について意見を交換した。以下発言を抜き書きしてみる。

- 今となってみると先生一人、白眼視されてよいのかどうか悩む。
- 昨年は組合とのわだかまりをなくすにより機会があったのに残念であった。今年はぜひ成功させなければならない。
- 今後の会の運営にはいろいろな問題を我々が片づけて、若手に全てをまかせたい。
- 昔は組合の運営活動がものたりなくて十日会の力が組合により刺激を与えていたが最近は十日会にもその魅力が薄れてきた。これからは工業組合の仕事の一端を荷負うような運営をしなければならない。
- 私達の年代になると組合の方で働くかなくてはならなくなってきた。私達が組合に入つて十日会とも密接な関係をもって共に発展するように努力したい。
- 以上今後の会運営、会館処分の問題に深い愛情のこもった意見が取り交わされた。

42・2・4

会館問題について

6時よりヒットマンに長老役員を招き会館問題について意見を求めた。

- 会館を処分するのか、しないのか。
- 現在材料商組合から会館を買ってもよいとの話もある。
- 現状維持で2年契約位で貸すのもよい。
- 工業組合に贈ってもよいが、センター完成後最優先に使えるかどうか。
- 会館を売却してセンターに入るのがよい。
- センターに入っても一室を設けるのでなければ意味がない。
- 理事長が理解があるとは云え、二代三代今まで保障できるか。
- ノスタルジアだけで会館を保持するのは能がなさすぎる。
- 賛成派、反対派の両方にデータの不足を感じられる。
- 十日会の将来性を考えるなら東京鍍金工業組合の十日会として発展する程の大きな気

持にならなければいけない。

- 借りるより部屋を買え。
- この問題でぐずぐずしているのが情ない。センターに入るのが組合に対する協力の意思表示である。絶体に行くべきだ。
- 以上の如く議論百出するも結論を得ず、先輩諸氏で委員会を設け、具体策を練ることにする。

出席者木下、木下、昼間、八幡、後藤、小島、海野、福井、大木、石川、三宅、山本、寒川。

42・2・10

第10回例会

愈々任期もあと一ヶ月に迫り次期役員改選を兼ねて臨時総会を開いたところ、定刻24名の参集をみ、第一議題、大阪工場見学実施の件を図り大方の参同を得たので具体策を運営委員に一任、年次大会、合同役員会について委員長より報告があり、最後の役員改選について、広く意見を求めたところ、次の諸氏が選こう委員に選ばれ、別室に於いて慎重協議の結果、新会長に石川進氏を選出した。なお日本鍍金協会会長は八幡氏が辞退したため福井氏にお願いすることにした。

42・3・10

石川新会長誕生

画期的な若手会長として石川進氏が選ばれた。十日会の新しい息吹きでもある。27名参會した今年度最後の例会は次の如く報告、事項を終り福井氏退任の挨拶のち石川新会長による新らしい役員の紹介があった。

| | |
|-------|-------|
| 会長 | 石川 進氏 |
| 副会長 | 綱島清隆氏 |
| 運営委員長 | 瀬田新二氏 |
| 教育委員長 | 小島一郎氏 |
| 運営委員 | 寒川輝久氏 |
| " | 植平輝雄氏 |
| " | 仲俣一三氏 |

次いで新会長の抱負が次の如く述べられた。

- イ、予算案を作る。
- ロ、事業計画を作る。
- ハ、講演内容、議事内容は記録集積し、会員全部に配布する。
- ニ、工場見学も定期的に行いたい。
- ホ、従業員育成と共に、社長教育も大いにやりたい。

次に仲俣総務が「運営委員、教育委員の企

画計画したものは全部記録をとり、PRに努めたい」と発言。

小島教育委員長は「一人しかいないが、カラースライド・テープレコーダーなどふるに使い後世に残る教育をしてみたい」。皆々若さに溢れた抱負を述べ、期待に、盛大な拍手が鳴り止まず、「私も60才をすぎてひまも出来たので好きなスライドなど、会の為に大いにお手伝したい」との安部先生の発言に久方振り、十日会の明るさを満喫して10時解散した。

42・3・25

第6回年次大会、犬山で

第6回日本鍍金協会年次大会は3月25日午後2時30分愛知県犬山市「名鉄犬山ホテル」で来賓会員家族共189名を集めて行われた。

大会は名鍍会清水保明氏の司会によって始まり、国家齊唱、鍍友会利伊藤利雄氏の開会の辞、中島茂清会長の挨拶、鍍生会森脇富治氏の日本鍍金協会の綱領宣言、十日会福井通裕氏の来賓紹介の後、中島会長議長となり、会務を審議終了した。続いて新役員の紹介があり、次の如く決定した。

会長 福井通裕氏

副会長 石川進氏（十日会）

伊藤利雄氏（鍍友会）

森脇富治氏（鍍生会）

清水保明氏（名鍍会）

幹事（十日会）八幡健氏、山下伊太郎氏、

小林憲氏、小見山正道氏、小沢忠良氏、

中俣一三氏、寒川輝久氏

（鍍友会）牧野勝氏、上田忠男氏、脇坂外史氏、前田一氏、湯川圭晴氏、勝

井精一氏、近藤岩雄氏

（鍍生会）仁里福男氏、福本修三氏、

（名鍍会）磯部威至氏、松本煌氏、加

古芳博氏、石井博氏

福井新会長は、会員各位の協力を得て、協会の発展に尽力する旨の挨拶と共に、特に今期は海外交流に力をそそいだ運営を強調し、並々ならぬ決意を示された。

終って、来賓の全鍍連会長中山秀生氏、名古屋工業技術試験所林禎一氏、全国鍍金材料商組合連合会長山本忠氏、上村長兵衛商店専務上村晃史氏の祝辞があり、エズラ・A・ブラウトン氏のメッセージ、虎石成美氏の祝電が披露され、大阪鍍金工業協同組合理事長の中西重一氏の万才三唱があり十日会八幡健

氏の閉会の辞をもって終了した。

続いて兼松経営基礎研究所長兼松茂雄氏の「経済の見通しと経営方針」と題する記念講演があり、午後5時大会はその幕を閉じた。

午後6時30分より大宴会場において、家族同伴の大懇親会が催され、お互に友情を深め団結を誓った。

翌日は5台のバスに分乗して、ライン下り日本モンキーセンター、明治村と盛り沢山の催物を計画したが雨のため中止となり、午前10時ホテル犬山において解散した。

42・4・10

本年度の方針をテーマに

新らしい役員による第1回目の例会は4月10日午後6時より行われた。石川新会長は、本年度の方針として、会員の利益につながる十日会でなければならないことを強調し、例会は経営者のために、経営における基本的な勉強の場であること。研究会は監督者を対象として管理、監督に必要な知識と良識を、一般従業員に対しては基礎知識の修得と一般教養の向上を目指し、従業員テストや十日会作成のスライドによって教育を行なう旨の所信の表明があった。

この基本方針をもとに作成された、例会及び研究会の年間スケジュールを明確に示した事業計画と予算案の説明があり、出席会員全員が大いなる期待に拍手をもって承認した。

続いて、向島消防署査察課の高橋係長による防火防災に関する講演と映画があり、一般火災また、危険物等による災害の恐ろしさをさまざまと見せつけられた。

尚本年度より、旅行積立金を廃止し、その分を研究会費、講演会費に充当すること、また、役員の負担を軽減するため会費は1年分前納にすること、新入会員の紹介などを承を得て終了した。

本日の新入会員

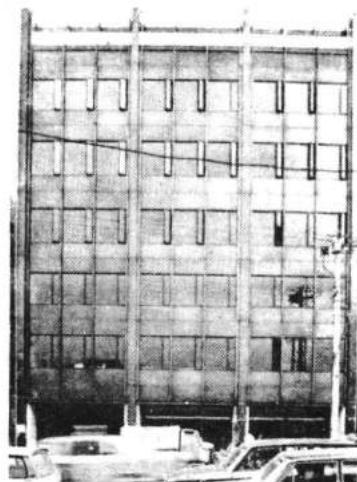
株市松商店 長谷川元章氏

ツクモ電鍍金工業株 佐久間 隆氏

42・5・10

原価低減をテーマに

5月度例会は5月10日午後6時から、生産性本部製作による原価低減シリーズのスライドをもとに開かれた。今日のように競争の激しい時代にあっては、売上をいかに上昇させるかという点も大切であるが、それと同時



東京都鍍金工業組合（理事長・澤井健氏）では、かねて建築中であっためつきセンターが、ナント月半で竣工し、建坪二〇〇坪、延坪一七七坪、鉄筋コンクリート。地下一階上六階、外壁アラミド・シングルサルの立派なビルディングの完成をみたのである。四月二十四日午前十時より落成披露式を行つた。

めつきセンター 地下一階地上六階の偉容 落成披露行わる

影山中小企長官、
他国会議員も参席

に、一定の利益を確保し企業の繁栄を求めるためにはどうしても原価を低減させなければならない。その方法を大別すると

(1) 作業方法、材料を改善することによる原価の低減

(2) 作業工程を改善することによる原価低減

(3) 生産性を向上することによる原価の低減がある。そして経営者、管理者の責任は、

以上三つのうち時期に応じた適切な原価低減方針を決め、原価低減の目標を決め、原価低減方針について、全従業員の納得、信頼を得ることが大切であるとの結論を得た。

終って、石川会長より、本年度から会報を発刊した、事後承諾であったが全員了承。

各氏より会報についての批判を求めたところ安部、小島、八幡の諸氏より次のような意

見があった。

第一号については、大変編集も変化に富んで非常によいが、今後マンネリにならぬよう新しい企画をもり込んで利用価値のある会報にして欲しいとの要望があった。

終って新入会員の紹介があり、次の諸氏が紹介された。

| | |
|------------|--------|
| (有)深中鍍金工業所 | 深田尚弘氏 |
| (株)鶴飼技術事務所 | 大畠二郎氏 |
| 赤沼化学薬品株 | 赤沼信一郎氏 |



十日会五日例会で挨拶する石川会長

42・6・10

最後のお別れパーティー

6月10日東京鍍金会館における最後の例会を午後6時より催した。

最初に石川会長の挨拶があり、「会館の売却が成立したので今回が東京鍍金会館における最後の例会になる。今後は東京鍍金工業組合のもとに大同団結して業界発展のために協力したい。」と述べ更に、十日会の発生由来と歩み等を語った後、会館売却代金から必要経費を差引いた残金600~700万円を、工業組合鍍金センターの教育資材購入費に寄附する旨の説明、また、今後は十日会を鍍金センター内に置き、諸施設の無償使用、十日会の表示等について工業組合宛要望事項の説明がなされた。

会館売却報告について小島政夫財産管理委員長の報告のあと、17年間苦楽を共にして來た東京鍍金会館との「お別れパーティー」となり、まず亡くなった先輩諸兄に黙禱を捧げた。

八幡健氏の乾盃音頭があつて座は一段と寛ぎ、井上喜夫氏の「十日会の歩み」福井通裕八幡健、中村敏一、坂手勇、後藤哲雄各氏による「会館建設の思い出」という回顧があり出席者は和やかななかにもしんみりとした気

分で聴き入っていた。

続いて東京鍍金工業組合副理事長の来賓挨拶があったのち、昔なつかしい映画「鍍金と生活」が上映された。

この後石川会長より昭和42年度第1回見学会の説明と、後藤哲雄氏の掛け声のもとに、備品競売等があり、最後に高浜二郎氏作の「十日会の歌」を全員で合唱してお別れパーティーは盛会裡に閉会した。



42・6・24

三条、燕へ工場見学

十日会有志35名は6月24日、上野発7時12分の急行第一さどにて新潟県三条市、燕市方面の工場見学を行った。車中中食の後、正午に東三条に到着、貸切バスにて野水電化株に向い、銅、ニッケル、クロム、亜鉛の鍍金工場を見学した。

続いて新潟県西蒲原郡弥彦の株蓮沼商店鍍金工場の光沢硫酸銅鍍金、ニッケル、クロム鍍金、引掛製作工場を見学、燕市に赴き、洋食器メーカー小林工業株の製作から鍍金まで、更にステンレスの電解研磨工程を詳細に見学して一日を終えた。

夕やみ迫る国道を一路新潟市に向い、鳥屋野湖畔の「とやのえんホテル」に宿泊した。

一行は、三条鍍金工業会々長野水重太郎氏、燕鍍金工業協同組合専務理事平野美乃里氏から、三条、燕地方の鍍金業界の現状を聞いた後、懇談会に入り、今日一日の収穫、見学批判などを存分に交換し合った。

翌日は朝食後散解し、新潟駅より汽車で帰るもの、佐渡見物に廻遊するもの、全日空にて飛行機で帰る者、それぞれの好みに応じて越後の初夏を楽しんだ。

42・7・9

日本鍍金協会役員会箱根で開催

福井会長就任以来初の日本鍍金協会役員会

は7月9日午後2時より、箱根温泉湯本「吉野」に於て行なわれた。議題は

1. ブラウント氏及びAES（アメリカ鍍金協会）会長サクラネク氏の来日歓迎について。
2. 秋期大会及び年次大会の開催について。
3. 来春予定のアメリカ視察計画について（3月初旬）
4. 韓国視察について（10月初旬予定）

で、会議終了後、懇談会を開き、旧懇を温めた。翌日は朝食後解散した。

42・7・10

センター入室で論議

7月例会はめっきセンター4階会議室で午後6時から10時過ぎまで行われた。

最初に原価低減をテーマに「価値分析による原価低減」「原価低減はよりよい人間関係から」「原価低減の評価の仕方」の3つのスライドを上映したあと、石川会長の挨拶があり、排水処理、炉過機、電源、プラ上のめっき等鍍金に関する16本のスライドを十日会で作成したいという目標が述べられた。

続いて小島政夫財産管理委員長より鍍金会館売却状況に関する説明があった後、八幡健氏より鍍金センターへ入ることについて説明があった。

これは、十日会が鍍金会館売却代金の殆んどを教育器材購入費として鍍金組合に寄附するに当り、談話室となりの予備室若しくは、教室をスケジュールに基いて定められた日に無償使用、例会、研究会等におけるセンター内諸設備の無償使用など、4項目に亘る希望事項を提出した件につき、組合の常任理事会で審議、その結果を八幡氏が述べたもので、「永久使用」「無償」「定められた日」などの文字が固苦しい。強行である。他人行儀であるとの意味から、上記の文字を柔らかく書き改めるか、抹消するかして欲しい、というものである。

来る7月25日の組合理事会へこの件をかける都合上、十日会の態度を決める必要から討議に入り、長時間にわたる意見の交換を経て希望事項を全部抹消し、それに代るべき記録を残し度い、ということで衆議一決した。

続いて石川会長より、去る7月9日箱根で行われた日本鍍金協会役員会の報告があり、来る11月4日5日に箱根湯本の「よしの」で

秋期大会、また来年3月下旬に日光で家族同伴の年次大会、同じく来年の2月下旬から3月初旬にかけての米国への視察旅行等、盛り沢山の行事計画が報告された。

42・7・22

ブラウント氏と旧懇を温める

観光の為来日されたブラウント氏夫妻を歓迎する夕食会は7月22日午後5時、浅草雷門前の「松喜」に於て有志23名を集めて行なわれた。

7月21日来日のブ氏を含む観光団一行は早朝日光見物に旅立ったが、午後5時東武浅草駅に到着、直ちに我々の待ち受ける会場に姿を現した。ブ氏夫妻はAES会長のサクラネック氏夫妻を同行され、相変わらずユーモアをふりまいた。

松喜名物の牛なべを食し乍ら、会員一人一人と堅い握手を交し、旧懇を温め合った。いつ会っても、心の温かな物覚えのすばらしい人であった。



42・7・24

ブ氏とサ氏を囲む懇談会

7月21日来日したエズラ・A・ブラウント氏とW・H・サクラネック氏の二人を囲んでの業界有志による懇談会が、7月24日正午より鍍金センター4階において開催された。



東平孝徳氏より挨拶があったのち、昼食を参加者と共にした両氏は会場を3階に移し、まずブラウント氏から「今日再び日本を訪問する榮誉と共に日米の鍍金に関して意見交換ができる事を幸せに思う。特に素晴らしい鍍金センターの完成を心よりお祝いします。」

今回はまた、一諸に同行しましたAESの会長サクラネック氏を紹介する榮誉にあざかり幸せに思います。

サクラネック氏はAESの第二副会長、第一副会長を歴任され、去る6月に会長に就任された方で、AESの褒章制度によって、四つの褒章を受けている人であり、60以上の本を発表され、雑誌などへも投稿なさっている」とサクラネック氏の紹介があり、続いてサ氏が「日本を訪問すると決った当時は、かつて日本に来た人達の足跡をたどるとは思わなかった。日本へ来て、多数の業界の人々に逢うチャンスを得て大変うれしい。

私は永年ダイカストのメッキを研究して來たが、これからわずかではあるが、スライドを上映して説明したいと思う。スライドの内容は亜鉛ダイカストメッキが、将来このようになる、又かくあるべきだといったものです。

スライド終了後、二三の質問があり、午後5時頃散会した。

42・8・10

品質管理の重要性

恒例の夏休みを返上して8月例会は8月10日午後6時より、めっきセンター4階で開催された。本日のテーマは「監督者と品質管理」「日常の管理と管理図」についてスライドにより勉強した。

我々は日常生活において必要な物を求めるとき、その使用目的にあったもの、しかも、品質が良く、値段の安いものを手に入れたがる。従って、企業内においても仕事を進める場合、買い手が望んでいる品質にうまく合わせることができるかどうかは、持ち込まれる材料、生産設備、作業方法、作業に関する作業者、監督者の働きによって決まる。

そこで、これらを最良の状態に置く為には監督者は作業者に品質向上意欲を高め、作業の標準化を進め、作業者の訓練を行ない、作業のチェックとアクションを適切に行ない、常に問題意識をもって改善することが必要であるとの結論を得た。

終って会務に入り、八幡健氏より、組合に対する十日会要望事項の組合の意向、福井通裕氏より、韓国視察希望者11名、米国視察希望者13名ありたることの報告であった。

また、本日本人の希望により次の1名が退会した。

(有)小台鍍金工業所 小川鉄伊氏

尚当日は服部久一郎氏の「十日会の八月例会の議題をみて」と題する鍍金の品質管理に関する小冊子が参加者に配布された。

42・9・11

会則改正のための臨時総会

9月例会は臨時総会となし、9月11日午後6時よりめっきセンター4階で開催した。

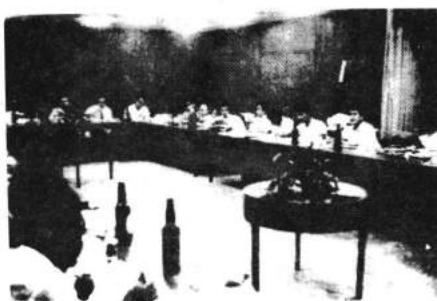
瀬田運営委員長の開催宣言により、井上喜夫氏議長となり、会則の審議に入る。

石川会長は旧来の十日会々則があまりに古く、また会館を売却してめっきセンターに入った今日、現状にそぐわぬ点が多くあるので今日改正されたい旨の提案理由を説明、一同了承して十日会がめっきセンターに入ったのを機会に鍍金組合及び鍍金業に関連ある者がより多く入会できる十日会にすべく改正案を審議して次の諸点が改正された。

第3条 本会の事務所々在地

第8条 会員の資格並に入会金

第25条 会費



会則改正の会場

42・10・10

労使協調を再認識

10月例会は10月10日午後6時より、めっきセンター4階において開催された。テーマは「新らしい労使のあり方」「労働組合の結成」をスライドと16ミリ映画によって勉強した。

企業における労使間は常によく話し合い、意志の疎通を図らなければ、どんな善意から行なったことでも反対に受取られる事が多々

ある。そして意志の疎通を欠くと、不平、不満が内攻して、勤労意欲の減退、作業能率の低下をもたらす。

労使が話し合うということは、交渉とか、談判とかという緊張を感じるような堅苦しさがあってはならない。お互の気持や事情を話し合うことで、無駄な対立や緊張が解け、一段と親密に理解し合うようにすることである。

「これを今日中に片付けて欲しい」とか「それにはこの材料を使った方がよい」など、日常職場において無意識になされている会話である。この平凡なやりとりが話し合いである。中小企業では、日常職場で交されているこのような話し合いを習慣的なものにして、次第に労使双方が企業の現状、経営の見通し、設備や技術の改善、その他あらゆる問題について意見を述べ、これを聞き、理解し合う機会をもつようにして、話し合いの場を次第に組織化することが望ましい。そして話し合いには誠意と忍耐、理解と信頼が必要である事を学んだ。

続いて10月12日出発する韓国視察団のスケジュール発表があり、福井、小見山、小島、石川の諸氏が、それぞれ視察の目的、抱負を述べた。

42・10・12

韓国視察団出発

安部東代吉氏の案内による韓国鍍金業界視察団は次の諸氏により結成され、十日会第2回見学会を兼ねて元気よく羽田を日航機で飛び立った。

団長 福井通裕氏

幹事 石川 進氏

顧問 安部東代吉氏

団員 三宅博氏、小島一郎氏、山本桂吉氏、寒川輝久氏、植平輝夫氏、河合昇次氏、小見山喜代次氏、中井国彰氏、丸山清氏、長谷川元章氏、小西陽夫氏、山本辰男氏、納富誠武氏、岸裏氏、小林義一氏、大給昭二郎氏、以上19名

尚視団の日程は次の通りである。

10月12日

羽田発午前9時20分、ソウル着11時30分

コリアハウスにて昼食後、市内見物、夜はウォーカーヒル、クラブにて夕食、ウォーカーヒル、ホテルに一泊

10月13日

起亜産業、東洋ミシン、正工社を見学後、
セジョンホテルに宿泊

10月14日

金浦空港より釜山に飛び、金星社釜山正工
社を見学の後、海雲台に赴き海雲台観光ホ
テルに宿る。

10月15日

釜山発ソウルに赴き、12時30分発の日航機
で離韓午後2時羽田着の予定。



42・11・10

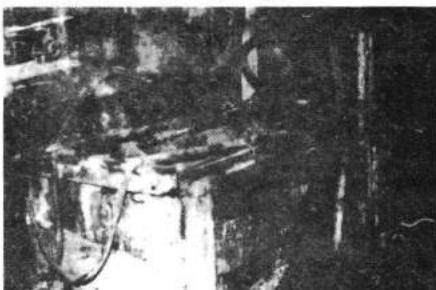
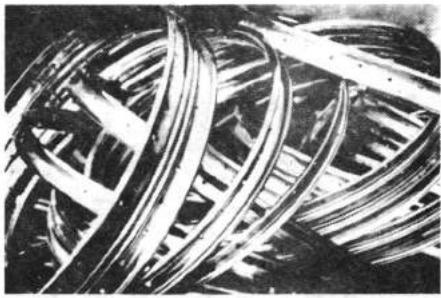
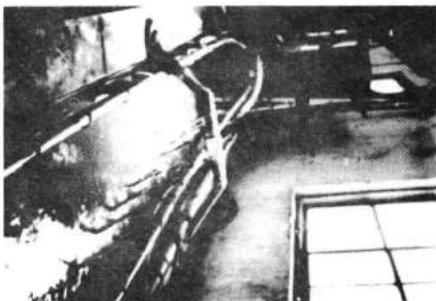
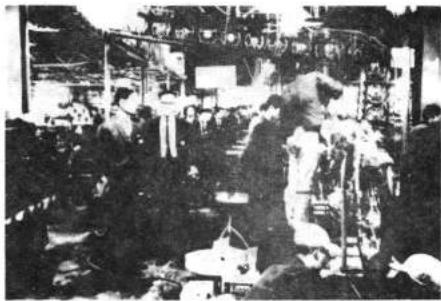
韓国鍍金業界の現状を報告

11月例会は11月10日午後6時より、めっき
センター4階で開催された。小島一郎氏の司
会により、映画「中小企業の仕事の進め方」
「生産性と生活の向上」を上映の後、韓国視

察報告が福井通裕氏により行われ、続いて石
川会長がスライドによって起亜産業、東洋ミ
シン、正工舎、金星社の各工場の仕事の内容
や生産設備について詳細に説明した。

終って、福井通裕日本鍍金協会々長より11
月12日秋期大会の件につき、概要の説明があ
り、それぞれ韓国談議に花を咲かせて午後10
時閉会した。





42・11・12

箱根で秋期大会

日本鍍金協会恒例の秋期大会は11月12日午後1時30分から、箱根湯本温泉「吉野旅館」で鍍友会13名、鍍生会8名、名鍍会7名、十日会19名来賓2名計49名の参集を得て行われた。

小見山正道氏の司会により始まり、八幡健氏の開会の辞、福井会長の挨拶があり、各会の現状報告に入った。鍍友会々長池田弘氏鍍生会々長森脇富治氏、名鍍会々長清水保明氏、十日会々長石川進氏の報告があり、二三事項を報告したのち、韓国視察報告として「韓国の経済事情について」と題して福井氏の報告があり、続いて石川進氏がスライドにより見学会社の内容と都市の現状を詳細に説明した。

小憩の後、特別記念講演として呂井操氏の「歴史上の人物からみた人の使い方」と題す

る講演があった。

秀吉、家康、チャーチル等昔から功をなし遂げた人は人に使われるのが上手であった。これらの人は与えられた仕事に対して全体を考へ乍ら全力を尽して働いた。

経営者として人を使う態度は、公の仕事に對してはあくまでも厳格にし、私的なことについてはあくまでもやさしくする必要がある。本当に心からハダカになって、誠意をみせれば必ず人はついてくる。甚だ残念乍ら、現在の経営者にはこの点が最も欠けていて、公私混同している人が多い。

会議は鍛友会々長池田弘氏の閉会の辞によつて終了し、午後6時より小島一郎氏の司会によって懇親会に入った。森脇氏の音頭で乾盃宴會に移り、韓国極秘物語りなどに話題が集中し実に愉快な一夜であった。

翌日は朝食後解散、ゴルフに観光に秋の一日を過した。

韓国の経済状勢について 福井通裕

今回の視察旅行で見聞した韓国の経済状勢について、一言でいうと日本に較べて大変貧しいということです。いろいろな品物を露店販売するといったような、丁度日本の終戦直後の様な状態で貧富の差が激しく、日本語や英語を話せる人は比較的よい生活をしている。

全般的にみて、基礎的な産業がないことで、めっき工場を見学しても、研磨材は国産であるが、その他の薬品資材は乏しく戦前の日本以上に品不足で、それらは輸入品に頼っているが、外貨の枠がなかなかとれないので困っている。ニッケルは非常に高く1kg4,000ウォン(5,600円)もするそうです。

そうした中で、韓国人は独立したことによつて、貧しい中にもハリを持って働らいでいるということを強く感じました。解放されたということで、貧乏でもハリのある生活をしている。釜山で見学した金星社は国営事業的な会社であるが、総売上が年間50億ウォン(約70億円)の会社で、韓国の80~90%の家庭電化製品の需要をまかなっている。これで生活水準がどの位であるかが想像できよう。

平均賃金は一流工場で8,000ウォン位(11,200円)だから品物が安くできる。中小企業のめっき工場として、韓国や台湾のような低賃金によって影響ありやと心配したが、現状では、技術的な面からみて、そう心配すること

はないと思われた。

自動車は殆んどがコロナと大変に古い型式のブルーバードが走っている。トヨタが技術提携して工場を作つてからは一社独占事業だそうである。バスは外国製らしいが冴えない。釜山ではこわれかかった電車が走っている現状である。

一般荷物の運搬は自転車、リヤカー、荷車で昭和10年頃の日本を思い起させる。

42・12・10

忘年会

昭和42年の忘年会は12月10日午後6時よりホテル江戸屋において開催した。来賓として虎石成美氏、安部東代吉氏をはじめとし、会員多数集まるなかを瀬田新二氏の司会により、石川会長の挨拶があり、会員各位の本年の反省などの弁があつて宴會に移った。

お互にひざ突き合せて本年の思い出、新らしい年への抱負など大いに意見を交換した。

研究会の動き

42・5・12

- 「安全管理について」生産性本部スライド
- トリクレンの再生処理について

ペニスライト、全国時計資材開発㈱

○本年度研究会の方針について 会長

42・6・12

- 自動車の安全運転について

警視庁小松川警察署 岡田交通係長

終って安全映画「輪禍」を上映した。

42・6・24

三条、燕地区の工場見学に参加

42・7・12

- 職場のモラール 生産性本部スライド

○人間関係四つの鍵 //

42・8・11

三条、燕地区見学報告 スライド併用
小島一郎氏

42・9・12

話し方基本その1

日本話し方センター 黒瀬市郎氏

42・10・11

話し方基本その2 (材料集め、組み立て方)

日本話し方センター 黒瀬市郎氏

42・11・11

話し方基本その3 (恐怖心をとる方法)

日本話し方センター 黒瀬市郎氏

42・12・12

話し方批判会 各自3分間スピーチ

43・1・10

盛大に新年会

恒例の新年会は1月10日午後6時より上野池の端の東天紅において開催、東平東京都鍍金工業組合理事長を始め、虎石成美、藤野武彦、鶴飼義一、安部東代吉の諸氏、来賓、会員多数参会して盛況を極めた。

瀬田新二氏の司会により、石川会長は「本年は相当困難な年となるよう聞いております。昨年末のポンド切下げ、日銀の公定歩合の引上げ、ドル防衛等の影響が吾々めっき業界にも波及すると思われます。その上鍍金業界としては、今年こそ廃水問題に結果をつけねばなりませんし、人手不足の深刻化、単価下げる要求など問題は山積しております。

十日会はそれらの問題について真剣に考え対処してゆかねばならないと思います。また本年は十日会の創立20周年を迎えますので、皆様方の協力を得て、盛大な記念事業を行ないたい」と挨拶した。

次いで、来賓挨拶として東平孝徳氏が「十日会は若い人のバイタリティーによって戦後技術向上に努力され、業界改善に大いに寄与されました。今年こそ業界浮沈を決める年であります。人手不足、過当競争、すべて経営の合理化によって解決すべき問題であって、今後は企業の合理化や協業化によって、経営面を強化して、この危機に生き残って頂きたい」と挨拶。

続いて、白瀬全鍍連専務理事、虎石成美氏の挨拶、藤野武彦氏の音頭で乾盃、なごやかな雰囲気の裡に歓を尽した。

43・2・10

年次大会を中心に例会

2月例会は日本鍍金協会第7回年次大会が十日会の当番に当るので、これを中心テーマに開催した。

最初に福井通裕氏より、現在迄に鍍友会46名、鍍生会21名、名鍍会72名、十日会60名計199名の申込みがあるが、今回は十日会が当番幹事であるから一人でも多くの参加を希望する旨の挨拶があり、石川進氏より当日のプログラム及び役割分担についての説明と依頼があった。

続いて十日会創立20周年記念事業に関する審議があり、20周年記念事業発起人会を設けメンバーは運営委員会に於て選することに決

定した。

最後に安部東代吉氏より、来日中の韓国研修生3氏の紹介があつて閉会した。

43・3・3

日本鍍金協会、鬼怒川で役員会

日本鍍金協会は第7回年次大会打合せのため3月3日午後5時、鬼怒川温泉「鬼怒川温泉ホテル」で役員会を開催した。

石川進氏の司会により、福井会長の挨拶があり、恒例により会長議長となって議事に入る。

- (1)年次大会式次第及びプログラムに関する件
- (2)大会参加人員再確認の件

現在迄にて219名の参加が予定されている。

- (3)各役員の役割分担の件

- (4)年次大会参加費に関する件

- (5)交通機関予約の件

- (6)米国視察旅行に関する件

現在迄の参加希望者32名との報告あり、終って懇親会に入り、年次大会の成功を誓い合った。翌日は朝食後解散、三三五五春浅き鬼怒川、日光に遊んだ。

43・3・11

42年度総会一役員留任決まる

昭和42年度総会は3月11日午後6時より、めっきセンター4階において開催された。

小島一郎氏の司会により、石川会長の挨拶があり、八幡健氏を議長に選出して議事に入った。事業報告を中俣一三氏、決算報告を寒川輝久氏が説明、それぞれ承認を得た。

続いて役員改選に関する件は、八幡議長より、2月例会の時本年は十日会創立20周年の重要な年であるから、現役員がそのまま留任してもらいたいと内定したのでその内定を認めもらいたいと提案があり、全員異議なく承認した。



十日会創立20周年記念事業発起人に関する件は会長より推薦するようにとの意見があり、石川会長は次の16氏を推薦承認を受けた。

八幡健、井上喜夫、木下健治、福井通裕、

中井才助、木下文良、小見山正道、後藤哲雄、西山光司、柳下芳輝、山下伊太郎、昼間末弘、坂手勇、安部東代吉、小島政夫、荒木実、他に現役員。

次いで、新会長石川進氏は「前年度は鍍金会館の売却、めっきセンターへの移転などいろいろな事の多かった1年であったが、本年度は20周年に当るので、十日会創立の振り出しに戻って生産性の向上など真剣に勉強して行きたいと思う。また20周年記念事業も皆様の御協力を得て盛大に行ないたい」と挨拶した。

次に小島政夫氏より鍍金会館売却の件につき、本日残金を受領し、全部解決した旨報告があった。

最後に十日会本年度事業の一つであるスライド製作の第一号作品として、排水処理に関するスライドを上映し、各自よりの意見を聞き、更に完全な作品を製作することになった。

-43・3・30

鬼怒川で第7回年次大会

第7回日本鍍金協会年次大会は3月30日午後4時30分から栃木県鬼怒川温泉「鬼怒川温泉ホテル」において開催された。今回は十日会が当番に当り、諸般の設営運営に当った。参加者は会員、来賓、家族を含めて228名に上り、和気藹々たるうちに各自交換の実を上げ盛会であった。



大会は十日会石川進氏の司会により、国歌斉唱、開会の辞を名鑄会の清水保明氏、続いて福井通裕会長の挨拶があった。

鍍生会藤本広氏の音頭で日本鍍金協会綱領が宣言され、来賓の紹介が石川氏により行なわれた。本日の来賓は石田武男氏、虎石成美氏、安部東代吉氏、鶴飼義一氏、茂田源太郎氏、東平孝徳氏、中島茂清氏、白瀬氏、伊藤一

郎氏、上村晃史氏、の諸氏であった。

恒例により福井氏が議長となって総ての議事を終了し新役員は次の通りとなった。

会長 伊藤利雄氏（鍍友会）
副会長 前田一氏（鍍友会）
〃 藤本広氏（鍍生会）
〃 清水保明氏（名鑄会）
〃 石川進氏（十日会）



新会長となった伊藤利雄氏

幹事（鍍友会）

湯川圭晴氏、北条喜八郎氏、脇坂外史氏、近藤岩雄氏、牧野勝氏、勝井精一氏

（鍍生会）

木村守氏、小西完治氏
(名鑄会)

石井博氏、磯部威至氏、加古芳博氏、松本煌氏、伊藤博朗氏

（十日会）

寒川輝久氏、仲俣一三氏、小島一郎氏、木下健治氏、八幡健氏、福井通裕氏、山下伊太郎氏、小見山正道氏

続いて新会長の挨拶、来賓祝辞、祝電披露のあと、中島茂清氏による万才三唱、小見山正道氏の閉会の辞によって幕を閉じた。

小憩の後、日刊工業新聞社関東支社長の有賀清氏による「今後の中小企業経営」と題する記念講演があった。

懇親会は小島一郎氏の司会により、会長挨拶、新会長の紹介があり、虎石成美氏の乾杯により宴会に入った。

これよりホテル専属のバンド演奏、鬼怒川妓連の踊、奇術など数々の余興に観を尽し、9時過ぎ盛り上る東西交歓の楽しい雰囲気の裡に閉会した。

翌日はバス4台に分乗して一路日光へ、昨夜の雨も上って一きわ美しい日光の杉並木をみ、東照宮を参拝して、中禅寺湖に向い、春の日光を心ゆくまで楽しんで第7回年次大会は滞りなく終了した。

43・4・10

43年度の運営方針を中心として

4月例会は4月10日午後6時よりめっきセンターにおいて開催した。

小島一郎氏の司会により、石川会長が挨拶し、副会長に小見山正道氏を紹介し、運営委員会の充実を図ることを表明したのち、本年の例会は、経営面を主体としたテーマで講師を招き講演を聞く旨の基本方針の説明があった。

次いで福井通裕氏より来る13日出発する米国鍍金視察団についての紹介と団長としての謝辞があり、本日の新入会員杉山氏の紹介があつて終了した。

新入会員

関東鍍研材商工㈱ 杉山達雄氏

43・4・13

米国鍍金業界視察出発

かねてより計画されていた日本鍍金協会主催による米国鍍金業界視察団一行は4月13日午後10時発の日航機でロスアンゼルスへ向けて出発した。メンバーは次の通り、

団長 福井通裕氏

幹事 石川進氏

コーディネーター 大塚俊郎氏、野田保夫氏

通訳 関口一男氏

団員（十日会）小田原豊氏、湯浅実氏、小島一郎氏、野村秀男氏、寒川輝久氏、小見山正道氏、三宅大蔵氏、鈴木友三氏、小西寿夫氏、仲俣一三氏、大田多一氏、福井順子氏、柳沢好男氏

（鍍友会、鍍生会）近藤岩雄氏、長坂島雄氏、庭山睦也氏、勝井敬三氏、湯川泰祐氏、辻晴夫氏、仁里淳二氏、北条喜八郎氏、森脇富治氏、米永孝氏、牧野勝氏、清水芳次氏、山口倫氏、小島聰氏、

（名鍍会）清水保明氏、井上保氏、土屋建二氏 以上35名

一行は4月13日から4月28日まで、ロスアンゼルス、シカゴ、デトロイト、バッファロー、ワシントン、ニューヨーク、ハートフォード、サンフランシスコを廻り、鍍金

工場13社を見学の上4月29日帰国の予定である。

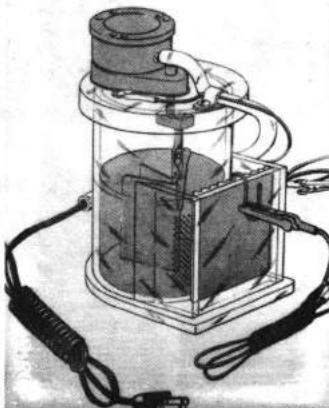


米国視察報告会

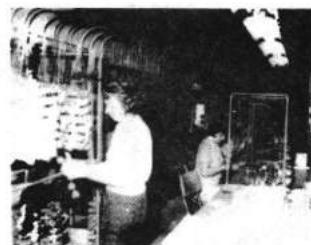
5月例会は先に帰国した米国鍍金業界視察団の報告を中心に5月10日午後6時めっきセンターにおいて開催した。当日はスライドによって石川、小島の両氏が報告した。

(詳細は米国鍍金業界視察報告書「MRを探せ」参照)

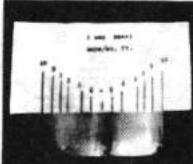
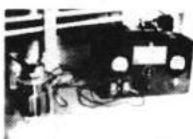
Kemwent ROTARY CATHODE PLATING CELL
QUICK • ACCURATE • SIMPLE • RELIABLE



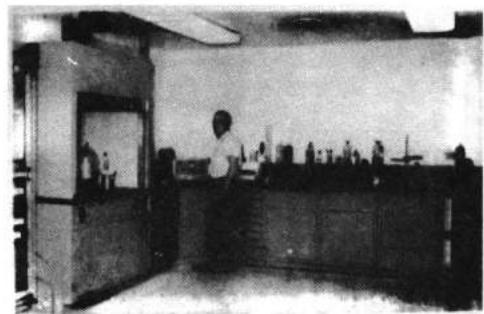
| CUSTOMER | | RECEIVING | | DATE | |
|--|--|-----------------------------------|--|------------------------------------|-----------------------------------|
| STN. | Part No. | | | P.O. | |
| SPEC. | PROCESS | | | THICKNESS | INCH |
| PROCEDURES | | | INSPECTION | | |
| 1. Weight | 2. Thickness | 3. Color | 4. Hardness | 5. Resist. | 6. Other |
| 1 hr. <input type="checkbox"/> 12 hrs. <input type="checkbox"/> 170° <input type="checkbox"/> 210° <input type="checkbox"/> 250° <input type="checkbox"/> 300° <input type="checkbox"/> | | | | | |
| TESTS | | | | | |
| REMARKS | | | | | |
| NAME | | | ADDRESS | | |
| STN. | STN. NO. | STN. NO. | STN. NO. | STN. NO. | STN. NO. |
| 1. Name <input type="checkbox"/> | 2. Cleaning Cycle <input type="checkbox"/> | 3. Parts <input type="checkbox"/> | 4. Substrates <input type="checkbox"/> | 5. Colors <input type="checkbox"/> | 6. Other <input type="checkbox"/> |
| 1 hr. <input type="checkbox"/> 12 hrs. <input type="checkbox"/> 170° <input type="checkbox"/> | | | | | |
| 1. Name <input type="checkbox"/> | 2. Cleaning Cycle <input type="checkbox"/> | 3. Parts <input type="checkbox"/> | 4. Substrates <input type="checkbox"/> | 5. Colors <input type="checkbox"/> | 6. Other <input type="checkbox"/> |
| 1 hr. <input type="checkbox"/> 12 hrs. <input type="checkbox"/> 170° <input type="checkbox"/> | | | | | |
| 1. Name <input type="checkbox"/> | 2. Cleaning Cycle <input type="checkbox"/> | 3. Parts <input type="checkbox"/> | 4. Substrates <input type="checkbox"/> | 5. Colors <input type="checkbox"/> | 6. Other <input type="checkbox"/> |
| 1 hr. <input type="checkbox"/> 12 hrs. <input type="checkbox"/> 170° <input type="checkbox"/> | | | | | |
| SPEC. | | | PROCEDURES | | |
| 1. Part No. | 2. Thickness | 3. Color | 4. Hardness | 5. Resist. | 6. Other |
| | | | | | |



Inspection and Racking Facilities



Inspection and Racking Facilities



43・6・10

会館売却問題で臨時総会

6月例会は東京鍍金会館の売却事務が完了したので臨時総会とし決算報告を行った。

東京鍍金会館の売却に関する経過報告並に次のような決算報告があり、全員これを了承した。

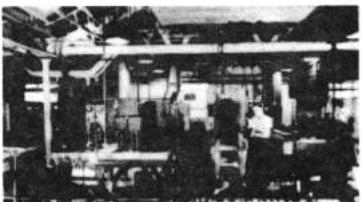
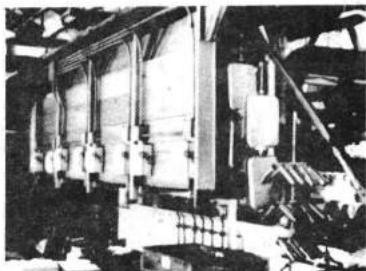
臨時総会終了後、前回に引き続き、次の諸氏がそれぞれのテーマで視察報告を行った。

米国業界を視察して 福井通裕氏

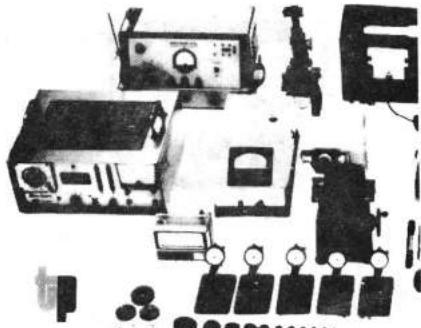
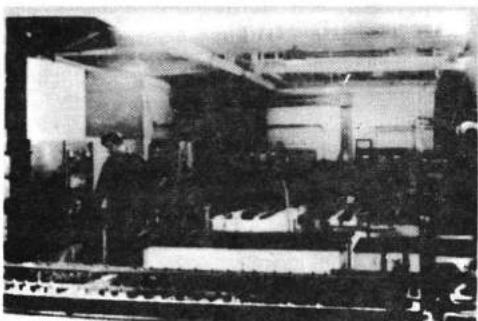
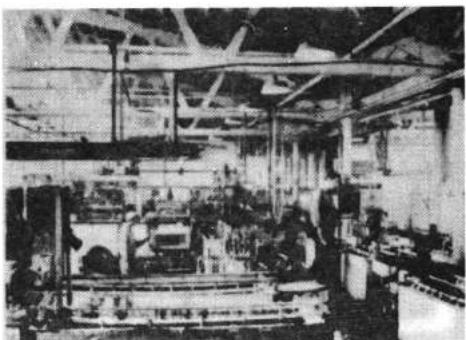
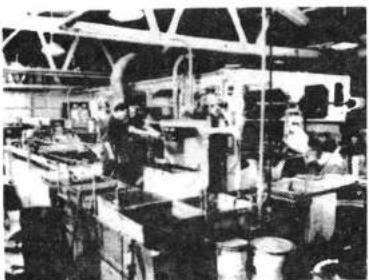
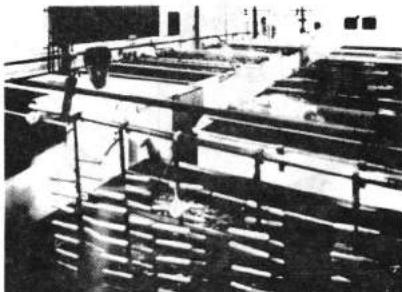
米国の家庭を訪問して 三宅大蔵氏

米国の道路と交通機関について小西寿夫氏

米国のめっき工場を見て 小見山正道氏

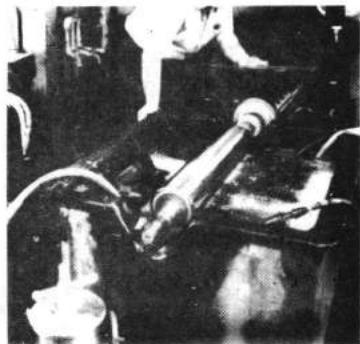


Hard Chrome

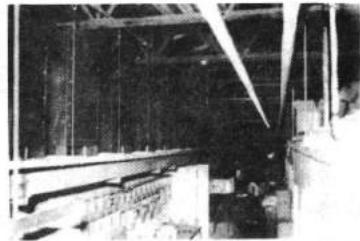




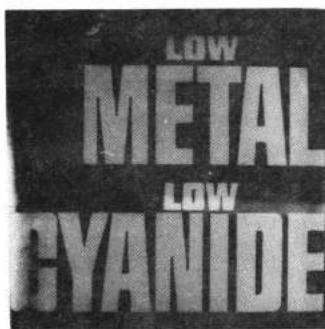
Low Z-brite IZC bright zinc plating process. This allows electroless nickel plating to be applied directly to the cylinder head.



Electroless Nickel



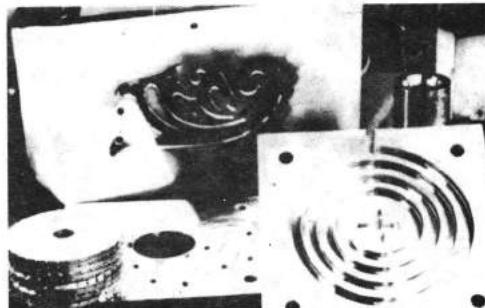
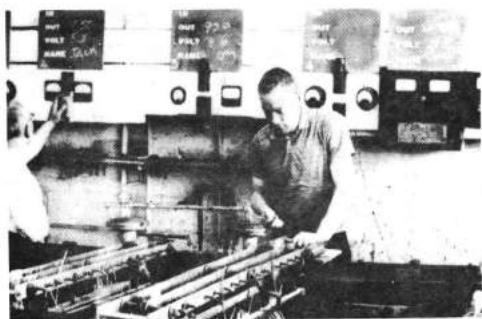
Individual Certification for Each Plating Bath



New Z-brite IZC
bright zinc
plating process
reduces costly waste
treatment, cuts
fragrant losses.

Now you can get an electroless bright zinc plating bath, costing up to 50% less than existing bright zinc plating baths, without reducing deposit losses. Z-brite IZC bright zinc plating process is a bright zinc plating system that produces a bright, uniform, adherent deposit. It also reduces waste treatment costs by cutting water costs in half.

Udylite
THE UDYLITE CORPORATION



43・7・10

世界状勢を勉強する

7月例会は7月10日午後6時より、東洋経

東京鍍金会館売却決算報告書

| | | |
|---------|---------------|-------------|
| 買主 | 文京区本郷1-8-8 | 小幡成氏 |
| 売却代金 | ¥10,000,000 | |
| 支出の部 | 42・5・30 組合へ寄附 | 1,000,000 |
| | 42・6・10 " | 2,300,000 |
| | 42・7・10 | 3,200,000 |
| | 42・7・10 名義書替料 | 1,300,000 |
| 諸 経 費 | 35,400 | |
| 定期預金 | 2,000,000 | |
| 経常費へ繰入れ | 164,600 | |
| | | ¥10,000,000 |

済新報社常務大原万平氏を招き「最近の世界状勢と中小企業に及ぼす影響」と題する講演を開いた。要旨次の通り。

私が現在心を寄せている問題が五つあります。

第一はベトナム和平問題で、何回となく秘密会談が行なわれているが、年内に休戦できるか否か延びても来春には休戦協定ができるのではないか。その時に日本の景気、アメリカの景気、世界全体の景気にどのような影響を及ぼすかということ。

第二は国際通貨不安の問題で、ポンドの再切り下げが行なわれるのではないかとか、フランスがあぶないとか心配されておるが、昨年11月に14.5%のポンド切り下げの際中共及びポンド地域に輸出していたメーカーや商社の損害は700~800億円であるといわれている。

第三は戦後6回目の景気調整といわれる今の引締政策、一体、この6回目の不景気の落ち込みの深さ、不況の期間、いつ頃底をついていつ頃上昇するであろうかという景気動向。

第四は今経営者にとって一番の悩みは労働賃金の上昇と、それに直接結びついた消費者物価の上昇である。今日の日本経済の急所こそ、この問題であろう。

第五に資本の自由化、貿易の自由化を我々はどう判断し、どう受けとめるべきか

第六に、この半年1年の目先だけの景気の見通しでなく、日本が今後、今迄のように素晴らしい発展をとげるかどうか。長期の事業

計画をたてると共に長期の経済の見通を経験に基いて判断されることが望ましい。

43・8・10

若手労働者の採用とその対策

8月例会は8月10日午後6時より、めっきセンターにおいて、経営労働研究所々長、渡辺文三郎氏を招き、現在の企業の総てが最も頭を悩ましている人手不足の問題を中心に、特にその対策について講演をうけた。

近来、経営に於て最重要視されているのが労務管理である。よい設備をし、よい受注をしても、従業員がいなかつたり、仕事にやる気がなかつたりしては、経営はなりたたない。このように従業員の士気が落ちたり、定着性が悪くなったり、態度が高くなったりするのも帰するところ人手の絶体数が足りないからである。人手は今後益々減少することはあきらかなので、だからこそ労務管理、労務対策が真剣に考えられるようになったのである。又、人手不足に伴い、物価の上昇、初任給の上昇により、賃金が上昇し、企業経営を益々圧迫する材料となってきた。これを數的にみてみても明らかに、その実態が脅威となって感じられる。例えば、現従業員のみでも平均的に年10.7%の賃金の上昇をみ、これが企業の伸び、年7%とどこで噛み合せるかが問題で平均的な経営ではとてもこれから企業は成り立たない。少なくとも年に12%以上の経済成長率に合わせなければならない。更にこの経済問題の他に労務管理で問題になるのが組合活動である。大会社のみの組合活動から最近は中小企業に眼をむけてきた事実である。総評、全労、民青同の専門家が100人以下の企業をねらって個人的にアプローチしてきている。この結果生れたのが合同労組であり、我々の身辺にじわじわと近よってきていている。要するにこれら労働問題と、経済問題とを充分考慮に入れて、経営者と弱年層との精神的、経済的ギャップを融和するように、常に近代的、合理的な考え方をもち、若年層のものの考え方方に近づいていく心構が必要であろうと思われる。

今月の新入会員を紹介して閉会した。

(有)ハルナ鍍研材 小松久右衛門氏

43・9・10

経営者の健康管理

金もでき、地位もできる頃ともなれば健康

が気になるもの。今月例会は医事評論家、杉靖三郎氏を招いて「経営者の健康管理」と題してお話をうかがった。

現代生活において、人間疎外から心に不安イライラを生じ、動脈緊張から高血圧となり動脈硬化現象を起こし、又肉体的にも食べすぎから太りすぎ、代謝障害から糖尿病を生じ腎臓、肝臓、心臓に影響してこれも動脈硬化となる、成人病これすべて動脈硬化から誘発されるのである。

従って人間疎外感を無くすためにも週1度は仕事を離れ人と接することが必要であります。又常日頃から体重、血圧、尿の検査を定期的に行う必要がある。

又人間の肉体が如何に健康であっても根生がなければ何もすることはできない。そこで55種類ものホルモンを分泌する副腎を充分に活躍出来るように各自が注意することである。副腎の充分なる活躍は、根性をつくりスタミナを作る基であります。それには

- 1, 環境手術をする（外気にさらす）
- 2, 疲れる位に運動をして筋肉を使う。
- 3, 腹をすかし、満腹にしないこと。
- 4, 意欲充実のため、仕事、勉強を大いにする。

貝原益軒曰く、副腎は少しくうえさせ、少しく叱り、少しく困難なめに合わせること。

結論的には、化学服用物などにたよらず、平凡に、野菜の煮っころがしを食するが如く生きることである。

43・10・11

呼吸文化連盟村田光司氏を再び迎える

前回の健康管理のお話しが好評であったので本会も、健康管理のお話して追い打ちをかけ、会員諸兄の健康を期待することにした。

先生は例の臍天で有名な方。二年前お呼びした時と少しも変らず、益々健康に柔軟な肉体を保持して居られた。

次いで例会に入り、愈々迎える十日会二十周年記念事業の準備委員会を結成することとしメンバーを次の如く指名した。

○祝賀会

委員長福井通裕氏、木下健治氏、木下文良氏、中村敏一氏、小見山正道氏

○20周年アルバム編集

委員長安部東代吉氏、福井通裕氏、八幡

健氏、木下健治氏、井上喜夫氏、後藤哲雄氏、

○十日会20年のあゆみ

委員長井上喜夫氏、安部東代吉氏

○20周年記念座談会企画委員会

委員長八幡健氏、後藤哲雄氏、高橋政一氏、坂手勇氏、清水竜一氏、中井才助氏、小島政夫氏

○十日会20周年記念基金準備委員会

委員長小島政夫氏、坂手勇氏、後藤哲雄氏、小林憲氏、小見山正道氏、福井通裕氏、八幡健氏、中井才助氏、綱島清隆氏

○運営委員会

委員長石川進氏、小見山正道氏、小島一郎氏、仲俣一三氏、寒川輝久氏

なお運営委員は全ての委員会に属することとした。なおこの機会にめっきセンターにとりつける道標の文章について井上氏の報告があった。

なお永らく御協力頂いた(株)日東社長谷川正三氏が退会されました。今後益々の健斗を祈ります。

43・11・8

「宇宙時代の夢」と題して

テレビ、ラジオでおなじみの相島敏夫氏をお招きして、月旅行も間近になった宇宙のお話をうかがった。アメリカのアポロ8号の打ち上げ計画もあり、機を照らした企画に、会員も興味溢る面持ちで話に聴き入った。

次いで8時半より例会に入り。

1. 別府で行われる日本鍍金協会秋季大会に多数の参加を要請した。

2. 11月16日(土)に研究部会主催で工場見学を計画したので予定を発表した。

葛飾めっきアパート、ミツ矢電鍍、懇親会は八王子お狩場焼

3. 20周年記念事業企画委員会開催の件

○座談会11月18日(月)PM 6:00於センターラ

○祝賀会開催日を44年4月とする。

43・12・7

秋期大会別府で行われる

日本鍍金協会(会長伊藤利雄氏)秋期大会は、別府觀海寺温泉「杉の井ホテル」に於て40余名が参加して開催された。

一行は12月6日午後8時、大阪弁天埠頭より関西汽船「あいぱり丸」に乗船、翌7日午

前11時別府港に入港市内で昼食の後、直ちに
貸切バスに乗り高崎山、地獄めぐりを行った。

会議は「ホテル杉の井」に入室後直ちに行
なわれ、鎌友会前田一氏の開会の辞に続いて
伊藤利雄会長は

「本日の秋期大会には年末ご多忙にも拘らず
多数各会よりの参加出席を謝し、めっき業界
も公害問題、労務問題等愈々多事多難な折柄
本協会を通じて一層横の連絡を密にすると共に
に高能率、高賃金、高収益を上げてより一層
の発展繁栄を要望、協会への絶大なる協力を
お願いする」旨の挨拶を行った。

恒例により伊藤会長議長となり、次の議事
を審議した。

1. 第8回年次大会打合せの件
2. 米国鍍金業界視察報告書発版の件
3. 次期渡米視察団募集の件
4. 経営分析調査結果報告に関する件
5. 単価算出方法、技能テストに関する件
6. 各会の現状報告
7. 本協会今後の運営について

以上にて議事を終了、秋期交観会、本年の
忘年会を併せて午後6時より宴会、深更まで
酒杯をくみ交しなごやかな交歓の夕を繰り展
げて一泊、翌日は観光バスにて九州横断のド
ライブを楽しみ熊本に到着したが、生憎くの
天候にて飛行できず、福岡にて全日空機にて
帰京した。

43・12・10

忘年会

上野丸文にて忘年会を企画したところ、多
数の参会者を得て盛んに行われた。この日、
史上最高金額3億円強奪事件が発生し、大き
な話題を提供した。又、TBS報道部の田英
夫氏を招き、社会問題にまでなっている学生
問題について講演をお願いしてあったが、行
き違いがあり、講演会は中止となった。



研究会の動き

- 43・1・11 新年懇親会
- 43・2・12 金属材料について
株金属化工技術研究所 藤野武彦氏
- 43・3・12 監督者訓練 生産性本部スライドによる
良い教え方、悪い教え方
ウワサの扱い方
人を協力させるには
- 43・4・11 生きた話の研究 映画による
- 43・5・11 米国鍍金視察報告 石川氏、小島氏
スライド上映
- 43・6・11 塩化ビニール熔接の実際—講演と実習
信藤化工機(株) 浦山貞司
- 43・7・11 引掛のポリエチレンコーティング加工
講演と実習 明石金属(株) 石塚昭二氏
- 43・9・11 ハルセルテストによる鍍金液の調整法
金属化工技術研究所 所員
- 43・10・12 サーキットスターの使い方と応用
(株)小島鍍金工業所 小島一郎氏
- 43・11・16 工場見学会
葛飾めっきアパート
三ツ矢電気鍍金工業八王子工場
見学終了後反省会並に懇親会を開催
- 43・12・11 忘年会並に本年の考評—藤野武彦氏

-44・1・10

上野東天紅に於ける新年会

昨年に続き東天紅にて新年会を開き、組合より由田氏、来賓虎石、藤野、阿部、鶴飼の各先生を招き、盛大かつ和やかに、新年を寿いだ。

44・2・10

めっき工場の排水処理について

業界最大課題の排水処理について、今月は業界に足立方式の名のもとに、現場的排水処理を標ぼうしてその名を成す当会の井上氏に講議を願った。簡単な石灰石によるPH調整法の話などをうかがい、組合公害対策委員会労作の「産業と公害」の試写会にうつった。これをうけて、金表会長の石田先生が特別講演に起ち、大阪に於ける現況などお話をうけた。続いて、愈々日時が切迫した20周年記念事業の各準備委員会の報告事項にうつった。

○20周年記念基金委員会 小島委員長

名称を十日会創立20周年記念基金と命名。金額200万円を贈り、その適用規程等は、東京鍍金工業組合理事会に委任する。

○祝賀会準備委員会 福井委員長

44年4月13日(日)ホテルニューオータニでガーデンパーティー方式にて行う。

○座談会企画委員長 八幡委員長

昨年12月第1回座談会を丸文にて開いたがめっき業界の系統を大略つかんだ。そろそろ仕上げに入りたいが、相手が年輩者であるので暖かくなつてから早急に開きたい。

○アルバム編集委員会 安部委員長

今月中旬にサンプルが出来ると思うので暫らくおまち願いたい。

次いで第二回海外視察、渡米視察団の件について福井氏より視察予定コースの発表があり、多数の参加者を期待するとの報告あり、

東京発(6/14)～デトロイト(6/14着)6/15AES大会参加、6/20までめっき工場、めっきショービー見学～ナイアガラ～ワシントン(半日観光)～ニューヨーク(23日プラウント氏訪問)～シカゴ(6/24～5日)～サンフランシスコ(6/29午前見学)～6/29午後ハワイ一泊～東京着(7/2)以上19日間

44・3・10

43年度総会開く

毎月10日は道路交通の事情が悪く、遅参加

が目立つも後7時総会を開く。

会長より任期満了の挨拶あり、次で会計報告も全員一致承認された。役員改選の総会にて石川、福井、後藤、木下の各氏が選こう委員に指名され、別室にて協議の結果、人格圓満なる小見山氏を次期会長として推挙するも一身上の都合にて次期は御辞退すること。20周年記念祝賀会も4月13日と来期に重なることでもあり、まだまだ残された問題もありかつまた、十日会としても充分な活躍を期待している現石川会長に今一度、御苦労願うこととし、了解を得た。

会長石川 進氏

副会長小見山正道氏

運営委員 小西陽夫氏、中井国彰氏、大木康弘氏、植平輝夫氏、大沢氏、鈴木利夫氏、岸氏、小松氏、以上のように若い方々で次期運営をお願いすることに決定、大いに前途を期待する次第である。なお前運営委員の小島氏は従業員テスト作成委員長、仲侯氏はスライド製作委員長として残つて頂くこととし、寒川氏も協力することを約した。9時総会を終了、引続き一般例会に移り、

○日本鍍金協会年次大会に関する件

○20周年記念祝賀会に関する予算の件等討議報告があり、無事43年度十日会総会を閉じた。

44・3・29

第8回年次大会

日本鍍金協会主催による第8回年次大会は3月29日、びわ湖畔「ホテル紅葉」に於いて186名の参加を得て開催された。

鍍友会牧野勝氏の司会により開会、国歌斉唱の後、鍍友会前田一氏の歓迎の辞、伊藤利雄会長の挨拶に続き、鍍生会藤本広氏の日本鍍金協会綱領宣言、名鍍会石井博氏による来賓の紹介があった。

本日の来賓は虎石成美氏、藤野武彦氏、安部東代吉氏、林楨一氏、兼松弘氏、野田保夫氏、茂田源太郎氏、中島茂清氏、中山秀生氏、上村晃央氏、白瀬氏、の諸氏で恒例により伊藤会長議長となり、議事にはいった。鍍友会脇坂外央氏による事業報告、鍍友会北条喜八郎氏による決算報告、各会の現況報告を十日会石川進氏、名鍍会石井博氏、鍍生会木村守氏、鍍友会塚本寛六氏がそれぞれ報告し了解を得た。

続いて各会推薦による新役員は次の各氏が紹介された。

会長 (名鑑会) 清水 保明氏

副会長 (十日会) 石川 進氏

(名鑑会) 石井 博氏

(鑑友会) 前田 一氏

(鑑生会) 藤本 弘氏

幹事 (十日会) 寒川輝久氏, 木下文良氏,

八幡健氏, 福井通裕氏, 小見山正道氏

木下健治氏, 小林憲氏, 山下伊太郎氏,

小西陽夫氏, 中井国彰氏

(鑑友会) 北条喜八郎氏, 赤川吉弘氏,

松井昭氏, 上田忠男氏, 塚本寛六氏,

土井昭忠氏, 宮林英明氏, 池田弘氏,

伊藤利雄氏

(鑑生会) 木村守氏, 小西完次氏

(名鑑会) 磯部威至氏, 中林英男氏,

松本愷氏, 加古芳博氏, 伊藤博朗氏,

新会長清水保明氏の本年度の抱負を聞いた後,

来賓を代表されて虎石成美氏, 茂田源太郎氏

上林晃央氏, 白瀬氏がそれぞれの立場で祝

辞を述べられた。

続いて荒木実氏の万才三唱, 十日会石川進氏の閉会の辞により大会は無事終了した。

懇親会は鑑友会湯川圭晴氏の司会により伊藤会長の挨拶, 清水新会長の紹介並に挨拶のあった後, 安部東代吉氏の音頭により宴に入った。中華料理を食し乍ら, 三々五々意見の交換をし友情を深め合った。宴たけなわの頃遅れて参加した石田武勇氏, 中西重一氏の挨拶があり, びわ湖畔の楽しい夕も更けていった。翌日は観光バスにて比叡山, 国立京都国際会館, 二条城など盛沢山の観光の予定であったが相憎の雨のため中止となり, 朝食後解散となった。

研究部会の動き

44・1・13

新年懇親会 浅草菊水

44・2・12

公共下水処理場について (スライド併用)

石川 進氏

石灰石による中和処理 井上喜夫氏

44・3・14

公害防止映画観賞会

産業と公害 鎌金組合製作

P Hについて "

シアン除害の原理 "

附・会則及び会員名簿

日本鍍金協会十日会々則

名称及び組織

- 第1条 本会は十日会と称す。
- 第2条 本会は鍍金業並に鍍金業に関係ある者にて組織する。
- 第3条 本会の事務所は東京都文京区湯島1-11-10東京都鍍金工業組合内におく。

目的及び事業

- 第4条 本会は会員相互の親睦を基調として鍍金技術、経営技術の研究発達を図り、日本鍍金協会及び関係諸団体と連絡し、業界の発展向上を期するを以って目的とする。

- 第5条 本会は目的を達成するため次の事業を行なう。

1. 技術の研究及び普及
2. 工場設備の改善並に経営合理化の研究
3. 講習会及び講演会の開催
4. 諸文書の翻訳並に紹介
5. 製品展示会の開催、
6. 優良工場の見学
7. 材料製造工場の見学並に優良製品製造の奨励
8. 技術会員の育成
9. 会員並にその家族の吉凶に対する慶弔
10. その他本会の目的を達するに必要な事項

会員

- 第6条 本会の会員を分けて正会員、技術会員、名誉会員、功労会員の4種とす。

第7条

1. 正会員は鍍金業及び鍍金に関係ある経営者、もしくはそれに準ずる者とし、正会員は日本鍍金協会の会員となる。
2. 技術会員は会員企業内の技術指導の責任的地位にある者にして、正会員の推薦ありたる者を以って会員とす。
3. 名誉会員は特に本会の趣旨に賛同するものにして役員会の推薦によるものとす。
4. 功労会員は本会に協力せられたる者にして、役員会の推薦によるものとす。

第8条 本会正会員たらんとする者は、正会員2名以上の紹介により、役員会の承認を得て住所、氏名、生年月日を記入し、入会金壹万円也をそえて会長に申込むものとす。

退会及び除名

第9条 本会を退会しようとする者は、退会届を会長に提出するものとす。

第10条 会員は次の各項に該当する時、役員会の決議により除名されることがある。
1. 本会の事業をさまたげると認められる行ないがあった場合。
2. 会員相互の利益に反するような行ないがあると認めたる場合、
3. 3ヶ月以上理由なく欠席し、本会の趣旨に賛同しない者

休会

第11条 本会を休会しようとする者は休会理由を明記して、その旨を会長に届け出る事を要す。

役員

第12条 本会に次の役員をおく

1. 会長1名、
2. 副会長2名
3. 運営委員 若干名
4. 日本鍍金協会役員 若干名

第13条 会長は最高責任者にして、本会を代表し、会務を掌理する。

第14条 副会長1名は会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行するものとす。副会長1名は運営委員長として、運営委員を掌握し、本会の運営に当る。

第15条 運営委員中に涉外、会計、編集担当をおく。

1. 涉外委員は官庁並に諸団体との交渉連絡を司る

2. 会計委員は本会の財務を司る。

3. 編集委員は本会の編集記録を司る。

第16条 役員は総会において選挙により選出し、互選を以って担当を決定する。

第17条 役員の任期は4月1日より1ヶ年とし再任をさまたげない。補欠者の任期は前任者の任期による。

第18条 本会に顧問及び相談役をおくことができる。

1, 顧問は業界の元老または技術、経営、
経理の専門家及び本会の功労者を委嘱
する。

2, 相談役は業界の先輩にして有識者を委
嘱する。

会議

第19条 本会の会議は定期総会、臨時総会、
月例会、役員会の4種です。

第20条 定期総会は毎年度終りに開き、事業
報告決算を審査し、役員の改選を行な
う。

臨時総会は役員会の必要と認めたる時
随時開くものとする。

第21条 月例会は毎月10日に開く。

第22条 役員会は会長必要と認めると開く
ものとす。

第23条 会議は出席会員の半数以上の同意に
よって決議を行なうものとす。

財務

第24条 本会の経費は会費及び寄附金その他の
の収入を以て之に充る。

第25条 会費は月額2000円とし、日本鍍金協
会費300円を含む。

休会中の会員の会費は正会員の半額
を納入するものとす。

納入したる入会金及び会費は如何な
る事情があつても返還しない。

第26条 本会の会計年度は毎年3月1日に始
まり、翌年2月末日を以て終る。

第27条 本会則の変更は総会出席会員の二分
の一以上の同意によるものとす、

附則

第28条 本会々則は昭和42年9月11日より施
行する。

十日会員名簿

名誉会員

| 氏 名 | 会 社 名 | 所 在 地 | 電 話 |
|-------|--------------|----------------------------|----------|
| 安部東代吉 | 銅日本鍍金工芸研究所 | 東京都中野区上高田1-13 | 389-1501 |
| 鵜飼 義一 | 株鵜飼技術事務所 | 全 新宿区早稲田鶴巻町472 | 203-4531 |
| 岸 松平 | 武藏工大・生産機械工学課 | 全 世田谷区玉川等々力1 | 703-3111 |
| 虎石 成美 | 東京都鍍金工業組合 | 全 文京区湯島1-11-10 めっきセンター内 | 814-5621 |
| 服部久一郎 | | 全 杉並区本天沼3-23-15 | 390-6741 |
| 藤野 武彦 | 株金属化工技術研究所 | 全 墨田区立花4-28-22 | 617-4600 |
| 山本 洋一 | 日本大学理工学部 | 全 千代田区駿ヶ台1-8 | 293-3201 |

功労会員

| | | | |
|-------|--|---------------|--|
| 岡崎 友勇 | | 埼玉県新座町大和田1506 | |
|-------|--|---------------|--|

相談役

| | | | |
|-------|--------------|---------------------------|----------|
| 荒木 実 | 硬化クローム工業株式会社 | 東京都足立区新田2-11-19 | 911-7121 |
| 小島 政夫 | 株小島メッキ工業所 | 全 台東区浅草橋5-10-10 | 851-5870 |
| 白瀬 燐 | 全国鍍金工業連合会 | 全 港区芝公園機械振興会館内 | 433-3855 |
| 東平 孝徳 | 東京都鍍金工業組合 | 全 文京区湯島1-11-10 めっきセンター | 814-5621 |

正会員

| | | | |
|-------|--------------|------------------------|----------|
| 青木幸太郎 | 株千葉整流器製作所 | 東京都新宿区下落合2-888 | 952-0277 |
| 石川 進 | 東海鍍金工業株式会社 | 全 足立区本木町1-844 | 886-7706 |
| 石川 芳美 | 常芳鍍金工業株式会社 | 全 足立区本木東14-3 | 886-4082 |
| 井上 喜夫 | 三昌鍍金工業株式会社 | 全 足立区梅田2-13-11 | 887-9111 |
| 磯田 清吉 | 上村工業(株)東京支店 | 全 台東区浅草橋2-17-6 | 851-3278 |
| 海野 通夫 | 海野鍍金工業株式会社 | 全 荒川区西日暮里6-30-5 | 893-1253 |
| 梅沢 茂雄 | (有)梅沢鍍金工業所 | 全 港区新橋5-24-5 | 431-1257 |
| 植平 輝雄 | (有)植平鍍金工場 | 全 江戸川区西一之江2-647-1 | 651-3814 |
| 遠藤 文男 | 株遠藤メッキ | 静岡県三島市南二日町25-11 | 0559- |
| 大沢 秀夫 | 大沢鍍金工業株式会社 | 東京都台東区小島1-4-8 | 75-4400 |
| 大木 康弘 | 大木鍍金工業株式会社 | 全 墨田区立川2-7-10 | 851-4546 |
| 大和田 博 | (有)大和田鍍金工場 | 全 荒川区東日暮里6-55-5 | 634-3791 |
| 鈴木 広治 | 村田化学(株)東京営業所 | 全 千代田区神田富山町27 サカイビル | 891-0592 |
| | | | 252-6462 |

| 氏名 | 会社名 | 所在地 | 電話 |
|-------|--------------|------------------|--------------|
| 小沢 忠良 | (有)小沢鍍金工業所 | 東京都足立区本木南7-18 | 887-1812 |
| 岡本 広行 | 岡本金属工業株式会社 | 全 墨田区平川橋1-3 | 622-1388 |
| 木下 健治 | 株木下鍍金工場 | 全 台東区浅草橋2-28-8 | 851-4810 |
| 木下 文良 | 木下電化工業株式会社 | 全 墨田区立花4-34-8 | 613-0646 |
| 木村高三郎 | 木村鍍研材工業株式会社 | 全 台東区東上野1-12-13 | 832-2251 |
| 岸 裕 | 岸鍍金工場 | 埼玉県所沢市安松946 | 0429-22-7165 |
| 香西 啓次 | 乾卯薬品工業株式会社 | 東京都中央区日本橋蛎殻町1-13 | 661-8671 |
| 小暮 克京 | 更生鍍金工業所 | 全 葛飾区東四ツ木4-34-18 | 692-2784 |
| 小西 忠二 | 小西作兵衛商店 | 全 足立区千住寿町9-11 | 882-6111 |
| 小見山正道 | 小見山鍍金工場 | 全 杉並区大宮前1-1061 | 333-1925 |
| 小林 義一 | 株中央製作所東京営業所 | 全 港区芝浜松町4-2 | 432-1571 |
| 小林 憲 | 株トキワ鍍金工業所 | 全 台東区東上野4-14-3 | 841-5811 |
| 小松藏治郎 | キクヤ研材薬品株式会社 | 全 台東区東上野1-28-9 | 832-6281 |
| 小島 一郎 | 株小島鍍金工業所 | 全 江戸川区中央2-32-5 | 654-5334 |
| 五味 良行 | 株千代田 | 全 北区中里399 | 828-5181 |
| 後藤 哲雄 | (有)後藤鍍金工業所 | 全 台東区浅草橋2-8-8 | 851-4222 |
| 近藤 登 | 近藤耐酸槽製作所 | 全 荒川区東日暮里1-11-8 | 891-3164 |
| 坂手 勇 | (有)東京鍍金工場 | 全 目黒区下目黒2-225 | 493-0231 |
| 寒川 輝久 | 株大東工業所 | 全 墨田区東駒形4-6 | 625-2850 |
| 鈴木 利夫 | 株鈴友鍍金工場 | 全 台東区台東2-32-9 | 834-3571 |
| 瀬田 新二 | 瀬田鍍金工業所 | 全 足立区本木2-2113 | 887-6336 |
| 高橋 政一 | 高橋メッキ工業有限会社 | 全 板橋区小豆沢2-20-11 | 969-5481 |
| 鶴見 武彦 | 株鶴見商店 | 全 墨田区向島2-12-10 | 622-3108 |
| 綱島 清隆 | 株綱島鍍金工場 | 全 品川区北品川5-9-23 | 441-3697 |
| 中村 敏一 | 中村鍍金工業株式会社 | 全 千代田区外神田2-9-2 | 253-5431 |
| 中井 才助 | 四国電機株式会社 | 全 台東区上野5-3-4 | 834-4596 |
| 仲俣 一三 | 株中央メタル | 全 墨田区京島2-9-19 | 617-6000 |
| 直海 和夫 | 株直海鍍金工業所 | 全 台東区蔵前4-18-7 | 851-8586 |
| 西山 光司 | 西山修次商店 | 全 墨田区立花5-1-3 | 613-1621 |
| 野沢 宗市 | 株足立鍍金工場 | 全 足立区千住曙町38 | 881-6138 |
| 畠間 末弘 | (有)東武鍍金工業所 | 全 足立区足立2-40 | 889-3104 |
| 福井 通裕 | 福井電化工業株式会社 | 千葉県市川市南八幡町5-8-5 | 0473-22-3516 |
| 本郷 富蔵 | 本郷鍍金工業所 | 東京都足立区本木2-2184 | 887-4533 |
| 増沢 秀明 | 増幸クローム精鍍株式会社 | 全 太田区大森南3-19-8 | 741-1406 |
| 松下 嶽 | 株松下鍍金工業所 | 全 墨田区東駒形3-2-10 | 622-2872 |
| 清水 竜一 | (有)清水鍍金工業所 | 全 北区滝野川7-18 | 983-0869 |
| 三宅 大蔵 | (谷)三宅商店 | 全 墨田区立川2-3-7 | 631-7681 |
| 森川 忠男 | 森川鍍金工業所 | 全 足立区本木町4-5168 | 890-9138 |

| 氏名 | 会社名 | 所在地 | 電話 |
|-------|---------------|------------------|----------|
| 八幡 健 | 八幡鍍金工業株式会社 | 東京都江戸川区平井 3-1196 | 612-0703 |
| 柳下 芳輝 | (株)三進製作所東京営業所 | 全 豊島区巣鴨 1-144 | 942-0251 |
| 山下伊太郎 | 千代田鍍金有限会社 | 全 太田区中央 8-41-11 | 752-2368 |
| 西片 啓泰 | (㈲)西伝鍍金化学 | 全 荒川区荒川 7-15 | 891-2960 |
| 安良岡一晃 | (㈲)安良岡鍍金工場 | 全 葛飾区本田町190 | 693-1965 |
| 長谷川元章 | (株)市松商店 | 全 葛飾区四ツ木 2-19-6 | 693-0035 |
| 佐久間 隆 | ツクモ電鍍工業株式会社 | 全 墨田区墨田 4-27-3 | 614-4416 |
| 大畑 二郎 | (株)鶴飼技術事務所 | 全 新宿区早稲田鶴巻町472 | 203-4531 |
| 赤沼信一郎 | 赤沼化学薬品株式会社 | 全 荒川区荒川 7-43 | 891-2573 |
| 小松久右門 | (㈲)ハルナ鍍研材 | 全 葛飾区青戸 5-30-14 | 601-2138 |
| 杉山 達雄 | 関東鍍研材商工株式会社 | 全 江東区亀戸 5-5-8 | 683-1636 |
| | | | |
| | | | |

編 集 後 記

今回十日会20年の回顧を作るよう依頼をうけて、これは大変な事になったと思った。

今迄に書きためた雑文がS～26年位迄あつたので、先づこの中から会関係のもののみを抜書きしてとりあえず石川会長の手許に渡した。さてその後は資料を取揃える事と、写真を捜し出す事、今度つくづく気が付いた事は未整理でもよいから何でも書類はとて置く事である。折角よい写真が出て来ても日付が書いてないので、之にむすびつく文章を何かで調べなければ意味がない。本格的に始めたのは3月20日からで泥縄もいい所である。

又古い資料を見て業界先輩各位がいかにすぐれて居られたかと云ふ事を改めて再認識した事で、本当に良い勉強になった。簡単な装

置や、思ひつきの様なものでも立派に今日通用するものが多数ある事を身にしみて考えさせられた。

貴重な写真や資料を気持ちよくご提供下さった皆様方に深く感謝すると共に、写真の複写から割付け迄全力投球を行って呉れた石川会長の御努力に対し厚く御礼を申上げる次第である。

44.4.7 井上喜夫記

昭和44年4月 編集委員長 井上喜夫
委員 石川進
寒川輝久
仲俣一三

昭和44年4月13日印刷

昭和44年4月13日発行

十 日 会 20 年 の 回 顧

非 売 品

発行所 東京都文京区湯島1-11-10

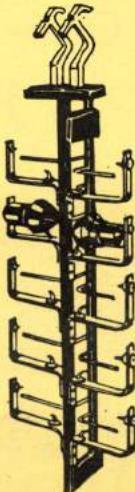
めっきセンター内

日本鍍金協会 十日会

印刷所 東京都新宿区下落合1-406

株式会社 エコ一

メッキ塗装の企業合理化とは



メグロのヒッカケは研究に研究を重ね、完全絶縁研究に塗装を施した多接点式の分解、組立も可能なヒッカケに改良されました。たいていのメッキ工場が光沢メッキ設備に切り替えられている現在“メグロの新式ヒッカケは工場設備の一つ”とメッキ工場経営の常識になっています。

営業品目

耐トリクレン用ソルコーチング
ソルコーチング
ポリエチレンコーティング
メッキ用ヒッカケ
特殊溶接カゴ
金アミカゴ
溶射・塗装一式
設計・製作・販売

目黒工業株式会社

本社工場 東京都墨田区東向島2丁目8番地の7号
電話 (614) 1326番(代表)

真黒く、強力な耐食皮膜がつく ディップソール

亜鉛メッキ用 黒色クロメート剤 Z-ブロック-540

○金属ヒフ科の名医

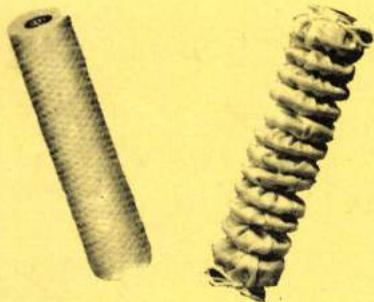
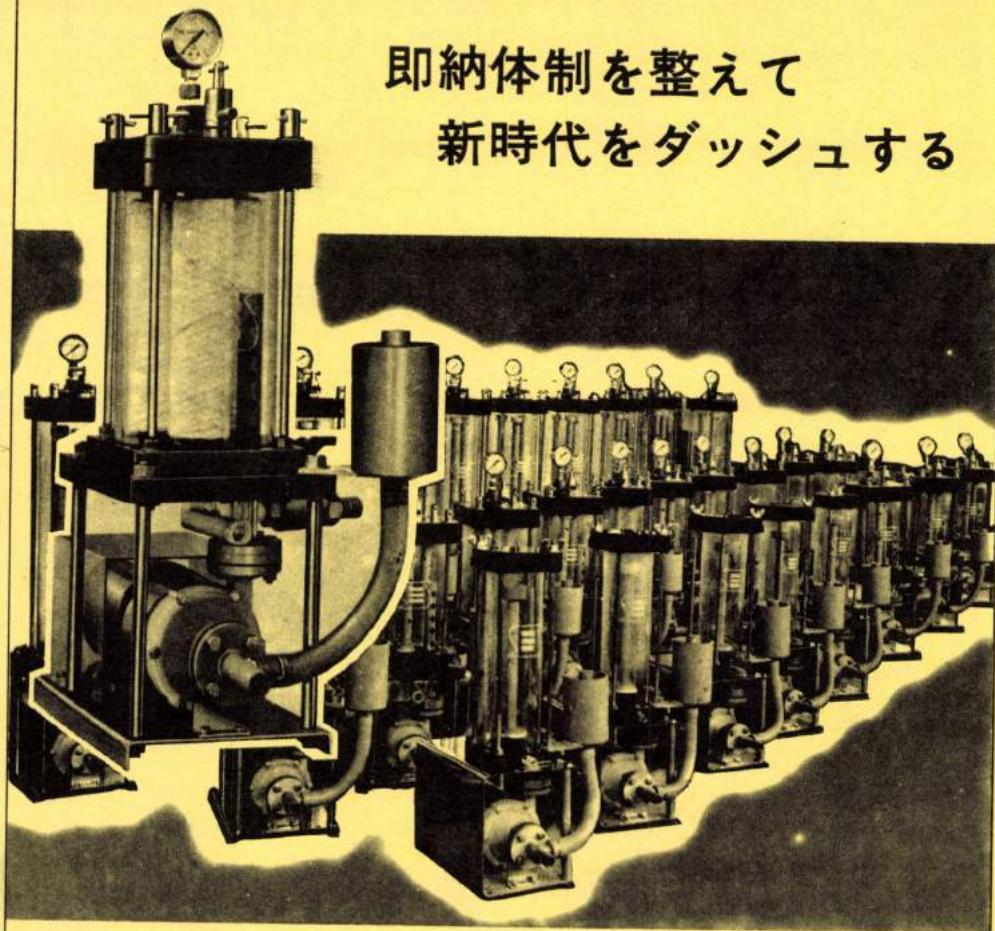
☆技術相談はお気軽に申し出下さい。

ディップソール 株式会社

(旧東栄化学株式会社)

| | | |
|------------------|-----------------------|------------------------------------|
| 本 社 | 東京都中央区京橋3-4戸枝ビル | TEL (281) 0231代 |
| 大 阪 支 店 | 大阪市北区太融寺24中島ビル | TEL (312) 8916 |
| 名 古 屋 支 店 | 名古屋市中区丸の内2-15-21 | TEL (231) 0938 |
| 福 岡 出 張 所 | 福岡市馬出188-4 | TEL (65) 4504 |
| 東 京 工 場 研 究 所 | 東京都葛飾区西新小岩3-8-10 同 | TEL (691) 1946代 TEL (697) 1191代 |

即納体制を整えて
新時代をダッシュする



ろ材交換が簡単にできます！

B'ダッシュろ過機

新ろ材B'ダッシュと新型ろ布とを、それぞれの用途に応じて使い分けられる新しいメリッキ専用ろ過機です。

ポンプは、もちろん液もれのないボリプロ製ジールレスポンプ。本体の材質は、ステンレスをベースとした耐酸・耐アルカリ樹脂のため、腐蝕の心配は皆無。ろ過筒は、硬質ガラスを使用しておりますので、内部がハッキリと見え安心です。

完全なマスプロ生産により、何よりも低コストでお求めいただけます。

ろ過材・排水処理材のエリート

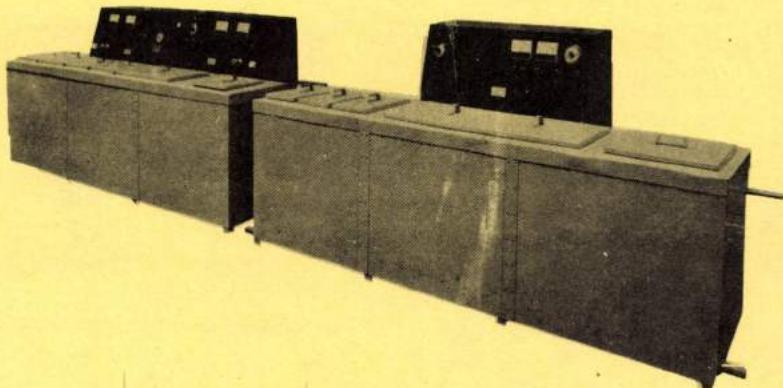


株式会社 三進製作所

I C 時代の花形

『千葉整流器』独自の技術で開発した
エレクトロニクスパーツの花形

プリント基板貴金属メッキ装置



近代産業の花形エレクトロニクス
パーツは限りない発展を続けて居
ります。プリント基板貴金属メッキ
装置の御相談は千葉整流器におま
かせください。貴社の御満足載ける
装置を製作致します。

営業品目
SCR制御整流器
シリコン・セレン整流器
高級貴金属メッキ装置
プリント基板貴金属メッキ装置
オールラウンド型(万能波形)整流器
ヒーター・コン(液温自控管理器)
トリクロレン洗浄器
電位分布計・電流密度計



株式会社 千葉整流器製作所

東京都新宿区下落合2丁目888番地

電話 東京03(952)0277番(代表)



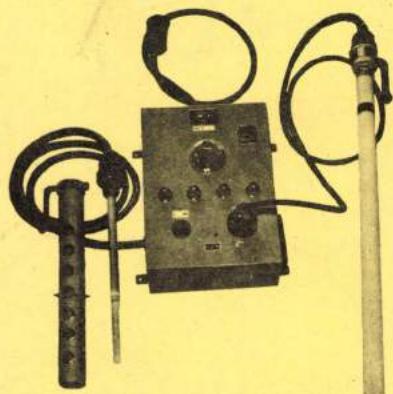
谷口のヒーター

電熱器具製造事業・登録番号 東 第759号

型式番号 ▽ 81-190 81-603 81-762

81-574 81-645 81-803

○ヒーター用自動温度調節装置



○耐酸石英投込ヒーター



○耐アルカリ投込ヒーター



| | |
|---------------|---------|
| 當 耐酸石英投込ヒーター | 自動温度調節器 |
| 業 耐アルカリ投込ヒーター | 各種乾燥機 |
| 品 ステンレスヒーター | 熱風発生機 |
| 目 カーボンヒーター | |

株式
会社

谷 口 製 作 所

本 社 東京都千代田区神田鍛冶町 3-5

電話 東京 (254) 4561~2
(252) 3303

ニッケルメッキの最高峰！

ヨネタ

V-ニッケル

黒味ある優美な光沢ニッケルメッキが得られます

平滑化作用が強い

広い光沢電流密度範囲でメッキができます

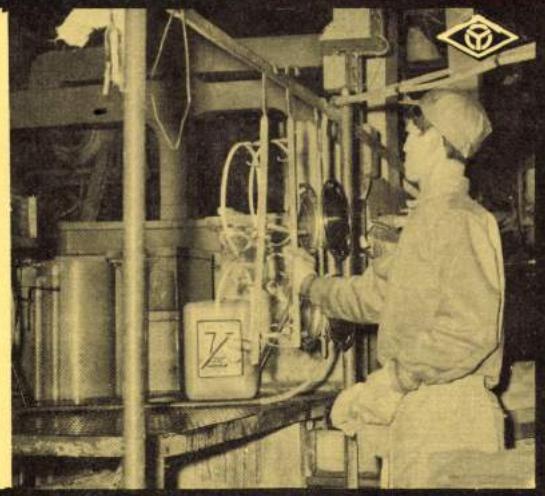
高電流密度で光沢ニッケルメッキができます

カタログ御希望の方はお申し込み下さればすぐにお送りいたします

メッキ界をリードする………

米田電鍍薬品株式会社

本社・工場：大阪市大正区東御堂西町3丁目 TEL(06) 287-8180・8182
支社：東京・横浜・名古屋・福岡・宇都宮・仙台 TEL(03) (044) 0-3-1-49
兵庫支社：兵庫県尼崎市西淡路町2丁目29 TEL(072) 8121-1-3-1-49



プラスチック研磨に

PIKAL PLASTON
プラストン

アサヒライト印

グラスター
ピカール 本舗

グローストリ
青 棒

日本磨料工業株式会社

本 社 東京都港区高輪3-23-15
電 話 (441) 6231~5

世界4ヶ国の特許を有する新製品

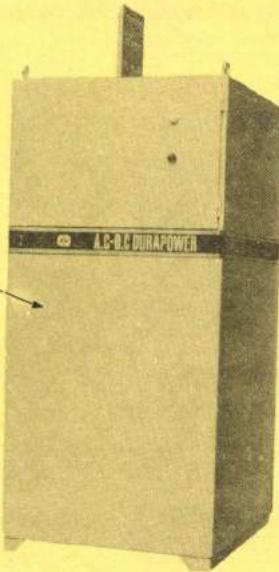
A.C-D.C DURAPOWER

特許 チヨダ"超小型電子整流器

PAT. JAPAN NO. 451115. U.S.A. NO. 3325716. ENGLAND NO. 1076477. GERMANY NO. K-54282.

シュラパワーは $50\text{~}60\text{~Hz}$ の電源を受電し 500~1000V に変換し整流したものです

容量 15V・3000A
方式 油冷式



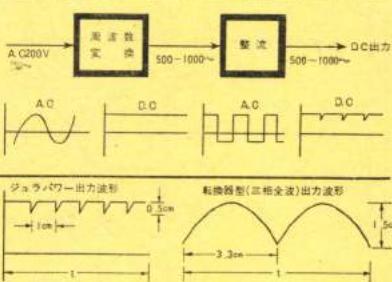
電子頭脳による電子制御整流器を数年前に開発し、その成果は各方面にて絶賛を博しておりますが、それよりも遙かに進歩した世界に類の無い革命的な整流器を研究開発致しました。それがA.C-D.C DURAPOWERです。

従来の半導体整流器は入力交流電力をそのままトランジストにより適当な電圧に変換して整流していることはご周知の通りですが、半導体工業の非常な進歩によって半導体整流器は小型化されましたが、半面その電力変換用トランジストは、いぜんとして小型化出来ず整流器全体の容積を小型化することは出来ません。A.C-D.C DURAPOWER はその夢を実現しました。トランジストが従来の約1/10以下にすることに成功し、またその電流出力は完全直流に近い波形を出すことが出来ます。

特徴

- ① 超小型である
- ② 出力波形は完全直流に近い
- ③ 単相運転に依る放熱なし
- ④ 並列運転可能
- ⑤ 調整容易で応答速度が速い
- ⑥ 床面積が小さく経済的である
- ⑦ 放置がない

出力波形の比較



 株式会社千代田

本社 東京都北区中里町3-9-9 着地 電話(03) 918大代表5181
大阪営業所 大阪市生野区新千里町1の22番地 電話(06) 751-0932
名古屋出張所 名古屋市中村区岩上町7-6 着地 電話(052) 481-6609

ベルト研削からバフ研磨まで…



□ 主要製造品目 □



| | |
|-----------------|-----------------------|
| バフ研磨剤（固型・液状） | 研磨布・紙 |
| 新種バフ | レジポン研磨布ベルト（乾・湿式） 3179 |
| つやけし研磨剤（金属・木工用） | 放射翼研磨ホイール 6506 |
| 金属脱脂剤 | ベルトサンダー（乾・湿式） 6516 |

KOYO 株式会社 光陽社

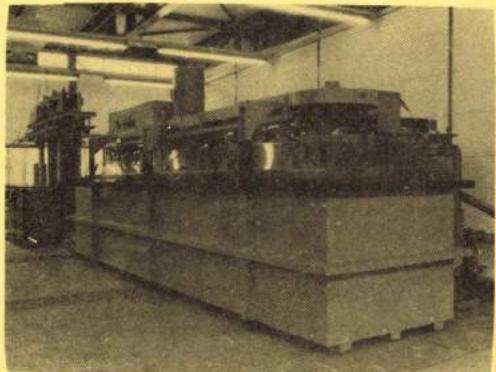
東京都足立区小台2丁目7-3
電話 東京(03) 913-7131(大代表)
913-7139(研究所) 911-0869(第三工場)

利益倍増

不良絶滅

半自動鍍金装置 K-C型 K-R型

優秀で均一な品質を確保出来ます。
人手不足を解消し、能率の向上が画られます。
槽から通電端子に到るまで、故障皆無です。
前后処理装置と組合わせて全自動化出来ます。
極めて安価です。



業界のパイオニア

近藤耐酸槽製作所

本社 東京都荒川区東日暮里1の11の8

TEL (891) 3164(代表)~7

目黒工場 東京都目黒区下目黒2の19の8

TEL (492) 4351~4

松戸工場 千葉県松戸市稔台272の1

TEL 松戸0473(62)0288~9

米国ダイヤモンド・アルカリ社と技術提携

Diamond Alkali Co.

高性能クロームメッキ液

エコノクロム

クロームメッキのトラブルは
ございませんか？？？

エコノクロムはほとんどのクロームメッキの
問題を解決してきました

エコノクロムの需要家は現在日に数軒の工場
が新しく増えています

エコノクロムで生産の合理化を大きくお計り
下さい

日本の工業に奉仕する
技術のジャパンメタル

株式会社 ジャパン メタル フィニッシング カンパニー

東京都中央区日本橋本町4丁目1番地
大阪市東区伏見町2丁目15番地本田ビル
名古屋市中区丸の内2丁目1627番地
(ロバートビル)

TEL(279)0471(代表)・(241)1013(直通)
TEL(203)7360
TEL(211)6274



1台で2台分の働きをする!!

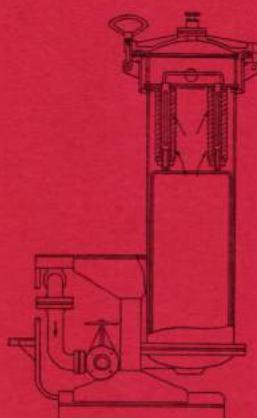
K.K フィルター

〔活性炭処理機構内蔵〕

発売以来2年!! 性能は実証ずみ
K.K フィルターは益々好評です



WA-24型



WA-24型活性炭処理機構図

500ℓ/h - 30000ℓ/hまで各種あり

スナイルチューブ

〔特徴〕

- 湿過精度は抜群
- 湿過助剤は不要
- 湿過面積は絶大



K.K フィルター

〔特徴〕

- 活性炭処理機構内蔵
- 長期間洗滌不要
- 取扱いが簡単



日本化学機材株式会社

東京 東京都中央区日本橋小舟町2の7 電話 (662) 8871㈹
大阪 大阪市東区高麗橋詰町30の1 電話 (941) 6020-3591-3
名古屋 名古屋市西区押切町3の16の4 電話 (522) 8972-9336
工場 東京・横浜

